

～ 誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり ～

 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

平成28年度 シンクタンク事業 調査報告書

目 次

I	社協シンクタンク事業について	1
II	事業の柱【中期計画：5年間】	1
III	平成 28 年度実施事業	2
1	平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」について地域支援活動者・ボランティアを中心とした地域福祉の現状と課題調査アンケート調査報告	7
2	平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」についての福祉関係団体の現状と課題調査団体ヒアリング調査報告	63
3	地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告	99
4	「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査報告	133
5	県内の複合型施設についての視察調査報告	139
6	（仮称）新総合福祉会館基本構想報告	145
7	黒部市内社会福祉法人「地域での公益的な活動について」の状況調査報告 .	203
8	社協広報誌「福祉くろべ」読者アンケート調査報告	217

I 社協シンクタンク事業について

1 社協シンクタンクの位置づけ

社会福祉協議会の役割である地域福祉に関する調査・研究機能をより高めるために、情報の集積、分析、研究、事業化への企画立案を行うものである。

「人（ヒト）」・「物（モノ）」・「資金（カネ）」をより効果的に活かすために、中長期のスパンで「時（トキ）」と「情報（過去・未来）」の概念を加えた、将来の地域福祉の将来像を探っていくことが目的である。

○シンクタンクとは

シンクタンクとは、政治、経済、科学技術など、幅広い分野にわたる課題や事象を対象とした調査・研究を行い、結果を発表したり解決策を提示したりする研究機関。think tank という言葉通り、頭脳集団などと表現されることもある。

II 事業の柱【中期計画：5年間】

1 「人（ヒト）」・・・担い手、人材育成

- (1) 黒部市内での人材育成に関する調査分析
- (2) 各種研修に一貫した人材育成プランをもとに見直しと修正を行う。

2 「物（モノ）」・・・事業、政策

- (1) 第9回全国校区・小地域福祉活動サミットの開催並びに開催後の社会的インパクトの評価
- (2) 地域福祉、地域包括ケアの拠点となる場の整備計画
(＝「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」)

3 「資金（カネ）」・・・地域福祉財源、共同募金、社協自主財源

- (1) 事業計画と資金計画（ファンドレイジングプラン）の整合性
資金計画は、行政補助に限らず、民間助成金や地域福祉財源である共同募金の強化、活用しながら必要とされる事業へ必要な資金を投資できる環境を整備していく。

4 「情報（過去・未来）」・・・情報の蓄積、分析、研究

- (1) 小地域福祉活動研究会の設置
平成27年11月のサミット開催に向けての前後を含めた3年間、小地域での福祉活動にスポットを当てた研究会を設置する。市町村・県社協職員や福祉関係、NPO、企業、行政など分野を問わず興味関心がある方を募る。また、外部有識者を交え分析と研

究を高める。

(2) 地域福祉調査

地区単位で行われている地域活動の過去から現在までの情報を収集し整理する。また、将来の人口動向や社会変化などを予測しながら地域の将来像を探っていく。そのデータは研究会等で分析・研究したものを市民に公開していく。

5 「時（トキ）」・・・中長期ビジョン、事業計画の立案

(1) 社協基盤強化計画

黒部市社会福祉大会決議からなる中期ビジョン、単年度事業計画までの一貫性。それに基づく社協の基盤強化計画への落とし込みを行う。

Ⅲ 平成 28 年度実施事業

1 平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」について地域支援活動者・ボランティアを中心とした地域福祉の現状と課題調査アンケート調査

○調査期間

平成 28 年 2 月 29 日～平成 28 年 5 月 23 日

○調査対象

市内 16 地区自治振興会/地区社会福祉協議会を通じた地域住民
市内ボランティアグループ 60 団体
市社会福祉協議会主催事業参加者
地域活動関係者など

○調査分析方法

(調査方法)

アンケート調査

(実施方法)

市内地区社会福祉協議会経由で取りまとめ依頼（16 地区）
市内ボランティア団体へ送付（60 団体）し、本会へ返送
研修会参加者、会議、イベント等での呼びかけ

(回収)

回収団体—55 団体／施設

回収数—1,066 枚

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

2 平成28年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」についての福祉関係団体の現状と課題調査団体ヒアリング調査

○調査期間

平成28年2月29日～平成28年5月23日

○調査対象

福祉関係団体、分野別、世代別、少数派の方々を中心に調査

○調査分析方法

(調査方法)

ヒアリング調査(5人～6人程度のグループを作り、約40分)

(実施方法)

現在市内を中心に活動している各団体(17団体)に呼びかける。

聞き手1名、記録1名(最低人数)を配置し、団体毎にヒアリングを行う。

(回収)

実施団体—17団体/施設(199名)

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

3 地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告

○検討期間

平成28年1月28日～平成28年8月30日

○会議日程

地域福祉推進に関するあり方検討委員会 全6回

黒部市社会福祉協議会職員全体会議/ワーキング 全5回

事務局各課係長会議/コアメンバー会議 全14回

○調査方法

会議及び先進地視察

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

4 「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

○調査期間

平成28年9月20日～平成28年12月16日

○調査対象

黒部市福祉センター利用者

○調査分析方法

(調査方法)

動向調査、ヒアリング調査

(実施方法)

入浴利用時間内（1時間おき）に大浴場の利用人数をカウントする。

各事業担当職員より、ヒアリングを行い、趣味講座参加者の動向を確認する。

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

5 県内の複合型施設についての視察調査

○調査期間

平成28年11月16日

○調査対象

県内の複合型施設 6施設

○調査分析方法

(調査方法)

視察調査

(実施方法)

拠点施設整備検討部会委員8名及び事務局4名が現地視察を実施する。

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

6 (仮称) 新総合福祉会館基本構想報告

○検討期間

平成28年10月1日～平成29年3月31日

○会議日程

拠点施設整備検討部会 全4回

黒部市社会福祉協議会職員全体会議／ワーキング 全2回

事務局各課係長会議／コアメンバー会議 全14回

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

7 黒部市内社会福祉法人「地域での公益的な活動について」の状況調査

○調査期間

平成 29 年 1 月 24 日～平成 29 年 2 月 10 日

○調査対象

市内社会福祉法人 11 団体

○調査分析方法

(調査方法)

アンケート調査

(実施方法)

市内社会福祉法人へ調査票を送付し、本会へ返送、実施状況を取りまとめ整理する。

(回収)

回収団体—8 団体 (11 団体/施設中)

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

8 社協広報誌「福祉くろべ」読者アンケート調査

○調査期間

平成 29 年 1 月 30 日～平成 29 年 2 月 20 日

○調査対象

平成 28 年度共同募金 福祉くろべ送付団体 41 団体

平成 28 年度賛助会員 福祉くろべ送付団体 42 団体

地区社協 16 団体

市内小中学校、保育施設、福祉施設など 50 団体

県社協 (他市町村社協含む) 16 団体

○調査分析方法

(調査方法)

アンケート調査

(実施方法)

福祉くろべ 2 月号 (No. 131) の送付に合わせ、アンケート用紙を 1 団体 (施設) に 5 枚
ずつ送付し、本会へ返送

(回収)

回収団体—75 団体 (165 団体/施設中)

回収数—251 枚

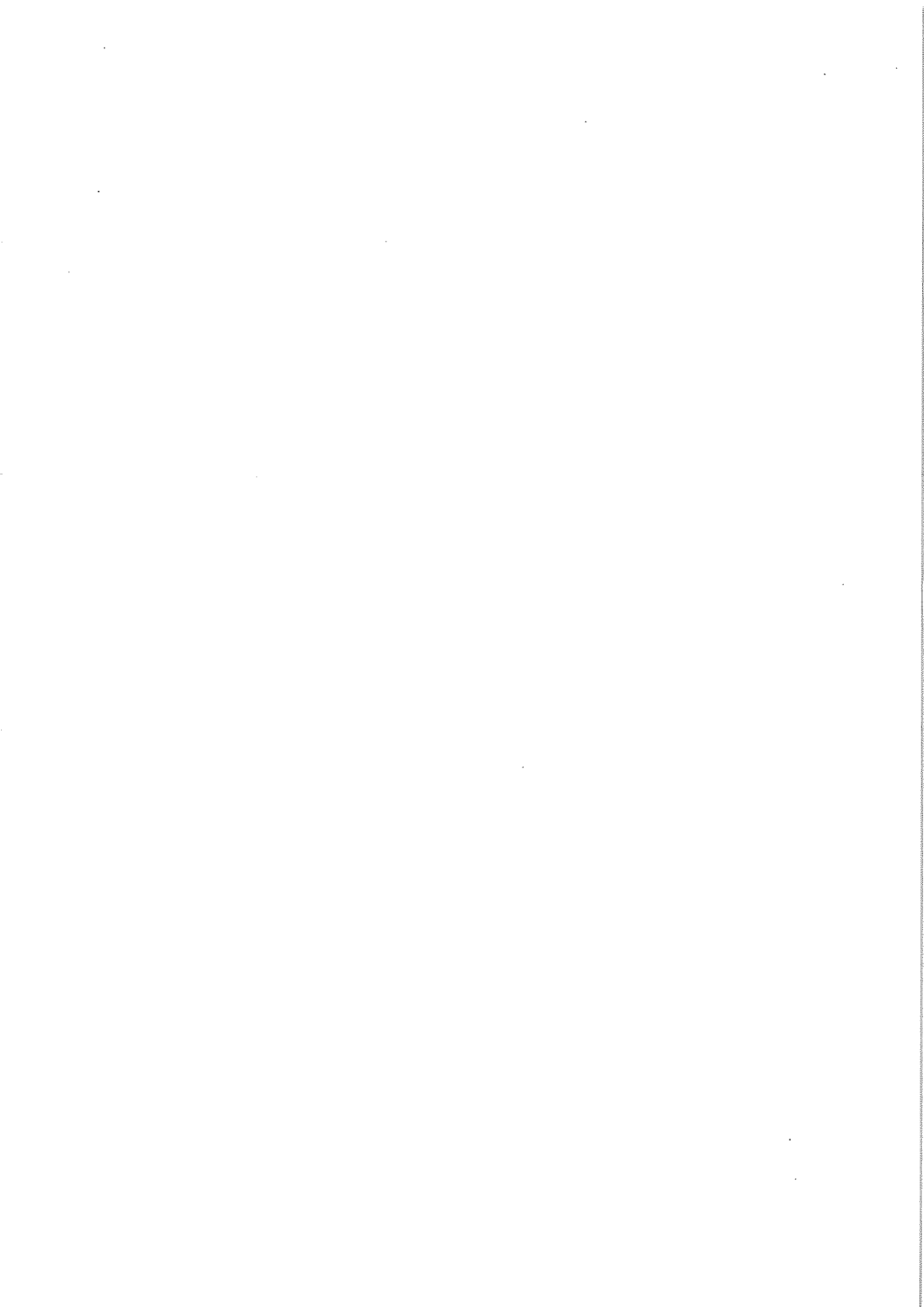
○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係

平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」
について地域支援活動者・ボランティアを中心とした
地域福祉の現状と課題調査

アンケート調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



1 アンケート調査目的

黒部市社会福祉協議会は、福祉大会の決議事項重点 3 項目の一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い話し合いのできる場づくり及び、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」を設置した。

この調査では、求められる新しい拠点のあり方の検討を進めるにあたって、現在市内の地区単位で活動する地域支援活動者やボランティア団体の会員、個人を対象に、アンケート調査を行い現在の地域福祉の現状と課題を整理分析することが目的である。

2 調査実施期間

平成 28 年 2 月 29 日～5 月 23 日

3 アンケート調査

(1) アンケート調査 1,066 件

『誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり』の実現に向けて「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するアンケート調査
対象：地域福祉活動者を中心とした調査

○市内 16 地区自治振興会・地区社会福祉協議会を通じた地域住民

○黒部市内ボランティアグループ 60 団体

○社会福祉協議会主催事業参加者

○地域活動関係者など

4 アンケート調査方法

方 法：黒部市地区社会福祉協議会経由で取りまとめ依頼（16 地区）

市内ボランティア団体へ送付（60 団体）し、本会へ返送

研修会参加者、会議、イベント等での呼びかけ

回 収：回収団体—55 団体・施設

回収数—1,066 枚

5 調査結果まとめ

(1) 住まい

・市内全地区の住民から回答を得た。三日市からの回答が20%と一番多かった。

(2) 性別

・女性が78%、男性が19%で、男女比は8：2、女性が多く男性が少なかった。

(3) 年齢

・20代から80代まで幅広い年代の回答を得た。60代が32%で一番、次が70代で28%、次いで30代の15%だった。10代、10歳未満からの回答は得られなかった。

(4) 職種

・主婦が33%と一番多く、次に無職が23%と、仕事をしていない人が56%を占めた。次いで会社員が20%だった。

(5) 普段の移動交通手段

・自動車が圧倒的に多く84%を占めた。次いで、自転車、徒歩と続く。電車やバス・タクシーの公共交通手段は少なかった。

(6) 黒部市福祉センターを知っている

・87%が知っていると答え、そのうち58%が来館したことがあると答えた。

(7) 黒部市社会福祉協議会を知っている

・81%が知っていると答え、そのうち38%が事務所に来たことがある。

・62%は黒部市社会福祉協議会を知っているが事務所に来たことがない。

・知っている事業は、「黒部市福祉センター」が一番多く、次に「広報誌福祉くろべの発行」、次いで「赤い羽根共同募金」だった。

・「ファミリーサービス事業」「各種団体事務」「総合相談センター事業」「災害時要援護者地図情報事業」は、知っている人が少なかった。

(8) 地域ボランティア活動について

・61%が参加し、そのうち町内会活動が39%と一番多く、次が自治振興会の27%だった。・活動内容は、町内会などの地縁組織や、公民館活動や体育協会などの公的な活動が多かった。

・活動の拠点は、公民館が最も多く、次に高齢者福祉施設、保育施設、病院などの公的な場所が多かった。

・活動している人の52%が満足し、人との出会いや交流、地域や自己

の向上、役立っているという実感が満足感につながっている。一方で、34%がどちらとも言えないと回答し、経験不足からくる不安や、時間や役割への負担感や不満、もっと活動したいが様々な理由で実現できていないことなどが背景に見られる。

- ・困っていることについては、活動内容のマネリ化や、対象者や仲間との人間関係、活動と仕事の関係などが伺える。

- ・ボランティア団体やNPO法人への所属や活動については、35%が行い、そのうち61%が満足していると答え、地域ボランティア活動より高いという結果になった。活動内容や時間に納得し、無理のない範囲で楽しみながら活動している様子が伺える。活動費が少ない、活動の拠点がないことに困っているという回答が見られた。

(9) 普段の生活での困りごとについて

- ・困りごとがあると回答したのは8%のみだった。内容は、天候や季節に左右されない子どもの遊び場の不足、病児保育・学童保育・夜間保育の不足、子育てへの不安、交通の不便さ、近所や町内の付き合いの煩わしさ、低収入、病気や老化などで起こる身体の不自由さ（判断力や体力、聴力などあらゆる面の衰え）など。

- ・一方、これからの不安、心配なことがあると回答したのは25%であり、現在の困りごとより多かった。内容は、健康や親の介護のほか、自動車の運転や買い物、家の管理などの将来の暮らし方、年金などの収入と医療費や介護費用などの支出、子どもの防犯、地域で頼る人がいない、町内活動の衰退など。

(10) 今後、力を入れていくべき、又は現在、支援が不足していると思う分野について

- ・「介護」が一番多く、次に「高齢者」、「子育て」と続く。

(11) 今後、力を入れていくべき、又は現在、支援が不足していると思う世代について

- ・「80代」が一番多く、次に「70代」、次いで「0～5歳」となった。

- ・70代以上の高齢者と幼児に回答が集まった。

アンケートフォーマット

『誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり』の実現に向けて
「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するアンケート調査

黒部市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、そのための福祉活動を推進していく「人」を育てること、活動を促す「しくみ・場・拠点」を整備していくこと、活動を支える「資金」を確保していくことを重点項目として掲げています。

この度は、これからの黒部市の地域福祉（＝黒部のしあわせ）を推進していくために必要な「しくみ・場・拠点」づくりについて、市民の皆様の意見を反映し、そのあり方について検討していきます。

つきましては、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

※該当するものに○印をつけてください

1 お住まい

- 1) 黒部市内（生地・石田・田家・村椿・大布施・三日市・前沢・荻生
若栗・東布施・宇奈月・内山・音沢・愛本・下立・浦山）
2) 黒部市外（魚津市・入善町・朝日町・滑川市・その他〔 〕）

2 性別 男・女

- 3 年齢 10才未満・10代・20代・30代・40代
50代・60代・70代・80代・90才以上

- 4 職種 会社員・主婦・自営業・農業・学生・アルバイト
フリーター・無職・その他〔 〕

5 普段の移動交通手段

徒歩・自転車・自動車・バイク・タクシー・バス
電車（新幹線・あいの風・地鉄）・その他〔 〕

6 黒部市福祉センターを知っている（はい・いいえ）

★「はい」とお答えになった方にお聞きします

（来館したことがある・あることを知っている・名前は知っている）

⇒次のページへお進みください

7 黒部市社会福祉協議会を知っている (はい・いいえ)

★「はい」とお答えになった方にお聞きします

(事務所に来たことがある ・ あることを知っている ・ 名前は知っている)

★協議会の行う事業で知っていること

(※当てはまるものすべてに○印をお願いします)

- ・ 黒部市福祉センター
- ・ 黒部市宇奈月老人福祉センターの運営
- ・ 黒部市東部地域包括支援センターの運営
- ・ ボランティアセンター
- ・ 黒部善意銀行
- ・ 黒部市共同募金委員会
- ・ 赤い羽根共同募金
- ・ ホームヘルプセンター
- ・ ケアセンター
- ・ 総合相談センター事業
- ・ 地域総合福祉活動推進事業
- ・ ケアネット活動
- ・ 災害時要援護者地図情報事業
- ・ 見守りネットワーク事業
- ・ みまもり体制事業
- ・ ヤンバイ映画館事業
- ・ 日常生活自立支援事業
- ・ 生活福祉資金貸付事業
- ・ 生活困窮者自立支援事業
- ・ ファミリーサービス事業
- ・ 日常生活用具貸出事業
- ・ 各種団体事務
- ・ 広報誌「福祉くるべ」の発行
- ・ 災害マニュアルの発行

8 地域活動やボランティア活動について

(1) 地域活動に参加している (はい・いいえ) ⇒ 「いいえ」の方は(2)へ

★「はい」とお答えの方 地区自治会・町内会・その他 []

★活動の拠点(会議や作業の場所)は、どこですか []

★活動について満足している (はい・いいえ・どちらとも言えない)

理由は []

★活動について困っていることがある (はい・いいえ・どちらとも言えない)

理由は []

(2) ボランティア団体への所属やボランティア(NPO法人を含む)活動を行っている

(はい・いいえ) ⇒ 「いいえ」の方は9へ

★「はい」とお答えの方 (団体名: 活動内容:)

★活動の拠点(会議や作業の場所)は、どこですか []

★活動について満足している (はい・いいえ・どちらとも言えない)

理由は []

★活動について困っていることがある (はい・いいえ・どちらとも言えない)

理由は []

⇒次のページへお進みください

9 普段の生活での困りごとについて

(1) 日常生活で困っていることがある (はい ・ いいえ ・ どちらとも言えない)

★「はい」とお答えの方
どのようなことですか

[]

(2) これからの不安、心配なことがありますか(はい ・ いいえ ・ どちらとも言えない)

★「はい」とお答えの方
どのようなことですか

[]

10 今後、力を入れていくべき、又は現在、支援が不足していると思う分野について

(※当てはまると思うものすべてに○印をお願いします)

- ・ 医療 ・ 福祉 ・ 介護 ・ 高齢者 ・ 子育て ・ 障がい ・ 生活困窮者 ・ 生活支援
- ・ ご近所トラブル ・ 予防 ・ 住まい ・ 就労 ・ 不登校 ・ ひきこもり ・ ニート
- ・ 健康 ・ 生きがい ・ ボランティア ・ 移住者 ・ 外国人 ・ その他 []

11 今後、力を入れていくべき、又は現在、支援が不足していると思う世代について

(※当てはまると思うものすべてに○印をお願いします)

- ・ 0～5歳 ・ 6歳～12歳 ・ 13歳～15歳 ・ 16歳～18歳 ・ 18歳～20歳
- ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代 ・ 90代以上
- ・ その他 []

12 市全体として求められる地域福祉活動推進の拠点として

(※当てはまると思うものすべてに○印をお願いします)

(1) 必要な場(スペース)は

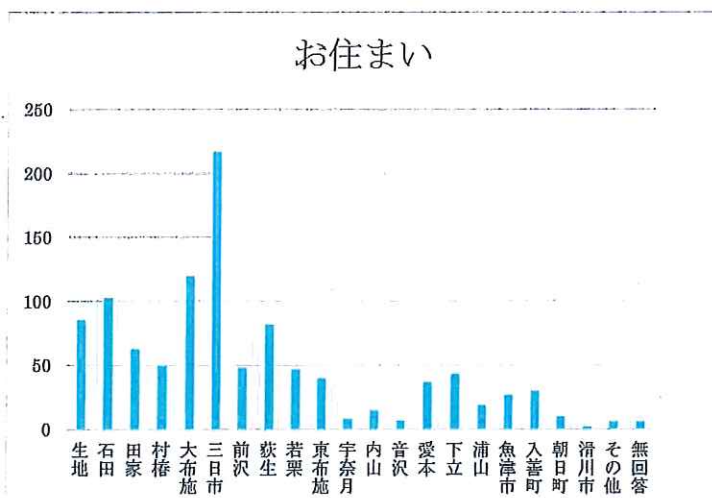
- ・ 会議室 ・ 研修室 ・ 相談室 ・ サロン ・ お風呂 ・ 休憩所 ・ 集い場
- ・ 団体活動スペース ・ キッズスペース ・ ボランティアルーム ・ 食堂 ・ 売店
- ・ 運動場 ・ その他 []

(2) 必要な機能は

- ・ 総合相談の場 ・ 団体事務局 ・ ボランティア市民活動支援 ・ 予防健康推進の場
- ・ 生きがいの場 ・ 研修の場

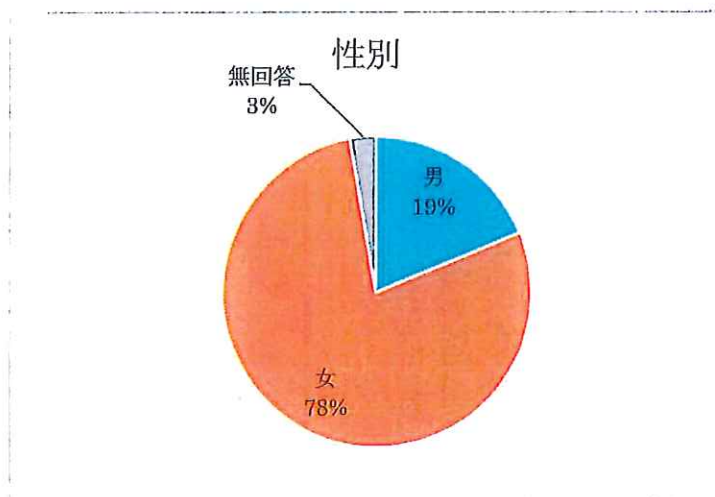
アンケート結果報告書

1 お住まい



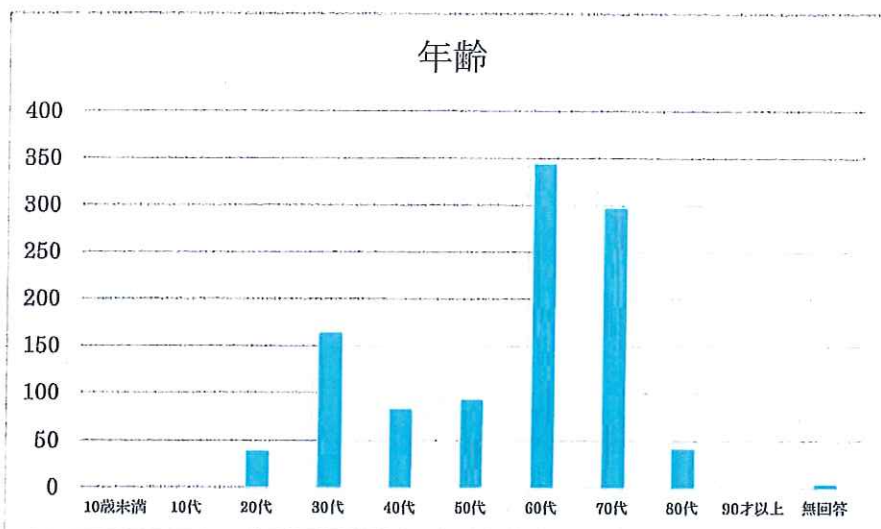
生地	86	内山	15
石田	103	音沢	7
田家	63	愛本	37
村椿	50	下立	43
大布施	120	浦山	19
三日市	217	魚津市	27
前沢	48	入善町	30
荻生	82	朝日町	10
若栗	47	滑川市	2
東布施	40	その他	6
宇奈月	8	無回答	6
		合計	1066

2 性別



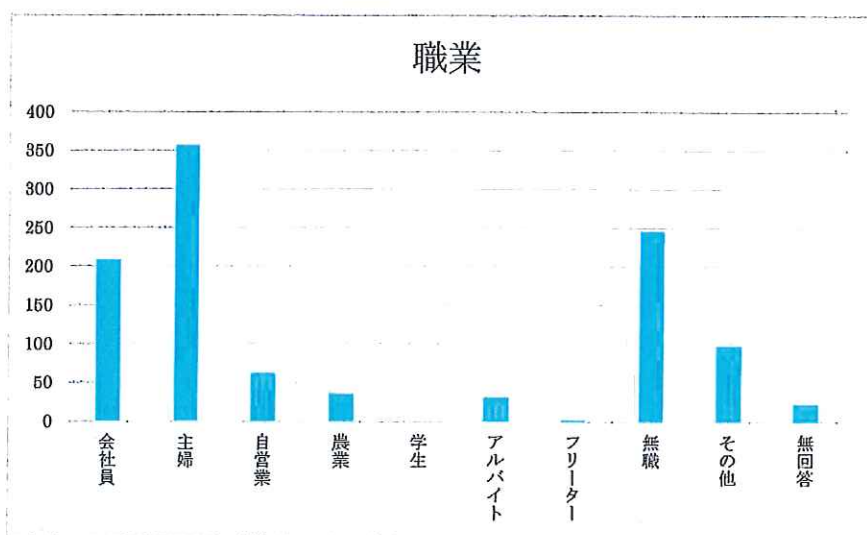
男	200
女	836
無回答	30
合計	1066

3 年齢



10歳未満	0
10代	0
20代	39
30代	164
40代	83
50代	93
60代	344
70代	297
80代	42
90才以上	0
無回答	4
合計	1066

4 職種

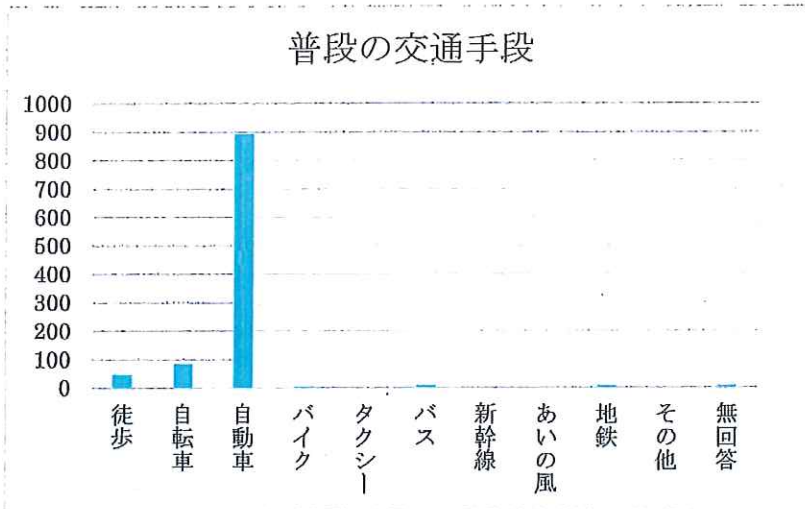


会社員	209
主婦	357
自営業	63
農業	36
学生	0
アルバイト	32
フリーター	2
無職	246
その他	98
無回答	23
合計	1066

《その他》

団体職員・介護職・パート・ヘルパー・公務員・専門職・保育士・社会福祉・看護師・嘱託職員・法人職員

5 普段の移動交通手段

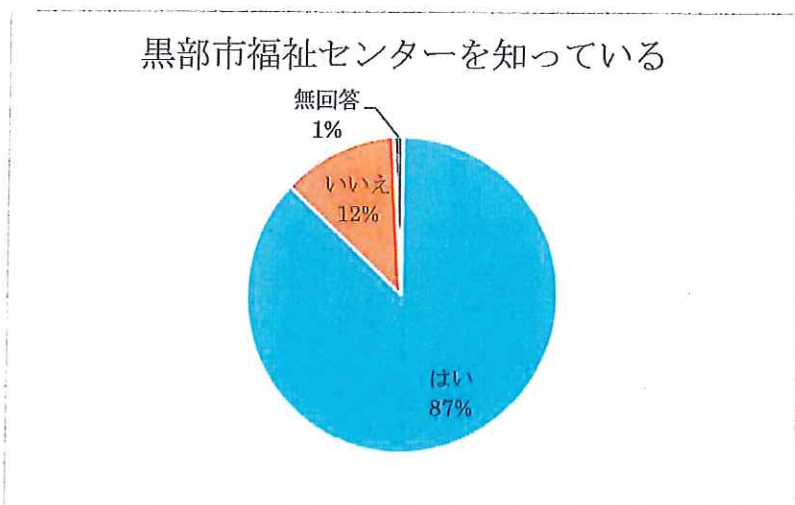


徒歩	48
自転車	86
自動車	895
バイク	5
タクシー	3
バス	8
新幹線	0
あいの風	3
地鉄	8
その他	3
無回答	7
合計	1066

《その他》

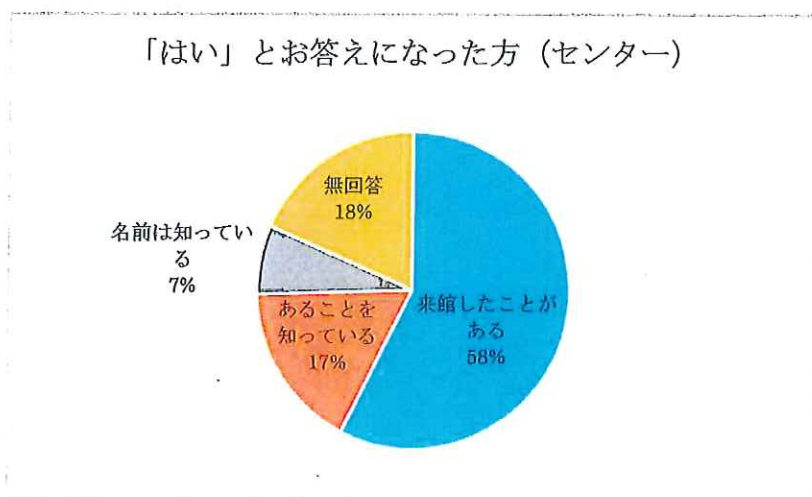
相乗り

6 黒部市福祉センターを知っている



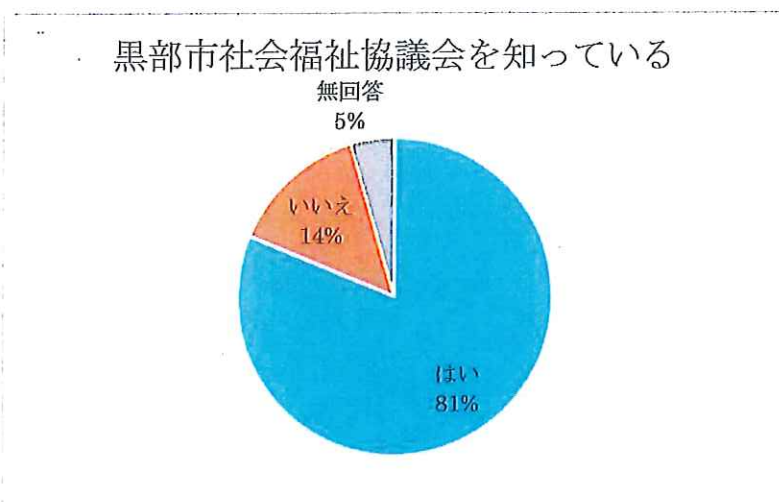
はい	927
いいえ	129
無回答	10
合計	1066

★「はい」とお答えになった方にお聞きします



来館したことがある	533
あることを知っている	158
名前を知っている	65
無回答	171
合計	927

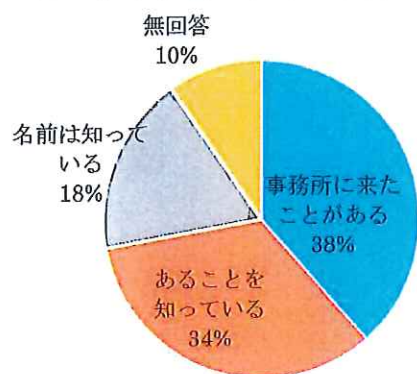
7 黒部市社会福祉協議会を知っている



はい	866
いいえ	152
無回答	48
合計	1066

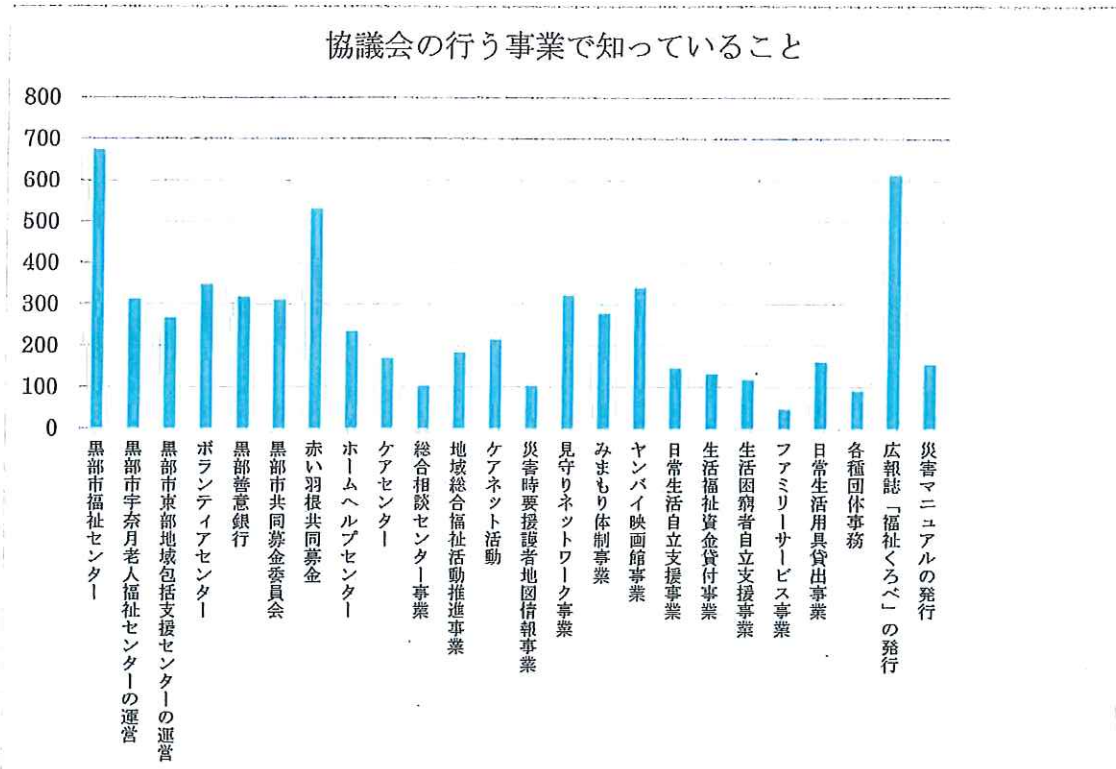
★「はい」とお答えになった方にお聞きします

「はい」とお答えになった方（社協）



事務所に来たことがある	333
あることを知っている	292
名前は知っている	157
無回答	84
合計	866

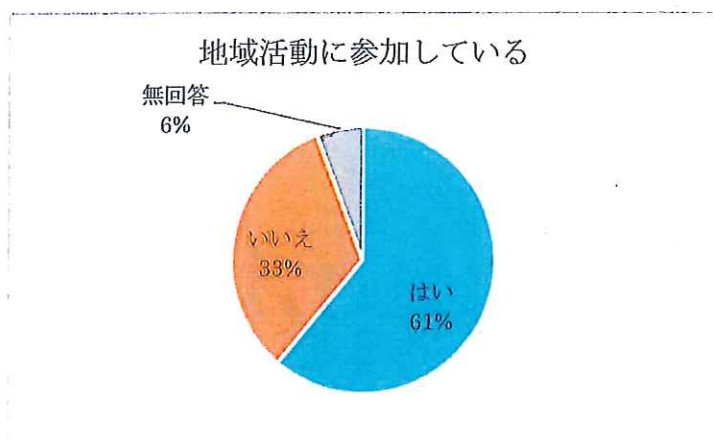
★協議会の行う事業で知っている事



黒部市福祉センター	黒部市宇奈月老人福祉センターの運営	黒部市東部地域包括支援センターの運営	ボランティアセンター	黒部善意銀行	黒部市共同募金委員会
674	313	267	348	317	311
赤い羽根共同募金	ホームヘルプセンター	ケアセンター	総合相談センター事業	地域総合福祉活動推進事業	ケアネット活動
531	235	170	103	183	214
災害時要援護者地図情報事業	見守りネットワーク事業	みまもり体制事業	ヤンバイ映画館事業	日常生活自立支援事業	生活福祉資金貸付事業
103	321	277	340	146	133
生活困窮者自立支援事業	ファミリーサービス事業	日常生活用具貸出事業	各種団体事務	広報誌「福祉くろべ」の発行	災害マニュアルの発行
119	47	161	91	614	156

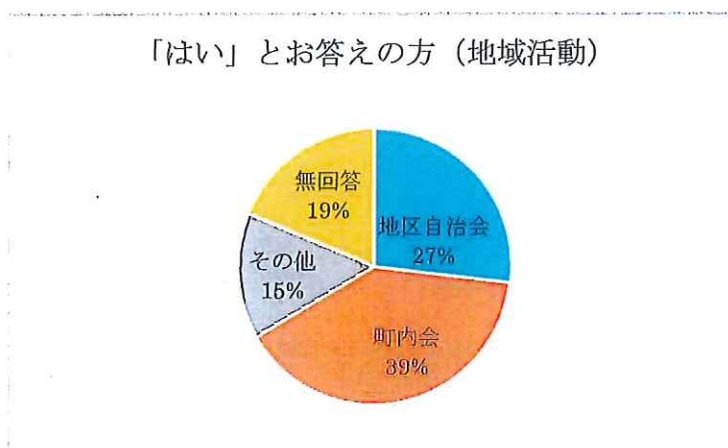
8 地域ボランティア活動について

(1) 地域活動に参加している



はい	651
いいえ	354
無回答	61
合計	1066

★「はい」とお答えの方



地区自治会	175
町内会	258
その他	96
無回答	122
合計	651

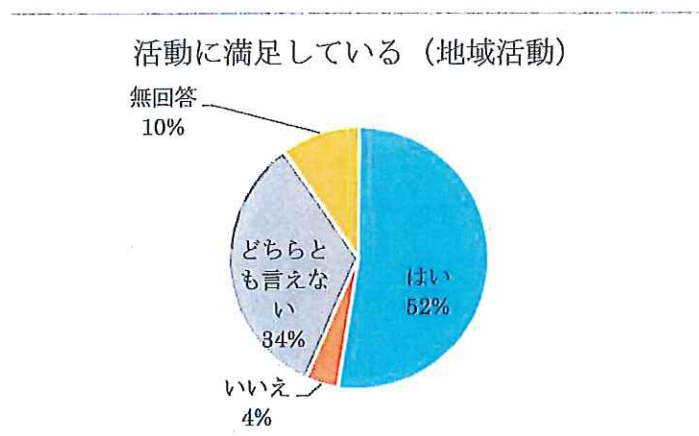
《その他》

- ・健康増進課 (脳活くらぶ) ・地区社協 ・まち協 ・保育所 ・PTA ・スポーツ
- ・民生委員 ・老人会 ・奉仕作業 ・まち歩き ・読み聞かせ ・ケアネット活動
- ・町内壮年団 ・生産組合 ・女性団体 ・公民館活動 ・体育協会シニアサポーター
- ・更女 ・見守隊 ・潮風 ・JA 女性部 ・壮年会 ・森づくりクラブ ・女性の会
- ・日赤奉仕団 ・JC ・体育協会 ・地区児童会

★活動の拠点（会議や作業の場所）はどこですか

- ・きんさんぎんさん ・黒部市老人福祉センター ・おらはうす宇奈月 ・JA
- ・ちょうろく（魚津） ・ひだまり（高岡） ・川原保育園（魚津市） ・内山とちの里
- ・黒瀬 ・萩生の館 ・大黒のやかた ・朝日町 ・コラーレ ・黒部市民病院 ・越之湖
- ・石田交流プラザ ・郷土館 ・栃屋公園 ・愛本交流館 ・下立まちおこしセンター
- ・越野荘 ・越路さくら ・自宅 ・商工会議所 ・図書館 ・入善町各介護施設
- ・新川厚生センター ・親水の館 ・山田公民館 ・若菜ふれあいセンター 石田交流館
- ・にいかわ支援センター ・黒部学園 ・サンサンまえざわ ・金屋集落センター ・JC 会館
- ・浦山交流センター ・あこやの ・生地こども園 ・保健センター
- ・内山公民館 ・石田公民館 ・音沢公民館 ・新天公民館 ・田家公民館 ・三日市公民館
- ・中央公民館 ・中ノ口公民館 ・植木東区公民館 ・宇奈月公民館 ・若栗公民館
- ・前沢公民館 ・三島公民館 ・前山公民館 ・中新公民館 ・六天公民館 ・堀切公民館

★活動について満足している



はい	341
いいえ	27
どちらとも言えない	219
無回答	64
合計	651

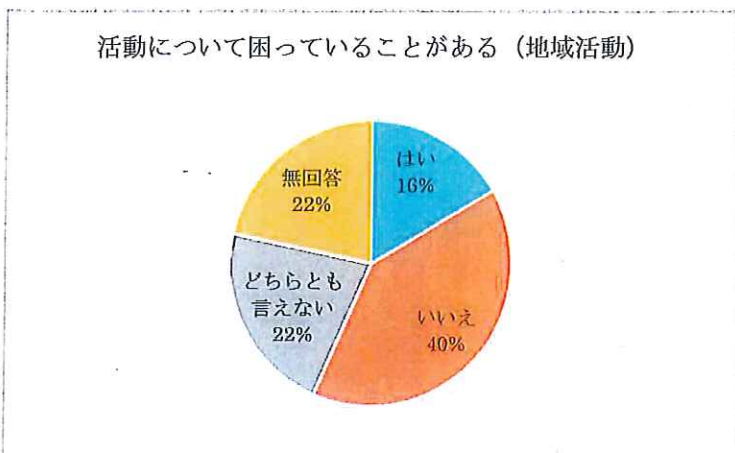
《理由》

- ・自分が住んでいる地区に関しては、定期的な活動・回覧・声掛け等、とても充実していると感じている。
- ・活動が盛んである。
- ・年齢層を越えた地域の方々との交流がある。
- ・駅前美化運動ボランティアは、自慢できます。
- ・地区の人達の協力が得られる。施設、設備が整っている。
- ・近所の方々と顔見知りになれる。
- ・参加者数もまあまあ的人数である。
- ・地域の方と交流できるので。
- ・行事を通して、話をしたり、地域のことを知る事が出来る。
- ・親が興味のあるイベントに安心して参加できる。
- ・楽しいから。
- ・利用される方が喜んでいました。
- ・役に立たせていただいていると感じている。
- ・自分の都合に合わせて参加・不参加を決めさせてもらっている。
- ・良いと思う。
- ・誰かのためになる事、だれかが喜んでくれることをしているから。
- ・自分が少しでも役立っていることがうれしい。
- ・概ね満足。
- ・仲良く活動している。
- ・たまに地域みんなで顔を合わせるのはいいこと。
- ・町内会の人達と会話できる機会なので。
- ・いろいろ勉強させてもらえる。
- ・充実してます。

- ・出来る範囲でと思っている。
- ・メンバーの都合が悪いときは、他の方がやって下さる。
- ・子供たちの笑顔が見れる。
- ・老若男女が集う事業が多い。
- ・年1～2回の行事だが、参加できて満足している。
- ・活動を共にする仲間がいるから。
- ・人を感じ、即反応があり自分が生き返るように思う。
- ・ボケ防止になる。
- ・少しは社会参加していると感じる。
- ・相手の満足のいく傾聴ができていないか不安。
- ・マンネリ化している事業を活性化したい。
- ・もう少し広めたいと思ってます。
- ・活動日数が多く負担が大きい。
- ・今年1月～のため、まだわからない。
- ・無理やり役員にならざるを得ない。
- ・子供が小さく、参加しにくい。
- ・人手不足
- ・多様な意見があるから。
- ・公民館使用時、サービスにおいて行政の規則が多い。
- ・会員が少ない。
- ・介護人がいる。
- ・若者が少ない。
- ・ズレを感じております。
- ・毎年同じことを繰り返しているが、改善すべき部分は新しく見直すといいのでは。
- ・本当にやりきれているかという不安。
- ・まとめるのが大変。
- ・活動をもう少し多くして欲しい。
- ・思っているほど協力できていない。
- ・参加することが少ないので。
- ・役員やその家族の負担が大きく気が重い。
- ・どんどんやりたい事が出てくるので、満足感が得られないだけ。
- ・協力する気があるけれど、年をとってるという理由で入りにくい人をどうしていけば良いか困っている。
- ・行事が決まってもなかなか参加できない
- ・自分が高齢になり、会長におんぶにだっここのところがある。
- ・自分はまあまあと思っても受けている人はどうだかわからない。
- ・その年の予算によって活動が変化する
- ・なかなか日中協力できない。

- ・責任上参加している
- ・みまもり員の任期があるのか、いつまですればいいのかわからない。
- ・福祉活動が定着していない、地域性なのか興味のある人が少ない。
- ・事業が多くなってきている。
- ・なかなかやめられない。
- ・退職してから参加したので、気遣いが必要。
- ・ひきこもりがちな高齢者にもっと参加して欲しい。
- ・必要な時に必要な手が届いていない。
- ・子供が多いのにお祭りなどの行事がほとんどない。

★活動について困っていることがある



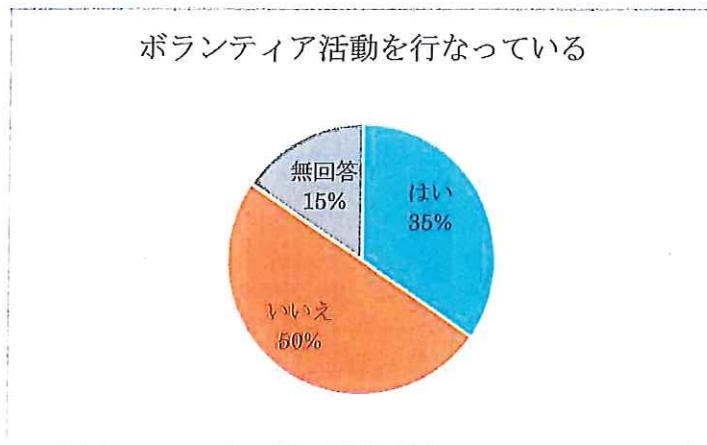
はい	107
いいえ	262
どちらとも言えない	141
無回答	141
合計	651

《理由》

- ・参加者が少ない。
- ・時間がない。
- ・パートをしながらの活動には限界がある。
- ・生活に時間的な余裕がない。
- ・都市部から移ってきた人等、場合によってはひよつとすると密接なコミュニケーションに違和感を覚えるかも、と感じることもある。
- ・壮年会活動の誘いがすごい。打ち上げなど、断れない時もある。
- ・子供の数が少なく、役員の順番が早い。
- ・参加の人は毎年参加、不参加の人はずっと不参加。これで良いのだろうか。
- ・仕事の都合でやりくりがむずかしい。
- ・夜遅くまでお子さんをお預かりするときに負担がかからないかと心配な時がある。
- ・行政の計画事案では行事をやりにくい。
- ・高齢化による活動困難
- ・町内(大布施)の神社の境内に犬のフンを放置していく人がいる。
- ・活動のマンネリ化・独居の人が増えてきた。
- ・世話をやきすぎると、迷惑になることもあると思う。
- ・若者が少ない。
- ・会議がたくさんある。
- ・認識の差があり、共通認識を持つ大切さが理解されず今一つの現状です。
- ・届け物や案内事があっても応答がない。電話にも出られないので気になる。
- ・男の方が参加されない。
- ・自営業なので、平日の活動がしにくい。
- ・仕事で時々当直があるので、思うように活動できない。
- ・当地区に転居してからまだ7～8年で、地区の人達の顔と名前に疎い。

- ・個人情報の扱いについて。
- ・大布施地区民生児童委員の守備範囲が大きすぎてなかなか細かいところまで行き届かない。
- ・要見守り者が9割女性なので立ち入った話が出来ない。(男性の方)
- ・お盆休み等には参加できない。
- ・役員となると大変。
- ・後任がない。
- ・協力する気があるけれど、年をとってるという理由で入りにくい人をどうしていけば良いか困っている。
- ・高齢者が活動に出るのを遠慮される。「出席したいが、年齢がいつているのに良いのか」と言われる。
- ・輪がなかなか広がらない。
- ・自分の体調が悪い。
- ・人間関係が大変。
- ・生業の時間と重なる。
- ・どんなことをしているのか知らない。
- ・ボランティア組織がない。
- ・助成金が少ない。
- ・市の下請け作業が年々増えている。
- ・続いてくれるひとを探すのに一生懸命。
- ・ボランティアに関わりたい気持ちがある。
- ・行事参加の勧誘が嫌。
- ・地区に拠点となるボランティアセンターが必要。
- ・認知度が低い。

(2) ボランティア団体への所属やボランティア（NPO法人を含む）活動を行っている。



はい	369
いいえ	531
無回答	166
合計	1066

★「はい」とお答えの方

《団体名》

- ・なでしこ ・ごごみの会 ・公益社団法人顔と心と体研究会 ・食改 ・日本語教室 in 黒部
- ・社協老人会 ・一斉雪かきデー ・はーとぽっぽの会 ・高橋川を愛する会
- ・社会福祉法人あいじ福祉会 ・太陽の会 ・つむぎの会 ・わかばの会 ・民生委員
- ・すまいる・スマイル ・市民病院ボランティア ・三日市健朗会 ・大町ケアネット
- ・アクティブ Kurobe ・松桜関係勝会 ・更生保護女性会 ・コーラスHANA
- ・新川地区精神保健福祉推進協議会 ・黒部脳トレクラブ ・黒部おもちゃ病院
- ・KU スポーツクラブ will ・消防分団 ・高山舞部研究会 ・黒部リーディンググループ
- ・阿古谷野クラブ ・みまもり隊 ・振興会パトロール隊 ・さくらえパトロール
- ・潮風センター ・しばんば保存会 ・石田赤十字奉仕団 ・松乃会 ・ほのぼのの会
- ・交通安全協会 ・たんぽぽ ・富山グラウジーズスタッフ
- ・内山地区社会福祉協議会 ・愛本地区社会福祉協議会 ・三日市地区社会福祉協議会
- ・下立地区社会福祉協議会
- ・三日市地区ボランティア部会 ・村椿地区ボランティア部会 ・石田地区ボランティア部会
- ・大布施地区ボランティア部会 ・生地地区ボランティア部会 ・若栗地区ボランティア部会
- ・荻生地区ボランティア部会 ・田家地区ボランティア部会

《活動内容》

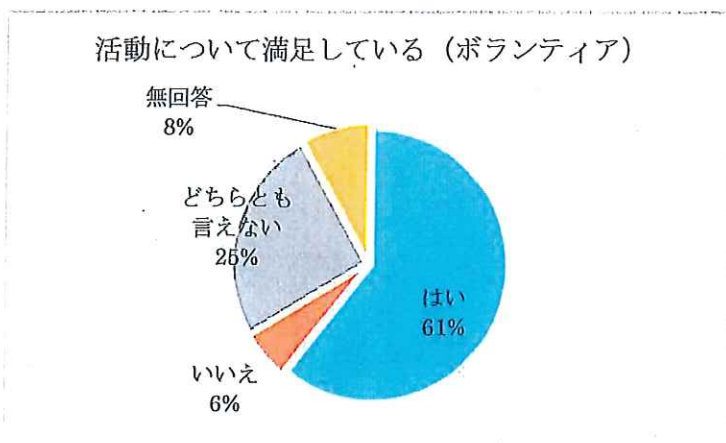
- ・公民館・社協とタイアップ事業 ・メイクボランティア ・男の料理教室 ・公民館まつり
- ・子育て支援 ・日本語サポーター ・シニアサポーター ・24H募金活動 ・草刈り
- ・出前保育 ・保育ボランティア ・市民病院ボランティア ・行事での手伝い
- ・おどりを踊る ・ひとり暮らしの方のサポート ・みまもり活動 ・おはぎづくり
- ・社会福祉活動 ・シルバーランチ ・ふれあい会合 ・シーツ交換 ・ケアネット活動

- ・絵本の読みきかせ ・要約筆記通訳 ・傾聴ボランティア ・独居弁当作り
- ・おたっしやクラブ ・1人暮らしの配食サービス ・月一回保育所のお手伝い
- ・黒部マラソン ・子供達の運動教室 ・松桜閣の清掃 ・舌山駅の清掃 ・施設支援
- ・講演会 ・シルバー談話室 ・さくらえサロン ・ふれあいランチ ・老人ホームへの慰問
- ・おもちゃの修理 ・青少年ボランティア活動 ・青少年育成会議 ・買い物の付添
- ・施設のイベント協力 ・火災・災害への対応、予防啓発活動 ・視覚障害者への音訳
- ・広報、議会だより ・森や歩道の整備 ・防犯パトロール ・母子健康推進委員
- ・食生活改善 ・伝達講習会 ・非常時の炊き出し ・障害児、老人の福祉 ・もちつき大会
- ・赤い羽根共同募金 ・石鮎作り ・観光まち歩き ・会場運営

★活動の拠点（会議や作業の場所）はどこですか

- ・たかせ小学校 ・田家保育所 ・親水の館 ・若栗ふれあいセンター ・松桜閣 ・JC会館
- ・生地コミュニティーセンター ・新川厚生センター ・勤労青少年センター
- ・東部児童センター ・宇奈月温泉 ・消防屯所 ・宇奈月温泉街 ・黒部市福祉センター
- ・農村研修館 ・あこや一の ・阿古屋野台地 ・保健センター ・黒部市役所
- ・石田交流館 ・特別養護老人ホーム ・魚津市立図書館 ・東布施公民館
- ・生地公民館 ・中央公民館 ・富山県全域

★活動について満足している



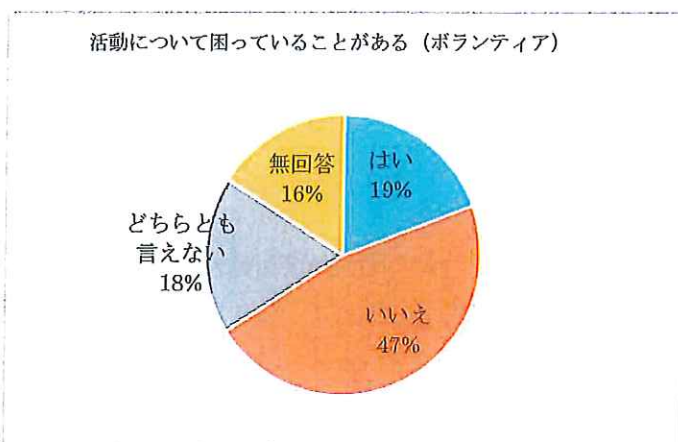
はい	225
いいえ	21
どちらとも言えない	94
無回答	30
合計	370

《理由》

- ・なじんでいるから。
- ・みんなが楽しんでいるから。
- ・親が興味のあるイベントに安心して参加できる。
- ・無理のない協力を許してもらっている。
- ・活動する人達の主体性が尊重され、活動内容も相手に寄り添っていると思います。
- ・月1回必ず公民館で会合のお世話をしている。
- ・喜んでもらっていると思います。
- ・子供や若いお母さんと触れ合えて嬉しい。
- ・出来る範囲でいいと思っている。
- ・お年寄りの方、いつも楽しみに行事を待っておられる。
- ・いろんな事を通して勉強させてもらえるので。
- ・活動に多数参加している。
- ・友達が増えた。地区の事がわかった。
- ・みんなで無理なく活動に参加できるから。
- ・自分のための活動だから。
- ・町内の対象者（75歳以上）に呼びかけて、各テーマを掲げ軽体操、認知症予防ゲーム・バランスの良い昼食を提供している。
- ・活動スペースがある
- ・施設の概要がわかる。
- ・自分もいつか御世話にならないといけないのかなと思うと、元気なうちに楽しくボランティアさせてもらっている。
- ・富山県内で活動を広めたいと思っているが、まだ県内3施設しか活動できてないので。

- ・今は名前だけの参加です。
- ・あまり参加していないので。
- ・協力できる回数が少ない。
- ・高齢者のみにサービスしている（サービスしすぎ）高齢者もできることがあるはず。共に活動することを目指すという感じが無い。
- ・三日市地区のボランティアはおたっしやクラブの運営しか無いように見える。
- ・もっと協力する人が増えるといい。
- ・活動資金がもっとあればうれしい
- ・センターのボランティアルームが物置化している、本来の目的が忘れられてるのでは。
- ・無理してやっている。
- ・日本語教室は専門家がやるべきなのにボランティアが代わりにしているため負担が大きい。しかし、地域には日本語が出来ないために困っている外国人がたくさんいる。

★活動について困っていることがある



はい	71
いいえ	173
どちらとも言えない	67
無回答	59
合計	370

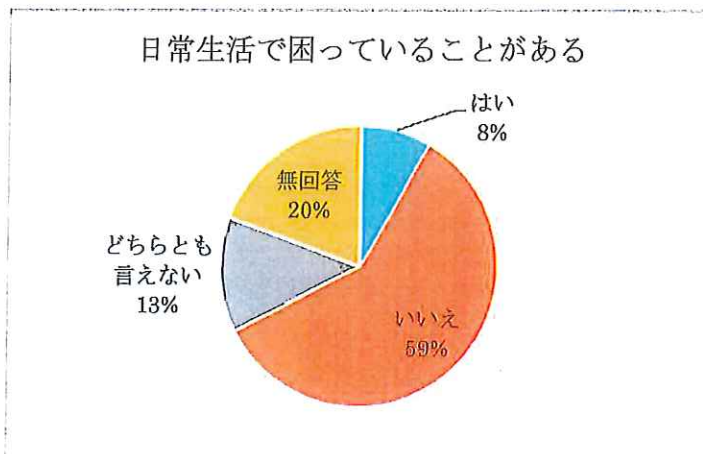
《理由》

- ・活動メンバーを増やす。
- ・活動内容の情報発信
- ・活動資金
- ・運営面のメンバーそれぞれの気持ち。
- ・30代40代の方のボランティア活動への参加が少ない。
- ・夜遅くまでお子さんをお預かりするときに負担がかからないかと心配な時がある。
- ・足が不自由だから。
- ・活動員の意見をもっとすいあげて欲しい。
- ・若い人、60歳くらいでも入ってもらえない。
- ・参加する会員が減ってきている。
- ・遠い。
- ・会員の高齢化
- ・おたっしゃクラブのお世話というよりもクラブ員も一緒になって活動すればよい。
- ・横のつながりの連絡方法（電話をボランティアに頼っている）
- ・役員のみ手が足りない。
- ・地区の子供達が少ない。
- ・振興会の人達の理解、協力。
- ・採択のテーマが偏りがちになる
- ・補助金が少なくて思うように活動できない
- ・三日市公民館の老朽化で調理室が狭い。
- ・生業と重なり、休まなくてはならない。
- ・体力に限界がある。
- ・防音装置のない場所なので困っている。

- ・視覚障害者の把握が難しい。
- ・デジタル化という目標に向かってグループがひとつになっていない点。
- ・拠点がない。
- ・子ども達の参加を増やしたい。
- ・NPO?全然わからない。
- ・前日準備時間が夜遅い。
- ・活動について知ってもらうことが難しい。
- ・日本語教室は外国人生活者の支援活動で、今後の地域社会づくりに必須のことなのに、日本語教育専門家の派遣や市、行政のサポートがまだまだ不十分。ボランティアだけが自立してできることではない。
- ・黒部市の国際交流は英語が出来ればよいという雰囲気がある。しかし現実には英語が出来ない地域の外国人の方が多い。その現実を黒部市はわかっていない。地域に住む外国人に本当に必要なのは英語でなく日本語。
- ・施設に向かうのに公共の車を利用できればよい。

9 普段の生活での困りごとについて

(1) 日常生活で困っていることがある



はい	88
いいえ	631
どちらとも言えない	141
無回答	206
合計	1066

★はいとお答えの方

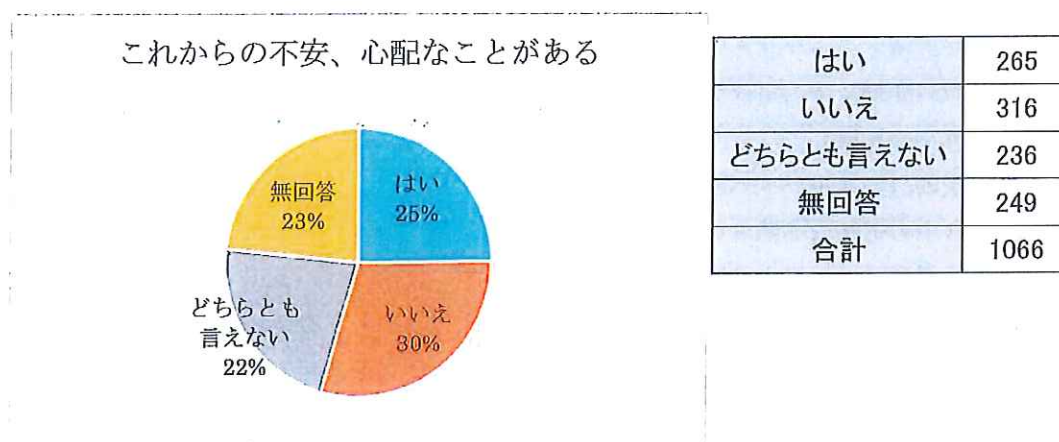
どのようなことですか

- ・転居してきて、子供たちが時間を持て余している時に集まれるような場所がなく、結局家でゲームということになり困っています。(児童センターがあまり機能していない?)
- ・子供がもっと遊べる場所があれば良い。仕事をしながらの子育てに対してもっといろいろな補助があれば良い。
- ・日曜日に子供を遊ばせる児童センターのようなところがないこと。雨が降ると困る。
- ・病児保育が不足している。小児科がなくなる(まち医者)ので、魚津まで行かなければならない。
- ・核家族のため、子供の送迎や世話がとても大変。
- ・頼れる人がそばにいない核家族です。子守りをしてくれる人、子育てを少し手伝ってくれる人がいなくて困る。
- ・土曜、日曜に子供を預けるところがない。
- ・家事と子育ての両立、仕事復帰、社会復帰。
- ・共働きなので学童に入っていない子(4年生)の留守番している時間が心配。
- ・学童が午後6時までしかやっていないので、午後8時まで家で1人で待っている。
- ・三日市小、桜井小の学童の受け入れがされず困っている。
- ・学童保育が18時までで両親(私含む)の実家が遠方のため、2人共仕事が遅くなる時の対応方法がない。(学童の延長がほしい)
- ・保育園入園手続き(期限、募集日時など)詳しい話を聞く機会がない。
- ・バスなどがあまり通っていないので、雨や雪が降るとなかなか外出できない。子供がまだ小さく、免許がない私には、自分の地元より生活しずらく感じます。
- ・家の近くの階切に遮断機がないこと。子供が危ない。

- ・買い物に電車で行くので大変です。(冬場は特に)
 - ・買い物に行くところが近くにない。
 - ・出かけるときが大変(バス、タクシーのため)
 - ・バス・電車の時間が良くない。(もう少し増やして欲しい)
 - ・ごみステーションが遠い。冬期間、資源物の回収を停止している。
 - ・冬場雪かきができない。
 - ・冬場の雪道運転(融雪道路が少ない)
 - ・雪がたくさん降ると除雪が行き届いていない。交通整備が行き届いていない。
 - ・近所の付き合い
 - ・町内会の行事全てが面倒・苦痛です。ビーチバレー、運動会、祭り、卓球大会…三日市は特に多いように感じます。
 - ・仕事をしながら地域の活動(当番)が思うようにできない。
 - ・町内活動・役員について矛盾だらけで嫌気がさす。
 - ・地区の3世帯家族が少なくなり、地区関係の状況がよくなってきている。地域交流の場所・人材の確保が必要。
 - ・地域の方との信頼関係
 - ・近所の人が自分の土地(畑)の草取りを全然しない。近所だから言えない。
 - ・生活が苦しいです。病気になった時、どこの病院もいつも混んでいて、時間がかかる。
 - ・賃貸のアパートの湿気がひどい。
 - ・デイサービスを利用することができるのに利用しようとしない高齢者は、どうすれば利用するようになるのか。
- 耳が聞こえにくいので、人の話が聞こえない。職場でのコミュニケーション、近所の人と話ができない。電話が聞こえない。人の声が聞き取りにくい。車内放送が聞こえない。マイクの声が聞こえてないので病院で呼ばれても分からない。医師の声も聞こえにくい。
- ・足が不自由だから。
 - ・自分の体力
 - ・自分の思うように歩けない。
 - ・用水もれ
 - ・日中1人だけで家にいる老人
 - ・家の管理
 - ・空き家が近所にあるので困ってます。
 - ・畑に猿がくる。
 - ・乗り合いのタクシーの説明が回覧されても使用方法の理解ができない。
 - ・土日しか休みがない為、公民館や市役所にいけない。
 - ・家の隣が空き家で冬になると屋根雪がトタン屋根から滑り落ち道をふさぎ車が通れなくなる。
 - ・バイクのカギを無くして出てこない。
 - ・昨年少し体調を崩したとき、近所・友達に助けてもらった。
 - ・妻が高齢のため、家事が心配である。(特に障がい者)

- ・白内障になり視力が悪くなり夜の運転は無理、膝が痛くなってきた。
- ・駅がバリアフリーになっていない。
- ・隣近所とのトラブル。
- ・数時間単位での付き添いを仕事として依頼できる事業所がない。
- ・息子の結婚。
- ・駅周辺にスーパーがない。
- ・日中の近所の高齢者の見守り。(日中家族は仕事でおらず、少し認知症が入っているようだ)
- ・除雪車による雪の積み上げ。
- ・相続の金銭処理。
- ・健康診断で身長を測りたくないこと。
- ・母とすぐに喧嘩になる。
- ・児童センターの振り替え休日が平日にあると、子供の居場所がなくて困る。
- ・子供が病気になった時、自分たち以外に助けてもらえる人がそばにいない。
- ・若者が住みにくい。
- ・子供を遊ばせる公園はどこにあるかわからない。
- ・土日に行ける子育て支援センターのような場所がなく、行き場に困る。児童センターは大きい子供が多くて危ないので。

(2) これからの不安、心配なことがありますか



★「はい」とお答えの方

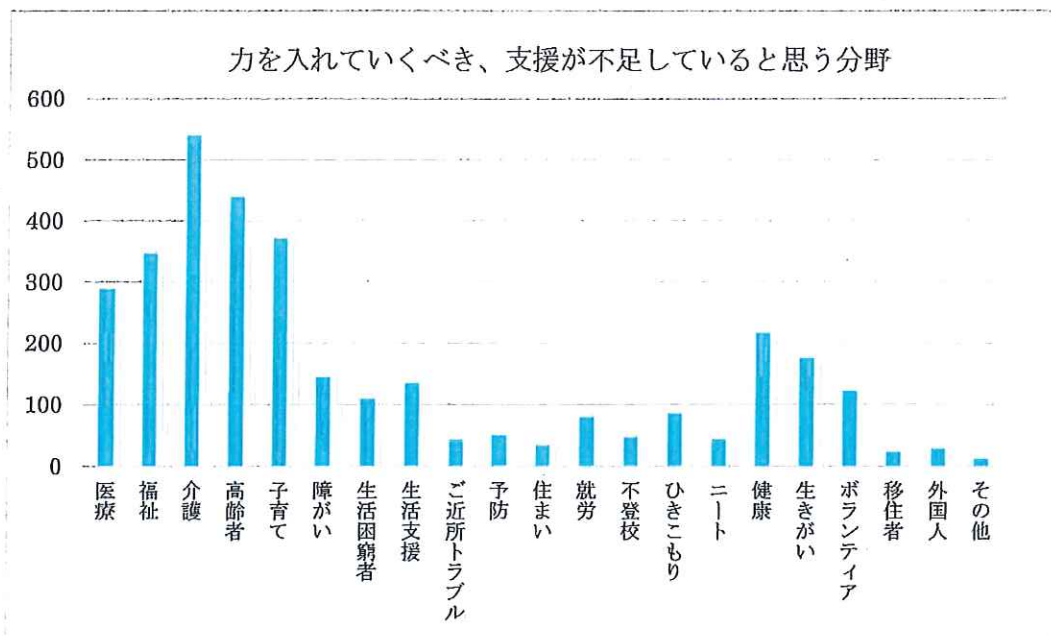
どのようなことですか

- ・子どもが独立して、夫婦2人になり、身体に不都合が出来た時。
- ・義両親の介護が心配。(デイサービスやショートを利用してけれなさそう) 刺激の少ない生活で、認知症にならないか心配。
- ・加齢に伴う健康
- ・今、車の運転ができていたがこの先心配。食べ物・衣類他。
- ・一人暮らしですと、何かと心配です。(健康が1番心配)
- ・高齢化の問題。特に一人暮らし。若い人がいなく、家の管理、冬の雪かき、食べ物の買い出しができない。
- ・親の今後(老後のことなど)
- ・自分を始め、近所の人の高齢化や空き家になったり漠然とした不安感があります。
- ・過疎地域に住んでいるため、近い将来近所の高齢者さんを地域にいる若手数人で支えていかなくてはならないこと。
- ・周りに子供がいない。若者がいなくて、年寄りばかりでこの先みんなで助け合うには不安。
- ・年金が65歳からもらえるかどうか。
- ・現在両親ともに健康であるが、介護になった場合お金や仕事など色々な面で不安を感じる。
- ・高齢の両親を見ながら、フルタイムで働き続けることができるだろうか。デイサービスなどの相談をどのようにしていけばいいのだろうか。など、介護への不安です。
- ・両親が高齢で子供を見ながら親のことも見て行けるか心配。
- ・老老介護になること。あるいは一方が入院すること。
- ・地域活動が出来なくなるのでは。
- ・認知症になった時
- ・高齢者二人暮らしなので、一人になった時が心配。
- ・高齢者のプライバシーにどこまで踏み込んで良いのか考えることがある。

- ・年を取るにつれて体力に自信がなくなり、健康面での心配が出てきた。(ひざ・股関節・腰等) 予防として、体力維持のために何かあるか。
- ・在宅認知者の生活指導
- ・高齢化、空き家の増加で地域活動、生活が維持できなくなるのでは…と思うと心細い。
- ・高齢者で少し忘れっぽくなっている人の運転を見る事があり怖い。いろんな団体で見守っていると思うが、どこまで踏み込んでいいか判らない。
- ・高齢になった自分達のこと、介護認定受ける前の身体づくりの場があるのか？心配。
- ・今後高齢者が多くなることで医療費、介護費用が多く必要になり、個人の暮らしでの負担もどれくらい増えるだろうか。生活費や介護する側の人足りるのか。自分が介護してもらえるかが不安。
- ・小児科がない。(市民病院は午前だけだし、救急に連れて行くと医療費以外のお金をとられるので困ります)
- ・子供が家で待っている時に事故が起きないか。
- ・子育てにお金がかかる。
- ・仕事をしたいが、子供(小学生、未就園児)がいるのでなかなかはじめられない。学童保育など、柔軟に対応して頂ければと思う。現在は正社員として働く方のお子さんと定員がいっぱいになっているイメージ。
- ・子供の学校後の時間の預け先…仕事が遅いので、どうしたらいいのかわからない。仕事を続けて行けるのか、不安。女性の仕事の支援を、その点からして欲しい。
- ・家の近くの踏切に遮断機がないこと。子供が危ない。
- ・また今年も、町内会行事があるのかと思うと、家を建てたことを後悔してしまいます。新居を建てず、ずっとアパート暮らしだと、地域の行事に参加せずに済むから。
- ・主人の給料が上がらなくて心配。住宅手当がなくて困る。同じアパートの家賃が下がらなくて困る。
- ・子供のこと(保育士不足、環境、安全面(交通、登校など))
- ・子供が大きくなる頃にはもっと生活するのに便利になっていれればと思う。
- ・子供の登下校時の防犯
- ・ひきこもり
- ・緊急の場合、電話が聞こえないので困る。病気になったら医師の説明分らない。
- ・地域のつながりがなくなっていくこと。
- ・病気になったら心強くてよる人がいない。
- ・人口の減少、地域の不活性化、画一化。
- ・小学校がなくなり、若い世帯も少なくなり、過疎地に猿と猪が増える地区になりそうで不安。
(保育所がなくならないように希望)
- ・若者の、地域・町内会活動への関心が薄くなってきている。
- ・1億総活動といいながら、また、介護離職ゼロをめざしているが、今、実際には、年寄りを残して就業することは、難しいのが現状である。必要な時にもっと利用しやすくなるようになると良いと思っている。

- ・人口減少により町内会活動が出来なくなる。
- ・高齢者の仲間入りをしたので、地域福祉の説明の場などがあれば良い。
- ・お金のこと。
- ・税金の増加
- ・相続処理
- ・就職したら健康診断があること。
- ・一人暮らしになると固定資産税を払えなくなる。

10 今後、力を入れていくべき、又は現在、支援が不足していると思う分野について

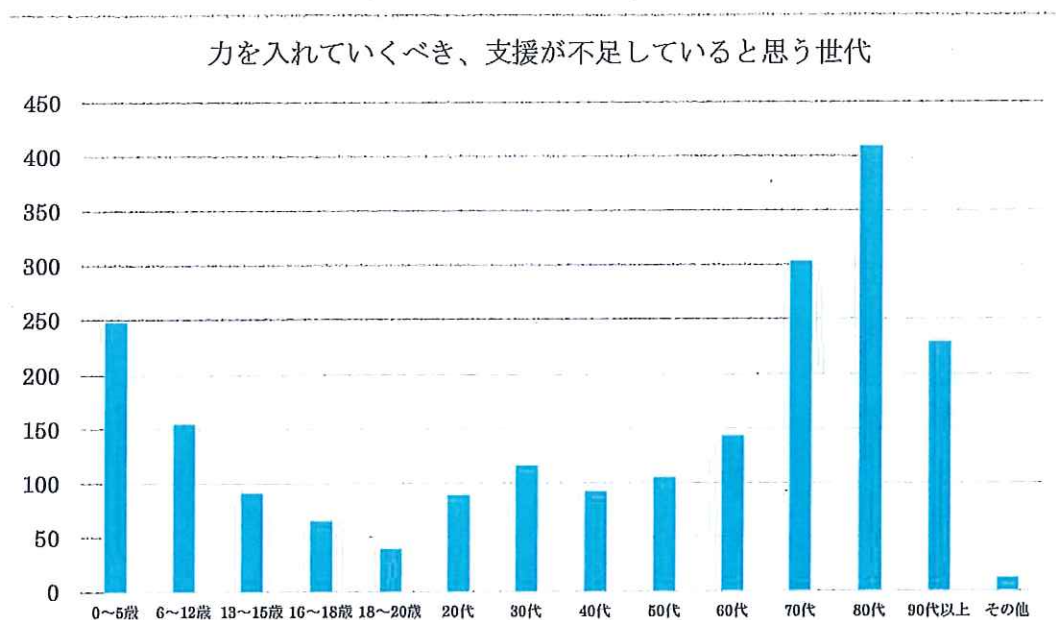


医療	福祉	介護	高齢者	子育て	障がい	生活困窮者
289	347	540	439	371	145	109
生活支援	ご近所トラブル	予防	住まい	就労	不登校	ひきこもり
135	42	49	34	79	46	85
ニート	健康	生きがい	ボランティア	移住者	外国人	その他
43	217	176	122	23	29	12

《その他》

- ・学童保育 ・地域交流・活性化 ・母子・父子家庭 ・少子化 ・婚活
- ・長い老後の人生設計（生きがいを含む） ・移動

1.1 今後、力を入れていくべき、又は現在、支援が不足していると思う世代について



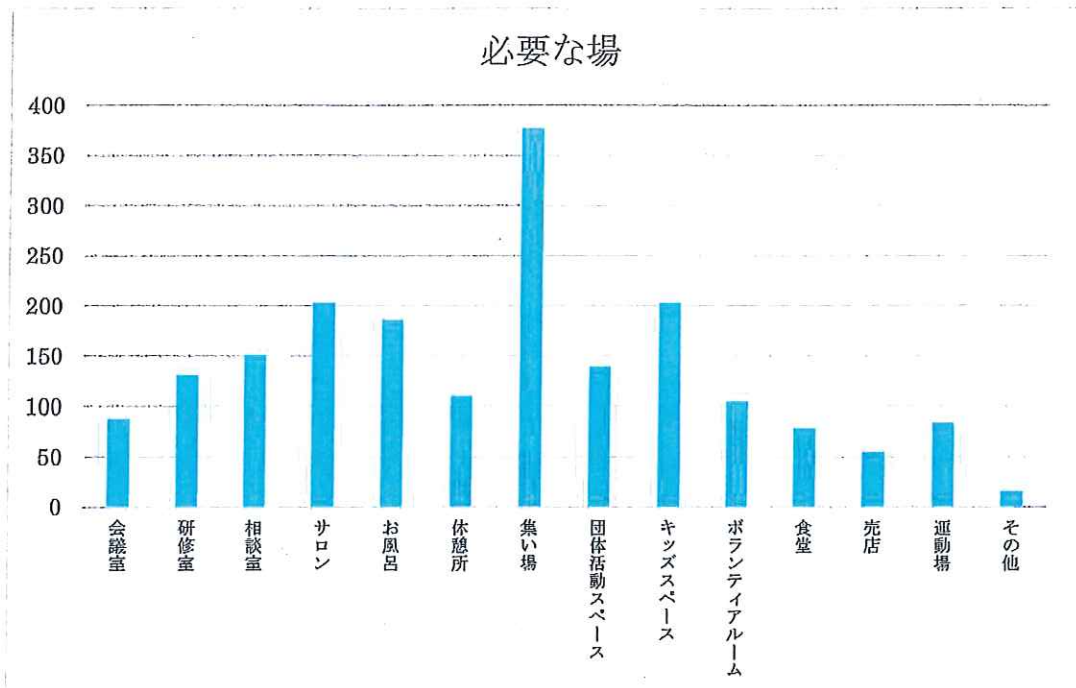
0~5歳	6~12歳	13~15歳	16~18歳	18~20歳	20代	30代
248	155	91	65	39	89	116
40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	その他
92	105	143	303	409	229	12

《その他》

- ・ 単身の子と高齢者の世帯 ・ 親世代以上全て ・ 若者 ・ 結婚支援
- ・ どの世代にも支援を求める人がいると思う ・ 世代ではないと思う ・ ひきこもり世代

1 2 市全体として求められる地域活動推進の拠点として

(1) 必要な場（スペース）は

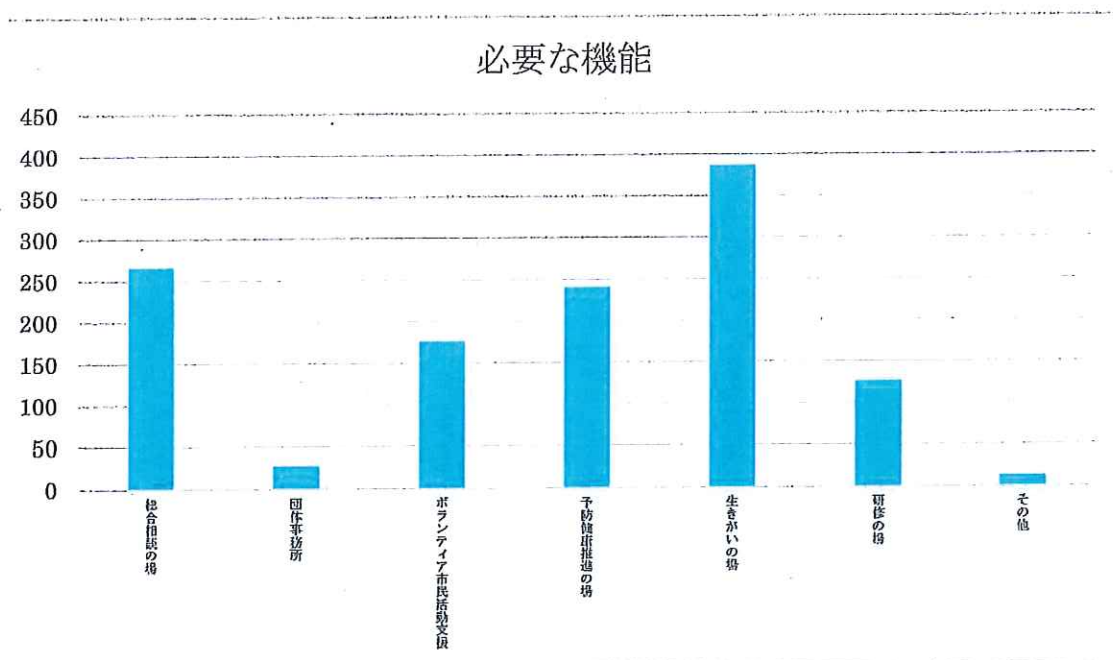


会議室	研修室	相談室	サロン	お風呂	休憩所	集い場
88	131	151	203	186	110	377
団体活動スペース	キッズスペース	ボランティアルーム	食堂	売店	運動場	その他
139	203	105	79	55	84	16

《その他》

- ・学び・趣味を楽しみ向上させる場 ・公園 ・授乳・おむつ替えスペース ・介護福祉施設
- ・図書館 ・病院・医院(特に小児科) ・色々な相談員の配置 ・団体事務所 調理室・
- ・足の都合が悪い人でも参加可能なエレベーター付きの集い場 ・作業スペース
- ・屋根つきの運動場

(2) 必要な機能は



総合相談の場	団体事務所	ボランティア市民活動支援	予防健康推進の場	生きがいの場	研修の場	その他
266	28	176	240	387	126	13

《その他》

- ・子育ての親が集う場
- ・学童保育の延長
- ・相談員の配置
- ・脳トレの場
- ・黒部シルバー人材センターのような手軽にいろんなことが頼めるなんでも屋さん、便利屋さん。
- ・休耕田が多いので市民農園等を提供して趣味の園芸的な指導、そして結果収穫できた喜びの繰り返しで生きがいに繋げる。(農協(OB)の協力が必要かもしれないが…)
- ・一人暮らしの対応
- ・コミュニケーションの場
- ・交通手段(市内くまなくコミュニティーバスが通ったら良い)

- 1 3 黒部市社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」としての法的位置づけを基に、市の地域福祉推進の中核団体として役割を果たすために様々な事業を展開していますが、今後、社会福祉協議会に求められる機能や役割、期待することについて自由にご記入ください。

★黒部市社会福祉協議会に求められる機能や役割

- ・行政との役割分担を明確にし、地域福祉に対する実践力、発想力の強化。
- ・地域福祉のセーフティネット機能のさらなる強化。(言葉が先行して活動自体が見づらい見えにくい)
- ・地域と公共施設(保育所、学校等)の交流の場を設けること。そして関わりを育むパイプ役を担ってほしい。
- ・市民の声をまとめ、市民全体の社会を作る。そのために地域の人々をつなげる機能。
- ・市民の意見の吸い上げ。
- ・都市部に限らず昨今では核家族化からの高齢者への関心やケアが昔に比べて希薄になっているように感じるので、そういった方面への拡充が求められるのでは、と思います。
- ・高齢化、核家族化に対するケアの強化。
- ・2025年以降への必要とされる対応をいかにしていくのか、具体的実施案。
- ・介護・医療分野の拡充推進。
- ・長期計画を立て、計画目標を作り、行政に意見を述べられる体制にする。
- ・介護予防の強化と介護者への支援。
- ・地域住民の現状を把握し、きめ細やかな支援をすること。
- ・一人暮らしの支援。
- ・社会福祉の実践が全地域に浸透し、活動の情報が行き渡るようネットワークの充実化。
- ・現状を把握し、計画、実践活動の基として欲しい。
- ・人材情報の蓄積が最もあるのが社協だと思います。それらを分野別に集約し、どのように活かすか、ものすごく楽しく希望のある世界ができてくると思います。
- ・行政との連携が足りない。
- ・高齢化が進む地区は、高齢の人が高齢の人を見守るようになっている。行政の問題かもしれませんが、若者が定住できるような地域づくりを。
- ・気軽に相談や支援を受けられる人材が不足していると思います。
- ・高齢者・子育て・生きがいを中心にした福祉活動推進事業の充実を図りたい。
- ・今までの社協は、市の委託事業を行っており、地区社協へおろしているところがある。社協から市へ提案し、地区の活性化を図れる独自のパワー事業を展開して欲しい。
- ・立派なボランティア活動をしている地域や地区を勉強するのもいいが、なかなかそうできない地域もあることの対応をどうするかを示せる対策をねれる機能が欲しいですね。
- ・市役所との連携を密にしてムダのない活動を望む。
- ・予算を減らさないでほしい。みんなギリギリのところ頑張っています。

- ・地域の方々に寄り添った身近な相談場所としての機能。
- ・地区社協と行政をつなぐコーディネーター役。
- ・地域と行政をつなぐ具体的な活動がすすめられる、場、人材をもつ機能がある。
- ・住民の立場に立った福祉政策、将来住民に役立つビジョンの策定と実行。
- ・地区社協、黒部社協から市福祉課になると良いと思います。
- ・地区と地区とのネットワーク。
- ・みんなが気楽に利用できるように。
- ・行政におもねる事なく（予算、人事）独自性をもって機能していく事に徹して欲しい。
- ・取り組み、役割が多岐に渡り、実際の活動内容がわかりにくい。
- ・制服を着ている人を良く見かけるが、何をしているのかがよくわかりません。（スーツだったり、ポロシャツだったり）
- ・社協はお年寄りの支援以外に、子育て関係は何をしていらっしゃるのでしょうか。実態がよくわかりません。
- ・一般の人に協議会の機能、役割どうか聞かれても困る。法的位置づけが有るならその方に基づいて機能、役割をしているか判断して下さい。
- ・利用者を待つのではなく、出向くこと。
- ・協議会自体を周知すること。
- ・どのような年齢でも地域福祉の推進に関心が持てるような発信の工夫・場所の提供など利用を待たずでなく、自ら求めていくことで、地域により根ざしていけるのではないかと。
- ・黒部市社会福祉協議会で決議された事項等の市民への公表をわかりやすくして欲しい。
- ・年代に沿った研修会やサロンの機会に、多数の方々に参加して頂くように広報して頂きたい。
- ・もっと親しみやすい広報活動
- ・経理、人事等、市役所とのかかわりがよく分からないので「福祉くろべ」やネットで少し調べた。沢山の仕事の割には末端への周知が足りないのでは？赤い羽根も拠出金や仕組みについて町内会の仕事をするまで知らなかった。色んな会での説明会等が必要では？
- ・団塊世代が集まれる場の提供と楽しみながら学べる介護教室。
- ・新幹線が通ったりバイパスが開通したりしたことで、外から移住してくる若い世代も増えているのではないかとと思いますが、新旧世帯の諸問題、世代間の問題、年代ごとの問題など、色々な課題を幅広くとらえていただいて、誰でも相談に行ける場所によりなっていたきたいです。
- ・世代によって社会福祉協議会との接点が違うので、若い世代は具体的なことを知らない方が多いと思う。より身近に感じられる機会があればいいと思うが、今はわかりません。
- ・子育てしやすい環境づくり。お年寄りが安心して過ごせる環境づくり。
- ・子供やお年寄りが、大事にされる町なら良いと思います。今のままでもいいのでは。
- ・核家族の子育て支援の充実
- ・高齢者の急激な増加に対応する問題、子育て層、両親の勤務が長く忙しすぎる問題。
- ・小さな子供達がいたわる心が育つ様な機会を多くもてる様にしてあげたい。核家族が多いので。
- ・高齢になると移動時の交通をどうすれば良いのか。（自動車が乗れなくなるので）
- ・赤い羽根運動の時、赤い羽根に代わるものはないか。（羽根を拒否する人が多いため）

- ・石田地区はここ数年に銭湯がなくなり、小さなスーパーがなくなり、医療もなく大変不便。高齢者や独居暮らしが増える一方、見守る人も高齢化が進みつつある。ひきこもりを防ぐ意味でも、いこいの場や、サロンのような場所があつて気軽に集いおしゃべりできるスペースがあればいいと思う。
- ・孤独死の対策として、緊急ブザーの設置。
- ・(ケアマネージャーさんへ) デイサービスの分配はどうなっていますか？不足と聞きましたが。
- ・もっと市民の間に入って行ってほしい。
- ・地区サロンの支援、増設。
- ・ひとり暮らし老人のためのコミュニケーション、子育てママ、祖父母たちの集う場所、機会。
- ・高齢者が増えているので介護に携われる人を増やして欲しい。
- ・協議会でどんな良い企画をしても参加しようという意思のない人たちをどう行動に移させるかが問題。
- ・地域の福祉の拠点として、色々な相談や悩みに柔軟に対応できる体制と人員配置を。
- ・高齢化社会に対応するため、それぞれの立場でできることを実行していくように指導・研修を行なってほしい。
- ・活動の範囲が良くわからない。福祉全体に関して相談して良いのだろうか。
- ・各地域の小グループのサロンなどに指導者的立場から気軽に参加し、アドバイスなどして欲しい。
- ・生きがいのある内容を盛り込んでほしい。(特に”町の人”が多い三日市などは何もすることがないという人が多いので考慮して欲しい)
- ・福祉の総合相談窓口
- ・三日市地区の配食サービス、85歳以上の人に配食しており、毎年300食作って届けている。ぜひこれからも地区社協の協力をお願いしたい。
- ・災害時のボランティアセンターの機能をしっかり果たすこと。年1回の訓練では不十分。
- ・活動費が年々カットされているのが残念。でも今の現状では仕方がないことだとも思う。
- ・いつも福祉くるべを楽しく読んでいます。こういったものを通してもっと市民が身近に感じられるようないろんなことを発信して行ってほしい。
- ・福祉協議会としての仕事が見えてこない。事業としてたくさんの方が列記されているが、上目線でやられているのではないかと疑問。
- ・ボランティアセンターはどこにあるのかわかりにくい。
- ・地域のアドバイザー役としての機能ももちろんあってほしいのですが、市社協独自で企画運営し、それぞれの地区にあつた福祉を導き出して頂きたい。
- ・市役所で行う事業と似ているため、住民は、必要な時にどちらに相談すべきか迷っています。具体例を提示し、利用しやすくすれば良い。
- ・協議会から市運営事業への提言
- ・高齢者への支援(1人住まい、認知症、老々介護等) 老人ホームの充実、認知症老人への地域でみまもっていくネットワークシステム構築への中核的役割
- ・ボランティア団体への支援

- ・市のパイプ役を担ってほしい。支援、広報の両面からのサポートが必要である。
- ・間口が広すぎてかえって印象がうすいのではないだろうか、生身の人間が身動きできなくなった時に、力強く支えとなる、あるいは指針となる専門家集団を望みたい。
- ・同じような活動を行っている団体が多い。たとえば見守りとケアネット他、そして同じ人がいつもボランティアに顔を出している。
- ・避難行動調査票に登録しても、万一の時に守秘義務を楯に公表しないことに疑問に思う。市、自治会、町内会、三日市交番等の連絡を密にし、災害時協力することが必要と思います。是非一考をお願い申し上げます。
- ・高齢者、生活困窮者への支援等、民生委員へのきめ細やかな対応。
- ・生活弱者、障害者に対する支援。
- ・住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉ネットワーク作り。
- ・机に向かっては駄目。地域の行事に参加しているボランティアを見て聞く。職員といえども地区の行事には参加して経験を活かしてほしい。
- ・ボランティア等の活動を通じて、地域の仲間づくりがスタートできるような支援
- ・制度や仕組みの制定、人・物・金の供給といったいわゆる与える福祉だけでなく、市民から自発的に活動が起こるような雰囲気づくり、仕掛けづくりにも取り組むべき。また、そういった活動実績の紹介などを積極的に行なうことも必要。啓蒙活動の活発化。
- ・外国人生活者に住みよい共生の地域づくりに向けた日本人住民の啓発活動。
- ・相談しに来られた方々へのサポートの充実。
- ・各地区社協の問題点を収集し、再び各地区社協へ返して、市全体としてのレベルアップのためのリーダーシップをとることが必要。
- ・できるだけ長く在宅で生活できるように必要なサポート体制の構築。家族が出来ること、地域社会がすべきこと、行政がすることを明確にし、個人が自己責任において自立することを自覚できるようにすること。
- ・昨今社会福祉というと老人問題に主眼が置かれがちだが、もう少し子育て世代にも力が分散できればよいと思う。
- ・ボランティア市民活動の拠点を協議会内に設けて欲しい。
- ・各部会のリーダー研修をたくさん行なって欲しい。
- ・介護者の支援＝在宅生活の支援。介護講座や介護者の悩みを聞いたり軽減できるようなサービスの提供。統合的なボランティアの活動・育成など。
- ・福祉予算が十分に価値のあることに活かされること。
- ・介護施設との連携や協力。
- ・施設の増設、受け入れ増、期間の増大。
- ・ホームヘルパーの充実。
- ・福祉センターをよく利用するが、歳を取ると正座がつかなくなるので、もう少し座椅子を増やして頂けると助かる。

★期待すること

- ・地域の特性をふまえた活動を期待します。
- ・福祉のプロ集団として地域に寄り添った、また地域課題から逃げないで真正面から取り組む姿勢を期待。
- ・困ったことがあればどこへ相談すればいいか示してくれる総合相談窓口が社協になってほしい。
- ・福祉のまちづくりを目的とした組織であると思うので、地域に足を運んで現状をみてほしい。
- ・人々の意識向上、社会を楽しく明るくすること。
- ・老人が生きがいを見つけて働いたり、人と関わったりすることで、自分の役割を見つけられるといいなと思う。
- ・子育てしやすい市になったら良い。高齢者に優しい市になったら良い。
- ・活動、事業について、つながり（連携）をより強くしてもらいたい。
- ・民間に先駆けて、あるいは民間の組織では費用対効果等の点でおろそかになりがちな方面に積極的に力を入れて下さることに期待します。
- ・表紙に書かれているような住みよい黒部市になるように活動して欲しい。
- ・子ども、高齢者、生活困窮者など弱い立場の方の思いに沿った支援。
- ・住みやすい市となることを期待。
- ・市民がより健康に生活できるように支援、公共の場の提供、気軽に頼れる相談の場が充実すること。
- ・見守りネットワークの広がり、見守る人、見守られる人がうまくマッチングできること。
- ・ハード面だけでなく、ソフト面での支援。
- ・介護・医療分野の充実、暮らしやすい街づくりの現実化。
- ・どんな質問にも対処できるよう中核になる事。
- ・職員の効率が向上するように各個人の資質をボトムアップする組織づくり。
- ・地区福祉活動への積極的・能動的提案活動や講習。
- ・地域に密着して溶け込むこと。
- ・住民一人一人のつながりを密にして、支えあう社会の構築に努力されること。
- ・地域全体で見守りネットワークを広めて欲しい。
- ・中央にばかり集中しないで地方にも目を向けて欲しい。
- ・沢山の事業をやっているが、六法の福祉事業が有るがどれが満たされてるか、いないか又参加しない人の意見を吸い上げると良い。
- ・地域の人達のかかわりあいなど（昔より少なくなったから）大変だけど、行事、お祭り（盆踊り、運動会）など。
- ・市役所、介護組合とのネットワークをよくして、市民にそれぞれの働きが見えるように、現在は福祉等について、どこがしているのか、何をしているのか、よく分からないことがある。それぞれ特徴がある分かりやすいシステムであってほしい。
- ・予防健康推進事業
- ・高齢者対策よりもむしろ若年層に重点を置いた活動。高齢者の持つ経験、知恵をもっと積極的に活用する事。（地域力のキーポイント）

- ・福祉はともすれば老人のものと思われがちだが、生きてきた知恵と時間がある。これからを担う世代に何を残せるかを一番の目標にして50年先の町づくりの源となって欲しい。
- ・高齢者がもっと集まりやすい方法。例えば潮風へ出られる人たちを多くする方法など。
- ・子供に関する取り組みをもっと広報して欲しい。(支援グループのこと、制度のことなど)
- ・みんなが楽しく交流できるイベントを企画して欲しい。
- ・人材が揃っておられるので、アプローチの工夫を。
- ・正直、あまり市役所との役割がどう違うのかわからないので、社会福祉協議会がこういうことをしてます!というのを見て勉強しようと思いました。このアンケートのおかげです。ありがとうございます。
- ・もっとわかりやすい内容で、アンケートを含め活動をして頂きたい。
- ・一人でも多くの方が福祉について興味、協力を得られるような施策。
- ・各町内会に至るまで細かく公民館で活動をPRできないものだろうか(福祉くろべは読んでいるようで読んでいない人が多い)。
- ・地区のボランティアに入る前は、本当に何も知らなかったもので、福祉くろべも会員になってから見る様になりました。若いうちから知る機会があれば良いかな?
- ・いかに子供を増やすか…若い人が生活できるようにする。町に力を入れることも大事であるが、「いなか」を見出し、「住みたい」「暮らしてみたい」、「しくみ」を作っていく。
- ・図書館を広く、綺麗に、明るく。特に子供の絵本コーナーが暗すぎる。子育て支援室の拡大。
- ・図書館、特に個別学習室の拡充。カラーレの個別学習室はテスト期間が近づくとマナーの悪いものを含めた学生でいっぱいになり、大人の学習スペースがない。21時、22時まで開館している大人の図書館を作れば、生涯学習が盛んな黒部市としての売りになる。
- ・高齢者の生きがいの場作りをして下さっていることに感謝。しかし家から福祉センターが遠く、老人が出向くことが困難(車の運転ができない)。地区ごとに生きがいの場があると、通いやすいと思う。
- ・高齢者の介護施設の充実。
- ・学童についての改善。
- ・医療機関と連携し、一人で生活するお年寄りの認知症の早期発見が出来る様にして欲しい。
- ・子供の病後児・病児保育の充実。
- ・見守りやケアネット活動にもっと男性の参加をお願いしたい。
- ・もっと活動費が欲しい。
- ・見守りとケアネットが一体化されて地元活動がより徹底・充実したものになれば良いと思う。
- ・冬期の見守り活動の充実。例えば屋根雪降ろしは個人に頼めないなので、社協に連絡したら、社協で業者をあっせんする。料金は個人払い。
- ・元気な年寄りになることができているのですが、今後のために歩くことが1番だと思い毎日30分くらいの散歩をしています。しかし、この先のことを考えますとやはり家の近くまでバスを運行して欲しいと思います。
- ・市で主催される講演会に手話通訳及び要約筆記通訳をつけて欲しい。
- ・若い世代への福祉教育をお願いしたい。

- ・少しでも多くの人達がボランティアに参加してきれいな黒部市になりますように。
- ・職員を増やす（ヘルパーさん他）
- ・各校下ごとの活動に積極的に関与し、指導的役割を果たして欲しい。
- ・全ての指導、講話はユーモア、笑いの出来る指導者にしていきたい。良い話と思っても聞くのが苦痛で心身に良くない。暗い人は職員に向かない。（特に福祉関係）
- ・介護予防で無料料理教室、体操、市民農園など…。
- ・男性にも定年後地区の活動に力を入れて欲しい
- ・行政（特に福祉課）と同じ方針で進めてもらいたい
- ・自治振興会（地区社協）の協力が大切。
- ・ボランティアセンターと福祉センターとの区別がつかない。もっとわかりやすく、「ボランティアセンター」と名称を伝えていくことが大切。福祉センター＝お風呂、老人の集うところと思っている人が多い。
- ・「困っていることは我慢すること」と思っている方が多くおられると思う。色々な集いの場で情報を集め、気持ちが軽くなったり相談が出来る様になれば良い。社協の力で解決できる問題だと思う。
- ・「認知カフェ」設立
- ・どんどん高齢化が進んでいる中で家に閉じこもり気味の者が気軽に好きな時にでかけていけるサロンのような場所があると良い。
- ・ボランティア活動をもっとスリムにし、なるべく多くの人に携わってほしい。同じような団体を1つにしてほしい。
- ・活動について見える化。組織、体制、運営費などについて良く知られていないのでは…。
- ・障害のある人もない人も地域と一緒に活動したり、職場で一緒に働ける社会になるようにしてほしい。
- ・何かあると、民生委員、みまもり員と動くが、この活動をもっと各振興会（町内）でも動ける様にしたらどうだろうか。個人情報のあるので難しいとは思いますが…
- ・地域の福祉推進は公共団体（市含む）だけでできるものではない。市民の自発性や企業からの協力も必要。企業からの具体的な（人、物、金）協力の必要性を理解してもらい、推進活動（具体的な福祉活動を含む）の基盤を固め、活動の多様化を進めて欲しい。企業の参加を進める。
- ・外国人支援など、人数の割合が高くないところでも、支援を必要としているところ・支援することが社会全体にとっても意味のある場合は多いと思う。そのようなところにも目を向けて欲しい。
- ・困ったと声を上げている方々へその時ばかりの相談ではなく、後々の長い期間サポートをし、孤独な人を作らない社会。
- ・あらゆる情報を求めて、自分に適した機能を利用し、健康で豊かな生活が続けられること。
- ・地域の公民館等で病気と医療についてわかりやすく、専門医に開設してもらえる機会を、設けて欲しい。
- ・治安の乱れを100%なくす。住民一人一人が意識向上の呼びかけを行なう。
- ・高齢者のための研修を多く企画して欲しい。

- ・高齢者だけでなく、50代60代世代のリハビリ機能がある施設があるといいと思う。
- ・小さな子供を抱えている。近くに頼れる人のいない、核家族のために何か助けてもらうことはできませんか？
- ・3月で二本垣医院が閉院し、黒部市には小児科医が少なく、子供がちょっと風邪をひいたときなど(市民病院に行くほどではないとき)に連れて行く病院がないので、小児科医対策を。
- ・子ども2人目の保育料の無料化。
- ・子供のインフルエンザ予防接種費用助成。
- ・小さい子供が外出先で遊べるスペースや、子連れで行ける場所をもっと増やして欲しい。
- ・子育て世代が安心できる社会づくりへの貢献。
- ・社協は今まで高齢者や高齢世帯を対象とした活動が中心だったが、子供・子育て世帯で困っていることにも目を向けて欲しい。
- ・学童保育にもっと関わってもらいたい。黒部市全体の学童保育を把握し、支援してくれるところが必要だと思う。
- ・子育てを機に退職したので、再就職支援の場などがあればうれしい。(子連れで相談できると良い。ハローワークは魚津にしかない)
- ・中央小の学童の指導員の人数が足りず、現職の方への負担が大きい。社会福祉の方面から、地域と関わりたい高齢者の参加を促すことはできないか。(広報など)但し年齢制限は必要かも…

★ご意見・ご感想などご自由にお聞かせください

- ・各種事業が行われているが、広く住民に理解、浸透がされていないのではないかと思います。
- ・福祉協議会さんは、いろんな支援活動を地域のために行なっておられるのに、ほとんどその取り組みについて知りません。実際に問題や悩みが出た時になってやっと解決するために真剣に調べたりして、支援の場の存在を知る事が多いと思う。いざという時のためにも、社協さんの取り組みを普段から気に留め、また世間にはいろんな状況にある人がいるということを知っておきたいと思います。
- ・名前も知っているし広報も届くのにあまり関心がなく、どのような活動をしているのか今ひとつわかりません。
- ・福祉に関する多くの仕事をしてくださっていると思いますが、その内容はあまりわかっていません。子育て中は保健センターなどを利用し、働き盛りの時は、社協さんのことを忘れ、年を取ってくると、ようやく福祉センターのことを思い出してくるような気がします。もっと若い世代の頃より、足が向く、社協さんの役割をPRされると良いと思います。
- ・地域福祉についてまだまだ内容も良くわかっていないし、どうしているか広報くらいでしかわからなくて、ボランティア活動など楽しみがあればやってみたいと思いますが、把握できていなくて認識が薄いのも事実です。こういうアンケートがあつてわかることもあるのでいいと思います。
- ・現在どんな活動をしているのかあまり知らないのもっとPRすることでより多くの地域の方に支援が行き渡るのではないかと思います。
- ・地区社協を住民の皆さんにもっと良く知ってもらって話し易く相談しやすい場所に。
- ・継続は力であるが、各種事業そのものがマンネリ化しているのではと思います。時代・地域が求めているものの把握力が弱い。事業の質を注視した選抜と集中を行なつては？
- ・介護の仕事をしているので、社協さんの存在を理解しているが、周りの友人や知人は認識ないと思う。
- ・PTA活動で子供とボランティアをする機会があればいいと思った。
- ・自分は初めてなのであまりアンケートの質問に答えられないけど、お話はよくわかりよく勉強になりました。訪問先では実行していきたいと思いました。
- ・内容がよくわかりませんでした。ごめんなさい。
- ・申し訳ありません。今まで社協を意識することがありませんでしたので、存在についてもあまり考えませんでした。私自身や家族に問題が起きて色々な社会資源を考えた時に、生活に接する機関であることに気付き、今後関心を深め、参加、利用したいと思っております。
- ・申し訳ありません。現時点で知識もなく、情報もなく、意見や感想を書き記すことかなわず。もっと勉強します。
- ・黒部市の計画、企画など公的施設に閲覧用として配布してある綴りものに目を通したいです。
- ・市職員たちは、「もっと現場を見る」。パソコンだけを見るのではなく自分の目で現実をしっかり目で聞く。これが今の黒部市職員にかけているように思う。
- ・いろんな年齢の人、いろんな人生をつなげる素晴らしい活動をされていると思います。いつもありがとうございます。

- ・地域の方々のために頑張っておられると思うので、今後も頑張ってもらいたいです。
- ・デマンドタクシー制度が普及していけばよいことかもしれないが、一人暮らしの方がタクシーを利用する際にもっと安く使えるよう補助をできないものでしょうか。
- ・スーパー銭湯が黒部になくて不便。
- ・シニア層の社会貢献率を高める工夫。
- ・社協について全然わからないので書きにくいアンケートだった。もう少しわかりやすくしてもらえるとありがたい。
- ・支援が不足していると思う分野に○をとりましたが、正直あるのに知らないだけかもしれないので、自分が子育てや住まいなど調べた時、他の町と比べなかったものに○をつけました。
- ・今回のアンケートの結果をどのように生かしていくか、どのように生かしたかまで、必ず報告して欲しい。
- ・団体の機能が必要な方全てもらえることなく受けられる世の中になってほしい。
- ・自分はずっと福祉について知るべきだと思いました。
- ・市社協＝老人福祉というイメージなので、あまり期待することもなし。今のままでいいと思います。
- ・他の市よりも、育児手当などが少ない気がします。子供が欲しくても金銭的な不安などから子供を増やせない。
- ・保育料が高く、少子化に貢献したくてもためらっています。
- ・保育所ではとても満足しております。しかし小学校になると学童になり、対応して頂く時間も18時までと短時間になりました。ほとんど残業が出来ず、仕事と子育ての両立をきつく感じております。学童は各小学校にまかせているという話を聞きましたが、先生方の人数確保も厳しいとの話もありました。福祉の仕事として、助けていただけないでしょうか。
- ・天気の悪い日に子供を遊ばせることができる施設があるといい。高齢者が話をしたり、お茶を飲んだりできる無料の休憩所などがあると助かる。
- ・小学校の登下校時に見守りしてくださる方がいると助かります。仕事を引退した方や、健康なお年寄りの方など地域の方の目があると防犯になると思います。
- ・子供達と一緒に遊んだり話をしたりする場があれば良いと思います。
- ・小学校の貯金箱づくりに参加した際、とても喜んでいたので、毎年続けて欲しい。会費を払っても良いので。
- ・直接的に意見を言えるアンケートが実施されたことはとても良いと思う。市民の声が実現すればなお良い。
- ・広い年齢層からアンケートをとることでより機能・役割の明確化ができニーズに応えられるので良いと思う。
- ・普段暮らしていて医療分野、介護分野、子育て・生きがい分野の機能が不足しているように思う。各施設の充実し、病院・医院（特に小児科）、介護福祉施設、公園などが増えると良い。
- ・診断のついていない認知症の人、障害を疑われる子供たちが少しでも地域で受け入れられやすい環境づくりに少し興味があります。子供たちのための親向け、祖父母向けの子育て教室や、障害の疑いがあった場合の受診しやすい環境、認知症の疑いがある人も受信しやすい環境が地

域でできたら多くの人が住みよくなるのではと思います。

- ・黒部市役所でもっと横のつながりがあれば良い。(“このところは違う”ではなく、一緒に考えて聞いてほしい)
- ・住民が集合所を利用しやすいこと。施設が充実していても、外出の意欲がないとダメ。
- ・必要な場(スペース)で「生きがいの場」とありましたが、現状で十分ではないでしょうか。いたずらに場を設けても…。
- ・地域住民との接点が少なく、家族の情報が入ってこない。
- ・黒部市福祉センターと黒部市宇奈月老人福祉センターをひとつにして運営したら良い。
- ・訪問したとき、ありがたい言葉がとてうれしいです。(民生委員)
- ・1人、2人暮らしの方に、1週間に1回程度食品等の訪問販売をあっせん。(健康等の確認を含めて)
- ・見守りの方の話として、水道料金の高額請求が来ているのに水道局員やメーター調査員が気付かないことは論外です。事業者やボランティアにお願いする前にとくに気が付かなくてはならない事例です。ガッカリしました。気が抜けます。
- ・地域のボランティア活動等に参加していこうと思います。
- ・地域包括支援センター開設は知らなかったです。地域に帰ってなるべく発信していきたいと思いました。昨年より行われた交流会、今回初めて参加しました。とても内容が充実していて、勉強になりました。帰ったらまた引き続き見守り員に精を出していきたいと思いました。
- ・民生委員になって2年余り。社協の皆さんは人間的にも、専門知識においても素晴らしいと思います。大いに期待しています。
- ・行政、社協は指示が多いが民生委員には無理が多い。
- ・最近町内に対する要請が多くなりつつあり、それにこたえられる状況になっていない。
- ・社会福祉協議会の方は、みまもり員の方の訪問を民生委員やケアネット等の人にばかり頼らず、1〜2か月に1回くらいは訪問活動をして欲しい。(実際しておられたらごめんなさい)
- ・最近福祉の広報誌もカラーで見やすく、興味を持ちやすくなった。
- ・事業全体として上から目線の事業が多いのではないですか?地域の活動を”育成する”という立場にもとづいて事業を少しでも進めてほしいですね!「福祉くるべ」の文字が小さいし、多すぎて見る気、読みたい気にならない。もう少し、弱者の立場で編集してほしいですね。
- ・核家族化で近所のつながりがうすくなってきていて、少しずつでも地域の助け合いが嫌々ではなく当たり前になるよう社協の力を期待しています。職員のやる気で頑張ってください。
- ・今年度から社会福祉大会には、手話通訳及びブスクリン要約筆記通訳両方の情報保障をつけて欲しい。詳しくは聴覚障害者センターまで(TEL076-441-7331)総合相談の場に各個人のニーズに合ったものに答えられる人が必要。
- ・地域住民が自由に気軽に参加できる事業を考えてほしい。高齢者が外に出れるような事業(ジョギング、観察等)計画を策定していただきたい。
- ・目に見えるかたちでの満足は得られないと思うから地道な活動をしていたら良いと思う。
- ・相談機能の充実といいますが、今後は待っていても来ない世の中になる気がします。民生委員含む情報をつなぐ集約、整理そして返す機能が必要と思います。

- ・さらに市と連携を密にし、市民の福祉を推進してください。
- ・弱者が住みやすい地域になればと願っています。周りの人達が助けあえると良いのではないのでしょうか。
- ・このアンケートを市内全世帯に配布してほしかったです。
- ・広報誌で事業をPRしていますが関心を持っている人は何人いるか、協議会を監査する団体が有りますか？世界の福祉国家を見学して下さい。
- ・住宅が増えてきたけどなんだか寂しい地区かなと感じます。
- ・アンケート聞いて少しでも良い黒部市になるようにがんばっておられるのがわかりました。
- ・介護認定を受けている人が退院した時、共働きしている為、家で見れない時の受け入れ先が見つからず困ったことがある。もっと楽に見つかるようにしてほしい。
- ・事業が多すぎる。もっと青少年に力をいれるべき。
- ・ボランティア活動の自由度と自主性の基本の認識を深める事。
- ・高齢者を社会の負とみなさずもっと活躍の場を増やして欲しい。人は誰かに必要とされることが一番心も体も元気になる。人が用意した介護予防ではなく自ら働いて町を良くするボランティア等に参加して生き甲斐を持つ方がよい。ボランティア保険などもっと補助すべきと思う。経費節減で補助金が減り活動の会員にお茶も出せない会もあるとか。
- ・今まで仕事ばかりの日々を過ごしてきました。これからは地域のことに関わっていきたいと思います。
- ・義母が家で介護が必要になった時、大変お世話になりました。
- ・今後何かにつけ意見を述べます。
- ・高齢者の独り暮らしで家に風呂があるけど怖くて入れなかったり、掃除が出来なくて入ることが出来ないという話しを聞き、そのような方がサービスを受けられるようになれば良いと思う。
- ・自分にできるボランティアに何があるのか知りたい
- ・家族が一緒でも老人一人が孤独…そんな人たちがどうすれば行事に参加してくれるかが問題。
- ・今の政治、全体的に偏りが感じられる。
- ・ボランティアについては、気軽にできる範囲でという気持ちで入っています。その方が長続きすると思うので。
- ・社協が何をしているのかよくわからないが、今さら恥ずかしくて聞けない。
- ・旧小学校が何か福祉活動の役割を担えないかと思う。
- ・自分の現在の生活に社協への不満はないのですが、これから先、体の衰えとともに要望も出てくるかと思います。人生の先輩たちの意見を取り入れて下さい。
- ・介護の件ですが支援2でカリエールに通所していました。都合で欠席しても月額 5,400 円を支払いました。介護2の人は通所した日数分を払っています。カリエールから医療機関に変更したところ週2回のリハビリで月 2,400 円です。来院した分だけの支払いです。この点におかしいと感じる人がたくさんおられますよ。
- ・黒部市の福祉大会は内容がマンネリ化している。ボランティアセンター、以前はあたたかく入りやすい感じがしたが、今の雰囲気は入りにくい。

- ・元氣湧くわく教室に参加している。心と身体が元氣になり、みなさんと話をしながら頑張っている。
- ・ボランティアなどの負担の偏りをなくし、たくさんの人が自分の出来るときに出来ることをもっと気軽に参加できたら。後に続く若い人たちがいないのも心配。
- ・宇奈月中学校跡地を大いに活用して欲しい。市内中心部に集中させず、市内全域を見渡すべきだと思う。
- ・旧宇奈月にあった施設をもっと活用するよう社協でも努めてほしい。
- ・以前ポッポサービスというのがあり、とてもよかった。なぜなくなったのでしょうか。
- ・地域の一番身近な公民館に誰もが集えるサロンのような場が作れないのか。
- ・事業内容について、カタカナ表記ではなく、わかりやすい言葉表記で。
- ・地域の福祉のために何がされているかよくわかっていないのが現状。広報誌から興味を持っていろんなことを習得していきたい。主人や私が看護が必要になった時の手続きに不安があり、何から？どこにいつて？とわからないことばかり。
- ・福祉のお金を無駄にせず、有効に使うよう取り組みを考えながらのふり返りもあっていいと思う。
- ・近所で老々介護している方、認知症で困っている人が病院に行くことができないことから、家庭訪問的なことがあればよい。現状をみてもらい相談にのって欲しい
- ・市、センター、各公民館で事業内容の連携、連絡が必要なのではないでしょうか
- ・HP でみれるとあっても、ネットを使えない高齢者もいる。みられTV の行政情報枠に「社協からのお知らせ」として入れられないものだろうか。
- ・振興会、町内会の配りものがあまりに多い。年々増えている。補助金を多くしないと続かない。
- ・広報誌は読まない。各地区で活動報告会をやるべき。
- ・老人が老人介護など勉強するのは無駄。今、老人会のお世話をしているが、1人暮らしの人はしっかりしている人が多い。若いものに頼っている人、金に困っていない人が要注意。家事をしっかりして、友達の多い人、常に頭を使っている人、割に安心。
- ・一人暮らしの方に年2回プレゼントしていますが、基準がはっきりせず、迷ってしまう。
- ・認知症予防に関する日本各地の対策や活動を参考にして黒部市も検討いただきたい。
- ・イベント等は高齢者に向けたものがほとんどで、福祉くろべも興味を持てるものがない。どの世代も興味を持てるものを希望する。
- ・ずいぶん前に高齢者の名前、住所、血液型、連絡方法が書かれたペンダント様式の物を配布していた。現在も始めたらよいと思う。
- ・福祉を享受する側の人達を目線でどんな成果が出ているのかを目に見える形でとらえる工夫が必要。施策や活動と因果関係のありそうないろいろな指導を捉えて、公表することも推進の刺激となる。例：Uターン率、Iターン率、若者の地元定住率、企業の障害者雇用率…いろいろな角度から見る必要がある。
- ・外国人問題は国際交流の分野だけでなく、福祉の観点、日本人側の市民協力の観点からも考えられるべきだと思う。

- ・富山県全域の社会福祉協議会ともネットワークを作ってより良いものにしていけばよいのではないだろうか。
- ・生活していく上で、いつかは必ず災難や病気等自分たちだけで解決できない問題が生じる。その時、安心して相談に乗り対処してもらえる力強い協議会であって欲しい。
- ・福祉先進国に学ぶこともたくさんあると思うので、広報などで紹介して欲しい。ひとり暮らしの方が多くなってきたので、地域社会のきずなを強めていくよう努力したい。先日みまもり員の集いに参加した。「グループ別の話し合い」は少人数で自然な流れで話し合いが出来、よい試みだった。残念だったのは、司会者の方が一方的に自分の説（正しいとは限らない）をまくしたてておられた。なので発言者の思いが伝わってこないことがあった。ぜひ司会者の在り方を学んでほしいと思う。また、せっかくグループで話し合ったことを全部発表する機会がなかったので、記録として残していつかそれを見る機会があれば良いと思う。
- ・私の考えるボランティアは、自分の労力等を無償で提供することだと思う。難しいとは思いますが、もっといろんなところで人の力が必要なことがあると思う。
- ・福祉センターの皆さんは本当に一生懸命頑張っておられる。自分も元気はつらつ体操に参加させてもらっているが、本当に助かっており、楽しく動かして頂いている。
- ・市福祉課との連携がうまくいってないのでは？健康づくりについてどこも同じような施策で受ける側は迷う。助成金の使途内容は細かすぎ、多少の飲食は認めて欲しい。
- ・介護保険や決まりにとらわれずに受けられる支援を増やして欲しい。
- ・社協が本気で福祉を推進していくなら、公民館事務職がこれを受け持つのは無理です。各地区に専門員が入りしっかり取り組むべきです。
- ・育児、高齢者、近所づきあいなど情報をもれずに相談できる場所を具体的に知りたい。

平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」
について地域支援活動者・ボランティアを中心とした
地域福祉の現状と課題調査

アンケート調査報告書

発 行 平成 28 年 8 月

編集・発行 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

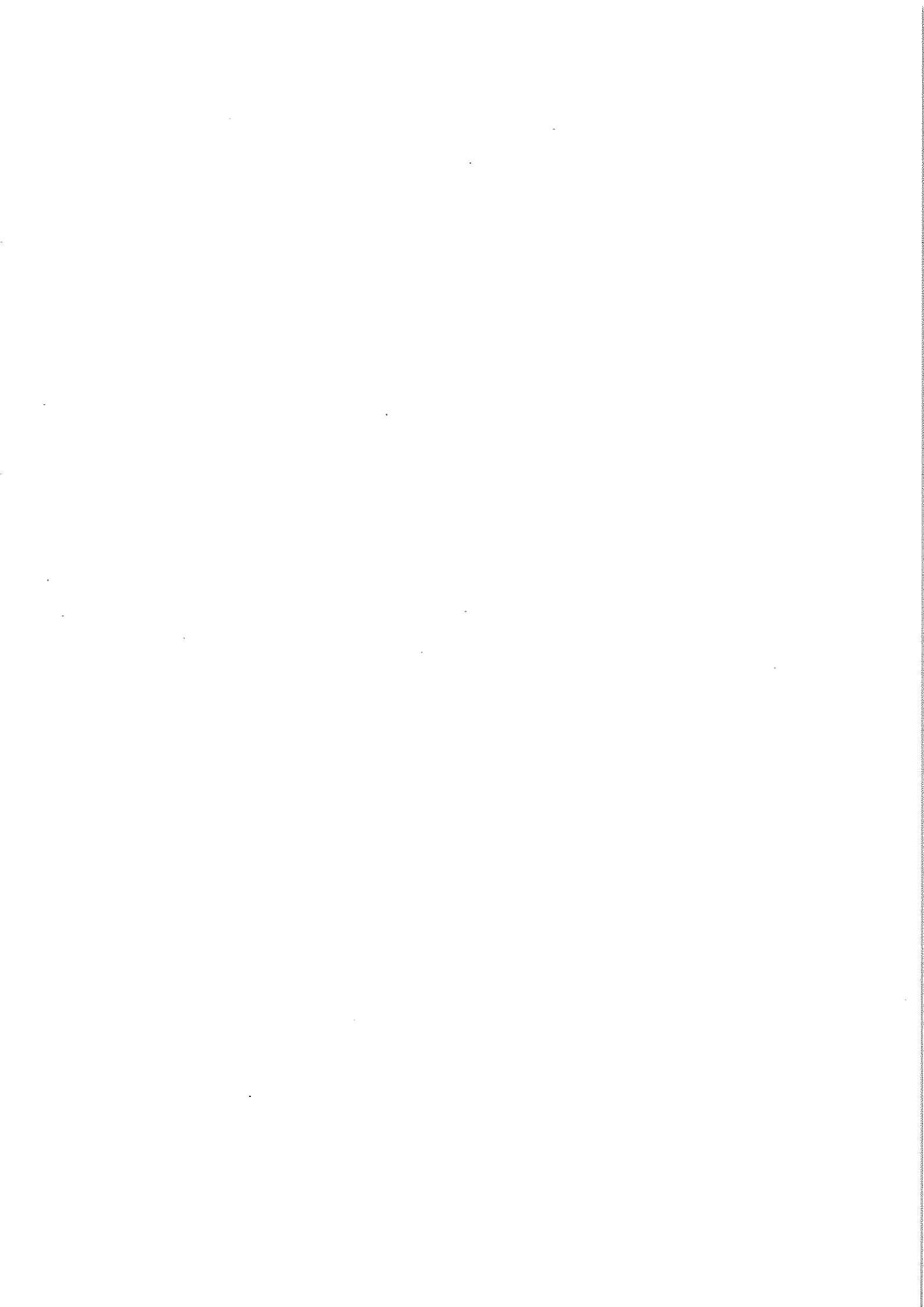
TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp

平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」
についての福祉関係団体の現状と課題調査

団体ヒアリング調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会



1 ヒアリング調査目的

黒部市社会福祉協議会は、福祉大会の決議事項重点 3 項目の一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い話し合いのできる場づくり及び、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」設置した。

この調査では、求められる新しい拠点のあり方の検討を進めるにあたって、現在市内を中心に活動している福祉関係団体や当事者団体、少数派（マイノリティー）の声を集め、現在の地域福祉の現状と課題を整理分析することが目的である。

2 調査期間（別紙実施一覧）

平成 28 年 2 月 29 日～5 月 23 日

3 ヒアリング調査団体（17 団体）

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するヒアリング調査
対象：福祉関係団体、分野別、世代別、少数派の方々などを中心に調査

- 障がい：社会福祉法人にいかわ苑 シェアフィールドひまわり
- 障がい：黒部市身体障害者協会
- 障がい：せせらぎハウス黒部
- 障がい：社会福祉法人 くろべ福祉会 保護者会
- 子育て：三日市保育所シニアサポーター
- 保 育：三日市保育所・愛児保育園 職員
- 介 護：居宅介護支援事業所 ケアマネジャー
- 介 護：介護保険サービス利用者、家族
- 壮年世代：大布施（壮年世代）60 代
- 高齢者：黒部市老人クラブ連合会
- ボランティア：黒部市地区ボランティア部会協議会
- ボランティア：市内ボランティア団体
- 地域支援活動：黒部市民生委員児童委員協議会 理事
- 行政福祉：黒部市職員
- 地区社協：地区社会福祉協議会 事務担当者
- 外国人就労：生地蒲鉾有限会社 従業員（外国人）
- 外国人支援：日本語教室 in 黒部

4 ヒアリングの実施方法

人 員：聞き手1名、記録1名（最低人数）

場 所：できればホワイトボードによる可視化

時 間：40分程度

グループ：5人～6人程度のグループを作る。（多いと意見が言えない）

備 考：ファシリテートするスキルが必要。参加者へ発言の機会を促す。

進め方：

○あり方委員会の説明 全体 or グループごと

○あいさつ（お願い）

○自己紹介、参加者紹介（名前確認）

○日頃活動から感じていること ※一度、全員から一回は話してもらう。

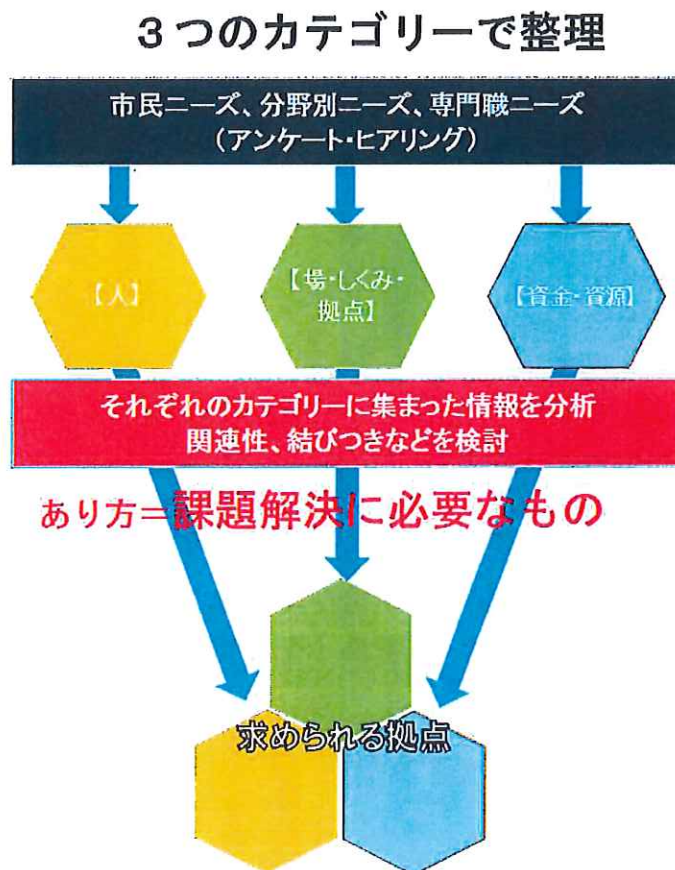
○課題出し ※整理は聞き手で行う。途中で整理をする。

○まとめ

5 調査整理

ヒアリング結果を黒部市社会福祉協議会の内部（全職員参加）に設置したワーキングチームが、課題を大きく「人」「場/しくみ/拠点」「資金/資源」の3つに分類し整理を行った。その結果を最終的に「拠点に求められる機能」として集約した。（図1）

（図1）



6 調査結果まとめ

「人」「場/しくみ/拠点」「資金/資源」の3つに分類し課題整理を行った上で、さらに共通的な課題、少数派（マイノリティー）の課題、複合的な課題にまとめた。（図2）

（1）【人】

どの団体や分野からも人材の不足、担い手の育成などが共通課題であった。また、少数派である外国人の支援、支援を拒む人への対応策という課題も見えた。複合的な課題として人を育てるためのしくみや基盤となる場や機能が少ないということが分かった。

（2）【場・しくみ・拠点】

支援を必要とする当事者やその家族、また支援者が福祉のことについて相談できる場が分からない、情報発信と収集が一本化されていないという声が多かった。また、【人】の課題と共通するような養成や育成、研修などを行う場などが求められていることが分かった。複合的な課題として、活動者同士が交流できる場、発表できる場も求められているが分かった。

（3）【資金・資源】

活動費を助成するしくみなどはあるものの、運営に係る経費や事務的経費を支える財源が不足し、活動を阻害していることが分かった。また、団体が活動するときに使える拠点がある地域とない地域によって地域格差があることが分かったとともに、資金と活動を上手く結びつけるコーディネート機能が必要であることも分かった。

3つの課題整理一覧

（図2）

【人】	【場・しくみ・拠点】	【資金・資源】
【共通的な課題】 ・担い手 ・意識／理解／質 【少数派の課題】 ・外国人の生活 ・支援を拒む人 【複合的な課題】 ・人材育成 ・基盤となる場	【共通的な課題】 ・相談できる場 ・養成／育成／研修 ・情報の発信や収集 【少数派の課題】 ・障がい者／高齢者の移動 ・災害時支援の拠点 【複合的な課題】 ・発表の場 ・交流の場	【共通的な課題】 ・事務的活動経費 ・運営経費 【少数派の課題】 ・行政サービスの格差 ・地域格差 【複合的な課題】 ・資金と活動のマッチング ・持続可能な団体運営

団体別ヒアリング結果報告書

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会「ヒアリング」実施一覧

番号	実施日	実施団体	参加者	分野
1	平成28年2月29日	シェアフィールドひまわり	職員6名	障害福祉(知的・精神)
2	平成28年3月3日	黒部市民生委員児童委員協議会	民児協理事15名	地域支援活動者
3	平成28年3月10日	シニアサポーター(三日市保育所)	シニアサポーター9名	子育て・保育
4	平成28年3月10日	三日市保育所/愛児保育園	職員21名	保育・専門職
5	平成28年3月10日	黒部市身体障害者協会	役員10名	障害福祉(身体)
6	平成28年3月16日	黒部市職員	福祉課、健康増進課、包括 計7名	行政福祉
7	平成28年3月16日	黒部市ボランティア部会協議会	地区ボラ部会長10名	地域支援ボランティア
8	平成28年3月16日	黒部市老人クラブ連合会	老人クラブ役員等19名	高齢福祉
9	平成28年3月17日	市内ボランティア団体	ボランティア団体30名	ボランティア・市民活動団体
10	平成28年3月18日	居宅介護支援事業所	ケアマネージャー8名	介護福祉
11	平成28年3月24日	地区社会福祉協議会	事務担当者20名	地区社協
12	平成28年4月10日	日本語教室in黒部	会員5名	外国人支援
13	平成28年4月11日	大布施地区(壮年世代)	60代9名	地域関係者
14	平成28年4月15日	介護保険サービス利用者	利用者、家族5名	介護福祉
15	平成28年4月20日	せせらぎハウス黒部	職員、スタッフ5名	障害福祉(精神)
16	平成28年5月1日	社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会	くろべ工房保護者(新川地域)18名	障害福祉
17	平成28年5月23日	生地蒲鉾有限会社	社長、従業員(外国人)2名	外国人就労

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年2月29日(月) 16:00~17:00
実施団体	社会福祉法人 にいかわ苑 シェアフィールドひまわり
人 数	職員6名(松岡、川平、植木、山崎、岩井、山本)
聞き取り	(濱松) (能登) (小柴)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	社会福祉法人にいかわ苑シェアフィールドひまわりは、H27年4月にこれまでのひまわり福祉作業所から母体をにいかわ苑に置き開設した。知的障がい者、精神障がい者、身体障がい者の就労継続支援B型として位置づけされている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者19名(割合は男2:女3)19歳~60代 ・職員6名 ・活動は9:20~16:00 <p>○課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在ある相談支援事業所が分かりづらい。 ・工賃UPの課題がある。県内では悪くはないが十分ではない。 ・職員が変わることによってムードの変化がある。 ・病状の管理、把握が難しい。 ・利用者や家族が高齢となり職員としてどのように関わっていけばよいか。 ・市内での相談支援事業の体制が職としての関わりであり事務的。 ・利用者の思いや意見をどう拾うか。 ・別に集められている感じがある。排他的である。 ・趣味や生きがい活動の場が少ない。 ・現在の福祉センターは高齢者向けである。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の場(事務的ではないところ) ・相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえるところ ・色んな人たちとの交流、人と関わる場所 ・障がい者も来れる場、地域住民との交流が必要 ・障がいへの理解(福祉教育) ・施設外での就労 ・自主製品の開発 ・働く場の開拓
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>意識啓発：障がい者への理解(福祉教育)</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機 能：相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえる場 中間支援としての相談場所</p> <p>拠 点：障がい者の人々も集う場 いろいろな人たちとの交流、人と関わる場、障がい者の生きがい</p> <p>【資金・資源】</p> <p>雇 用：障がい者の働く場、雇用の開拓</p> <p>活動資金：自主製品や事業収入の確保</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月3日(木) 15:00~16:00
実施団体	黒部市民生委員児童委員協議会 理事協議会
人数	民児協理事15名
聞き取り	(瀧松) (能登) (宮崎) (小柴) (佐渡)
実施方法	5人一組で3グループ分かれてヒアリングを実施
団体概要	黒部市民生委員児童委員協議会は12単位民児協に各地区会長を置き、市内111名の民生委員児童委員の組織である。地域の身近な相談役として、様々な地域での支援が必要な人の相談や支援をつなぐ活動をしている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢世帯の増加に伴い、町内単位では見守り等の支援者となり支える人が不足してきている。 ・民生委員児童委員だけでは、要支援者を支えきれない。 ・子どもへの支援政策が少ない。 ・民生委員の担当数(世帯、支援者)に差がある。 ・16地区、更に地区町内単位の差、町内格差(高齢化等)が生まれている。 ・個人情報把握できなくなってきている。 ・情報の共有が難しい。情報が活用されていない、反映されていない。 ・生活困窮者の事例が把握できない。 ・民生委員の質が問われている。(人選・推薦方法) ・田家地区では、自治会、ボランティア、民生委員児童委員の合同会議を月1で実施。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員だけでは、要支援者を支えきれない。(仕事が多い) ・民生委員の人選に関われない。若い人の成り手がいない。 ・ボランティアでは出来ない活動になってきている。 ・家族構成の変化、意識の変化、町内格差。(高齢化等) ・情報は溢れているが、活かしていない、必要な情報まで届かない。 ・ケアネット事業と見守り事業の整理。 ・子どもを支援するしくみが少ない。 ・コピー代などの事務経費がない。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有、相談窓口の一本化、情報の交通整理。 ・高齢福祉に偏らない幅広い支援体制、若い人を巻き込むしくみ。 ・地区社協の役割を明確にして、自治振興会との連携体制をとりつつ、地域内の福祉を推進していく機能を備える必要がある。 ・地域を支える支援者を増やしていく。 ・地域支援活動をする団体や人が集える場、場所を確保してほしい。 ・研修だけではなく、悩みや相談を支援者同士が話し合える場が必要。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：支える人を育てる=民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要。 担い手：ボランティアの確保、育成 意識啓発：福祉教育、社会教育の推進=民生委員の必要性、活動の理解 「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：相談窓口の一本化、双方にとって(利用者：支援者=5：5) たらい回しを無くす、ここに聞けば分かる。 機能：情報の交通整理と一元化、情報をまとめ、整理し伝わりやすくする。 拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場 しくみ：地区社会福祉協議会の役割、地区自治振興会との役割分担。 しくみ：黒部市と市社協での描く地域福祉のビジョンを明確に共有する。 その上で役割分担を</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営経費：支援活動に係る最低限度の負担を少なくする。 活用：空き家などを地域の小さな拠点として活用していく。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月10日(木) 9:30~10:00
実施団体	シニアサポーター(三日市保育所)
人数	9名 男:1名(富山市在住) 女:8名(市内在住)
聞き取り	(小倉)(濱松)(杉本)
実施方法	1グループでの聞き取り(ペーパータオルの裁断作業をしながらの聞き取り)
団体概要	シニアサポーターは、約10年前から黒部愛児園で、子育ての喜びを地域の方々と共有したいと思い、保護者や家族を中心として始まった活動で、現在では、三日市保育所での行事等のお手伝いや、園児とのふれあいを通しながら、子供支援ボランティアとして活動している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者:30名(年齢制限なし) 活動経験年数:4か月~10年間 ・活動回数:月1回(第1木曜日) 活動時間:9:30~11:00 ・活動者実人数:平均5~6名 ・活動時、お揃いのピンクのエプロンを着用している。(明るい印象) ・民営化になり若い職員が増え、子供との接し方にも違いがみられる。 ・時間外対応も柔軟である。 ・職員の人手不足のため、先生の応援団として何かできればと思いついて関わっている。 ・子供とふれあうことで元気がでる。 ・自分の介護予防になる。 ・子供の悩みを聞くことが出来る。 ・共働き世帯や核家族化により高齢者とのふれあいが少ない。 ・寂しい顔をしている子供がいる。 <p>○課題(モチベーションが高く全体の課題はなし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足 ・60~70代がほとんどで、若いメンバーが少ない。 ・職員に迷惑をかけない活動をしていきたい。 ・お金には関係なくできる活動である。 ・自分たちのためになることなので、お金は(謝礼等)は必要ない。 ・参加して得るものがある、それこそお金には変えられない財産である。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・後世に伝えていきたい。 ・自分たちで企画もしてみたい。(花壇をつくる等) ・研修会に出席することで他の活動を知り、自分たちの活動にも活かしたい。
まとめ(二ース)	<p>【人】 担い手:シニアサポーターをPRし、仲間を増やしていく。</p> <p>【場・しくみ・拠点】 拠 点:誰でも気軽に行ける交流の場。(子供、親、高齢者等) 相談、研修、子守り、ふれあいから出会いの場、発見の場に。 自分に活かす、後世に活かす、地域に活かす。</p> <p>しくみ:自分達のできる活動を広げる。(花植え等)</p> <p>意 識:自主的に行う活動も取り入れ、毎月参加できるよう健康に気をつける。</p> <p>【資金・資源】 活動意識:お金に関係なくできる活動である。 意 識:お金で買えないもの、変えられないもの 意 識:参加することで得るものは財産である。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月10日(木) 14:00~14:40
実施団体	三日市保育所・愛児保育園
人数	職員21名
聞き取り	(小倉)(瀨松)(能登)(宮崎)(杉本)(山瀬)(佐渡)
実施方法	21名を対象に3グループ7名に分けヒアリングを行う
団体概要	社会福祉法人あいじ福祉会で運営する三日市保育所及び愛児保育園は、10年前に公立から民営化された。これにより、児童の受入れ体制を充実させ、さらなるサービスの向上に努めた活動を行っている。現在、問題化している待機児童はほとんどなく、緊急性のあるケースは一時預かりで対応し、延長保育・休日保育などのサービスにも柔軟に対応している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児：180名(三日市保育所)85名(愛児保育園) ・職員：70名(内訳：保育士、調理師、栄養士、看護師、事務員) ・常に多職種が連携するため、15分刻みのシフトを組んで対応。 ・10年前に公立から民間になり、毎月新入児を受入れ、園児の人数は増加。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員不足。保育士の資格を持っていても保育士の成り手がいない。賃金が低い等の問題がある。 ・日中は園児を見ているので、できない仕事を家に持ち帰っている。 ・病児保育。熱があっても親の仕事の都合で預かることがあり、急変時の対応の際、親への連絡がスムーズに取れない。 ・自分の子育てのためには、仕事を辞めざるを得ない。 ・子供を持つ親の価値観が違ってきている。 ・子育てを教えてくれる相談相手が身近にいない。 ・シニアサポーターを増やしたいが、PRの方法や募集の方法が分からない。 ・育児休業についての企業の理解が必要。 ・病児の預かりはしても精神的な支えは母親にしかできない部分が多いため、職場で休みが取れるしくみが必要。 ・職員の休日が取りづらく、公的機関の平日の用事ができないことがある。 ・土日の人員配置が難しい。 ・身近に気軽に行ける相談場所がない。 ・ひとり親、発達障がい児を持つ親の相談相手や相談場所がほしい。 ・新川地区には、子供の遊ぶ所、集まる場が少ない。 ・児童センターが市内に2か所しかない、地域によって格差がある。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・天候にかかわらず、図書館・喫茶店など様々な機能の集まった富山型のような施設があったら良い。新川地区には、子供の遊ぶ所、集まる場が少ない。 ・高齢者、子供、障がい者など年代を問わず身近な地域で集まる場所がほしい。 ・専門職同士で、日頃の悩みを言い合えたり、交流する場がほしい。 ・寝たきりの老人でも園児とふれあえる場がほしい。 ・多職種の交流の場がほしい。
まとめ(二ース)	<p>【人】</p> <p>担い手：支える人を育てる。保育士として資格を持っている人材を集める。 担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成。 意識啓発：福祉教育の推進＝「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場(働き手を支える) 機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場(相談機能の充実) 拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化 地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営経費：黒部市の補助金(子育て支援)が近隣の市町村より少ない。 利用者負担：病児保育の預かり利用料が高い。(一日あたり2,500円)</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月10日(木) 13:30~15:40
実施団体	黒部市身体障害者協会
人数	役員10名(男:9名、女:1名)
聞き取り	(小柴)(坪崎)
実施方法	役員会での聞き取り
団体概要	市内の身体障害者を中心とする団体で援護思想の普及及び障害者福祉の向上、更生意欲の高揚を図ることによって、社会参加活動を促進し、もって身体障害者の福祉増進に寄与することを目的とした団体。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴券の代わりにガソリン券に変わった。 ・会員が減っている。 ・関わってほしくない人が多い。 ・団体に入りたがらない。 ・該当者がいるはずだが、入会者が少ない。 ・意識の高い人とそうでない人の差がある。 ・会員に内部疾患が増えている。 ・60代以下の会委員がいない。(平均74.5歳) ・支部長がいない。(前沢・田家) ・役員をさせられる(意識の人)と思っている。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員を引き受ける人がいない。 ・会員になる人がいない。(老人クラブに流れていく) ・住民の意識が低い。 ・個人情報が入ってこなくなった。 ・会員のメリットの情報発信がない。 ・会員同志の交流の場がない、少ない。 ・市から該当者あてに協会の情報が届かない。 ・重度身障者のリフレッシュ事業の場が少ない。 ・支部長がいない地区は会費が集まらない。 ・市からの協会への補助がなくなってきている。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無にかかわらず集まれる場 ・障がい者に関わり合ったりできるしくみ ・情報のやり取りが直接できる場 ・困ったときだけに限らず、声を出せる仕組み、場が必要。 ・災害時の対応についての機能の整備 ・災害時の要支援者の把握
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：役員を引き受ける人がいない。会員減少 意識：障がい者への理解 意識：障がい者の意識(関わってほしくない人もいる) 意識の高い人とそうでない人の格差がある。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>しくみ：個人情報(対象者)の把握 機能：障がい者のリフレッシュできる場 組織：組織運営していくしくみ 拠点：障がい者に限らず交流できる場、集まれる場 拠点：情報の拠点、やり取りできる場 機能：災害時の対応についての機能の設備、要支援者の把握</p> <p>【資金・資源】</p> <p>活動資金：市からの協会への補助がなくなってきている。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月16日(水) 10:00~11:30
実施団体	黒部市職員
人数	7名(内訳:福祉課3名、健康増進課2名、市包括2名)
聞き取り	(小倉)(瀧松)(杉本)(小柴)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	福祉課、健康増進課は行政機関として福祉・保健管轄を担っている担当課である。黒部市地域包括支援センターは行政が直営し、市内の西部地域を担当とした区域での介護予防支援等の業務を担っている。(市内には2か所の包括があり、東部地域は社会福祉協議会が受託している。)
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政にも専門性が問われるようになってきている。 ・相談内容が複雑多様化している。 ・包括が2か所になり、地域に近い位置に相談体制の強化を図った。 ・保健師の訪問、地域に出向くことが減っている。 ・市民にとって、市への相談のハードルが高い。 ・市が困ったら、県に聞く、事業所に聞く、地域ケア会議をする。 ・マンパワーの不足。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動により、継続的に支援できない。専門性の担保ができない。 ・相談員の質、民生委員の相談役。 ・何に関してもコーディネーターがいないと難しい。 ・各機関の地区担当を知らない、連携がない。 ・市民にとって市への相談のハードルが高い、行きづらいといわれる。 ・事業の積み上げがうまくいかない。 ・社協との情報共有の不足。 ・地区担当が分からない、連携していない。 ・認知症相談窓口は開いたが、相談者がこない。 ・研修のフォローアップ ・情報の共有とネットワーク ・地域支援事業に関する予算はあるが、しくみをつくるのは難しい。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意識改革(福祉教育) ・包括2か所目は社協や新しい拠点に ・色々な団体の事務局が一か所で ・福祉のことは「ここ」と分かるところ ・民生委員が相談できるところ、相談員の質の向上 ・専門職の連携、ネットワーク、顔合わせが必要 ・何に関してもコーディネーターが必要 ・市民が出かけてしゃべれるところ ・生活困窮者が無料で休めるところ、入浴できるところ、泊まれるところ ・食品、生活必需品の保管庫
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:専門性の担保 担い手:コーディネーターの確保、育成 意識啓発:認知症・障がいの理解(福祉教育)</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能:ここに聞けば分かる相談窓口一本化、たらいまわしにしない。 機能:地域ケア会議の開催 拠点:いろいろな団体の事務局が一か所に 拠点:行政職員、専門職が集まれる場所(顔合わせ)</p> <p>【資金・資源】</p> <p>資金:拠点に関する資金は総合振興計画に提案後のことであり、今の段階での返答はできない。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月16日(水) 14:30~15:00
実施団体	黒部市地区ボランティア部会協議会
人 数	地区ボラ部会長10名
聞き取り	(小倉) (杉本) (佐渡) (坪崎)
実施方法	5人一組で2グループに分かれてヒアリングを実施
団体概要	黒部市地区ボランティア部会協議会は、地域に根ざしたきめ細かいボランティア活動を推進している組織である。各地区にボランティア部会長を置き約1,000名の会員が活動している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動回数 平均週1回(地区行事等の参加、施設訪問等) ・女性の登録者が多い。 ・登録者が毎年増加している。(団塊の世代60代) ・きっかけは知り合いから声をかけられた。 ・活動してみたら楽しかった。 ・仲間とふれあえる。 ・登録はしているが、年をとっているから活動を控えている。 ・組織に位置付けされているため活動しやすい。 ・同じメンバーで活動している。 ・振興会の行事に協力することで予算づけしてもらっている。 <p>○課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の不足 ・地区のリーダーによって格差がある。 ・活動時間の確保が難しい。(平日が多い) ・活動者同士が気軽に集まれる場がない。(相談、研修) ・情報発信手段が不足している。 ・事務経費を負担している。(地区社協で格差あり)
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・子供からお年寄りまで誰もがいつでも集まりやすい場が必要。 ・情報発信して登録者を増やしたい。 ・入って良かったと思える活動をしていきたい。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：同じメンバーで活動している。 担い手：担い手不足 地域格差：地区のリーダーによって格差がある。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>しくみ：活動時間の確保が困難(平日が多い) 拠 点：活動者同士の気軽に集まる場がない。(相談、研修) 機 能：情報発信手段の不足</p> <p>【資金・資源】</p> <p>事務経費：事務の経費を負担している。(地区社協で格差あり) 活動財源：振興会の行事に協力することで予算づけしてもらっている。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月16日(水) 15:30~16:00
実施団体	黒部市老人クラブ連合会
人数	役員19名
聞き取り	(瀧松) (小柴) (能登) (宮崎)
実施方法	19名を対象に2グループ10名と9名に分かれてヒアリングを行う
団体概要	黒部市の老人クラブは地域を基盤とした高齢者の自主組織である。会員数は5,400名あまり(男3:女7)で、概ね60歳以上の方が入会できる。会員の話し合いによってそれぞれの地域ごとに地域の高齢者の生きがいにつながる活動や元気クラブづくりの活動に励んでいる。黒部市老人クラブ連合会は地域の代表が相互にかかわりを持って総合的に取り組んでいる。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員は70代後半~80代が多い。女性リーダーが3名いる。 ・会員が高齢化し、担い手がいない。役員を探すのが大変である。 ・宇奈月地区は60歳から入会(強制入会の地区有)70歳は声掛けして入会する。 ・田家地区は世話人がいなく解散した。訪問支援活動に地域差がある。 ・いつまでできるか分からないが、できるだけ関わって活動し、老人クラブ連合会を残していきたい。 ・宇奈月地区の活動、慰問訪問、支え合いサロン、手芸の集い、軽スポーツ、訪問支援活動を行っている。 ・一人暮らしの訪問を民生委員の人に止められた。 ・名簿の共有が難しい。 ・環境を整えないのは行政が悪い、住民がいなくなる。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60~70代の会員が少ない、世話役のなり手、女性のリーダーが少ない。 ・住民がいなくなる。(消滅地域) ・老連と地区社協、民生委員、振興会の連携ができていない。 ・高齢化による地域格差 ・老人クラブのパワーを活かせる場、しくみがない。 ・老連は世話ばかりするイメージがある。 ・市、社協からの情報が届いてこない。 ・資金が不足している。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方も社会全体で支える、ケアの専門家が常駐している場が必要。 ・元気な高齢者(老連)の活動できる場、役割を持つこと。 ・働くこと、支え合う活動をしたことに対してポイント制などの仕組みを作り、そのポイントを後世の人が使える仕組みを伝えていきたい。 ・市全体で役員が集まる場が欲しい。 ・老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブであってほしい。 ・福祉センターは高齢者の集う場としてなくてはならない場所である。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:会員を集める。(60代) 担い手:転入者の受け入れの対応 意識啓発:老人クラブの魅力をアピールする。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能:老人クラブの魅力を見出して後世に伝えていく。 機能:老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブ 拠点:高齢者が集まる高齢者にやさしい場にする。 (椅子やテーブルがある今流行りの部屋、エレベーター等) 拠点:老人クラブだけではなく、子供、障がい者、認知症等総合的な福祉の拠点が必要である。 拠点:大布施と浦山の間に1拠点を作る。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営経費:老連の資金が少ないが高齢者はお金を持っているので行事がある時は実費。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月17日(木) 14:00~14:45
実施団体	市内ボランティア団体(ボランティア連絡会)
人数	30名(男:8名、女:22名)
聞き取り	(小倉)(濱松)(能登)(杉本)(小柴)(山瀬)(佐渡)(坪崎)
実施方法	4グループに2名ずつ分かれて入り、ファシリテーターと聞き取りを役割分担する
団体概要	ボランティア連絡会は平成18年合併時は年1回開催し、平成20年度からは継続して年2回開催している。市内ボランティア70団体に案内し、ボランティア団体の情報交換や市社協からの情報提供の場としている。今回のボランティア連絡会は9月に行われた連絡会で行われた課題について「自分たちで解決に向けてできること、くろべボランティアセンターに求めること」4グループに分かれ話し合い、各グループから発表をいただき参加者にて情報共有を図った。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やること(行事)がたくさんある。 ・楽しいから続けている。緊張感が良い。ボランティアで教えてもらえる。 ・婦人会からボランティアに ・企業、組織化、仕事の一環 ・青年会議所の会員(40才まで)が減っている。 ・地区で役員が男性、ボランティアは女性 ・地域の施設を有効活用している。 ・活動費なし、会費で運営。活動の負担金を参加者などから徴収している。 ・公民館の利用料が高い。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なり手がいない。新規加入が少ない、新たな加入が殆どない。 ・会員の高齢化、年齢の偏り、男性の会員不足 ・気軽に集まれる場、多様な団体が集まり集える場が少ない。 ・センターが暗い、何があるかわからない。 ・スキルアップや指導を受けるしくみが少ない。 ・活動従事者の相談の場所がない。 ・ボランティア同士の情報交換の場がない。 ・資金をどう確保すればよいか、財源が少ないため活動に支障をきたす。 ・民間助成金や寄付金の活用
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を考え相談できる場 ・ここに来れば情報発信できる。 ・情報が得られる拠点、活躍する拠点がほしい。 ・ボランティアのハードルを下げ入りやすくする。 ・情報のプラットフォームが必要(社協のプラットフォームにのせる) ・ボランティア活動者の相談の場 ・活動費の確保、無料で活動費が使いやすいところ ・ボランティア講座の体験学習
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:リーダーの養成、人材の確保 意識啓発:コミュニケーションの円滑化を図り、会の活動を推進。 意識啓発:ボランティア活動に興味関心のある人の参加や加入。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>拠点:気軽に集まれる場、多様な団体が集まりやすい場 時間やお金を気にせず会話や集まりができる場 しくみ:プラットフォームとして情報の発信や収集ができる場 活動を発信するしくみ、報道機関、市社協の広報活用 専門分野のスキルを伸ばしたい。 企業の社会貢献や生活困窮者などの支援や連携を行う。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営資金:自主財源の確保 活動資金:資金を集める方法 活動資金:民間助成金や寄付金の活用</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月18日(金) 15:30~16:30
実施団体	居宅介護支援事業所 ケアマネージャー
人数	8名(池田リハ、市民病院、桜井病院、越路さくら在介、つばき苑、越之湖、越野荘)
聞き取り	(瀨松) (能登) (栃林)
実施方法	8名を対象にヒアリングを行う
団体概要	黒部市内に居宅介護(介護予防)支援事業所は13か所あり、31名のケアマネジャーが居宅介護支援の業務に関わっている。主に、介護の相談、助言、介護保険申請代行、ケアプラン作成などのケアマネジメント業務を行っている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯だけでなく、世帯で多重課題を抱えている。 ・いつも時間に追われている。 ・以前より新規の利用者が減っている。 ・介護保険制度が変わるたびに対応や事務的に大変である。 ・事業所加算の対応により、業務に追われ支援に影響している。 ・認知症カフェの来所者が少ない。(認知症の方が増えているはずだが…) ・ケアマネからの相談に追われ、自分の業務が進まない。 ・他の職種に相談しづらい。理解してもらえない。(無関心) ・一人で任されるのもつらい。 ・管理者として優遇されているが、優遇されていない事業所もある。 ・認知症の問題行動が多く、サービス事業所の受け入れが難しい。 ・受診のサポートが難しい。 ・民生委員の役割を知らない、分からない。 ・相談員(特に市、県)の顔を知らない。 ・仲間同士で支え合っている。同職種で話すと安心できる。 <p>社協について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協と連携して負担が減った。地域ケア会議は助かった。 ・何をしているか役割が分からない、存在感がない、誰に相談するのか。 ・ケアネットは聞くけど、実際に関わらないと分からない。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人が見えてこない。 ・独居で家族の協力が得られない。 ・認知症の行動、徘徊はサービスだけでは支えきれない。 ・異動が多いと大変である。 ・市、包括、社協の連携がうまくいっていない。 ・ケアマネジャーの仕事内容を分かってもらえない。 ・介護保険サービスだけでは生活は支えられない、住民だけでも支えられない。 ・行政の対応は、発信しなければ動かない、発信できない人をどう支えるか。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・住民との連携、ケアマネと民生委員の連携 ・民生委員の研修(介護保険) ・住民の目線に合わせた会議の開催。 ・相談場所(市に行きづらい)、話しやすい所(敷居が低い所) ・今日の場面のような同業者、同職種集う場があればいい。 ・民生委員と気軽に会って話せる労いの場があればいい。 ・医療と介護だけの連携ではなく、社協に入ってほしい。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手: ケアマネジャーの相談役(メンタルヘルスの支援) 意識啓発: 民生委員、他職種へのケアマネ業務の理解</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能: 多職種との連携 社協とケアマネとの連携、医療(医師)との連携、地域ケア会議の開催</p> <p>拠点: 行きやすい相談場所 同職種の集う場所、一か所での相談場所(障がい、行政職も待機している場所)、多職種が気軽に集える場所(民生委員も)</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年3月24日(木) 11:15~11:50
実施団体	地区社会福祉協議会
人数	事務担当者20名
聞き取り	(小倉) (濱松) (能登) (杉本) (山瀬) (中野) (佐渡) (坪崎) (橋本)
実施方法	3グループに分かれて聞き取り
団体概要	地区社会福祉協議会(地区社協)とは、住みよい地域の実現を目指し、地域住民の助け合いを育てるための組織である。黒部市内では16の地区すべてに設置され、それぞれ地域での福祉活動を展開している。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親を公民館に取り込み、支える人を増やす。 ・子供ケアネット(メールでやりとり) ・子供の減少。高齢者に力を入れている。 ・役員や行事に参加する人が年々減少、なり手不足。 ・年々行事が増えているが、動く人が同じ。 ・福祉活動の見える形まで時間がかかる、可視化を目指している。 ・福祉と防災を巻き込みマップ作り、地区各種役員を巻き込んでいる。 ・市社協の事務連絡が遅い。 ・社協の事業はややこしいので、もう少しスッキリさせて欲しい。 ・月3回オレンジカフェを開催(参加費徴収)おしゃべりと手先を動かす。 ・男性の料理教室と親子で巣箱づくりを組み合わせると三世代交流。 ・市は相談しにくい、歩み寄る姿勢がない。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人がいない。男性がいない。若い世代が参加できる場が必要 ・人が多いとまとまりがない。 ・バスハイクなどで個人の見守りが出来ない。(責任、不安) ・高齢者は出掛けたいが一人でどこにも行けない、移動手段がない。 ・市と市社協の連携が必要 ・人が変わりすぎる、市や社協は異動がある。 ・地区担当者や会長の間で温度差がある、役員の研修をして欲しい。 ・ボランティアの意識がない。(特に役員) ・公民館でできることが限られる。 ・地域が追い付いていない。 ・事業のマンネリ化 ・地区社協と民児協の情報交換不足 ・財源の確保
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。 ・誰でも集まれる場、安全に、自由に、児童や高齢者も ・土日祝日、夜間も利用できる場所(朝風呂や24H風呂) ・拠点への交通手段 ・全天候型の施設(周りでウォーキングができる場所) ・高齢者向け(趣味)の情報が欲しい。 ・他地区の行事の情報共有や参加 ・複数地区合同のサロンがあったら良い。 ・研修できる場や情報交換できる場が欲しい。
まとめ(二一ス)	<p>【人】 担い手：若い人がいない。男性がいない。</p> <p>【場・しくみ・拠点】 機能：高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。 機能：土日祝日、夜間も利用できる場所 拠点：誰でも集まれる場、児童や高齢者も 拠点：研修できる場や情報交換できる場</p> <p>【資金・資源】 活動資金：財源の確保</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月10日(日) 14:00~15:00
実施団体	日本語教室 in 黒部
人数	会員5名(黒部市3名、入善1名、滑川1名)
聞き取り	(小倉)(濱松)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	平成21年4月1日設立、地域で生活する外国人への日本語学習支援、多文化共生(外国人も日本人も互いに文化の違いを認め合い、共に生活しやすい町づくりを目指す活動)のまちづくりを目的として発足。現在は指導者10名、参加登録者は100名で、コラーレ(日曜日)、三日市公民館(土曜日)にて活動を行っている。教室開催中は一時保育も行い、生活に不安を抱える外国人に対して外部講師を招いたり、生活に密着した支援を行っている。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動者(ボランティア)は10名、参加者は年間延べ100名 生きた日本語を身につけている、求められている。 生活情報を伝える役割(プロではない) 子どもを持つ母親に、学校のおたよりを読んであげている。 PRは特にはしていない、会社で情報提供を受け、相談に来る人が多い。 市役所のホームページから入るとつながる。 どうやったら伝わるのかを工夫している。 日本の常識が通じない、習慣でないだけで悪いわけではない。 ベトナムからの企業研修生が増えてきた。 テクニカルな質問もある。 どのようなことに困っているのか、ニーズを把握している。 どうやったら困りごとを解決できるか、市に相談している。 出前講座をしてもらった。ゴミの分別(市民環境課)、病院、消防署等 フィリピン、アメリカ…治安が悪い、考え方が違う。 予算に限りがあるため無料の公民館も使用している。 コラーレ内のイベントが優先で部屋の移動を余儀なくされることもある。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人(ボランティア)が少ない。 市民や地域の多文化共生の理解がない。行政の人にも理解してもらいたい。 外国の方の人権擁護 活動の場が狭い。お金のかからない場所が必要 もっと多くの人に参加できるようになればよい。 備品はあるが、高価な備品が用意できない。 説明のために、地図や写真が伝えやすい、ipadがあればいい。 赤い羽根共同募金は、少ない会員には負担が多い。(事務的な面、募金活動) 資金がない、市補助金だけでは難しい。 助成金申請は活用したいが申請書手続きが面倒である。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの人数が増えるとよい。 相談窓口を明確に(多言語表示)、ここに行けばわかる場所が必要。 外国人はもっと増える、支援がほしい。 多文化の人も受け入れる人を育てる、地域に広く伝える。 子どもの頃からの福祉教育
まとめ(ニーズ)	<p>【人】 担い手：活動者を増やす、養成講座、若いボランティアを増やす。 意識啓発：福祉教育=多文化共生の理解</p> <p>【場・しくみ・拠点】 機能：相談窓口を明確に(ローマ字も)、ここに行けば聞ける場 機能：転入の際の情報の伝達をきちんと、しっかりと 拠点：活動する場、相談を受ける場、交流の場(多文化、多国籍の人の集う場) しくみ：地域で受ける。顔がみえる。</p> <p>【資金・資源】 活動資金：備品や活動のための資金、負担なく助成を受けられる資金</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月11日(月) 13:30~15:00
実施団体	大布施地区(壮年世代)
人数	60代9名
聞き取り	(小倉)(濱松)(小柴)(杉本)(山瀬)
実施方法	9名を対象に聞き取り 島崎(大布施公民館主事)、更田(中新町内会長)、沓(沓掛)、山本(植木町内会長)、平野・川添(大布施ボランティア)、藤沢(民生委員長)、新村(民生委員副会長)、川添(沓掛町内会長)
団体概要	大布施地区の壮年世代の方々。町内会長を担う人、ボランティア団体の代表、民生員児童委員、地区老人クラブ役員等
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <p>中新:「にこにこサークル」75歳以上、月1回(第3水曜日)10年以上活動 活動内容は、保健師による健康指導・脳トレ・音楽・もみじがり等</p> <p>植木:壮年会と健寿会(老人会)の中間層の実年会を作り活動 老人会には早い60代の男性を勧誘</p> <p>沓掛:祭り(ししまい)があるので人がよく分かっている。壮年会をやめてもOBとして祭りにつながり、活躍している。婦人会解散後、女性委員として活動している。(沓掛ふれあい会等)子供の年代により「新妻会」「若妻会」で行事を行う。「えざらい」の参加率はとても高く、一生懸命やってくれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大布施、植木は他の地区に比べて、高齢化率は高くない住みやすい場所なので、若い人が増えている。 ・地域の中で活動を推進したいが、人が集まらないので、役員を順番に回している。 ・役員の時だけ一生懸命してくれる人がたくさんいる。 ・地域の中で話し合い、できることは自分たちでしようとする動きがある。 ・盆踊りに力を入れている。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の行事が多いため負担、そのため役員のなり手がいない。 ・高齢(70歳)でも働いておられるので頼めない。 ・女性委員での活動で、年代層が違ふとやりづら、価値観等が同じ年代のグループの方が活動しやすい。 ・若い家庭は子供のスポ少が優先し、地域の行事に関心がない、平日は共働きで、土日は外出され、ほとんど家にいないため、近所づきあいが無い。 ・グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。 ・守秘義務で情報が得られない、町内会長ぐらい知らないで見守りができない。 ・災害時の要援護者は地区の中できちんと把握しておく、情報公表の同意を取る。 ・いろんな問題の相談窓口が分からない。 ・民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい時から地域のつながりの重要性を意識できる仕組みづくりが必要 ・ボランティアの拠点と人材が必要、サポートしてほしい。 ・問題があった時のために、日頃からつながりを作ること。 ・人材をどう育てていくかが大事 ・民生委員を支えることが必要 ・高齢者が集える場として、サークル等の情報がほしい。 ・講習会等の学べる場がほしい。 ・各種相談のPRをもっとしてほしい。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:地区の行事が多いため負担、役員のなり手がいない。 担い手:民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。</p> <p>意識:年齢層が違ふとやりづら、価値観等が同じ年代の方が活動しやすい。 意識:若い家庭は地区行事に関心がない。近所づきあいが無い。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>しくみ:グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。 しくみ:守秘義務で情報が得られない、見守りができない。 機能:いろんな問題の相談窓口が分からない。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月15日(水) 14:00~15:00
実施団体	介護保険サービス利用者、家族
人数	5名
聞き取り	(宮崎) (中野) (栃林)
実施方法	自宅に訪問し、ヒアリングを行う
団体概要	介護保険制度の福祉サービスを利用している利用者、その家族
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <p>利用者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協がどこにあるかわからない。 ・昔は利用していたが、今は行ったことがない。 ・社協が何をしているのか分からない。 <p>家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしになった親の介護に時々来ているが、自分の家もあり二重生活になっている。 ・子どもたちは県外に住んでおり、兄弟も少ないので介護が負担になっている。 ・県外の自分の生活もあるので1か月単位で自分の家に連れてきたいが、いろいろ手続きが大変で、その間に親の家が空き家になるので管理をどうしたらよいかも心配になる。 ・施設の介護者が人手不足と聞く、介護の制度を利用して欲しい、自分たちも負担が大きくなるのが心配である。 ・包括支援センターより相談しやすい。 ・広報くろべはあまり見ていない。 ・地域の方は社協が何をしているのか分からない、アピールが足りないのではないか。 ・ディサービスの帰宅後に一人であるので心配、延長して長く預かってもらえる場が欲しい。 ・福祉のお金がどう使われているか分からない。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢が進み車に乗れなくなると交通手段がなく支援がないと暮らしもままならない。 ・地域で見守り員などの担い手がいない。 ・介護の事はケアマネージャーに相談できるが、どんな補助金があるか身体障害者などの手続きをどこにすればよいか、相談できる窓口を紹介してもらえたい。 ・介護を受けるようになったら、本人が元気な時に交流があった人と会えなくなるので、交流できる場があればいい。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。 ・「ここに相談すればいい」と的確に相談できる窓口を紹介してもらえたい。 ・元気な人と一緒に利用できる場が欲しい。 ・充実した移動手段とその場所へ行けばすべてのことが賄える場所の確保(買い物、食事、娯楽他)
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手：地域で見守り員などの担い手がいない。</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能：的確に相談できる窓口を紹介してもらえたい場</p> <p>拠点：地域の人に分かりやすい拠点</p> <p>しくみ：学童保育などの介護者が安心して高齢者を預けることができる場</p> <p>しくみ：介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。</p> <p>しくみ：交流できなくなった人と交流できるしくみが欲しい。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>運営資金：福祉のお金がどう使われているのか分からない。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年4月20日(水) 16:00 ~ 17:10
実施団体	せせらぎハウス黒部
人数	職員・スタッフ5名(常勤3名、非常勤2名)
聞き取り	(小倉) (宮崎) (山瀬)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	平成9年7月設立。平成16年3月社会福祉法人として認可を受ける。平成16年4月小規模通所授産施設としてYKKの建材部品の組立や検査などの業務を行っている。平成20年障害者自立支援法の指定障害福祉サービス事業所、就労継続B型事業所を開設。平成20年1.2月より、現在の場所へ移転した。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より施設長が変わり、職員は常勤3名、非常勤5名の合計8名 ・施設の定員は20名で、現在18名。年齢は23歳から69歳である。 ・就業時間は、午前8時から午後5時15分まで(平均工賃:54,015円) ・サービス提供責任者や作業の指導員や身の回りの生活の支援員等が役割分担し、連携を図りながら障がい者に寄り添い自信を持てるように指導を行っている。 ・職員間の仕事の雰囲気は和やかである。 ・都市部は障がい者に対する意識・対応が充実している。 ・施設の修繕については、毎年、ほぼ自己資金で計画的に行っている。(近年、共同募金助成申請をしていない。) ・利用者の生活相談の中で、家族の老後や死去にともない、利用者の将来の事を心配される相談が寄せられている。 ・黒部市の生活訓練委託事業を行っているが、月2回ぐらいをこなすのが大変。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員不足。募集をしても資格のある人がいない。(社会福祉士、看護師等) ・スタッフは、お金よりボランティア精神のある人を育成したい。 ・家族の老後や死去に伴う利用者の将来の生活や支えてくれる人 ・工賃の向上、安定した仕事がほしい。 ・仕事の依頼がほしいが、どこに相談してよいか分からない。 ・利用者の家族も、どこに相談したらよいか分からない。 ・施設として半年ごとに目標を立て、書類の作成、提出が大変。 ・ネットやメールのやりとりとなり、データ化により見えにくく、計画が立てにくい。 ・他から人を入れたがらない県民性があるため、障がい者のヘルパー利用率は全国最下位。ヘルパーが入ることはメリット、デメリットがある。 ・黒部の社協は、他市町村に比べ障がい者に対する活動・接点がうすい気がする。 ・職員が運転して事故をおこすことが多く、現在はタクシー会社をお願いしている。 ・賃金が低いため、利用者の40~50代に就職希望者が出る。 ・助成を受けてもらった車は目立ちすぎるので、どこで何をしていても見られている。 ・施設修繕等は自己資金で今は行っている。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア精神があって、専門の資格を持つ人材がほしい。 ・障がい者を支援してもらえるボランティアが必要 ・そこに行けばわかる、情報を一度に知れる拠点が必要 ・他の施設の職員との交流・情報交換の場がほしい。啓蒙の場がほしい。 ・障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】</p> <p>担い手:専門の資格を持つ人材の育成、障がい者支援ボランティアの確保</p> <p>【場・しくみ・拠点】</p> <p>機能:他の施設の職員との交流、情報交換の場、啓蒙の場</p> <p>拠点:情報を一度に知れる拠点</p> <p>しくみ:障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</p> <p>【資金・資源】</p> <p>雇用:工賃の向上、安定した仕事がほしい。</p> <p>雇用:施設での仕事の賃金が低いため、40~50代に就職希望者が出る。</p> <p>資源:助成を受けてもらった車は目立ちすぎる、何をしていても見られている。</p>

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年5月1日(日) 11:00~11:40
実施団体	社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会
人数	18名(保護者会17名、施設長) 地域別:黒部市7名、入善町3名、魚津市5名、滑川市1名、朝日町1名 事業別:就労10名、デイ3名、愛本4名
聞き取り	(小倉)(濱松)
実施方法	1グループでの聞き取り
団体概要	平成11年 7月 小規模作業所くろべ工房を開設 平成13年 4月 生地鼻灯台旧官舎へ移転 平成14年 2月 NPO法人くろべ工房を認証 平成15年 3月 社会福祉法人くろべ福祉会を承認、小規模通所授産施設第1くろべ工房、小規模作業所第2くろべ工房を開設 平成17年11月 児童デイサービス藤の湯わんぱく工房を開設(定員10名) 平成18年 4月 重症心身障害児者通園事業あいあいを開始(定員5名) 児童デイサービスオープンスペースいろは舎を開設(定員10名) 平成24年 6月 相談支援事業所らいとはうすを開設 平成27年12月 あいもと里山工房を開設 ・3施設で利用者約70名、保護者会総会は年1回開催され、本日17名が参加。
ヒアリング内容 【現状と課題】	○現状把握 ・長男の結婚式の際、預かってもらう人を探すのに苦労した。 ○課題 ・いざという時に預かってもらえるところがない、人がいない。 ・地域とのつながりは、周りに高齢者しかいないため見えない。 ・障がい者を2人持っている、出かける時、自分に何かあった時にみてもらえる人がいない。 ・障がいの程度や内容は個々違うので幼少期から同じ人に関わってほしい。 ・今はいいが年をとった時に障がい児をみていくには不安 ・親がいなくなってから(死亡後)の本人のことが心配 ・魚津市には障がい者のサービスがいろいろある。黒部市にもデイ、グループホームなど市内での受け皿が欲しい。 ・障がいの重さに関わらず、声をかけてもらえる行事をして欲しい。 ・移動支援がない。 ・タクシーチケットの金額より手段が欲しい。 ・町内の防災訓練はあったが、障がい者の名簿(届け出したこと)とリンクしていないのでは? ・本人が65歳になった時、介護保険への移行となるため、利用できるサービスが減ってしまうのではないかと心配。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	・障がい者のためのダンス教室などの企画を社協でして欲しい。 ・拠点があっても移動手段がなくては行けない。 ・小さい頃からずっと関わってもらえるところ ・そこへ行けば介護の相談も併せてできるところ ・土日も行けるところ ・熊本のような地震があった時の対応
まとめ(ニーズ)	【人】 担い手:障がい者への関わりが個別に違うため個々の対応ができる人に来てほしい。 担い手:家族の急な用事の際など預かっていただける人が少ない。 【場・しくみ・拠点】 拠 点:バスなど交通の便がよく、施設利用が誰でも気軽にできる。 しくみ:家族の老後に支援していただけるしくみと場があってほしい。 しくみ:利用者が高齢になっても利用できるサービスをつくってほしい。 【資金・資源】 活動資金:タクシーチケットの金額より手段が欲しい。

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会
ヒアリング結果報告書

実施日時	平成28年5月23日(月) 15:00~14:00
実施団体	生地蒲鉾有限会社 従業員(外国人)
人数	3名(社長、ベトナム人2名 27歳、25歳)
聞き取り	(小倉)(宮崎)(中野靖)
実施方法	聞き取り(生地蒲鉾中陳社長に補助通訳)
団体概要	昭和2年創業、昭和18年地元田中蒲鉾店と企業合同、現住所にて工場建設、生地共同蒲鉾製造所として発足。昭和44年社名を生地蒲鉾有限会社として法人登録。昭和58年10月優良施設として厚生大臣表彰。平成25年9月中陳新平が代表取締役就任、現在は従業員25名、アルバイト若干名、資本金1千万円、年商販売3億5百万円。
ヒアリング内容 【現状と課題】	<p>○現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内12社の外国人雇用企業の1つで、労働者不足から近年外国人の雇用を行っている。現在、ベトナムと日本にそれぞれ組合があり、日本のベトナム組合の紹介で2名雇用している。「外国人技能実習制度」雇用研修制度にて最長3年雇用をしている。結婚や学生への留学の場合は日本滞在期間が延長されるが、それ以外は3年で帰国する。 ・H27年9月から黒部に来ている。他に名古屋に研修で1か月ほどいた。 ・一軒家に2名で生活している。 ・通勤は自転車で約5分かかる。 ・ボランティアに参加したい。 ・早く日本語を覚えたいので日本語教室にたくさん行きたい。 <p>○課題(日本に来て困っていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通訳の人がいない。 ・ベトナムの人と交流するところがない。 ・近所に高齢の人しかいない。 ・ベトナムの寺院が欲しい。 ・ベトナムの調味料を売っている店がない、どこに行けばよいか分からない。 ・バスの乗り方が分からない。 ・自転車での移動しかなく、冬は寒いので会社の人に連れて行ってもらったりしている。 ・地域の案内表示が漢字、英語、中国語で読めない、ひらがなやカタカナで表示してほしい。 ・病気の時、会社の人についてきてもらわなければならない。 ・外国籍の人が就労する仕組みが大変 ・品物の値段が高い。
これから 【求められるもの】 【こうあってほしいこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ国籍の人や外国人と交流したい。 ・外国人のためにふりがなを標記してほしい。 ・空き時間を利用してボランティアやいろいろな人と交流したい。 ・外国の食材など買える場所の情報を提供してほしい。
まとめ(ニーズ)	<p>【人】 担い手：通訳の人がいない。</p> <p>【場・しくみ・拠点】 しくみ：同じ国籍の人や外国人と交流したい。 しくみ：ボランティアやいろいろな人と交流したい。 機能：外国人のためにふりがなを表示してほしい。 機能：外国の食材など買える場所の情報を提供してほしい。</p>

課題別整理一覧

①【人】

②【場・しくみ・拠点】

③【資金・資源】

団体名	【人】についての課題
シェアフィールドひまわり	意識啓発：障がい者への理解（福祉教育）
黒部市民生委員児童委員協議会	担い手：支える人を育てる＝民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要 担い手：ボランティアの確保、育成 意識啓発：福祉教育、社会教育の推進＝民生委員の必要性、活動の理解 「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ
シニアサポーター（三日市保育所）	担い手：シニアサポーターをPRし、仲間を増やしていく。
三日市保育所・愛児保育園/職員	担い手：支える人を育てる、保育士として資格を持っている人材を集める。 担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成 意識啓発：福祉教育の推進＝「自分たちのまちを自分たちで良くしていく」意識へ
黒部市身体障害者協会	担い手：役員を引き受ける人がいない、会員減少 意識：障がい者への理解 意識：障がい者の意識（関わってほしくない人もいる） 意識の高い人とそうでない人の格差がある。
黒部市職員（福祉課・健康増進課・包括）	担い手：専門性の担保 担い手：コーディネーターの確保、育成 意識啓発：認知症、障がいの理解（福祉教育）
黒部市ボランティア部会協議会	担い手：同じメンバーで活動している。 担い手：担い手不足 地域格差：地区のリーダーによって格差がある。
黒部市老人クラブ連合会	担い手：会員を集める。（60代） 担い手：転入者の受け入れの対応 意識啓発：老人クラブの魅力をアピールする。
居宅介護支援事業所/ケアマネジャー	担い手：ケアマネジャーの相談役（メンタルヘルスの支援） 意識啓発：民生委員、他職種へのケアマネ業務の理解
市内ボランティア団体	担い手：リーダーの育成、人材の確保 意識啓発：コミュニケーションの円滑化を図り、会の活動を推進 意識啓発：ボランティア活動に興味関心のある人の参加や加入
地区社会福祉協議会/事務担当者	担い手：若い人がいない。男性がいない。
日本語教室In黒部	担い手：活動者を増やす、養成講座、若いボランティアを増やす。 意識啓発：福祉教育＝多文化共生の理解
大布施地区（壮年世代）60代	担い手：地区の行事が多いため負担、役員のなり手がいない。 担い手：民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。 意識：年代層が違つとやりづらい、価値観等が同じ年代の方が活動しやすい。 意識：若い家庭は地域の行事に関心がない、近所づきあいがいい。
介護保険サービス利用者、家族	担い手：地域で見守り員などの担い手がいない。
せせらぎハウス黒部	担い手：専門の資格を持つ人材の育成 担い手：障がい者を支援してもらえるボランティアの確保
社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会	担い手：障がい者への関わりが個別に違つため個々の対応ができる人についてほしい。 担い手：家族の急な用事の際など預かっていただける人が少ない。
生地蒲鉾有限公司/従業員（外国人）	担い手：通訳の人がいない。

団体名	【場・しくみ・拠点】についての課題
シェアフィールドひまわり	<p>機能：相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえる場 中間支援としての相談場所</p> <p>拠点：障がい者の人々も集う場 いろいろな人たちとの交流、人と関わる場、障がい者の生きがい</p>
黒部市民生委員児童委員協議会	<p>機能：相談窓口の一本化、双方にとって（利用者：支援者＝5：5） たらいまわしを無くす、ここに聞けば分かる。</p> <p>機能：情報の交通整理と一元化 情報をまとめ、整理し伝わりやすくする。</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場 （民協、ケアマネ、NS、Dr、ワーカー、ボランティア、NPO等） 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：地区社会福祉協議会の役割、地区自治振興会との役割分担</p> <p>しくみ：黒部市と市社協での描く地域福祉のビジョンを明確に共有する。 その上での役割分担を</p>
シニアサポーター（三日市保育所）	<p>拠点：誰でも気軽に行ける交流の場（子供、親、高齢者等） 相談、研修、子守り、ふれあいから出会いの場、発見の場 自分に活かす、後世に活かす、地域に活かす。</p> <p>しくみ：自分達のできる活動を広げる。（花植え等）</p> <p>意識：自主的に行う活動も取り入れたりし、毎月参加できるよう健康に気をつける。</p>
三日市保育所・愛児保育園/職員	<p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場（働き手を支える）</p> <p>機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場（相談機能の充実）</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場 研修、労い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化 地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p>
黒部市身体障害者協会	<p>しくみ：個人情報（対象者）の把握</p> <p>機能：障がい者のリフレッシュできる場</p> <p>組織：組織運営していくしくみ</p> <p>拠点：障がい者に限らず交流できる場、集まれる場</p> <p>拠点：情報の拠点、やり取りできる場</p>
黒部市職員（福祉課・健康増進課・包括）	<p>機能：ここに聞けば分かる相談窓口一本化、たらいまわしにしない。</p> <p>機能：地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：いろんな団体の事務局がーか所に</p> <p>拠点：行政職員、専門職が集まれる場所（顔合わせ）</p>
黒部市ボランティア部会協議会	<p>しくみ：活動時間の確保が困難（平日が多い）</p> <p>拠点：活動者同士の気軽に集まる場がない。（相談、研修）</p> <p>機能：情報発信手段の不足</p>
黒部市老人クラブ連合会	<p>機能：老人クラブの魅力を見出して後世に伝えていく。</p> <p>機能：老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブ</p> <p>拠点：高齢者が集まる高齢者にやさしい場にする。 （椅子やテーブルがある今はやりの部屋、エレベーター等）</p> <p>拠点：老人クラブだけではなく、子供、障がい者、認知症等総合的な福祉の拠点が 必要である。</p> <p>拠点：大布施と浦山の間に1拠点を作る。</p>

団体名	【場・しくみ・拠点】についての課題
市内ボランティア団体	<p>拠点：気軽に集まれる場、多様な団体が集まりやすい場 時間やお金を気にせず会話や集まりができる場</p> <p>しくみ：プラットフォームとして情報の発信や収集ができる場 活動を発信するしくみ、報道機関、市社協の広報活用 専門分野のスキルを伸ばしたい。 企業の社会貢献や生活困窮者などの支援や連携を行う。</p>
居宅介護支援事業所/ケアマネジャー	<p>機能：多職種との連携 社協とケアマネとの連携、医療（医師）との連携、地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：行きやすい相談場所 同職種の集う場所、一カ所での相談場所（障がい、行政職も待機している場所） 多職種が気軽に集える場所（民生委員も）</p>
地区社会福祉協議会/事務担当者	<p>機能：高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。 機能：土日祝日、夜間も利用できるところ 拠点：誰でも集まれる場、児童や高齢者も 拠点：研修できる場や情報交換できる場</p>
日本語教室in黒部	<p>機能：相談窓口を明確に（ローマ字も）、ここに行けば聞ける場 機能：転入の際の情報の伝達をきちんと、しっかりと 拠点：活動する場、相談を受ける場、交流の場（多文化、多国籍の人の集う場） しくみ：地域で受ける、顔のみえる。</p>
大布施地区（壮年世代）60代	<p>しくみ：グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。 しくみ：守秘義務で情報が得られない、見守りができない。 機能：いろんな問題の相談窓口がわからない。</p>
介護保険サービス利用者、家族	<p>拠点：的確に相談できる窓口を紹介してもらえる場 拠点：地域の人にわかりやすい拠点 しくみ：学童保育などの介護者が安心して高齢者を預けることができる場 しくみ：介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。 しくみ：交流できなくなった人との交流できる仕組みが欲しい。</p>
せせらぎハウス黒部	<p>機能：他の施設の職員との交流、情報交換の場、啓蒙の場 拠点：情報を一度に知れる拠点 しくみ：障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</p>
社会福祉法人くろべ福祉会 保護者会	<p>拠点：バスなど交通の便がよく、施設利用が誰でも気軽にできる。 しくみ：家族の老後に支援していただけるしくみと場があってほしい。 しくみ：利用者が高齢になっても利用できるサービスをつくってほしい。</p>
生地蒲鉾有限公司/従業員（外国人）	<p>しくみ：同じ国籍の人や外国人などと交流したい。 しくみ：ボランティアやいろんな人と交流したい。 機能：外国人のためにふりがなを表示してほしい。 機能：外国の食材などが買える場所の情報を提供してほしい。</p>

団体名	【資金・資源】についての課題
シェアフィールドひまわり	雇用：障がい者の働く場、雇用の開拓 活動資金：自主製品や事業収入の確保
黒部市民生委員児童委員協議会	運営経費：支援活動に係る最低限度の負担を少なくする。 活用：空き家などを地域の小さな拠点として活用していく。
シニアサポーター（三日市保育所）	活動意識：お金に関係なくできる活動である。 意識：お金で買えないもの、変えられないもの。 意識：参加することで得るものは財産である。
三日市保育所・愛児保育園/職員	運営経費：黒部市の補助金（子育て支援）が近隣の市町村より少ない。 利用者負担：病児保育の預かり利用料が高い。（一日あたり2,500円）
黒部市身体障害者協会	活動資金：市からの協会への補助がなくなってきている。
黒部市職員（福祉課・健康増進課・包括）	資金：拠点に関する資金は総合振興計画に提案後のことであり、今の段階での返答はできない。
黒部市ボランティア部会協議会	事務経費：事務の経費を負担している。（地区社協で格差あり） 活動財源：振興会の行事に協力することで予算づけしてもらっている。
黒部市老人クラブ連合会	運営経費：老連の資金が少ないが高齢者はお金を持っているので行事があるときは実費。
居宅介護支援事業所/ケアマネジャー	
地区社会福祉協議会/事務担当者	活動資金：財源の確保
市内ボランティア団体	運営資金：自主財源の確保 活動資金：資金を集める方法 活動資金：民間助成金や寄付金の活用
日本語教室in黒部	活動資金：備品や活動のための資金 活動資金：負担なく助成を受けられる資金
大布施地区（壮年世代）60代	
介護保険サービス利用者、家族	運営資金：福祉のお金がどう使われているかわからない。
せせらぎハウス黒部	雇用：工賃の向上、安定した仕事がほしい。 雇用：施設での仕事の賃金が低いため、40～50代に就職希望者が出る。 資源：助成を受けてもらった車は目立ちすぎるので、何をしても見られている。
社会福祉法人くるべ福祉会 保護者会	活動資金：タクシーチケットの金額より手段がほしい。
生地蒲鉾有限会社/従業員（外国人）	

団体別課題整理一覧

	シエアフィールドひまわり	黒部市民生委員児童委員協議会	シニアサポーター (三田市保育所)	三田市保育所・育児保育園/職員	黒部市身体障害者協会
<p>意識啓発：障がい者への理解 (福祉教育)</p>	<p>担い手：支える人を育てる=民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要</p> <p>担い手：ボランティアの確保、育成</p> <p>意識啓発：福祉教育、社会教育の推進=民生委員の必要性、活動の理解</p> <p>「自分たちのまを自分たちで良くしていく」意識へ</p>	<p>担い手：支える人を育てる=民生委員児童委員と共に要支援者を支える人材が必要</p> <p>担い手：ボランティアの確保、育成</p> <p>意識啓発：福祉教育、社会教育の推進=民生委員の必要性、活動の理解</p> <p>「自分たちのまを自分たちで良くしていく」意識へ</p>	<p>担い手：支える人を育てる。保育士として資格を持っている人材を集める。</p> <p>担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成</p> <p>意識啓発：福祉教育の推進「自分たちのまを自分たちで良くしていく」意識へ</p>	<p>担い手：支える人を育てる。保育士として資格を持っている人材を集める。</p> <p>担い手：シニアサポーターのPRや確保、育成</p> <p>意識啓発：福祉教育の推進「自分たちのまを自分たちで良くしていく」意識へ</p>	<p>担い手：役員を引き受ける人がいない。会員減少</p> <p>意識：障がい者への理解</p> <p>意識：障がい者の意識 (関わってほしい人もいる。)</p> <p>意識：意識の高い人とそうでない人の差がある。</p>
<p>機能：相談しやすく、親身になって相談を受けてもらえる場、中間支援としての相談場所</p> <p>拠点：障がい者の人々も集う場</p> <p>いろいろなる人たちの交流、人と関わる場、障がい者の生きがい</p>	<p>機能：相談窓口の一本化、双方にとって (利用者：支援者=5:5) たらいい回しを無くす、ここに聞けば分かる。</p> <p>機能：情報の交通整理と一元化、情報をまとめ、整理し伝わりやすくする。</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場、拠点 (民協、ケアマネ、NS、DC、ワーカー、ボランティア、NPO等)</p> <p>研修、劣い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：地区社会福祉協議会の役割、地区自治振興会との役割分担</p> <p>しくみ：黒部市と市社協での描く地域福祉のビジョンを明確に共有する。その上での役割分担を</p>	<p>拠点：誰でも気軽にに行ける交流の場 (子供、親、高齢者等)</p> <p>相談、研修、子守り、ふれあいから出合いの場・発見の場</p> <p>自分に活かす、後世に活かす、地域に活かす</p> <p>しくみ：自分運のできる活動を広げる。(花植え等)</p> <p>意識：自主的に行う活動も取り入れ、毎月参加できるように健康に気をつける。</p>	<p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場 (働き手を支える)</p> <p>機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場 (相談機能の充実)</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場</p> <p>研修、劣い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化、地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p>	<p>機能：働く専門職同士の相談、交流として集まる場 (働き手を支える)</p> <p>機能：子供の家族が保育士や多職種と連携して相談できる場 (相談機能の充実)</p> <p>拠点：地域支援活動者を支援する場</p> <p>研修、劣い、愚痴、情報交換など、集う場、話せる場</p> <p>しくみ：子供に関する情報の交通整理と一元化、地域に情報が届き、子供を地域で守り、育てる。</p>	<p>しくみ：個人情報 (対象者) の把握</p> <p>機能：障がい者のリフレキシユできる場</p> <p>組織：組織運営していくしくみ</p> <p>拠点：障がい者に限らず交流できる場、集まれる場</p> <p>拠点：情報の拠点、やり取りできる場</p> <p>機能：災害時の対応についての機能の設備、要支援者の把握</p>
<p>雇用：障がい者の働く場、雇用の開拓</p> <p>活動資金：自主製品や事業収入の確保</p>	<p>運営経費：支援活動に係る最低限度の負担を少なくする。</p> <p>活用：空き家などを地域の小さな拠点として活用していく。</p>	<p>活動意識：お金に関係なくできる活動である。</p> <p>意識：お金で買えないもの、変えられないもの</p> <p>意識：参加することで得るものは財産である。</p>	<p>運営経費：黒部市の補助金 (子育て支援) が近隣の市町村より少ない。</p> <p>利用者負担：病児保育の預かり利用料が高い。(一日あたり2,500円)</p>	<p>活動資金：市からの協会への補助がなくなってきた。</p>	<p>活動資金：市からの協会への補助がなくなってきた。</p>
<p>〔人〕</p>	<p>〔場・しくみ・拠点〕</p>	<p>〔資金・資源〕</p>			

	黒部市職員	黒部市ボランティア部会協議会	黒部市老人クラブ連合会	市内ボランティア団体	居宅介護支援事業所/ケアマネジャー
【人】	<p>担い手：専門性の担保</p> <p>担い手：コーディネーターの確保、育成</p> <p>意識啓発：認知症、障がいの理解（福祉教育）</p>	<p>担い手：同じメンバーで活動している。</p> <p>担い手：担い手不足</p> <p>地域格差：地区のリーダーによって格差がある。</p>	<p>担い手：会員を集める。（60代）</p> <p>担い手：転入者の受け入れの対応</p> <p>意識啓発：老人クラブの魅力のアピールする。</p>	<p>担い手：リーダーの育成、人材の確保</p> <p>意識啓発：コミュニケーションの円滑化を図り、会の活動を推進</p> <p>意識啓発：ボランティア活動に興味関心のある人の参加や加入</p>	<p>担い手：ケアマネジャーの相談役（メンタルヘルスの支援）</p> <p>意識啓発：民生委員、他職種へのケアマネ業務の理解</p>
【場・しくみ・拠点】	<p>機能：ここに聞けば分かる相談窓口の一本化、たらいまわしにしない。</p> <p>機能：地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：いろんな団体の事務局が1か所に</p> <p>拠点：行政職員、専門職が集まれる場所（顔合わせ）</p>	<p>しくみ：活動時間の確保が困難（平日が多い）</p> <p>拠点：活動者同士の気軽に集まる場がない。（相談、研修）</p> <p>機能：情報発信手段の不足</p>	<p>機能：老人クラブの魅力を見出して後世に伝えていく。</p> <p>機能：老人ホーム、保育所をつなぐ元気ボランティア老人クラブ</p> <p>拠点：高齢者が集まる高齢者にやさしい場にする。（椅子やテーブルがある）</p> <p>拠点：老人クラブだけではなく、子供、障がい者、認知症等総合的な福祉の拠点が必要である。</p> <p>拠点：大布施と浦山の間に1拠点を作る。</p>	<p>拠点：気軽に集まれる場、多様な団体が集まりやすい場</p> <p>しくみ：ブラットホームとして情報の発信や収集ができる場</p> <p>しくみ：活動を発信するしくみ、報道機関、市社協の広報活用</p> <p>しくみ：専門分野のスキルを伸ばしたい。</p> <p>しくみ：企業の社会貢献や生活困窮者などの支援や連携を行う。</p>	<p>機能：多職種との連携</p> <p>社協、ケアマネとの連携、医療（医師）との連携、地域ケア会議の開催</p> <p>拠点：行きやすい相談場所</p> <p>同職種の集う場所、一か所での相談場所（障がい、行政職も待機している場所）、多職種が気軽に集える場所（民生委員も）</p>
【資金・資源】	<p>資金：拠点に関する資金は総合振興計画に提案後のことであり、今の段階での返答はできない。</p>	<p>事務経費：事務の経費を負担している。（地区社協で格差あり）</p> <p>活動財源：振興会の行事に協力することとで予算づけしてもらっている。</p>	<p>運営経費：老連の資金が少ないが高齢者はお金を持っているので行事があるときは実費。</p>	<p>運営資金：自主財源の確保</p> <p>活動資金：資金を集める方法</p> <p>活動資金：民間助成金や寄付金の活用</p>	

地区社会福祉協議会/事務担当者	日本語教室in黒部	大布施 (壮年世代) 60代	介護保険サービス利用者、家族	せせらぎハウス黒部
<p>担い手：若い人がいない。 男性がいない。</p>	<p>担い手：活動者を増やす、養成講座、若いボランティアを増やす。</p> <p>意識啓発：福祉教育＝多文化共生の理解</p>	<p>担い手：地区の行事が多いため負担、役員のなり手がいない。民生委員の負担が大きく大変なので、引き受けてくれる人がいない。</p> <p>意識：年代層が違うとやりづらさ、価値観等が同じ年代の方が活動しやすい。</p> <p>意識：若い家庭は地域の行事に関心がない、近所づきあいがいい。</p>	<p>担い手：地域で見守り員などの担い手がいない。</p>	<p>担い手：ボランティア精神があつて、専門の資格を持つ人材がほしい。</p> <p>担い手：障がい者を支援してもらえらるボランティアが必要</p>
<p>機能：高齢者だけでなく子供サロンにも目を向けて活動したい。</p> <p>機能：土日祝日、夜間も利用できるところ</p> <p>拠点：誰でも集まれる場、児童や高齢者も</p> <p>拠点：研修できる場や情報交換できる場</p>	<p>機能：相談窓口を明確に（ローマ字も）ここに行けば聞ける。</p> <p>機能：転入の際の情報伝達をきちんと、しっかりと</p> <p>拠点：活動する場、相談を受ける場、交流の場（多文化、多国籍の人の集う場）</p> <p>しくみ：地域で受ける、顔がみえる。</p>	<p>しくみ：グループ作りが必要、そのためのノウハウを知りたい。</p> <p>しくみ：守秘義務で、情報が得られない、知らないで見守りができない。</p> <p>機能：いろいろな問題の相談窓口がわからない。</p>	<p>拠点：的確に相談できる窓口を紹介してもらえらる場が欲しい。</p> <p>拠点：地域の人にわかりやすい拠点</p> <p>しくみ：学童保育などの介護者が安心して高齢者を預けることができる場</p> <p>しくみ：介護をしている家族が話し合える「家族会」等があればいい。</p> <p>しくみ：交流できなくなつた人との交流できる仕組みが欲しい。</p>	<p>機能：他の施設の職員との交流、情報交換の場、啓蒙の場</p> <p>拠点：情報を一度に知れる拠点</p> <p>しくみ：障がい者に対する事業や支援活動を増やしてほしい。</p>
<p>活動資金：財源の確保</p>	<p>活動資金：備品や活動のための資金</p> <p>活動資金：負担なく助成を受けられる資金</p>		<p>運営資金：福祉のお金がどう使われているかわからない。</p>	<p>工賃の向上、安定した仕事がほしい。</p> <p>雇用：施設での仕事の賃金が低いため40～50代に就職希望が出る。</p> <p>資源：助成を受けてもらった車は目立ちすぎるので、何をしていても見られていない。</p>

	社会福祉法人くろべ福祉社会 保護者会	生地福祥有限会社/従業員 (外国人)			
〔人〕	<p>担い手：障がいの関わりが個別に違うため個々の対応ができる人がいてほしい。</p> <p>担い手：家族の急な用事の際など預かっていただけの人が少ない。</p>	<p>担い手：通訳の人がいない。</p>			
〔場・しくみ・拠点〕	<p>機能：バスなど交通の便がよく、施設利用が誰でも気軽にできる。</p> <p>拠点：家族の老後に支障していただけるしくみと場があってほしい。</p> <p>しくみ：利用者が高齢になっても利用できるサービスをつくってほしい。</p>	<p>しくみ：同じ国籍の人や外国人などと交流したい。</p> <p>しくみ：ボランティアやいろんな人と交流したい。</p> <p>機能：外国人のためにふりがなを表示してほしい。</p> <p>機能：外国の食材などが買える場所の情報を提供してほしい。</p>			
〔資金・資源〕	<p>活動資金：タクシードライバの金額より手数がほしい。</p>				

平成 28 年「地域福祉推進の拠点に関するあり方」
についての福祉関係団体の現状と課題調査

団体ヒアリング調査報告書

発 行 平成 28 年 8 月

編集・発行 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp

地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会

地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書

目 次

- I 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会とは
 - 1 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会の意味と位置づけ
 - 2 黒部市総合振興計画・黒部市社会福祉協議会との関係性
 - II 地域福祉の現状と課題
 - 1 地域福祉を取り巻く社会動向
 - 2 地域を取り巻く現状と課題
 - 3 地域における現状と課題の調査
 - III 調査分析
 - 1 調査分析の方法
 - 2 課題整理
 - IV 地域福祉推進拠点の役割とは
 - 1 現状の拠点、地区、地域の役割や実施事業（行政/市社協も含む）
 - 2 今後求められる地域福祉推進の拠点の役割
 - V 分析結果・拠点の役割から見える拠点に求められる機能
 - 1 分析結果から求められる機能—「人が学ぶ」「支える」「つなぐ」
 - 2 拠点の役割として求められる機能—「誰もが集う機会」「複合的な機能」
 - VI 「新しい拠点のあり方」
 - 1 拠点のコンセプト
 - 2 備えるべき機能
 - VII 委員会としてのまとめ
 - 1 計画の具現化
 - 2 利便性
 - 3 ソフト面の整備
 - 4 財源の確保
- 資料編
- 1 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会設置要綱
 - 2 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会会則
 - 3 委員名簿
 - 4 関係会議日程
 - 5 検討委員会の進め方構成図

I 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会とは

1 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会の意味と位置づけ

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）が主催する平成 27 年度の第 10 回黒部市社会福祉大会において「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指すための大会決議 3 項目（Ⅰ人材育成の環境整備 Ⅱ地域福祉推進の場づくりと拠点整備 Ⅲ財源の確保）が承認された。その一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い話し合いのできる場づくり及び、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」（以下、「委員会」という。）を設置することとなった。

委員会では、黒部市として必要な関係団体や地域住民が連携協働できる場やしくみ、機能的な拠点について、様々な分野からの委員と公募委員で協議検討を行う。また、検討項目を本会会長より委員会へ諮問し、委員会の答申を得て、黒部市へ提言することを目的とする。

2 黒部市総合振興計画・黒部市社会福祉協議会との関係性

黒部市総合振興計画は、黒部市のまちづくりの最上位計画であり、そこに関連する地域福祉分野の黒部市地域福祉計画（市が策定）がある。本会は、より具体的な行動計画として、市の上位計画との関連性と整合性を取りながら黒部市地域福祉活動計画を策定している。

平成 30 年～39 年までの第 2 次黒部市総合振興計画は、来年度より策定準備に入ることが予定されている中、本会は「地域福祉推進を図る」ことを目的にした団体として、黒部市全体の福祉についてのあり方をとりまとめ、市総合振興計画の「地域福祉」の分野における新しい拠点のあり方などを長期計画に反映できるよう位置づけを明確にしていく必要がある。なお、黒部市地域福祉計画、黒部市地域福祉活動計画についても平成 30 年～34 年（5 ヶ年）の計画づくりが予定されており、市総合振興計画との整合性のもと策定する。（図 1）

II 地域福祉の現状と課題

1 地域福祉を取り巻く社会動向

日本の少子高齢化は今後も進み、厚生労働省は2025年団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）を迎えるまでに地域で住民の力を活かしながら福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体となり高齢者等を支えていくしくみ「地域包括ケアシステム」（図2）の実現に取り組んでいる。黒部市の現在の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は29.8%（2016年5月末現在）で、都市部よりも急速な高齢化が進みこれからも進行は続くものと考えられる。

また、核家族化などの要因により一人暮らし高齢者の増加や都市部への人口流出などで人口も減少傾向にあり、2015年に策定された黒部市人口ビジョン（別表1）では2060年の市の人口を33,000人に目標設定していることから今後は、人口や経済活動の縮小が予想される。そして、今後ますます福祉課題も複雑多様化していく中で、市民の暮らしを支える福祉への関心と期待はより高まっている。

地域福祉の推進のためには、様々な団体の連携協働やしくみや制度の一体的な活用などを充実させ、市民の普段の暮らしを支え、また地域支援活動者にとって活動を支える機能をもった中心的拠点を整備していくことが重要である。

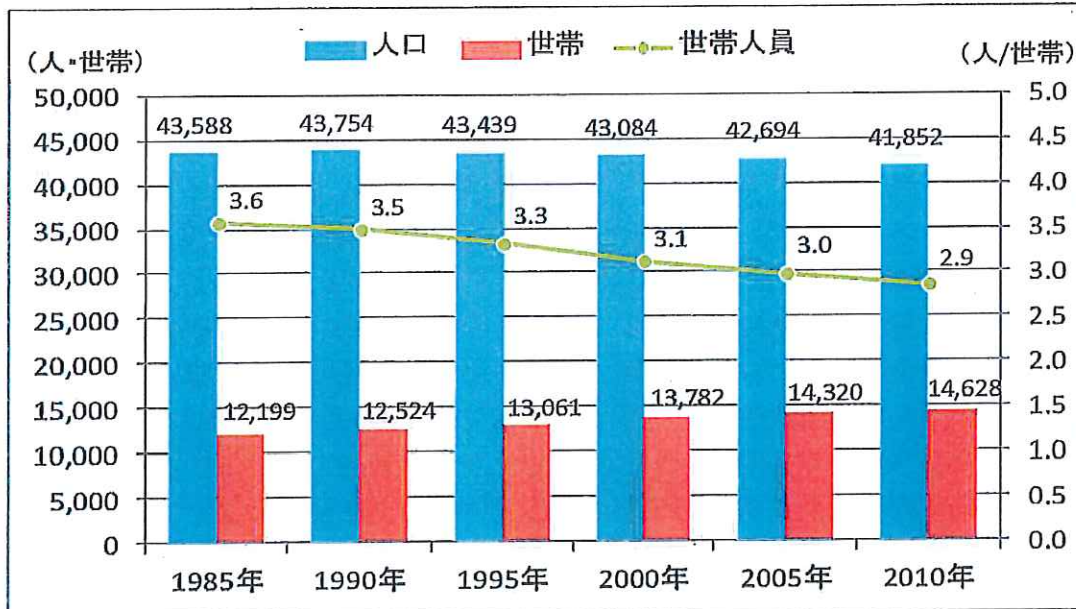
2 地域を取り巻く現状と課題

黒部市は平成18年3月に旧黒部市と旧宇奈月町が合併し、市内には16地区の自治振興会と地区社会福祉協議会がある。近年、少子化の影響を受け小中学校の統廃合も進み、今後も計画的に予定されている状況ではあるが、自治振興会単位や地区社会福祉協議会単位の統合は行われていない。人口減少によりさらに高齢化が進む地区や新興住宅の増設により人口が増加する地区など高齢化率一つを見ても22%から48%の開きがあり地域格差が一段と進んでいる。

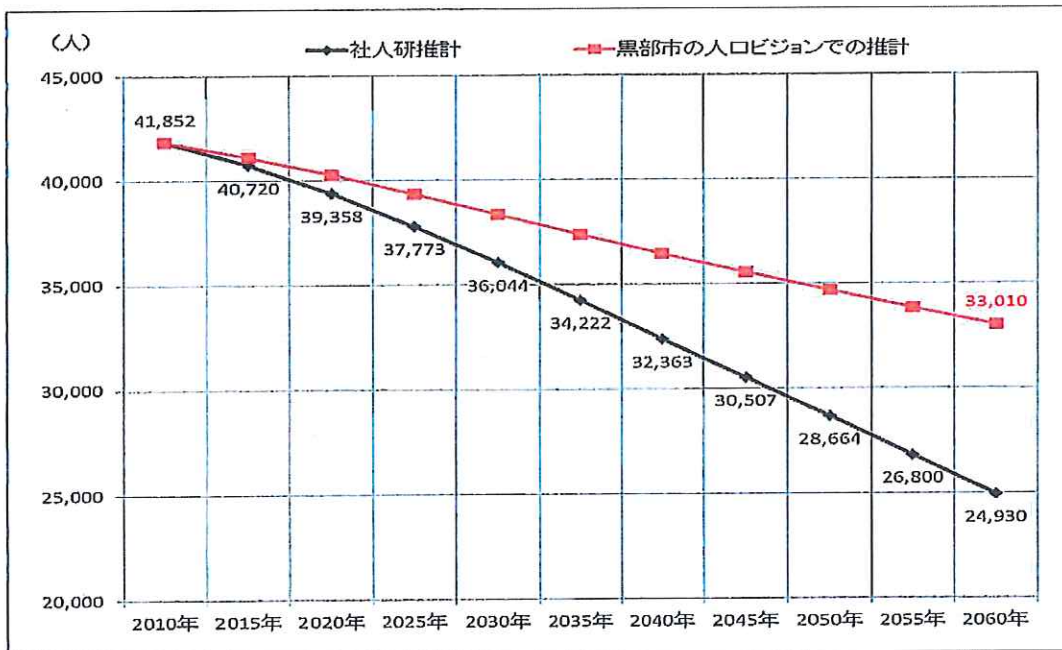
少子高齢化、都市部への人口流出などでますます高齢化率が高くなる地区では、高齢者同士の支え合いや高齢者のみの世帯への見守り体制が今後課題となってくる。また、新興住宅を抱える地区では、若者が多く居住し人口が増えるが、近隣との関係が希薄化しつつあり、地域行事や地域活動の担い手不足となる課題もある。このように地域性のある課題が市内16地区それぞれにあり、それに合わせた支援が今後は必要となってくる。

○黒部市の人口推移 (データ参照: まちひとしごと創生 黒部市人口ビジョンより)

(別表1)



○黒部市人口ビジョン (データ参照: まちひとしごと創生 黒部市人口ビジョンより)

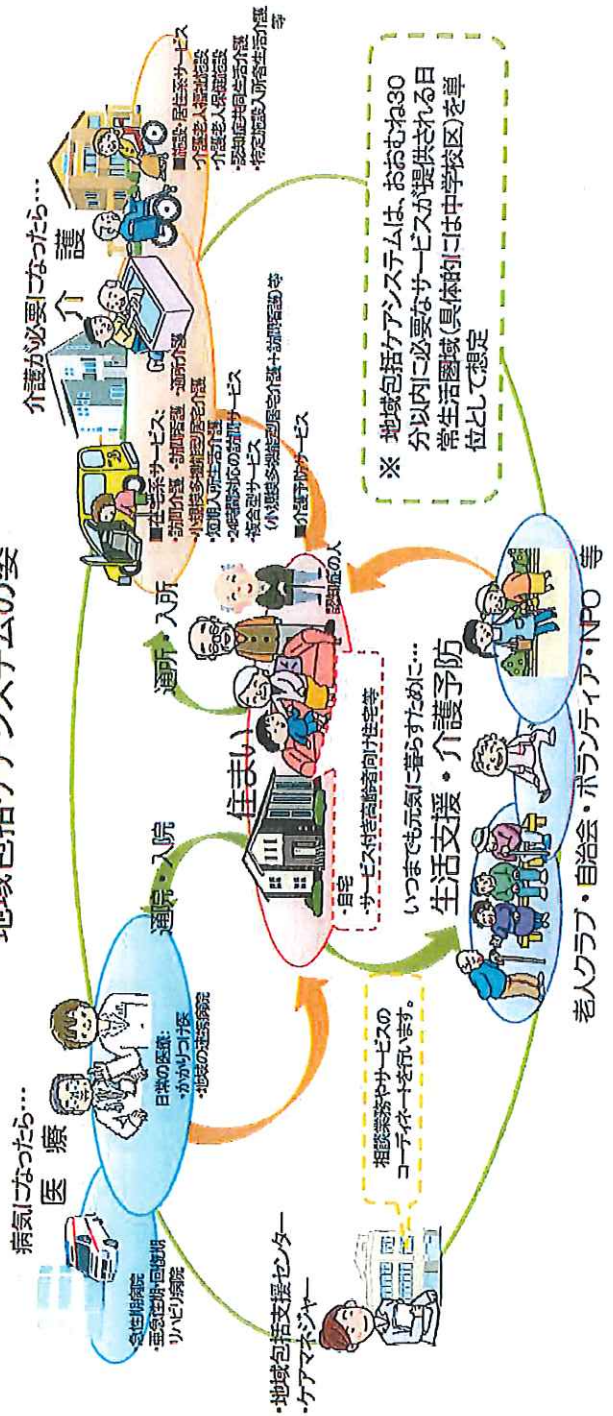


出生に関する仮定	合計特殊出生率が段階的に上昇し、2030年に1.90まで向上、その後さらに上昇し、2040年に2.07(人口置換水準)まで向上、それ以降は2.07を維持する。
死亡に関する仮定	社人研推計(パターン1)と同様とする。
移動に関する仮定	定住促進策を推進することにより、年間あたり60人(6年間で300人)程度の社会増を図る。

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**必要があります。

地域包括ケアシステムの姿



3 地域における現状と課題の調査

地域における現状調査は、地区自治振興会並びに地区社会福祉協議会、黒部市内のボランティアグループなどを中心に地域福祉活動に関わる方を中心にアンケート調査を行った。また、10代から50代の福祉への関心や当事者性の薄い世代への追加調査も行った。

さらに、福祉関係団体や分野別、世代別にヒアリングを行い、より詳細に聞き取りを行った。少数派の声として外国人の方や、障がい者の家族会などからも現状と課題を聞き取った。

(1) アンケート調査 1,066件 ※別冊報告書

『誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり』の実現に向けて

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するアンケート調査

対象：地域福祉活動者を中心とした調査

○市内16地区自治振興会・地区社会福祉協議会を通じた地域住民

○黒部市内ボランティアグループ60団体

○社会福祉協議会主催事業参加者

○地域活動関係者など

(2) アンケート調査（追加）54件 ※別紙報告書

『誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり』の実現に向けて

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するアンケート調査

対象：10代から50代の福祉への関心や当事者性の薄い世代への調査

(3) ヒアリング調査 17団体 ※別冊報告書

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討」に関するヒアリング調査

対象：福祉関係団体、分野別、世代別、少数派の方々などを中心に調査

○障がい：社会福祉法人にいかわ苑 シェアフィールドひまわり

○障がい：黒部市身体障害者協会

○障がい：せせらぎハウス黒部

○障がい：社会福祉法人 くらべ福祉会 保護者会

○子育て：三日市保育所シニアサポーター

○保育：三日市保育所・愛児保育園 職員

○介護：居宅介護支援事業所 ケアマネジャー

○介護：介護保険サービス利用者、家族

○壮年世代：大布施（壮年世代）60代

○高齢者：黒部市老人クラブ連合会

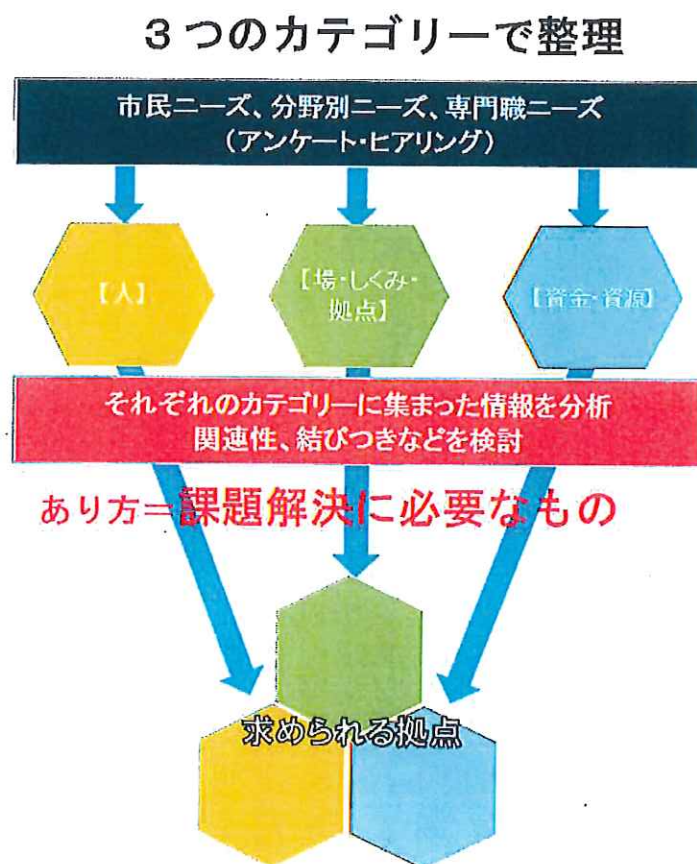
- ボランティア：黒部市地区ボランティア部会協議会
- ボランティア：市内ボランティア団体
- 地域支援活動：黒部市民生委員児童委員協議会 理事
- 行政福祉：黒部市職員
- 地区社協：地区社会福祉協議会 事務担当者
- 外国人就労：生地蒲鉾有限会社 従業員（外国人）
- 外国人支援：日本語教室 in 黒部

Ⅲ 調査分析

1 調査分析の方法

ヒアリング結果、アンケート結果を黒部市社会福祉協議会の内部（全職員参加）に設置したワーキングチームが、課題を大きく「人」「場/しくみ/拠点」「資金/資源」の3つに分類し整理を行った。その結果を最終的に「拠点到求められる機能」として集約した。（図3）

（図3）



2 課題整理

「人」「場/しくみ/拠点」「資金/資源」の3つに分類し課題整理を行った上で、さらに共通的な課題、少数派（マイノリティー）の課題、複合的な課題にまとめた。（図4）

（1）【人】

どの団体や分野からも人材の不足、担い手の育成などが共通課題であった。また、少数派である外国人の支援、支援を拒む人への対応策という課題も見えた。複合的な課題として人を育てるためのしくみや基盤となる場や機能が少ないということが分かった。

（2）【場・しくみ・拠点】

支援を必要とする当事者やその家族、また支援者が福祉のことについて相談できる場が分からない、情報発信と収集が一本化されていないという声が多かった。また、【人】の課題と共通するような養成や育成、研修などを行う場などが求められていることが分かった。複合的な課題として、活動者同士が交流できる場、発表できる場も求められているが分かった。

（3）【資金・資源】

活動費を助成するしくみなどはあるものの、運営に係る経費や事務的経費を支える財源が不足し、活動を阻害していることが分かった。また、団体が活動するとき使える拠点がある地域とない地域によって地域格差があることが分かったとともに、資金と活動を上手く結びつけるコーディネート機能が必要であることも分かった。

3つの課題整理一覧

（図4）

【人】	【場・しくみ・拠点】	【資金・資源】
【共通的な課題】 ・担い手 ・意識／理解／質 【少数派の課題】 ・外国人の生活 ・支援を拒む人 【複合的な課題】 ・人材育成 ・基盤となる場	【共通的な課題】 ・相談できる場 ・養成／育成／研修 ・情報の発信や収集 【少数派の課題】 ・障がい者／高齢者の移動 ・災害時支援の拠点 【複合的な課題】 ・発表の場 ・交流の場	【共通的な課題】 ・事務的活動経費 ・運営経費 【少数派の課題】 ・行政サービスの格差 ・地域格差 【複合的な課題】 ・資金と活動のマッチング ・持続可能な団体運営

IV 地域福祉推進拠点の役割とは

ヒアリングやアンケート結果などから見える様々な地域課題をこれからの地域の現状を踏まえながら、拠点（黒部市1拠点）、地区（市内16地区）、地域（町内単位）での役割分担と機能整理を行いながら連携し、課題解決に取り組む必要があると考え、委員会として実施事業の現状整理と今後の役割分担について検討を進めた。また、拠点としての複合的な機能を持ち、相乗効果を図ることや、誰もが拠点に集える場を作り出すことなどを検討した。

1 現状の拠点、地区、地域の役割や実施事業（行政/市社協も含む）

まず始めに、地域福祉を推進する行政、社協、そして拠点、地区、地域の現在の役割と機能について整理し、まとめた。現在、拠点となっている黒部市福祉センターは社協が市の補助を受け運営し、センター内に社協事務局を設置している。（別表2）

(別表2)

現在の拠点・地区・地域の役割(行政/社協も含む)					
区分	行政	社協	拠点(黒部市)拠点	地区(黒部市内16地区)	地域(130町内単位)
現在の場	黒部市役所	本所・黒部市福祉センター 支所・宇奈月老人福祉センター内(東部 地域包括)	黒部市福祉センター (社協事務局)	16地区公民館	町内公民館
担い手	公務員・職員	民間団体職員	市社会福祉協議会	住民・ボランティア 事務:市臨時職員	住民・ボランティア
義務 (根拠法)	職務専念義務・守秘義務(地方公務員 法)	職務専念義務・守秘義務(社会福祉法)	無	無 (地区社協会則)	無 (町内会則)
財源	税金 交付金など	市補助金・県社協助成金 会費など	市補助金 市社協助成金など	市補助金・会費 市社協助成金など	地区助成金 住民会費など
目的	公共サービス	地域福祉の推進	公共サービス 地域福祉の推進	地域づくり	地域づくり
協働	県・市社協・各種市民団体	市・県社協・地区・NPO・ボランティア団 体・各種市民団体	地区・NPO・ボランティア団体・各種市民 団体	市社協・地域・ボランティア団体・学校・各 種市民団体・事業所・商店会	地区・ボランティア団体・事業所・商店会・ 地元青年会・子供会・老人会
概要	市民への公平・公正なサービス 市民からの要望・意見などに誠実に対応	社会福祉を目的とする事業や企画 住民参加のための奨励	一定の地域に属する住民が住みよい地 域づくりを行なうために自主的に組織し た共同体 地域の市民が自己の意見・責任に基づ いて	町内会の福祉活動を発展 行政や市社協などからの通達や案内事 項のとりまとめ 自治会館の管理や活動外部団体との連 絡調整	住民の福祉活動の発展 自治体などが らの案内事項のとりまとめ 町内会館の管理や活動 住民の自主的 な意思で作る任意団体 自主的な自治組織「町内会」
事業	制度、しくみの制定 関係団体との連絡調整 各種事業の養成・研修 市民の課題解決と相談	調査、研究、情報提供 福祉事業の開発・普及 各種事業の養成・研修 地区等の課題解決と相談	調査、研究、情報提供 各種事業の養成・研修	地区(自治体協賛会)の事業 市関係事業の参加協力 地区のニーズ把握と連携	地域(町内単位)親睦と交流 地区イベント等の参加協力 町内のニーズ把握と連携

2 今後求められる地域福祉推進の拠点の役割

(1) 活動の場の変化

国の施策でもある地域包括ケアシステムの実現を目指す方向が示される中、今後は、中央の拠点にたくさんの人を集める形から地域を拠点とした小さな集まりをたくさんつくり出していく形に変化していくことが予想される。現在は、中央の拠点、地区、地域でそれぞれ活動の場や事業が実施されているが、今後に必要な拠点の機能は、地区や地域の活動を間接的に支援し、下支えしていくことが必要となってくる。

(2) 担い手の創出と人材育成

今後、小さな地域単位で多くの活動が実施されていくことが考えられる。そのような中では、必然的に活動者や支援者を増やしていく必要があり、ボランティアや活動の中心となる地域リーダーなどの担い手を創出していくことや人材の育成が急務である。

担い手の掘り起こしと人材育成は、拠点、地区、地域が一体となって取り組むべき課題である。拠点の機能として、「学びの場」を提供したり、新しい担い手を発掘する機能を充実し、地区や地域などでは活動を通して人材を育成していくという役割分担が必要となってくる。また、福祉専門職や援助者は、福祉サービスを提供する担い手として質の担保や向上を図る場も拠点として必要な機能と考える。

(3) 誰もが集う機会

地域福祉推進の拠点として、地域福祉に関わる人を中心に検討を進める一方で「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまち」の実現には、支援を必要とする当事者や利用者または、支援活動者以外の人々にも拠点に来る機会をつくり出し、福祉との関係性を持たせることも重要である。様々な集いで拠点に訪れる機会をつくることで、知ることや気づきを芽生え、将来的な福祉への理解や協力につながる福祉教育的な機能も拠点として持ち備える必要がある。

(4) 複合的な機能

福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約し一元化することにより市民に分かりやすく、利便性が上がることが考えられる。福祉の機能を持つ団体や施設などと隣接または併設することで、相乗効果を図ることも考えられる。また、災害が起きた時の災害ボランティア支援センターなど福祉に特化した拠点としての機能を持つ可能性も検討していく必要がある。

V 分析結果・拠点の役割から見える拠点に求められる機能

1 分析結果から求められる機能—「人が学ぶ」「支える」「つなぐ」

「人が学ぶ」—黒部市一体での人材育成と担い手育成—

今後活動の主体が地区や地域単位に移行し、小さな単位で多くの活動が実施されていくことが考えられる。そのような中で、もっとも重要になってくるのが活動を行う「人」である。「自分たちの地域を自分たちで長くしていく」という意識やムードを黒部市に浸透させていくことや地域活動者を生み出し育てていくこと、また福祉を支える専門職の質の向上や担保が必要となってくる。

拠点、地区、地域が一体となり活動の担い手となる「人」の掘り起こしと育成を行うことが求められる。「拠点」では、すべての人が「学び場」を提供する。

【市民】市民を活動者（ボランティア）層へ

【ボランティア】ボランティアから要支援者を支える支援者層へ

【支援者】支援者から有償ボランティア（援助者）へ

【援助者】援助者の担い手を増やしスキルを高める

【専門職】専門職を養成し担い手を増やす、質の向上と担保を図る



V 分析結果・拠点の役割から見える拠点に求められる機能

1 分析結果から求められる機能—「人が学ぶ」「支える」「つなぐ」

「支える」—支援する人を支援する、はざまにいる人を支える—

地域福祉推進の担い手は、専門職だけでなくボランティアや支援者、援助者など地域の担い手となる活動者、そして一番身近な家族である。その人たちを間接的に支えることが大切になってくる。また、制度のはざまにいる人たちや新しい課題に対して支援を必要とする人たちへの支援は、誰もが安心して暮らせる地域の実現に不可欠である。

【ふだんの暮らし】 普段の暮らしで、困ったことや心配なことを気軽に相談出来る窓口

【活動者】 活動者を支える場、集い情報交換、交流できる場、気持ちを支える場

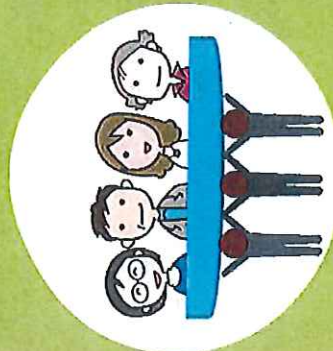
【要支援者】 黒部市全体で支え合うしくみづくり

【はざま】 制度外、少数派（マイノリティー）誰もが安心して暮らせる福祉のまち



ふだんの暮らし
を支える

困ったことや心配
なことを気軽に
相談できる窓口



地域支援活動者
を支える

集い情報交換
交流ができる場
気持ちを支える場



要支援者を
支える

黒部市全体で
支え合おうしくみ
づくり



制度のはざまに
いる人を支える

誰もが安心して
暮らせるまちづくり

支える場 = 拠点

V 分析結果・拠点の役割から見える拠点に求められる機能

1 分析結果から求められる機能—「人が学ぶ」「支える」「つなぐ」

「つなぐ」—福祉活動の活性化、サービスの充実—

必要な人やモノ、資金、情報などをつなぐことで活動をスムーズに後押しすることが出来る。また、困りごとがあるとき、制度や専門性をつなぐことで福祉サービスの利便性が向上し、新たなサービスの開発にもつながる。

【人】活動したい人同士をつなぐ、出会う場

【資金】地域福祉推進を後押しする資金と地域での資金循環

【情報】福祉に関する情報の発信と収集の一元化、情報の交通整理

【制度】複雑多様化する課題に対しての複合的な制度活用

【専門性】機能拡充と新たなサービスの開発



V 分析結果・拠点の役割から見える拠点に求められる機能

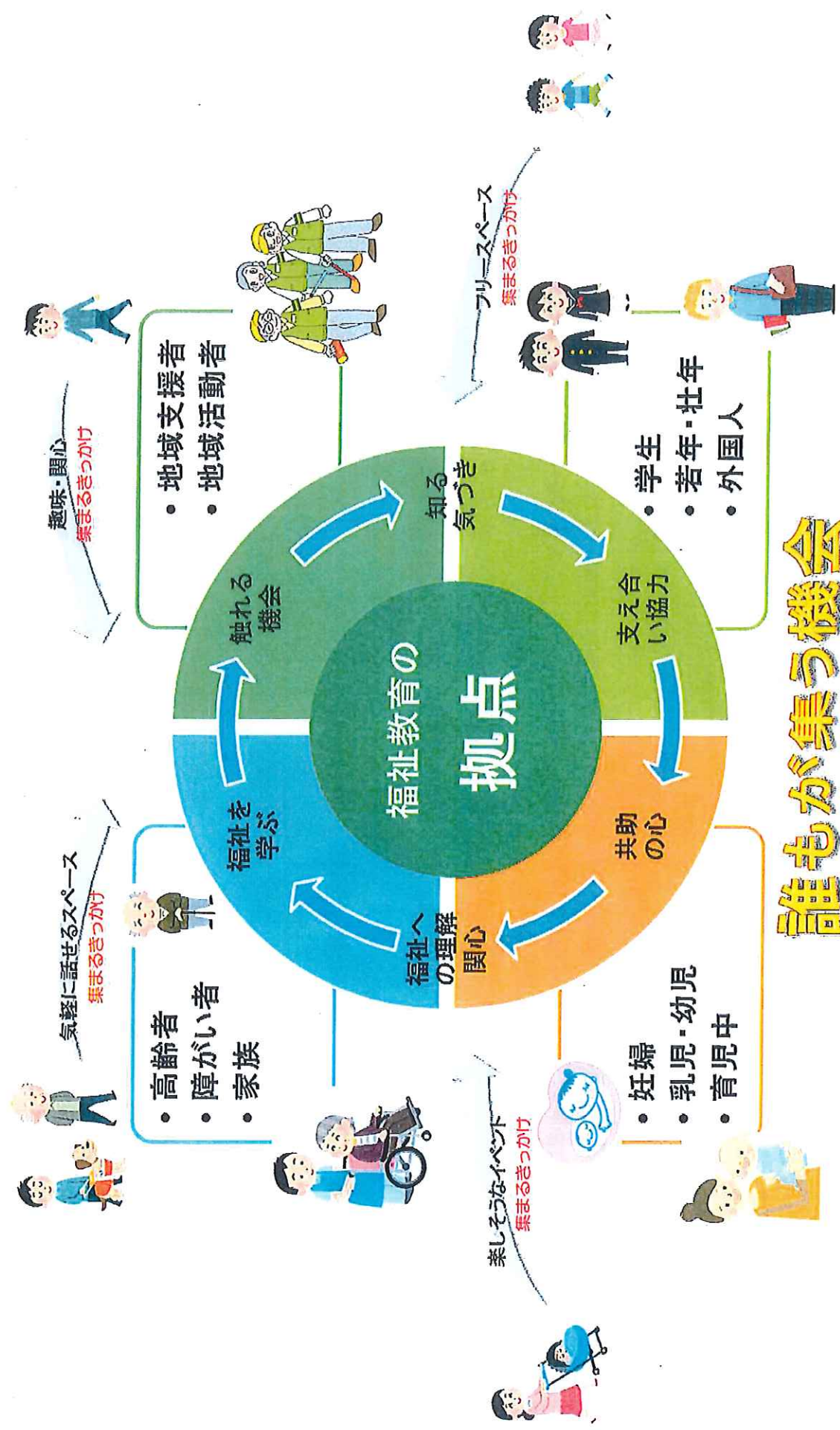
2 拠点の役割として求められる機能—「誰もが集う機会」「複合的な機能」

「誰もが集う機会」—福祉教育、知る、触れる機会—

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、支援を必要とする当事者や利用者または、支援活動者以外の人々にも拠点に来る機会をつくり出す。様々な集いで拠点に訪れる機会をつくることで、知ることや気づきが生え、将来的な福祉への理解や協力のつながる福祉教育の推進を図る。

【来る機会】身近に集まれる場や気軽に話せる場を提供することで多様な人々が集まる場づくり

【福祉教育】拠点の集う機会や寄る機会をつくることで、知る、触れることにより福祉への理解が進む



誰もが集う機会

V 分析結果・拠点の役割から見える拠点に求められる機能

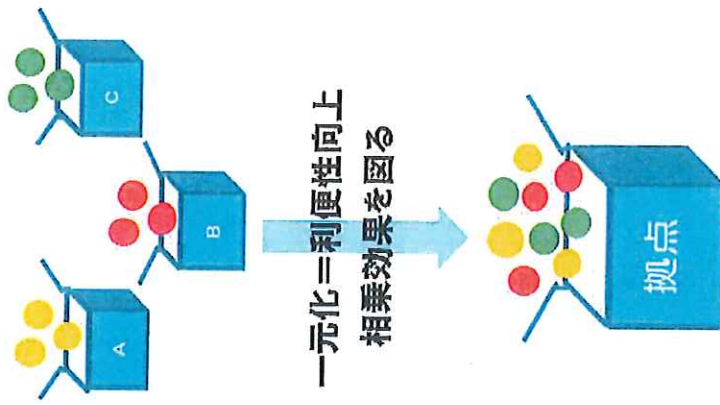
2 拠点の役割として求められる機能―「誰もが集う機会」「複合的な機能」

「複合的な機能」―相乗効果を生み出す、利便性向上―

福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約し一元化することにより市民に分かりやすく、利便性が向上する。福祉の機能を持った施設を隣接又は併設することで、相乗効果を図られる。また、災害が起きた時の災害ボランティア支援センターなど福祉に特化した拠点としての機能を持つ。

【利便性・相乗効果】施設の隣接又は併設により福祉サービスの集約

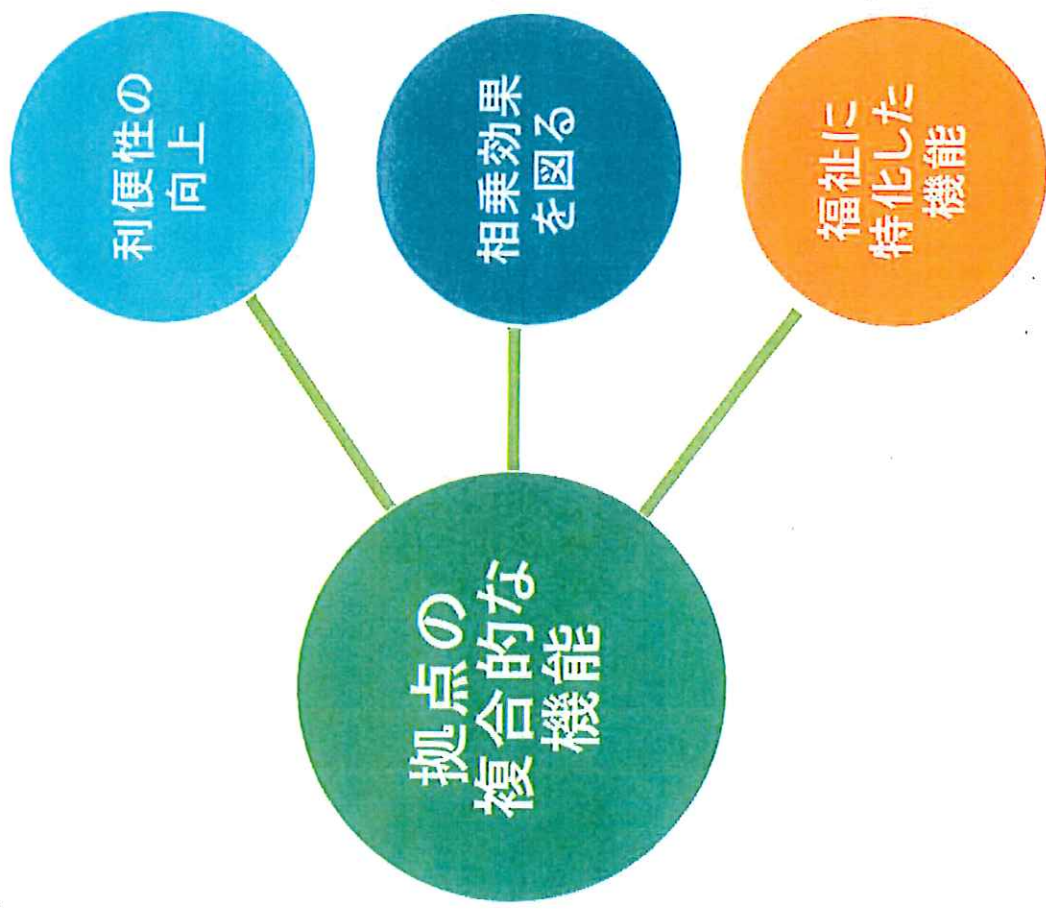
【特化した機能】災害時、緊急時などの際に福祉に特化した機能



• 福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約

• 施設の隣接又は併設により福祉サービスの集約

• 災害が起きた時の災害ボランティア支援センターなど福祉に特化した拠点としての機能を持つ



VI 「新しい拠点のあり方」

1 拠点のコンセプト

「人と地域のしあわせを支える拠点」

市民一人一人のしあわせを支え、一つ一つの地域の福祉を支える

市民一人一人のしあわせを支え、「やさしい福祉のまち」の実現
これからの地区・地域という単位の活動推進を図る

2 備えるべき機能

「人が学ぶ」 —黒部市一体での人材育成と担い手育成—

「支える」 —支援する人を支援する、はざまを埋める—

「つなぐ」 —福祉活動の活性化、サービスの充実—

「誰もが集う機会」 —福祉教育、知る、触れる機会—

「複合的な機能」 —相乗効果を生み出す、利便性向上—

VII 委員会としてのまとめ

今後考えられる地域の担い手不足や人材育成の課題、地区・地域単位の活動を支える機能など、黒部市全域を支える中心的機能を果たす拠点施設を整備することで、将来の「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまち」を実現することが出来る。

本委員会で協議検討し整理した事項を基に黒部市の地域福祉推進拠点施設となるハード面を早期に整備することと共に、それを動かす「人」や「しくみづくり」などソフト面については、今からできることは着実に取り組み、拠点施設が出来た時にソフト面とつながり、より一層地域福祉活動が推進されるようにしなければならない。

1 計画の具現化

本委員会の報告を基に市社会福祉協議会が中心となり、より具体的な拠点施設整備計画づくりが必要である。更に、幅広い福祉分野の中から、黒部市にとって必要なものを選択し集中して取り組むこと、将来を見据えた先行的な視点を取り入れる必要がある。

2 利便性

拠点施設にとって、誰にでも便利であり、使いやすく分かりやすくすることが重要な要素の一つである。公共交通や開館時間、場所については、市民や利用者にとっての利便性を優先に検討していく必要がある。

3 ソフト面の整備

拠点施設となるハード面が整備されたとしても、その役割や機能を担う「人」や「しくみ」などのソフト面が無ければ、地域福祉推進は実現されない。拠点施設整備がされるまでに、然るべき運営体制の整備を着実に進めておく必要がある。

4 財源の確保

拠点施設整備には、大きな財源が必要となってくる。市の地域福祉推進が目的であることから行政の役割として財源措置を検討するとともに、地域福祉推進を目的とする団体である市社会福祉協議会などが運営面を担うことなど、官と民が連携していく必要がある。

資料編

- 1 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会設置要綱
- 2 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会会則
- 3 委員名簿
- 4 関係会議日程
- 5 検討委員会の進め方構成図

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」設置要綱

(趣旨)

第1条 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）が、平成27年度の第10回黒部市社会福祉大会において「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指すための大会決議3項目（Ⅰ人材育成の環境整備 Ⅱ地域福祉推進の場づくりと拠点整備 Ⅲ財源の確保）が承認された。その一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い話し合いのできる場づくり、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(目的)

第2条 地域福祉推進の場づくりと拠点整備について、関係団体や地域住民が連携協働できる場やしくみ、機能的な拠点について検討する委員会を本会にて設置し、第3条に定める事項について協議検討を行う。

また、検討項目を本会会長より委員会へ諮問し、委員会の答申を得て、黒部市へ要望することを目的とする。

(検討事項)

第3条 委員会は次に掲げる事項について検討し、報告書をまとめる。

- (1) 目指すべき地域福祉の姿
- (2) 現在の活動推進拠点についての現状と課題
- (3) 今後求められる新しい拠点のあり方
- (4) 機能的な拠点のあり方
- (5) 拠点の基本計画（コンセプト）

(委員会の設置)

第4条 委員会の運営は会則として別に定める。

- 2 委員会の庶務は、本会総務課において処理する。

(組織)

第5条 本会の委員は15名以内とする。

2 委員は、黒部市社会福祉協議会正副会長会議で検討し、会長が任命する。

3 委員の内、3名は公募委員を募集する。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、平成28年1月28日から平成28年8月30日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(細則)

第7条 この要綱に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成28年1月26日より施行し、平成28年8月30日にその効力を失う。

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」会則

(設置目的)

第1条 「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」設置要綱（社会福祉法人黒部市社会福祉協議会〔以下、「本会」という。〕が設置）に基づき、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い話し合いのできる場づくり、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携協働できる機能的な拠点についてのあり方を検討する「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」（以下、「委員会」という。）設置する。

本会会長が委員会へ検討・協議項目を諮問し、委員会より、協議・検討した事項をまとめ、本会へ報告書をもって答申とすることが目的である。

(検討・協議事項)

第2条 委員会は次に掲げる事項について検討し、報告書をまとめる。

- (1) 目指すべき地域福祉の姿
社協の役割、地域福祉の現状と課題
- (2) 現在の活動推進拠点についての現状と課題
地域福祉を推進する団体の活動拠点の現状調査
黒部市福祉センターの現状と老朽化によるコストや今後の見通し
- (3) 今後求められる新しい拠点のあり方
現在から予想される将来に向けて求められるもの、また必要とされる施設のあり方
- (4) 機能的な拠点のあり方
連携協働を推進するに必要な機能、複合施設等
- (5) 拠点の基本計画（コンセプト）
場所・規模・機能・入居団体等

(組織)

第3条 委員会の委員は15名以内とする。

2 委員は、本会の正副会長会議で検討し、会長が委嘱する。

3 委員の内、3名は公募委員を募集する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、平成28年1月28日から平成28年8月30日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から互選によって定める。

2 委員長は、会務を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(招集)

第6条 委員会は、必要に応じ委員長が招集し、委員長を議長とする。

(議決等)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席した副委員長、委員の過半数でこれを決する。ただし、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 やむを得ない理由により本会に出席できない副委員長等は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前項適用について出席したものとみなす。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、本会総務課において処理する。

(細則)

第9条 この会則に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が委員会の協議をもって定めるものとする。

附則

この会則は、平成28年1月28日より施行し、平成28年8月30日にその効力を失う。

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会 委員名簿

(任期:平成28年1月28日～平成28年8月30日)

№	役職	氏名	選出区分	職名
1	委員長	川端 康夫	企業・商業	黒部商工会議所会頭
2	副委員長	川村 昭一	地域福祉	黒部市社会福祉協議会 副会長
3	委員	家城 香織	子育て世代	保護者
4	委員	岩井 恵澄	子育て支援	保育教育施設経営
5	委員	岩井 憲一	自治振興会	黒部市自治振興会連絡協議会長 三日市自治振興会長
6	委員	沖村 武志	地域福祉	黒部市民生委員児童委員協議会長
7	委員	高本 一恵	女性団体	JAくろべ女性部
8	委員	永井 出	障害者支援	施設経営
9	委員	中 伸之	黒部市	市民生活部長
10	委員	能登麻美子	ボランティア・NPO	黒部市食生活改善推進協議会長
11	委員	古川 和幸	地域活動者	地域活動者
12	委員	吉松 勇	福祉行政有識者	元富山県職員
13	委員	開澤 結城	公募委員	
14	委員	中平 達彦	公募委員	

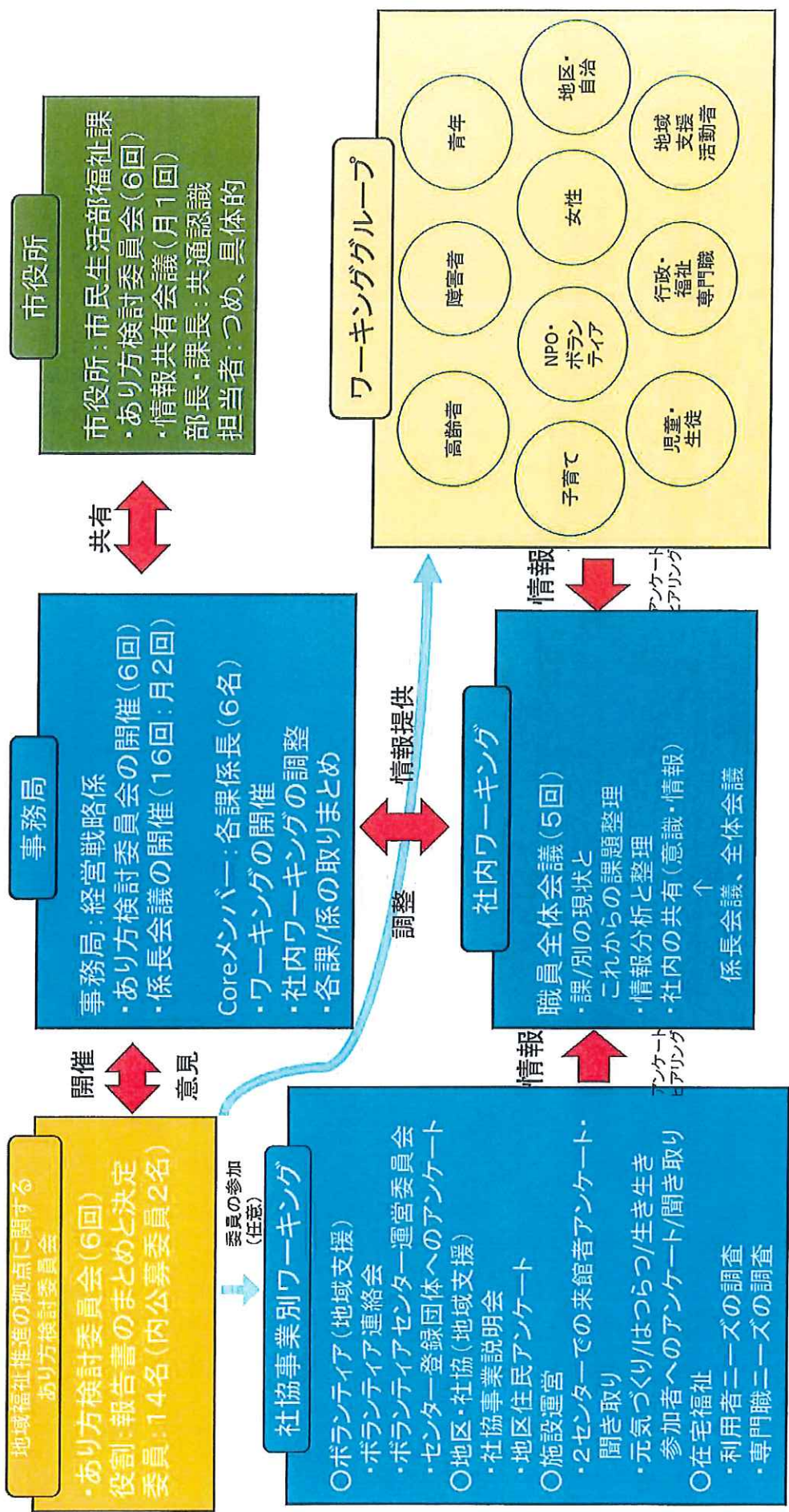
[事務局]

1	事務局長	事務局長/各課長・班長(兼務)	林 高好
2	地域福祉課/施設運営班	主幹/生活支援係長	小倉 博和
3	地域包括支援班	班長補佐	濱松 一美
4	在宅福祉課	課長補佐	宮崎 真佐美
5	地域福祉課	地域支援係長	杉本 歩
6	総務課	経営戦略係長	小柴 徳明
7	在宅福祉課	在宅福祉係長	山瀬 葉月

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会 関係会議日程

会議名	日	時間	場所
地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会			
あり方委員会①	1月28日	19:00	黒部市福祉センター
あり方委員会②	4月12日	19:00	黒部市福祉センター
あり方委員会③	5月25日	19:00	黒部市福祉センター
あり方委員会④	6月14日	19:00	黒部市福祉センター
あり方委員会⑤	7月20日	19:00	黒部市福祉センター
あり方委員会⑥	8月10日	19:00	黒部市福祉センター
黒部市社会福祉協議会職員全体会議/ワーキング			
職員全体会議①	2月16日	18:30	黒部市福祉センター
職員全体会議②	3月15日	18:30	黒部市福祉センター
職員全体会議③	5月17日	18:30	黒部市福祉センター
職員全体会議④	7月12日	18:30	黒部市福祉センター
職員全体会議⑤	8月2日	18:30	黒部市福祉センター
事務局各課係長会議/コアメンバー会議			
各課係長会議①	2月9日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議②	2月23日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議③	3月8日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議④	3月22日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑤	4月5日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑥	4月19日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑦	5月10日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑧	5月24日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑨	6月7日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑩	6月21日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑪	7月5日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑫	7月19日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑬	8月9日	17:00	黒部市福祉センター
各課係長会議⑭	8月23日	17:00	黒部市福祉センター
ワーキング・ヒアリング	随時		
各課・係会議	月一回		
行政との打合せ会議	月一回		
先進地視察	調整中		

あり方委員会の進め方構成図





地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書

発 行 平成 28 年 8 月

編集・発行 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会

事 務 局 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp

(仮称) 新総合福祉会館建設基本構想
報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

拠点施設整備検討部会

(仮称) 新総合福祉会館建設基本構想報告書

目次

I	基本構想策定の背景と目的	1
1	これまでの検討経過	1
2	基本構想の目的	1
II	新総合福祉会館建設の必要性	3
1	黒部市福祉センターの現況	3
2	黒部市福祉センターの問題点	6
3	新総合福祉会館の必要性	6
III	新総合福祉会館の位置づけと役割	8
1	新総合福祉会館の位置づけ	8
2	新総合福祉会館の役割と必要性	8
IV	新総合福祉会館の敷地条件の整理	10
1	建設候補地と敷地面積	10
V	新総合福祉会館建設の基本理念と基本方針	11
1	新総合福祉会館建設の基本理念	11
2	新総合福祉会館建設の基本方針	11
VI	新総合福祉会館の機能・規模	12
1	新総合福祉会館に求められる機能	12
2	拠点整備に関する重点事項(新総合福祉会館の強み)	15
3	新総合福祉会館の規模	20
4	駐車場の規模	28
VII	新総合福祉会館の活用施策と利用想定	29
1	新総合福祉会館の活用施策	29
2	新総合福祉会館の利用想定数	31
VIII	事業費の算定及び工期	34
1	全体事業費の算定	34
2	工期	34
IX	財源	35
1	財源の構成	35
X	今後の検討事項	36
1	今後さらに検討すべき事項	36
XI	まとめ	37
	資料編	38

I 基本構想策定の背景と目的

1 これまでの検討経過

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）が主催する平成27年度の第10回黒部市社会福祉大会において「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指すための大会決議3項目（Ⅰ人材育成の環境整備 Ⅱ地域福祉推進の場づくりと拠点整備 Ⅲ財源の確保）が承認されました。その一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い、話し合いのできる場づくり及び、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」（以下、「委員会」という。）を設置しました。

委員会では、黒部市として必要な関係団体や地域住民が連携協働できる場やしくみ、機能的な拠点について、様々な分野からの委員と公募委員で協議検討を行い、「地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書」をまとめました。

そして、本会ではこれを受け、より具体的な拠点施設の基本構想をまとめるために拠点施設整備検討部会を設置し、（仮称）新総合福祉会館建設基本構想報告書を策定することにしました。

なお、これまでの検討経過の概要は、表1-1のとおりです。

2 基本構想の目的

基本構想では、（仮称）新総合福祉会館の必要性和合意形成及び建設候補地の選定を踏まえ、建設の実現に向けて規模・機能・施設内容・予算（事業費・財源）などの設計与件（設計に向けての条件）とともに、現黒部市福祉センターの機能や今後求められる機能などについても検討し、一定の整理を行います。

具体的な完成時の姿が明確となるのは基本設計段階であり、基本構想では、設計の前提となる基本的な考え方をまとめます。

基本構想の策定にあたっては、本会の理事・評議員から委員を選出して「拠点施設整備検討部会」を設置し、建築の専門家を交え検討を進めます。

表 1-1 (仮称) 新総合福祉会館建設に関する検討経過の概要

年度	日付	事項
平成27年度	7月11日	【第10回黒部市社会福祉大会において大会決議承認】 ・重点3項目 「人材育成の環境整備」「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」 「財源の確保」の実現
	1月28日	第1回 【地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会設置】 ・今後、拠点に求められる役割や機能について協議と検討 ・多様な分野からの委員を選出(6回開催)
平成28年度	4月12日	第2回 【地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会】 ・地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会での協議・検討 検討内容 1. 黒部市の地域福祉の現状把握 2. 今後求められる新しい拠点のあり方 【報告書の提出】 ・地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会が報告書を 社協長へ提出
	5月25日	
	6月14日	
	7月20日	
	8月10日	
	8月23日	
10月25日	第1回 【拠点施設整備検討部会を設置】 ・拠点施設整備検討部会を開催し、意見聴取(4回開催) 協議内容 1. 新総合福祉会館の敷地条件の整理 2. 新総合福祉会館の機能・規模 3. 新総合福祉会館の財源構成 ・近隣施設視察(県内4ヵ所)	
11月17日		
11月18日		
1月16日		
2月27日	第4回	
3月	【報告書の提出】 ・拠点施設整備検討部会長が(仮称)新総合福祉会館建設基本 構想報告書を市長、議長へ提出	

Ⅱ 新総合福祉会館建設の必要性

1 黒部市福祉センターの現況

(1) 立地及び敷地条件

- ・現在の場所は、大布施地区に位置し、大布施公民館と中央児童センターが隣接しています。
- ・国道8号線入善魚津バイパス、黒部ICから県道若栗生地線、国道8号線から利用でき、交通の利便性も高い位置にあります。
- ・平成28年11月7日より、路線バス（南北循環線）が試験運行し、JA北部支店前で、30分間隔で乗車ができるようになり、市街地からの移動、電車、他の路線バスとの乗り継ぎも可能であり、利便性が高い場所にあります。

図 2-1 付近見取り図

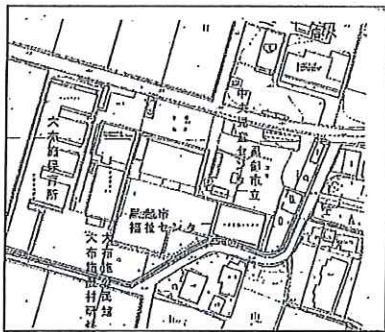


図 2-2 配置図

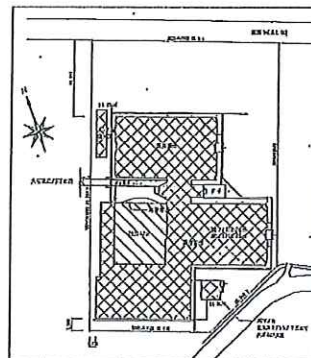
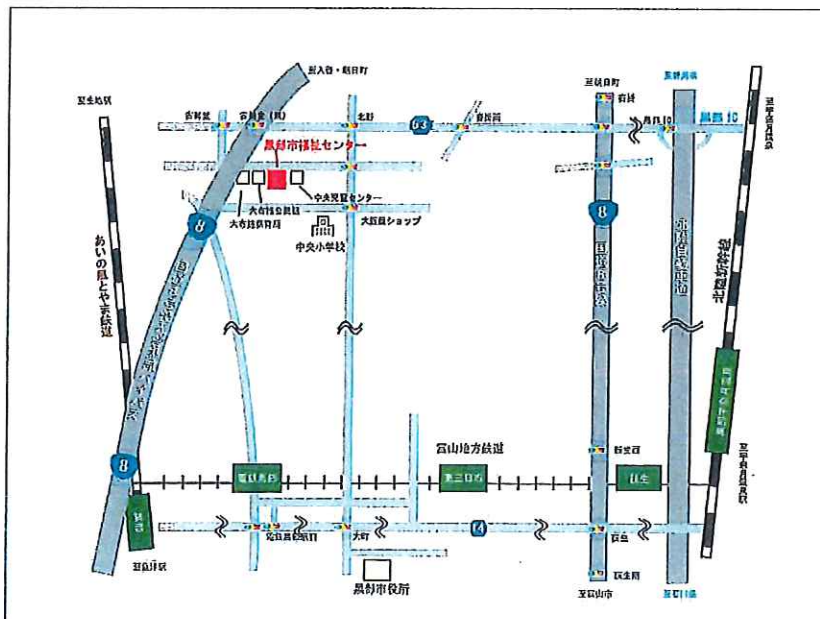


図 2-3 現在の黒部市福祉センター



図 2-4 黒部市福祉センター周辺図



(2) 建物の概要

黒部市福祉センターの建物の概要は、次のとおりです。

また、施設の現況は、表 2-1 のとおりです。

- ・黒部市福祉センターは、昭和 52 年に竣工し、40 年経過しています。
- ・鉄筋コンクリート造、地上 1 階平屋建て、延べ床面積 1,781.97 m²です。
- ・躯体、設備とも老朽化が著しくなっています。
- ・耐震性能についても旧基準の建物であるため、強い地震が発生した場合は、建物本体に大きな損傷を受けることが予想されます。
- ・駐車場は 139 台（うち来客用 65 台）となっています。

表 2-1 黒部市福祉センターの現況

		黒部市福祉センター
位置		黒部市金屋 464 番地の 1
竣工(築後経過年数)		S 52 年 (40 年経過)
敷地面積		4,568.77 m ²
施設規模	構造	鉄筋コンクリート造平屋建
	階数	地上 1 階
延べ床面積		1,781.97 m ²
駐車場		139 台 (うち来客用 65 台)
社協職員数		50 人
現組織機構		総務課 地域福祉課 在宅福祉課
敷地内の付属施設		・食堂「めん処」ひだまり (鉄骨造亜鉛メッキ鋼葺平屋建) ・ポンプ室 (コンクリートブロック造陸屋根平屋建) ・車庫 2 棟 (鉄骨造陸屋根平屋建) ・自転車小屋 2 棟 (鉄骨造平屋建)
施設の入居団体		社会福祉法人にいかわ苑 シェアフィールドひまわり

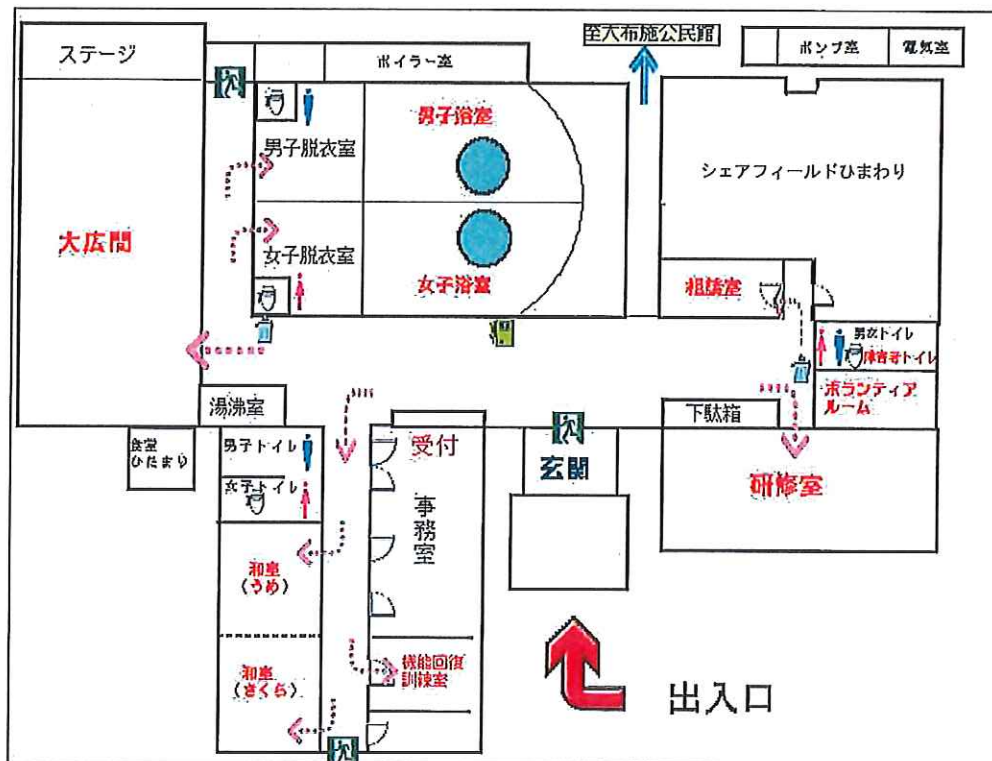
(3) 建物内部配置

黒部市福祉センター内の配置は、次のとおりです。

また、施設の平面図は、図2-5のとおりです。

- ・ 玄関左側に社会福祉協議会の事務室が配置されています。
- ・ 社協事務局機能として、相談室、研修室、ボランティアルームが配置されています。(会議時は、相談室、研修室、和室等を使用しています。)
- ・ 福祉センター機能として、浴室、大広間、和室、機能回復訓練室が配置されています。
- ・ 入居団体として、シェアフィールドひまわり (にいかわ苑：就労継続支援 B 型)、附属施設として、食堂「めん処」ひだまりが配置されています。
- ・ その他、隣接する大布施公民館への連絡通路があります。

図 2-5 黒部市福祉センター平面図 (H28. 4. 1 現在)



2 黒部市福祉センターの問題点

黒部市福祉センターにおける主な問題点を整理すると、以下のとおりとなります。

(1) 施設設備の問題点

①施設・設備の老朽化

- ・黒部市福祉センターは、建築から40年経過しているため、施設や設備の老朽化が著しく、維持管理費がかさんでいます。
- ・黒部市福祉センターは、昭和56年に施行（平成19年一部改正）された耐震基準以前に建設されていることから、災害時の災害支援ボランティアセンター機能確保のため耐震補強などの対策が必要となっています。

②施設整備の状況

- ・黒部市福祉センターは、障がい者や高齢者のためのバリアフリー化^{※1}を含めたユニバーサルデザイン^{※2}への対応が十分ではありません。
- ・高齢福祉施設としての利用が多く、誰もが利用しやすい総合福祉施設としての環境整備が不足しています。

3 新総合福祉会館の必要性

(1) 黒部市福祉センターの老朽化・耐震化への対応

現施設の修繕には年間500万円以上がかかっている状況で、今後10年間に空調設備、ボイラーなど水まわりの修繕などに年間数千万円の予算が必要となることが予想されます。また、耐震基準に対応した施設として安心して利用できる施設に建て替える必要があります。

(2) 多様化する福祉ニーズへの対応

黒部市福祉センターの開設当時は、高齢福祉を中心に老人福祉センター機能（入浴・機能回復訓練・相談・休養）としてその役割を果たして来ましたが、今日、福祉のニーズは多様化し、様々な地域課題や社会課題に対応していくためにも、黒部に住むすべての人々の福祉を支える機能を発揮する施設となる必要があります。

(3) 誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの実現

子ども、障がい者、外国人、少数派（マイノリティー）の人たちにとって、安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりを実現するためには、市民一人ひとりの安心を支えるとともに、市民の意識を高め、福祉への関心と参加、担い手となる人材を増やしていく必要があります。そのためにも新しい拠点施設が黒部市の福祉教育を推進していく中核となり、その学びの機能として人材育成を継続的に行っていく必要があります。

(4) 福祉の相談支援の一元化・専門性の集約

様々な世代、多様な分野の福祉ニーズに対応するには、各種の専門的な支援機能を持ち備えることが必要です。また一拠点にその機能を集約することによって、より横断的に課題解決に取り組む体制を整備する必要があります。

(用語説明)

※1 バリアフリー：段差や仕切りをなくすなど、障がい者や高齢者が日常生活で不便な障害となっていることを除去し、安心して暮らせる環境をつくること

※2 ユニバーサルデザイン：障がい者や高齢者のみならず、すべての人に使いやすいよう、まちや建物、環境などをデザインしていこうという考え方

Ⅲ 新総合福祉会館の位置づけと役割

1 新総合福祉会館の位置づけ

(1) 第2次黒部市総合振興計画における位置づけ

現在、策定作業中である第2次黒部市総合振興計画基本構想（平成30年～39年までの10ヵ年計画）において、これからの地域福祉推進のために必要な拠点として整備計画が位置づけされることが必要不可欠です。

2 新総合福祉会館の役割と必要性

役割と必要性については、黒部市内の様々な分野から委員を選出して協議した「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」において下記のとおり、取りまとめを行いました。

(1) 活動の場の変化

国の施策において、地域包括ケアシステム^{※3}の実現を目指す方向が示される中、今後は、中央の拠点にたくさんの人を集める形から地域を拠点とした小さな集まりをたくさん作り出していく形に変化していくことが予想されます。現在は、中央の拠点、地区、地域でそれぞれ活動の場や事業が実施されていますが、今後は、地区や地域の活動を間接的に支援し、下支えしていく拠点機能が必要になってくると考えます。

(2) 担い手の創出と人材育成

今後、小さな地域単位で多くの活動が実施されていくことが考えられます。その中で、必然的に活動者や支援者を増やしていく必要があり、ボランティアや活動の中心となる地域リーダーなどの担い手を創出していくことなど人材の育成が急務であると言えます。

担い手の掘り起こしと人材育成は、拠点、地区、地域が一体となって取り組むべき課題であり、拠点の機能として、「学びの場」を提供し、新しい担い手を発掘する機能を充実させ、地区や地域などでは活動を通して人材を育成していくという役割分担が必要となってきます。また、福祉専門職や援助者は、福祉サービスを提供する担い手として質の担保や向上を図る場も必要になってくると考えます。

(3) 誰もが集う機会

地域福祉推進の拠点として、地域福祉に関わる人を中心に検討を進める一方で「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまち」の実現には、支援を必要と

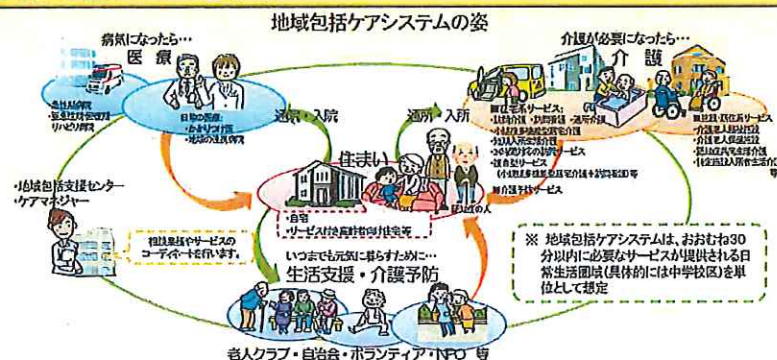
する当事者や利用者または、支援活動者以外の人々にも拠点に来る機会をつくり出し、福祉との関係性を持たせることも重要であると言えます。様々な集いで拠点に訪れる機会をつくることで、知ることや気づきが芽生え、将来的な福祉への理解や協力につながる福祉教育的な拠点の機能を持ち備える必要があると考えます。

(4) 複合的な機能

福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約し、一元化することにより、市民に分かりやすく、利便性が上がるのが考えられます。さらに、福祉の機能を持つ団体や施設などと隣接または併設することで、相乗効果を図ることにもつながります。また、災害が起きた時の災害支援ボランティアセンターなど福祉に特化した機能を持つ拠点が必要であると考えます。

図 3-1 地域包括ケアシステムの概要

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。**
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**



出典：厚生労働省

(用語説明)

※3 地域包括ケアシステム：厚生労働省において、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制のこと（図3-1参照）

IV 新総合福祉会館の敷地条件の整理

1 建設候補地と敷地面積

(仮称)新総合福祉会館の建設基本構想の検討にあたり、建設場所を想定しそれに伴う規模や予算を試算する必要があります。実際に建設されることが市として位置づけされれば、改めて建設場所や規模についての検討が行われるものと考えられます。現段階では市社協として望むべき場所を想定し、そこでの計画づくりを進めていくことにします。

(1) 建設候補地

建設地の選定にあたっては、拠点施設整備検討部会において下記の点を検討した結果、「現行の場所での建て替え」がもっとも実現性が高いと考えます。

- ・現在の黒部市福祉センター規模の敷地を新たに取得するには経費が掛かるため、既存の場所を利用する方法が有効と考えます。
- ・利便性などについても公共交通機関の乗り入れやバスの巡回などでカバーすることができます。
- ・今後、車での来館者は増える見込みがあり、駐車場を大きく確保する必要があります。既存の場所であれば広げること検討できます。
- ・建て替え期間中の市社協事務局については、遊休施設などを活用し、一定期間に移動することも考えられます。

(2) 敷地面積

各部屋の機能を基に必要な面積を積み上げていきますが、全体の敷地面積は現黒部市福祉センターの敷地を上限とし、地上1階平屋建てで検討していくことで考えます。

建設候補地と敷地面積

以上のことから、建設場所を現黒部市福祉センターでの建て替えと想定し、解体費、建設費を試算し、工期などを示します。また、施設の規模についても現敷地面積をベースに行うこととします。

V 新総合福祉会館建設の基本理念と基本方針

先に行われた「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」によって取りまとめられたものを継承し、基本理念・基本方針を設定します。

1 新総合福祉会館建設の基本理念

新総合福祉会館建設基本構想を策定していく上での基本コンセプトを次のように定めます。

「人と地域のしあわせを支える拠点」

市民一人一人のしあわせを支え、一つ一つの地域の福祉を支えます

市民一人一人のしあわせを支え、「やさしい福祉のまち」の実現
これからの地区・地域という単位の活動推進を図る

2 新総合福祉会館建設の基本方針

基本理念に基づき、より具体化した基本方針として、これまでの検討経緯や市民等の意見を踏まえ以下のとおり設定します。

「人が学ぶ」—黒部市一体での人材育成と担い手育成—

「支える」—支援する人を支援する、はざまにいる人を支える—

「つなぐ」—福祉活動の活性化、サービスの充実—

「誰もが集う機会」—福祉教育、知る、触れる機会—

「複合的な機能」—相乗効果を生み出す、利便性向上—

VI 新総合福祉会館の機能・規模

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」及び「拠点施設整備検討部会」で出された導入機能について意見を収集し、新総合福祉会館に導入すべき機能として、検討した結果、以下のとおり整理します。(図6-1)

更に、現行の敷地に合わせた平面図に各機能を満たす部屋割りをを行います。(図6-2)

1 新総合福祉会館に求められる機能

「人が学ぶ」—黒部市一体での人材育成と担い手育成—

今後、活動の主体が地区や地域単位に移行し、小さな単位で多くの活動が実施されていくことが考えられます。そのような中で、最も重要になってくるのが活動を行う「人」であり、「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」という意識やムードを黒部市に浸透させていくことや地域活動者を生み出し育てていくこと、また福祉を支える専門職の質の向上や担保が必要となってきます。拠点、地区、地域が一体となり活動の担い手となる「人」の掘り起こしと育成を行うことが求められるため、拠点ではすべての人に学ぶ場を提供する必要があります。

「支える」—支援する人を支援する、はざまにいる人を支える—

地域福祉推進の担い手は、専門職だけではなくボランティアや支援者、援助者など地域の担い手となる活動者、そして一番身近な家族であり、その人たちを間接的に支えることが大切になってきます。また、制度のはざまにいる人たちや新しい課題に対して支援を必要とする人たちへの支援は、誰もが安心して暮らせる地域の実現に不可欠であります。

「つなぐ」—福祉活動の活性化、サービスの充実—

必要な人やモノ、資金、情報などをつなぐことで活動をスムーズに後押しすることや活性化を図ることができます。また、困りごとがあるとき、制度や専門性をつなぐことで福祉サービスの利便性が向上し、新たなサービスの開発にもつながると考えます。

「誰もが集う機会」—福祉教育、知る、触れる機会—

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、支援を必要とする当事者や利用者または、支援活動者以外の人々にも拠点に来る機会をつくり出します。様々な集いで拠点に訪れる機会をつくることで、知ることや気づきが芽生え、将来的な福祉への理解や協力につながる福祉教育の推進を図ります。

「複合的な機能」—相乗効果を生み出す、利便性向上—

福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約し、一元化することにより、市民に分かりやすく、利便性が向上します。また、福祉の機能を持った施設を隣接又は併設することで、相乗効果が図られます。さらに、災害が起きた時の災害支援ボランティアセンターなど福祉に特化した拠点としての機能を併せもつ必要があります。

図 6-1 あり方検討委員会報告から新総合福祉会館に求められる機能整理

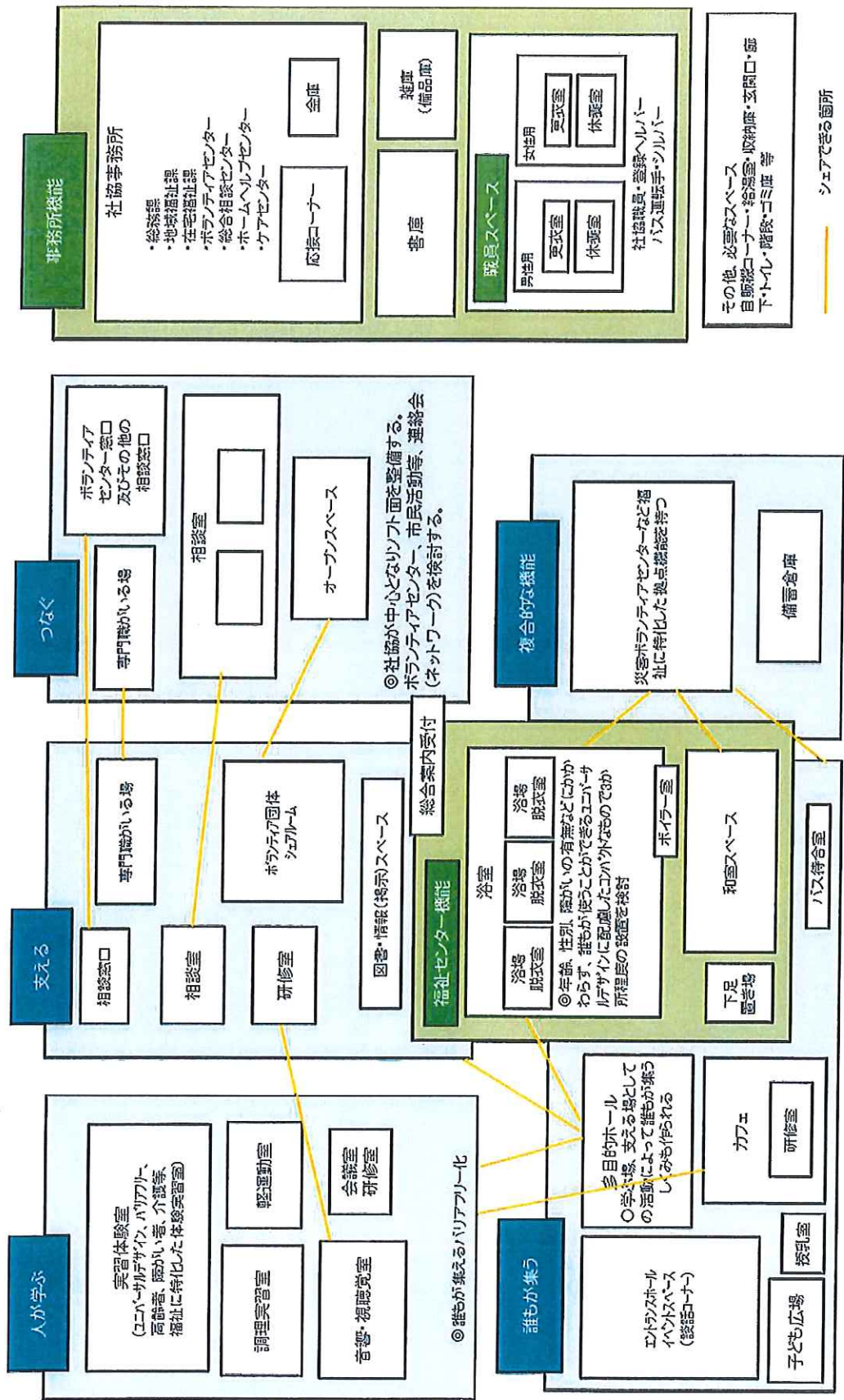
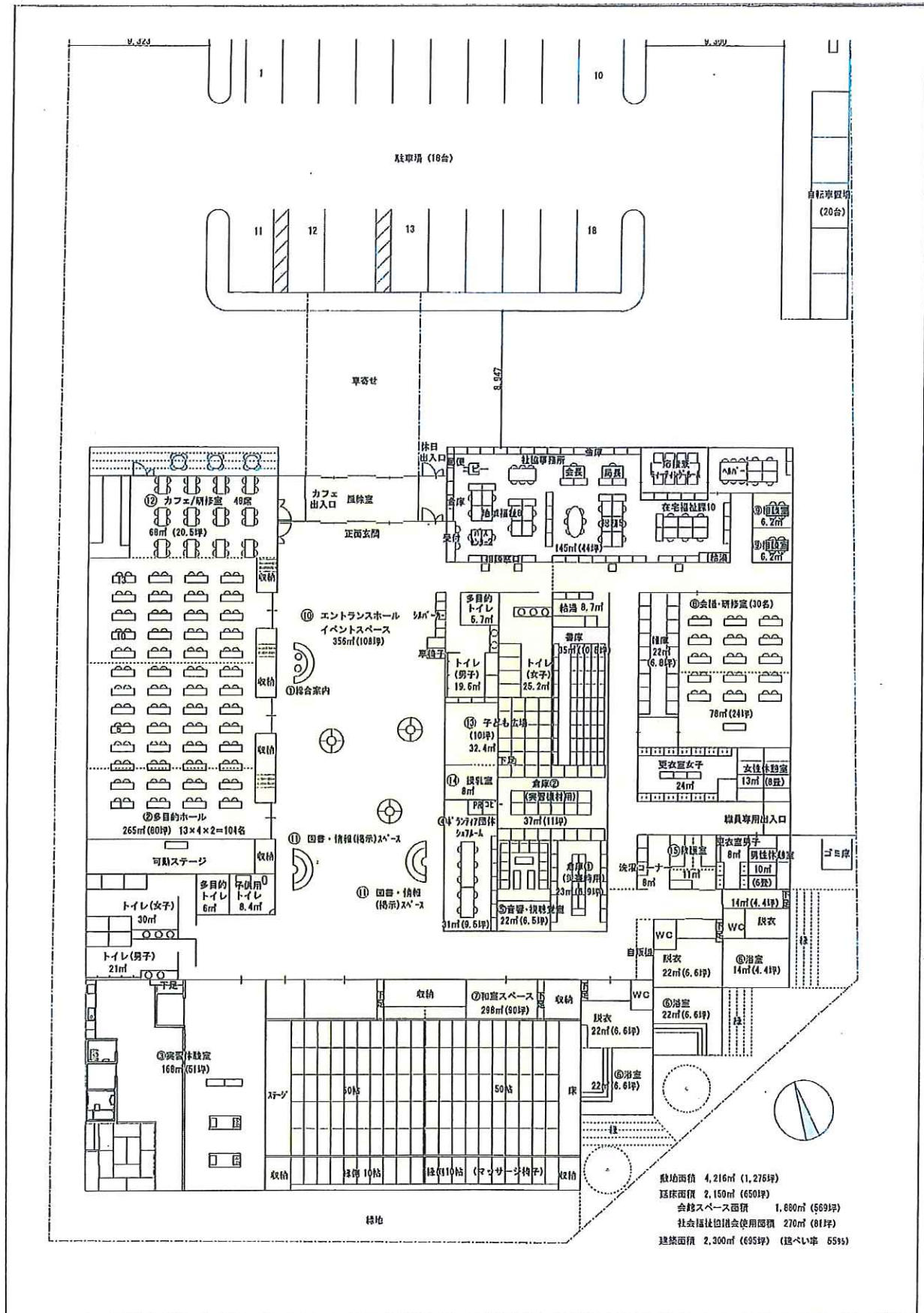


図 6-2 新総合福祉会館平面図



2 拠点整備に関する重点事項（新総合福祉会館の強み）

新総合福祉会館では他の公共施設とは異なる強みを持ち、これからの黒部市のまちづくりを推進していく拠点となる必要があることから以下の4点について重点的に検討と議論を行いました。

（1）機能面

①福祉教育の拠点（P16 参照）

「地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書」にも位置づけされている「人が学ぶ」拠点、黒部市一体での人材育成と福祉教育を推進していくための中心となる研修と疑似体験^{※4}などが一元的に行うことができる唯一の拠点となります。

②災害時支援の拠点（P17 参照）

災害時に災害支援ボランティアセンターの拠点となる役割を果たし、地域住民の生活支援やボランティアの受け入れとマッチングなどがスムーズに行える災害時支援の拠点となります。また、避難行動要支援者、災害弱者となる人々への支援物資や機能を持ち備え、緊急時にも誰もが安心して暮らせる生活面を支えます。

（2）活用面

①入浴場の利活用（P18 参照）

今後の人口動向や地域情勢を勘案しながら規模を縮小するものの既存の福祉センター機能を有しながら、幅広い層が入浴施設を活用できるようにすること、様々な目的に合わせ、利活用できる入浴場となります。

入浴場の縮小と必要性については、資料編にある「黒部市福祉センターの入館者の動向に関する現状調査」に基づいて検討しました。

②変化・共有（シェア）（P19 参照）

建設後40年間の利活用を考える中で、時代の変化に合わせた対応ができるよう、一つの部屋や空間を固定化せず、様々な目的や時間に応じて共有し、稼働率の向上につなげます。

（用語説明）

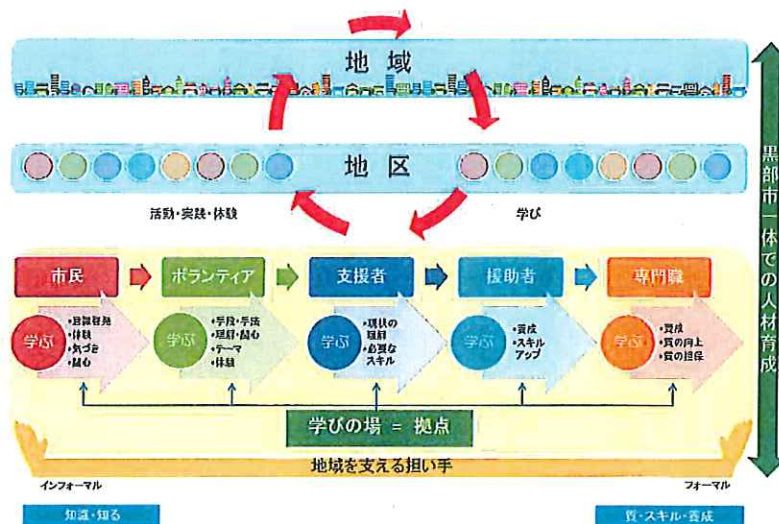
※4 疑似体験：疑似体験装具（ヘッドホーンや特殊眼鏡、手足の重りなど）を装着して日常生活動作を擬似的に体験することにより、高齢者、障がい者の気持ちや介護方法、コミュニケーションの取り方を体験的に学ぶこと

【福祉教育の拠点】

「地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書」にも位置づけされている人が学ぶ拠点、黒部市一体での人材育成と福祉教育を推進していくための中心となる研修と疑似体験などが一元的に行うことができる唯一の拠点となります。

(具体的イメージ)

- ・ 児童生徒の福祉体験
 - ダイアログインザダーク^{※5} (暗闇体験)、高齢者疑似体験
 - 視覚障害疑似体験、バリアフリー、ユニバーサルデザインルーム
- ・ 福祉専門職のスキルアップ研修／実技講習
 - 介護職員研修
 - 福祉関係職員研修・福祉連携研修
- ・ 地域住民向け研修
 - 地域リーダー養成研修
 - 家族介護実習



(用語説明)

※5 ダイアログインザダーク：日常生活の様々な事柄を暗闇の空間で、聴覚や触覚など、視覚以外の感覚を使って体験するエンターテインメント形式のワークショップ

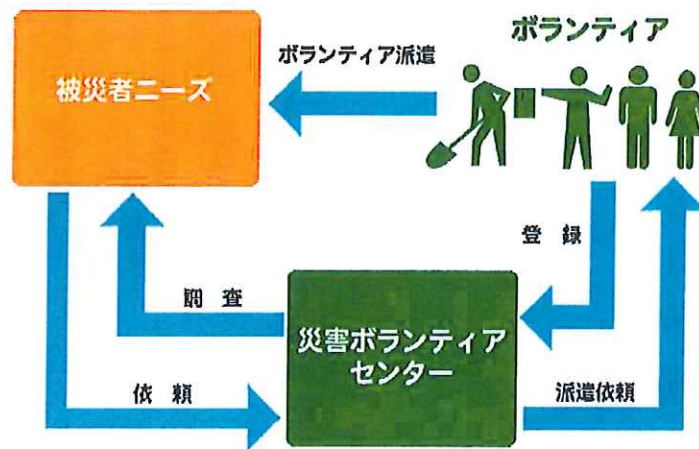
【災害時支援の拠点】

災害時に災害支援ボランティアセンターの拠点となる役割を果たし、地域住民の生活支援やボランティアの受け入れとマッチングなどがスムーズに行える災害時支援の拠点となります。また、避難行動要支援者、災害弱者となる人々への支援物資や機能を持ち備え、緊急時にも誰もが安心して暮らせる生活面を支えます。

○黒部市社会福祉協議会は、災害発生時において黒部市と協議し必要に応じ、ボランティアなどを受け入れる「災害支援ボランティアセンター立ち上げマニュアル」を策定しており、その役割を果たすことを位置付けています。

(具体的イメージ)

- ・ 災害支援ボランティアセンター ※6
- ・ 災害救援物資の受け入れとストックヤード
- ・ 災害復興の生活支援の相談機能



(用語説明)

※6 スtockヤード：一時的に保管しておく場所

【入浴場の利活用】

今後の人口動向や地域情勢を勘案しながら規模を縮小するものの既存の福祉センター機能を有しながら、幅広い層が入浴施設を活用できるようにすること、様々な目的に合わせ、利活用できる入浴場となります。

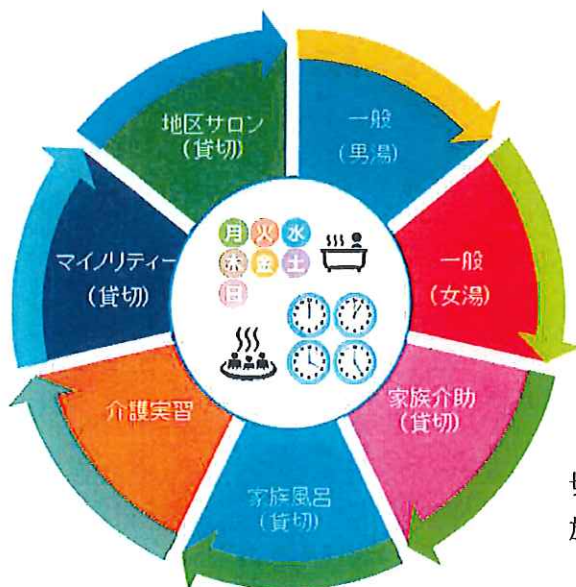
入浴場の縮小と必要性については、資料編にある「黒部市福祉センターの入館者の動向に関する現状調査」に基づいて検討しました。

(具体的イメージ)

- ・ 家族介助ができる浴場 (貸切利用)
- ・ 少数派 (マイノリティー) の方への福祉サービス
- ・ 研修／実習に利用できる浴場
- ・ 災害時の支援施設 (ボランティア、生活支援) として活用
- ・ 既存の老人福祉センターとしての入浴場利用



浴室 (介護用) のイメージ



時間別利用状況例

	浴室A	浴室B	浴室C
朝	一般浴	一般浴	個浴
↓	貸切	貸切	実習
夜	一般浴	一般浴	特浴

曜日、時間帯によって、通常利用と貸し切り対応とを区分し、幅広い年代の方、家族、団体に利用することが可能です。

【変化・共有（シェア）】

建設後 40 年間の利活用を考える中で、時代の変化に合わせた対応ができるよう、一つの部屋や空間を固定化せず、様々な目的や時間に応じて共有し、稼働率の向上につなげます。

（具体的イメージ）

- ・ ボランティア団体シェアルーム

黒部市内のボランティア約 60 団体が、共有して事務作業やミーティングなどを行うことができます。



ボランティアシェアルームのイメージ

- ・ エントランスホール／イベントホール

エントランスホールは、移動可能な椅子や展示物を移動させることでフラットなスペースとなり、大規模なイベントの開催も可能になります。



イベントホールのイメージ

- ・ カフェ／研修室／巡回バスの待合室 ※7

カフェは、館内のケータリングサービスや研修スペースとしても活用できます。また、入り口近くに併設することで、今後検討しているバスの待合室としての機能も果たすことができます。



カフェ/研修室のイメージ

- ・ 将来的な他の関係機関との複合等

将来的に新たな事務局、事業拡大などにより入居スペースが必要となった場合、会議・研修室などを活用することが考えられます。

（用語説明）

※7 ケータリングサービス：イベントやパーティー時に顧客の指定する元に出向いて食事を配膳、提供するサービス

3 新総合福祉会館の規模

(1) 会館スペース ー機能配置の考え方ー

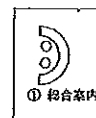
導入機能に関しては、「学ぶ」「支える」「つなぐ」「誰もが集う機会」「複合的な機能」の5機能を基本とし、新総合福祉会館における会館スペースを整理します。

なお、会館スペースの機能分類を表6-1にまとめます。

会館スペース

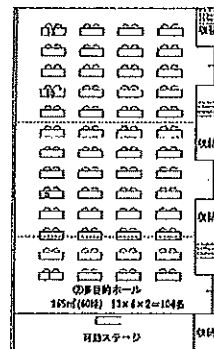
①総合受付

- ・入館案内、ガイダンスができる機能を充実させ、迷わず、安心して館内利用ができる総合窓口を設置します。
- ・インフォメーションはディスプレイ化して、情報を掲示し、その他、館内案内図は点字版を設置します。



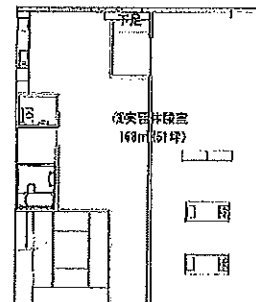
②多目的ホール

- ・学びが目的の養成講座、セミナーの開催ができる場としての機能と、人が集まるイベントの開催会場として、さらには災害時のボランティアセンターの拠点としても活用できる多目的ホールとします。
- ・使用目的に併せて、可動式のステージ、テーブル、イス等を設置し、学校形式で最大100名程度収容が可能なホールとします。
- ・パーティションで仕切ること、分割して使用できます。また、カフェとの境界も開閉式の壁とし、その場合、最大50名分広く使用できます。



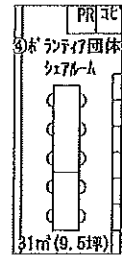
③実習体験室

- ・幅広い年齢層を対象とし、福祉の体験実習を通して、福祉の学びの場としての機能を果たします。幼少期から福祉に触れ、体験できる学びの場として、また、支援者・援助者・専門職のスキルアップ、質の向上につながる学びの場として活用でき、その体験が人を育て、活動の担い手の発掘にもつながると考えます。
- ・福祉の体験実習機能の他、調理スペースとして、システムキッチンを設置し、料理教室等にも使用できます。



④ ボランティア団体シェアルーム

- ・市内で活動するボランティア団体が自由に共有できる部屋として貸出します。
- ・事務作業やミーティングが可能で、その他、ボランティア団体毎に使用できる収納ロッカーを設置し、年間登録制等、使用方法も検討します。



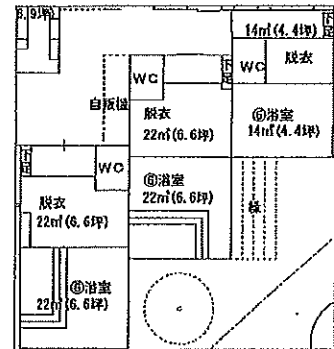
⑤ 音響・視聴覚室

- ・音響と防音環境を備え、市民に貸出できる部屋とします。
- ・防音設備を備えることで、音訳ボランティア団体を支え、更には、音楽活動等のサークル活動者が集う場としての機能も果たします。



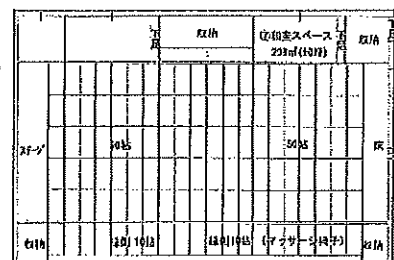
⑥ 浴室

- ・従来からの入浴者以外に、家族介護者を支える場、障がい者や子育て支援ができる場、介護職員の学びの場として、高齢者向けの浴室という考え方から、誰もが集える浴室として設置します。
- ・ユニバーサルデザインに配慮したコンパクトな浴場を3カ所（7：7：5人用程度）設置し、うち1カ所は家族介助や介護実習ができる機能を有する福祉に特化した浴室とします。
- ・利用時間や貸し切りの時間帯を設けるなど、利用者の年齢幅を広げ、運営方法も検討します。



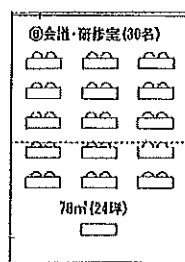
⑦ 和室スペース

- ・浴室機能に併せ、休憩ができる和室（畳の間）を設けることで、誰もが自由にくつろぐことができます。また、囲碁・将棋等、趣味を楽しむ場、イベント開催の場としても使用できます。
- ・2部屋（50畳）に仕切れ、多機能に使用できます。
- ・災害時のボランティアセンターの拠点としても畳の間は機能性が高く、必要スペースと考えます。



⑧会議・研修室

- ・会議の場、研修の場として利活用し、地域リーダー養成研修等、学びの場としての機能、社協の職員会議も含め、誰もが集える場としてシェアできる部屋とします。
- ・仕切り壁で2分割にして使用できるものとします。



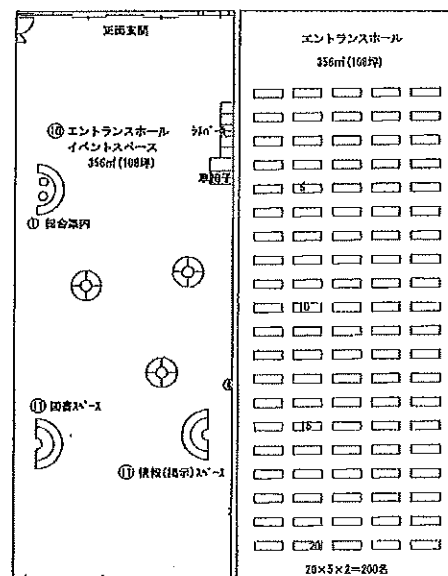
⑨相談室

- ・市民が相談等で気軽に来館できるよう、個室化し、相談者のプライバシーに配慮します。
- ・少数（4人程度）で利用できる個室とします。また、少数での社内ミーティングも行えます。



⑩エントランスホール／イベントスペース

- ・誰もが気軽に立ち寄れる空間を演出し、そこにきて、目にする人、モノとの触れあい、そこからの気づき、福祉への関心、学びが生まれることが期待できます。
- ・通常は、ベンチ等を設置し、図書スペース、休憩スペースとして活用できるくつろぎ空間として利用できベンチ等を移動させることで、200人収容可能な大きなイベントも開催できるスペースが確保できます。



⑪図書・情報（掲示）スペース

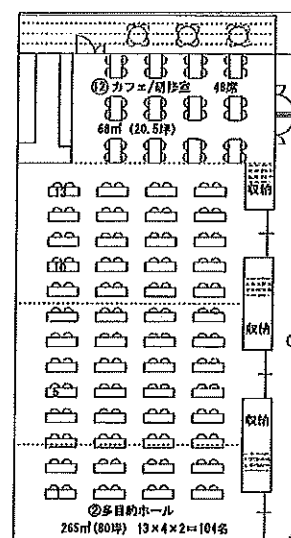
- ・福祉に関するあらゆる情報が分かり、個々に必要となる情報提供が、支援者を支えるきっかけ、場づくりとなります。また、福祉に関わる専門書を設置し、学びの場としての利用もできる機能を備えます。
- ・図書スペースの図書は市図書館の団体貸出サービス^{※8}を利用し、定期的^{※8}に本の入れ替えを行い、移動図書館的な役割を果たします。

(用語説明)

※8 団体貸出サービス：個人貸出以外に、保育所、幼稚園、学校、公民館、病院、事業所、ボランティア団体などの団体に貸出しているサービス

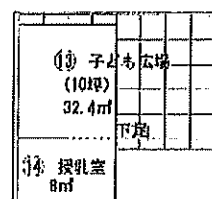
⑫カフェ／研修室

- ・会館正面の出入り口付近に設置し、来館目的、利用年齢の幅を広げ、通常は、カフェとして誰もが気軽に立ち寄れる空間として、さらには、研修の場、会合の場、相談の場など、多機能に利用できる場とします。また、イベント時は貸し切りで会場利用ができ、イベントの開催も積極的に企画できます。
- ・50名程度収容できるスペースを設け、バスの待合室機能としても併用できます。
- ・多目的ホールとの境界を開閉式の壁とし、収容人員の拡大を広げ、イベント時のケータリングサービスにもスムーズに対応できます。



⑬子ども広場

- ・外出時や入浴後の休憩場所としての利用を主とし、その他貸し切りで子育てサークル活動の場としての使用や、保護者がイベントや研修に参加しやすいよう予約制の託児所機能も果たせます。
- ・乳幼児が横になって休める畳の間と、プレイマットスペースを設置します。



⑭授乳室

- ・授乳スペース、給湯設備、乳児用ベッドを設置し、子育て世代が集いやすい環境づくりに配慮します。
- ・子ども広場から行き来しやすい位置とします。

⑮救護室

- ・浴場施設等もあることから、急に気分が悪くなった方、ケガをされた方を一時的に救護する部屋とします。
- ・急患者の対応として、2名程度が休める簡易ベッド、救急用品を設置します。

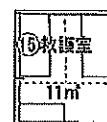


表 6-1 会館スペース機能分類

名称	機能	人が学ぶ	支える	つなぐ	誰もが集う	複合的な機能
会館スペース	① 総合受付			○		
	② 多目的ホール	○			○	○
	③ 実習体験室	○				○
	④ ボランティア団体シェアルーム		○	○		
	⑤ 音響・視聴覚室	○	○		○	
	⑥ 浴室	○	○		○	○
	⑦ 和室スペース				○	○
	⑧ 会議・研修室	○			○	
	⑨ 相談室		○	○		
	⑩ エントランスホール/イベントスペース	○			○	○
	⑪ 図書・情報（掲示）スペース	○	○			
	⑫ カフェ/研修室	○			○	○
	⑬ 子ども広場				○	
	⑭ 授乳室				○	
	⑮ 救護室		○			○

(2) 事務所スペース -機能配置の考え方-

社協の事務局機能として、市の人口の増減や政策等により組織体制や職員数は常に変動するため、長期での組織体制を予測することは非常に困難です。そこで、新総合福祉会館における組織体制及び勤務する職員等は、現行に置き換えて想定することとします。

黒部市社会福祉協議会における組織体制の想定 : 3 課 黒部市社会福祉協議会に勤務する職員等の数の想定 : 50 人 (非常勤職員含む) 注) 東部地域包括支援センター職員、宇奈月老人福祉センター職員は除く

表 6-2 組織体制 (H28.4.1 現在)

課	係/班
総務課	法人運営係、経営戦略係、施設運営班
地域福祉課	共生推進係、生活支援係、地域支援係、地域包括支援班
在宅福祉課	在宅福祉係、居宅訪問介護係、居宅介護支援係

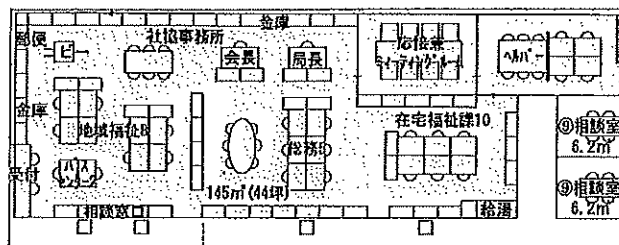
事務所スペース

①社協事務所

- ・窓口はオープンカウンター方式とし、来館者と職員とがコミュニケーションをとりやすいものとします。
- ・地域に関わる専門職員が多い部署（地域福祉課）を窓口付近に配置し、部署間の仕切りは作らず、ワンストップで効率よく対応できるものとします。
- ・将来の組織変更にも柔軟に対応できるレイアウトや設備計画を検討します。

②応接兼ミーティングルーム

応接及び社内ミーティングの場として事務所内に設置します。



③書庫

保管書類、必要書籍等を部署毎に区分し、保管します。

④雑庫（備品庫）

共同募金資材、事務用品等を保管します。



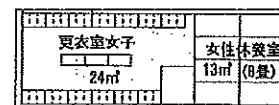
⑤休養室

職員が休養できるスペースを男女別に設置します。



⑥更衣室

職員が更衣できるスペースを男女別に設置します。



(3) その他スペース - 機能配置の考え方 -

その他として、以下のものが上げられます。

その他スペース

自販機コーナー、給湯室、洗濯コーナー、倉庫（災害時備蓄用、実習機材用）、玄関、風除室、廊下、トイレ（男性用、女性用、多目的、子供用）他

(4) 各部屋等の必要面積

各部屋、スペースの必要面積を仮レイアウトによる想定で求め、新総合福祉会館必要面積を算定します。

表 6-3 各部屋等の必要面積

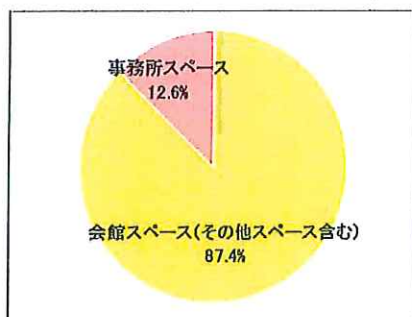
会館スペース				
室名	収容人員	必要面積		備考
①総合受付				
②多目的ホール	100 人	265 m ²		3室に分割できる
③実習体験室	50 人	168 m ²		調理室機能含む
④ボランティア団体シェアルーム	10 人	31 m ²		
⑤音響・視聴覚室	10 人	22 m ²		防音
⑥浴室（脱衣室含む）	1室7人	116 m ²		3室
⑦和室スペース	60 人	298 m ²		2室に分割できる
⑧会議・研修室	30 人	78 m ²		
⑨相談室	1室4人	12.4 m ²		2室
⑩エントランスホール／イベントホール	200 人	356 m ²		
⑪図書・情報（掲示）スペース				エントランスホールの一面に配置
⑫カフェ／研修室	50 人	68 m ²		多目的ホールとつながる
⑬子ども広場	親子5組	32.4 m ²		
⑭授乳室	親子2組	8 m ²		
⑮救護室	2 人	11 m ²		
小計		1,466 m ²		
事務所スペース				
社協事務所	30 人	145 m ²		3課で想定
応接兼ミーティングルーム	8 人	12.6 m ²		
書庫		35 m ²		
雑庫		22 m ²		
休養室		23 m ²		男女各1室
更衣室		32 m ²		男女各1室
小計		270 m ²		
その他スペース				
その他スペース		414 m ²		廊下・トイレ・倉庫 など
合計		2,150 m ²		

(5) 会館スペースと社協事務所スペースの面積

現黒部市福祉センターの延床面積は、計 1,781.97 m²で、新総合福祉会館の延床面積は 2,150 m²で、その内訳は、会館スペース部分（その他スペース含む）が 1,880 m²、社協事務所スペース部分が 270 m²とします。

機能用途別の面積割合は、新施設の核となる会館スペース（地域福祉推進の拠点機能）は全体の約 9 割を専有し、社協事務所スペースが全体の 1 割程度専有すると考えられます。（表 6-4）

表 6-4 新会館の延床割合面積



(その他スペース)

自販機コーナー、給湯室、洗濯コーナー、
倉庫（災害時備蓄用、実習機材用）、
玄関・風除室、廊下、トイレ 他

多目的ホール、和室スペースなどは共有が可能であるため、可能な限り会館の共有化を図るなど効率的に活用します。

共有可能スペース

- | | | |
|--------------------|----------|----------|
| ・多目的ホール | ・実習体験室 | ・音響・視聴覚室 |
| ・和室スペース | ・会議・研修室 | ・相談室 |
| ・エントランスホール／イベントホール | ・カフェ／研修室 | 等 |

4 駐車場の規模

現在、駐車場は、黒部市福祉センター側に 21 台、中央児童センター側に 18 台、黒部市福祉センター、大布施保育所、シェアフィールドひまわり、中央児童センター職員と来訪者共用駐車場として大布施保育所向かい側に 100 台の計 139 台駐車可能とされています。その他として、隣接する大布施公民館に 9 台駐車できます。現状の利用率からみても、現状と同様のスペースの確保が必要と想定されます。

新総合福祉会館において、来館者用、公用車用および職員用のそれぞれについて検討する必要があります。

①来訪者用駐車場

来館者の交通手段は、自動車利用が多く、新総合福祉会館の収容人数は、最大で 200 人を想定しています。福祉巡回バス、試験運行中の路線バス（南北線）の利用も考え、自動車利用率を 0.5 とし、玄関前に駐停車できるロータリー、障がい者用の区画を確保し、来訪者用駐車台数は 100 台と想定します。

②公用車駐車場

社協が保有する公用車は、現在 19 台であり、うち 3 台は東部地域包括支援センターで使用、福祉バス 2 台は専用車庫の設置があるため、全 14 台分は必要と考えます。但し、将来の統合も視野に入れ、台数の増加を想定し公用車駐車台数は 20 台と想定します。

③職員駐車場

交通手段として全職員が自家用車での通勤のため、常勤職員数 27 台分は必要と考えます。但し、将来の統合も視野に入れ、台数の増加を想定し職員用駐車台数は 35 台と想定します。

【想定駐車台数】

来館者用 100 台＋公用車用 20 台＋職員用 35 台＝155 台

Ⅶ 新総合福祉会館の活用施策と利用想定

1 新総合福祉会館の活用施策

(1) 福祉教育プログラムの体系化

現在行っている児童生徒（市内小学校・中学校・高校・総合支援学校）に対しての福祉教育プログラムは、職員が各学校に訪問し、講義や疑似体験等を行う形をとっています。新総合福祉会館が出来ることによって、福祉教育に関する様々な疑似体験等を本格的に体験出来る実習スペースを設け、学校から児童生徒をバスで送迎し、このプログラムを体験してもらうことができます。

今後は、市教育委員会とも協議を進め、黒部市独自の児童生徒に「福祉の心」を育む福祉教育プログラムの開発を行います。

○将来的利用想定

①市内小学校 1・2・3年生

ユニバーサルデザイン・バリアフリー体験

②市内小学校 4・5・6年生

高齢者疑似体験

ダイアログインザダーク（暗闇体験）

③市内中学校/高校/支援学校

介護実習体験

ダイアログインザダーク（暗闇体験）

ユニバーサルデザイン開発実習

※各事業は経年で対象学年を増やしていく予定



高齢者疑似体験を行う市内小学生



車いす体験を行う市内小学生

(2) 各地区社会福祉協議会（自治振興会）との連携事業

国の施策でもある地域包括ケアシステムの実現を目指す方向が示される中、今後は、中央の拠点にたくさんの人を集める形から地域を拠点とした小さな集まりをたくさん作り出していく形に変化していくことが予想されます。将来的には市内の各町内単位（130 町内）でのサロン（地域での集いの場/小地域福祉活動の拠点）が立ち上がり、必然的にその活動を支えるための活動者や支援者を増やしていくリーダー養成研修が必要です。また、サロン活動にバスを使用して、各町内から送迎を行い、新総合福祉会館での活動（体操、体験講座など）と入浴などを組み込んだプログラムづくりを進めます。

○将来的利用想定

①地域支援ボランティア養成研修

地域活動ボランティアの掘り起こし

②地域支援リーダー養成研修

初級編・中堅編・リーダー編

③サロン活動利用

各町内単位のサロン活動での利用

※9

(3) 公共交通機関のハブ機能

現在、試験運行されている路線バス（南北循環線）や既存の地区巡回を行っている福祉センターバスで市内の公共施設や主要施設に乗り換えを行うことによって移動することができるようになります。新たな拠点にハブとなるバス停留所をつくることによって、今後の市民の移動手段としての機能を充実していくことができます。

○将来的利用想定

①市内循環バスへの乗り換え者

②地区巡回バスの利用者増

③休憩所、待合所としての場

(用語説明)

※9 ハブ：交通結節点ともいい、複数の同種あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所、複数の交通モード間の不連続点のこと

2 新総合福祉会館の利用想定数

(1) 現黒部市福祉センターの事業実績及び利用者数

現在の黒部市福祉センターの施設利用者は、①既存事業の実績(入館料あり)と社協実施事業、会議、研修、ボランティア活動等の施設利用である②既存事業の実績(入館料なし)があります。新総合福祉会館が建設された場合、近隣の施設などで開催していた事業など③既存事業で新総合福祉会館で移行できるものをまとめた事業実績、利用者数は表7-1のとおりです。

表7-1 既存の社協事業実績及び会館建設後の年利用者数(想定)

①既存事業の実績(入館料ありの利用) ※平成28年度見込み

分類	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
施設利用	入館料ありの利用						28,000
(内訳)							
社協事業	元気はつらつ体操教室	介護予防	和室	高齢者	30	180	5,400
社協事業	元気づくり事業(一般高齢者介護予防学級)	介護予防		高齢者			2,000
社協事業	敬老会事業(8地区実施)	委託	大広間	高齢者	115	8	920
社協事業	募金箱を作ろう教室	工作体験	大広間	市内小学生	100	1	100
一般利用	入浴/休憩(飲食含む)	入浴・休憩	大浴場・大広間				19,580

②既存事業の実績(入館料なしの利用)

分類	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
施設利用	入館料なしの利用						1,970
(内訳)							
社協内部	各課定例会(総務課・地域課・在宅支援課)	会議	相談室	社協職員	20	30	600
社協内部	社協職員全体会議	会議	研修室	社協職員	30	5	150
社協事業	視察・訪問等	視察	館内	関係者	20	5	100
社協事務局事業	黒部市ボランティア部会長会議	会議	相談室	ボランティア部会	12	5	60
ボランティア	黒部リーディング(音頭ボランティア)	ボランティア	ボランティアルーム	会員	5	20	100
ボランティア	演芸ボランティア	ボランティア	大広間	会員	10	96	960

現在の福祉センター利用者数 ①+②= 合計 29,970

③既存事業で新総合福祉会館で移行できるもの

分類	名称	利用目的	現在の利用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
							1,830
(内訳)							
会議内部	社協役員会等	会議	大布控公民館会議室	社協役員	20	20	400
社協事業	各種研修・会議	会議研修	大布控公民館/コラレ	関係者	20	10	200
社協事務局事業	市民生委員児童委員理事協議会	会議	大布控公民館会議室	民生委員	20	11	220
社協事務局事業	市民生委員児童委員研修会	研修	市民会館	民生委員	110	1	110
社協事務局事業	市民生委員児童委員研修会	総会	市内ホテル	民生委員	120	1	120
社協事務局事業	黒部市ボランティア連絡会	会議	大布控公民館会議室	ボランティア団体	40	2	80
社協事務局事業	黒部市ボランティア部会総会	総会	市民会館	会員	200	1	200
社協事務局事業	ボランティア部会友愛セール	イベント	市民会館	一般市民	500	1	500

会館建設後の利用者数(想定) ①+②+③= 合計 31,800

(2) 新総合福祉会館における新規事業及び利用想定数

新総合福祉会館の建設に伴って、現在実施している事業の充実及び新規事業の実現が可能となります。また、機能の充実によって、来館者が増えることが予想されます。

④新しい拠点で実施できる新たな事業、また今後、⑤新しい拠点で実施できる新たな事業（複合的な利用）として予想される全会館利用者数を表7-3にまとめたものです。

表7-3 新総合福祉会館における新規事業及び年利用者数（想定）

④新しい拠点で実施できる新たな事業

分類※5つの機能	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
							10,000
(内訳)							
人が学ぶ	福祉教育実習	福祉教育	実習体験室	小中学生	30	20	600
人が学ぶ	福祉専門職研修	研修	カフェ/研修室	専門職	20	6	120
人が学ぶ	地域リーダー養成研修	研修	会議室	地域住民	30	4	120
支える	学習支援事業	支援	会議室	学習支援者	15	6	90
支える	福祉関係団体への貸部屋	活動支援	会議室	福祉団体	10	50	500
支える	ボランティアシェアルーム	活動支援	ボランティアルーム	ボランティア団体	10	50	500
つなぐ	介護・障害等の家族交流の場	支援	カフェ/研修室	家族	10	7	70
つなぐ	なんでも相談会	支援	相談室/会議室	一般市民	50	4	200
つなぐ	認知症カフェ	支援	会議室	当事者/家族	20	12	240
誰もが集う	地区サロン活動での利用	活動支援	大広間/浴場	地域住民	20	48	960
誰もが集う	学習広場(無料開放)	活用	カフェ/研修室	中高生	15	160	2,400
誰もが集う	多目的ホールでのイベント誘致 中規模	活用	多目的・エントランス	団体・企業	200	6	1,200
誰もが集う	多目的ホールでのイベント誘致 大規模	活用	多目的・エントランス	団体・企業	500	6	3,000

会館建設後の利用者数(想定) ①+②+③+④= 合計 41,800

⑤新しい拠点で実施できる新たな事業(複合的な利用)

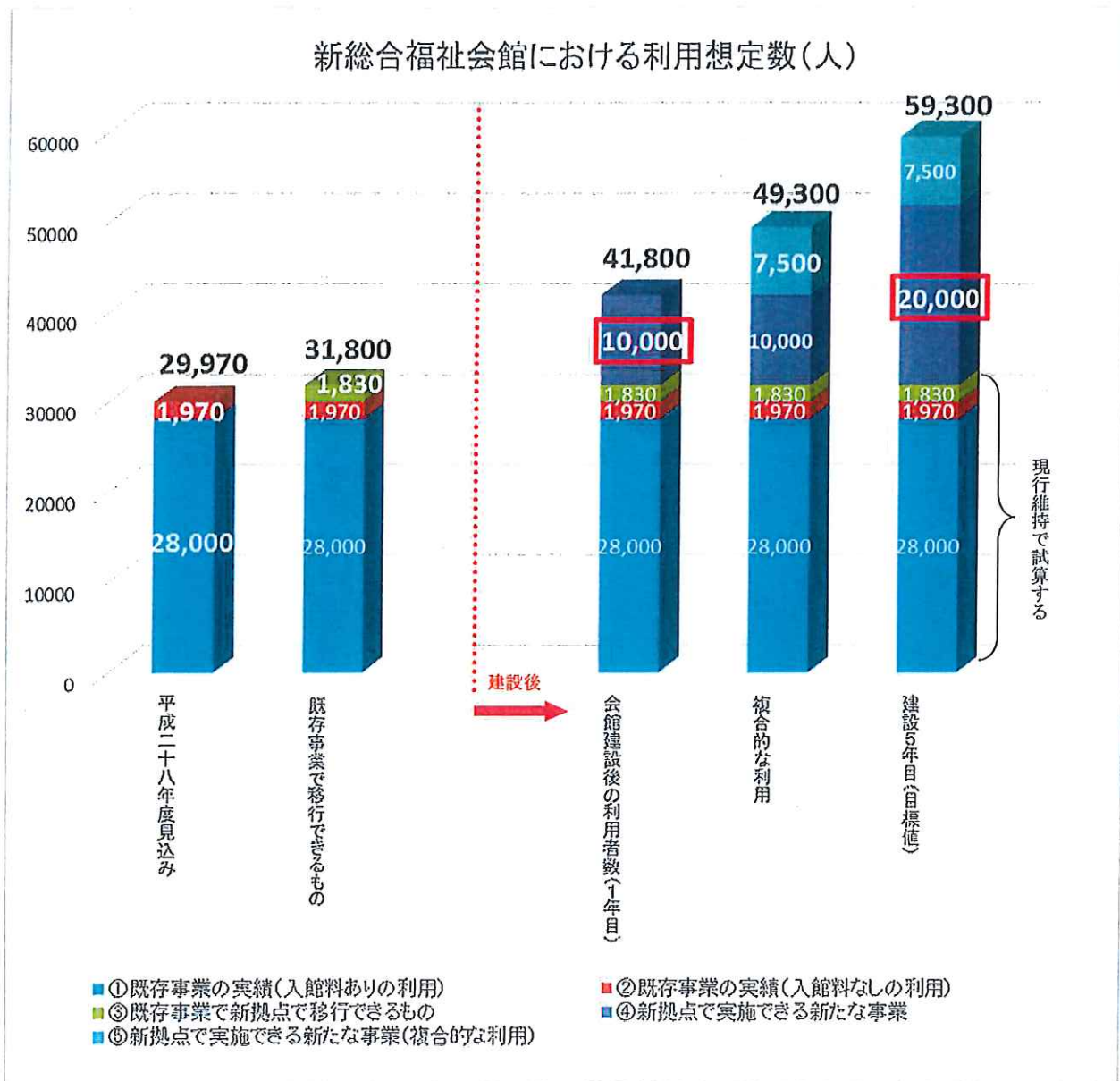
分類※5つの機能	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
							7,500
(内訳)							
複合的な機能	2次交通のハブとなるバス停	交通	カフェ・入り口前	市民	25	300	7,500
複合的な機能	災害支援ボランティアセンター	災害時	多目的・エントランス	ボランティア	500		緊急時のみの利用
複合的な機能	福祉関係機関の事務局	事務局	会議室改築	-			将来的な想定

会館建設後の利用者数(想定)+複合的な利用 ①+②+③+④+⑤= 合計 49,300

(3) 新総合福祉会館建設後の利用想定数

既存の施設利用者 31,800 人を維持することを目標にし、建設後の 1 年目は、新規事業により 10,000 人の新規来館者の増加を加えて 41,800 人を目指します。また、建設後 5 年間で市民ニーズに合った事業展開や開催回数を増やすことによって新規来館者の目標を 20,000 人として合計で 59,300 人の来館者を目指します。

表 7-3 新総合福祉会館における利用想定数



VIII 事業費の算定及び工期

1 全体事業費の算定 ※消費税8%を含む

①建築工事価格	739,800,000円
②設計監理料	52,300,000円
③家具工事	30,000,000円
④解体工事	40,000,000円
合計	862,100,000円

2 工期

設計契約完了後から解体工事を含み約20ヵ月を要する計画となっています。
工程表は、表8-1のとおりです。

表8-1 (仮称) 新総合福祉会館建設工事工程表

(仮称) 新総合福祉会館建設工事工程表		2017.1																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
◆ 設計プロポーザル等	●完了																										
◆ 設計契約	●契約 (基本設計・実施設計)																										
基本設計	■																										
設計書 (設計見直し)	■																										
実施設計	■																										
確認申請	■																										
◆ 解体工事	●入札 (解体業者決定) ●																										
◆ 入札 (施工者の決定)	●図面交付 ■見積 ●入札 (施工者決定) ●請負契約																										
◆ 建築工事	■																										
◆ 開館準備	■																										

IX 財源

1 財源の構成

新総合福祉会館は、これからの市の地域福祉推進のために必要な拠点であることから市へ経費負担と建設の要望を考えています。ただし、地域福祉推進の中核的団体である本会の事務所となる拠点としても要望するものであり、また本会が持つ社会福祉事業振興基金の活用の検討も考えています。

(1) 解体・移転期間に係る経費

現黒部市福祉センターは市社会福祉協議会の所有であることから解体に伴う経費及び建設中の事務所機能移転の期間に係る経費は、本会の社会福祉事業振興基金から負担することで考えます。

(2) 介護保険事業（ホームヘルプセンター・ケアセンター）の事務所経費

本会が実施する介護保険事業の事務所となるスペースについては、積み立てを行っている介護保険基金から一定程度必要な事業調整基金を残し、取り崩して負担することで考えます。

(3) 社会福祉事業振興のため

本会の社会福祉事業振興基金は黒部市の地域福祉推進のために活用することを目的にしていることから、理事会・評議員会の承認のもと一定程度必要な社会福祉事業調整基金や今後の財政面を考慮しながら基金を取り崩して負担することで考えます。

(4) 賛同者からの寄付金

新総合福祉会館は、多くの市民・関係団体からの要望や意見を基に建設を望むものであり、建設に賛同していただいた方へ寄付の呼びかけを行います。また、企業などへも市の地域福祉推進にご協力いただくために広く寄付を募ります。社会福祉協議会への寄付は税制の優遇を受けることもできるため、有効な手段と考えます。

X 今後の検討事項

1 今後さらに検討すべき事項

(1) 併設・連携を検討すべき機能

①近隣施設

現在、隣接する中央児童センターや大布施公民館、大布施保育所との事業連携や駐車スペースの共有などを行い、効率的かつ利便性の向上を図ることが必要です。また、福祉関係団体や機関の事務局の入居なども検討する必要があります。

②移動・交通機関

公共交通の路線バスの乗り入れと、既存の地区送迎バス（現黒部市福祉センターマイクロバス2台、ワゴン車1台）を活用し、各地区からの移動をサポートすることで、2次交通のハブの駅（乗り場）として利用でき、乗り換えにより、市内の主要施設への移動もスムーズに行われるようにする必要があります。

(2) 職員数、組織体制の検討

福祉ニーズは多様化し、今後もその担い手となる社会福祉協議会の業務が拡大することも考えられます。また、指定管理や委託事業などにより新たな事務作業スペースが必要になることも考えられます。ただし、人口の減少や経済の動向によりその規模を十分に検討して計画する必要があります。

(3) ソフト面の計画・整備

拠点となる施設が整備されたとしてもその役割や機能を担う「人」や「しくみ」などのソフト面が整備されなければ地域福祉推進は実現されません。拠点整備がされるまでに、市社会福祉協議会が中心となり然るべき運営体制の整備を着実に進めておく必要があります。

(4) 建設期間中の黒部市福祉センター機能と社協事務局機能

建設工期予定である20ヵ月の間、現在の想定である現行の場所で建て替えた場合、黒部市福祉センター機能と社協事務局の機能を移転するため、代替えとなる遊休施設など、場所の確保を検討しておく必要があります。

(用語説明)

※10 2次交通：複数の交通機関等を使用する場合の2種類目の交通機関のこと

XI まとめ

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進には、これからの時代にあった拠点となる施設が必要であります。しかしながら、これからの時代に何が必要とされ、どのようなものが求められているかを十分に検討する必要があります。まずは、福祉分野に限らず市内の様々な分野から委員を選出し「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」を設置し、現状の調査と地域課題の分析を行うとともに当事者団体や地域活動を行う団体などからヒアリングやアンケート調査も実施しました。このような中からこれからの黒部市の地域福祉推進に必要な役割や機能を整理していきました。そして、この新総合福祉会館の基本理念となるコンセプト「人と地域のしあわせを支える拠点 ～市民一人一人のしあわせを支え、一つ一つの地域の福祉を支えます～」と基本方針となる「人が学ぶ」「支える」「つなぐ」「誰もが集う」「複合的な機能」の5点をまとめました。

今回の「拠点施設整備検討部会」では、その具体的な施設の概要について計画を取りまとめたものであります。本会は地域福祉推進を図る中核的団体として、限られた資金や資源を最大限に活かす施策を十分に協議検討した上で、重点項目の機能面として「福祉教育の拠点」「災害時の拠点」を強みとして持ち、活用面として「入浴場の利活用」「変化・共有」など長期的な視点で考えていきました。そして今までにない、黒部市のこれからの必要な福祉の総合的な拠点づくりの計画ができました。

拠点が整備されることは、併せてその拠点を活かすソフト面、つまり事業やしくみを同時に充実させていく必要があります。今ある機能の効率化や機能面の充実などと共に、これからの地域課題解決へのしくみづくりや事業を整備していくことが重要となってきます。本会では、この報告書の作成と共に要となるソフト面の事業を来年度より計画・実施に移し、拠点の完成と共にスムーズな事業展開ができるように準備を進めています。

今回の報告書をまとめるまでには約1年半の歳月がかかりました。本当に多くの皆様のご協力とご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。そして、市民の皆さんのご意見や思いがこの計画にはしっかりと反映されたものと思います。

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進のため、その活動拠点となる施設が早期に整備されることを強く望み、まとめとさせていただきます。

拠点整備検討部会 部会長 松井敏昭
(社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 会長)

資料編

- 1 拠点施設整備検討部会設置要綱
- 2 拠点施設整備検討部会委員会会則
- 3 会員名簿
- 4 拠点施設整備検討部会の進め方構成図
- 5 調査報告書
 - (1) (仮称)新総合福祉会館の施設整備に向けて「黒部市福祉センターの入館者動向」に関する現状調査
 - (2) 平成 27 年度「黒部市福祉センター施設利用」アンケート結果
(一部抜粋)
 - (3) 黒部市福祉センター年度別入館者数 (年度合計/1 日平均入館者数)
 - (4) 県内の複合型施設について 視察研修報告

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「拠点施設整備検討部会」設置要綱

(趣旨)

第1条 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置する。

(目的)

第2条 「(仮称)新総合福祉会館建設基本構想報告書」をまとめ、本会の理事会・評議員会での承認を得て、黒部市へ建設への要望書を提出する。

(検討事項)

第3条 部会は次に掲げる事項について検討し、報告書をまとめる。

- (1) 基本構想策定の背景と目的
- (2) 新総合福祉会館建設の必要性
- (3) 新総合福祉会館の位置づけと役割
- (4) 新総合福祉会館の基本理念と基本方針
- (5) 新総合福祉会館の機能・規模
- (6) 新総合福祉会館の基本計画
- (7) 実現化方策の検討
- (8) 今後さらに検討すべき事項

(部会の設置)

第4条 本会の理事・評議員で委員を構成し、職員によるワーキングチームを設置する。

(組織)

第5条 本会の委員は11名以内とする。

2 委員は、黒部市社会福祉協議会正副会長会議で検討し、理事・評議員の中から選出し、会長が任命する。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、平成28年10月1日から平成29年3月31日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(細則)

第7条 この要綱に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成28年10月1日より施行し、平成29年3月31日にその効力を失う。

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「拠点施設整備検討部会」会則

(設置目的)

第1条 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置する。
「(仮称)新総合福祉会館建設基本構想報告書」をまとめ、本会の理事会・評議員会での承認を得て、黒部市へ建設への要望書を提出する。

(検討・協議事項)

第2条 委員会は次に掲げる事項について検討し、報告書をまとめる。

- (1) 基本構想策定の背景と目的
- (2) 新総合福祉会館建設の必要性
- (3) 新総合福祉会館の位置づけと役割
- (4) 新総合福祉会館の基本理念と基本方針
- (5) 新総合福祉会館の機能・規模
- (6) 新総合福祉会館の基本計画
- (7) 実現化方策の検討
- (8) 今後さらに検討すべき事項

(組織)

第3条 部会の委員は11名以内とする。

2 委員は、黒部市社会福祉協議会正副会長会議で検討し、理事・評議員の中から選出し、会長が任命する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、平成28年10月1日から平成29年3月31日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第5条 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の中から互選によって定める。

2 部会長は、会務を総括する。

3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(招集)

第6条 部会は、必要に応じ部会長が招集し、部会長を議長とする。

(議決等)

第7条 部会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席した副部会長、委員の過半数でこれを決する。ただし、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 やむを得ない理由により本会に出席できない副部会長等は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前項適用について出席したものとみなす。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、本会総務課において処理する。

(細則)

第9条 この会則に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が部会の協議をもって定めるものとする。

附則

この会則は、平成28年10月25日より施行し、平成29年3月31日にその効力を失う。

黒部市社会福祉協議会の拠点施設整備検討部会 委員名簿

(任期:平成28年10月1日～平成29年3月31日)

№	役職	氏名	選出区分	職名
1	部会長	松井 敏昭	理事	黒部市社会福祉協議会 会長
2	副部会長	松原 宗一	理事	黒部市社会福祉協議会 副会長 大布施自治振興会長
3	委員	川村 昭一	理事	黒部市社会福祉協議会 副会長 若栗自治振興会長
4	委員	稲澤 孝雄	理事	黒部市老人クラブ連合会の代表
5	委員	新村 恵子	理事	ボランティア分野の代表
6	委員	田村 豊嗣	理事	黒部市民生委員児童委員協議会 会長
7	委員	吉野 久幸	評議員	田家自治振興会長
8	委員	伊東 高志	評議員	黒部市身体障害者協会の代表
9	委員	吉田 三津子	評議員	社会福祉施設の代表 黒部笑福学園 施設長
10	委員	柳田 紀子	評議員	黒部市公民館連絡協議会の代表
11	委員	沖村 武志	前理事 <small>※平成28年11月30日に理事退任 任期まで継続</small>	前黒部市社会福祉協議会 副会長 前黒部市民生委員児童委員協議会 会長

〔事務局〕

№	役職	氏名
1	事務局長	林 高好
2	地域福祉課 主幹／施設運営班 主幹	小倉 博和
3	地域福祉課 課長補佐／地域包括支援班 班長補佐	濱松 一美
4	在宅福祉課 課長補佐	宮崎 真佐美
5	地域福祉課 地域支援係長	杉本 歩
6	総務課 経営戦略係長	小柴 徳明
7	在宅福祉課 在宅福祉係長	山瀬 葉月
8	総務課 経営戦略係 臨時職員	高村 千恵美

(仮称) 新総合福祉会館の施設整備に向けて
「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

1 調査目的

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置した。

この調査では、求められる新しい拠点施設の検討を進めるにあたって、現在福祉センターに設置されている大浴場の入浴者状況調査を行い、新拠点における浴場機能の必要性を検討することが目的である。

2 調査実施期間

平成 28 年 9 月 20 日～12 月 16 日（休館日を除く）60 日間

3 調査内容

（仮称）新総合福祉会館の施設整備に向けて「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

内 容：黒部市福祉センターにおける大浴場の利用者数及び趣味講座を目的とする利用者数を調査し、全入館者の動向を確認する。

対 象：黒部市福祉センター利用者

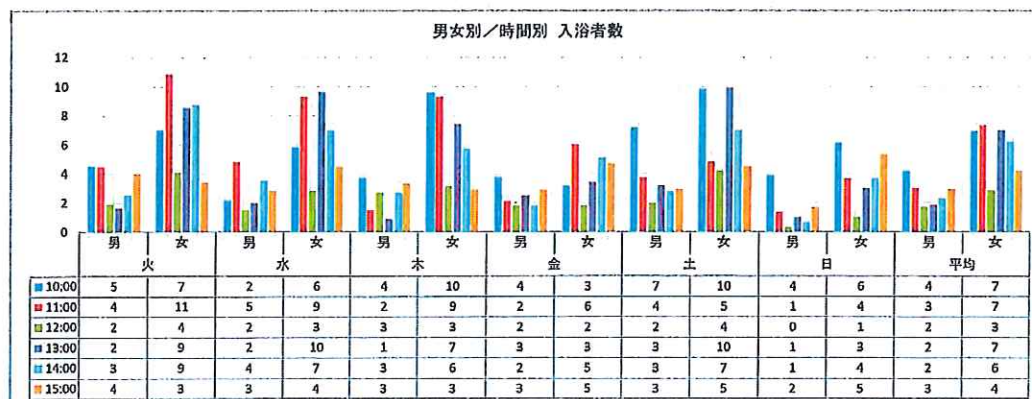
4 調査方法

（1）黒部市福祉センターにおいて、約 2 ヶ月、10：00～16：00 までの入浴利用時間内（1 時間おき）に大浴場の利用人数をカウントする。

（2）各事業担当、センター受付職員より、ヒアリングを行い、趣味講座参加者の動向を確認する。

5 調査結果報告

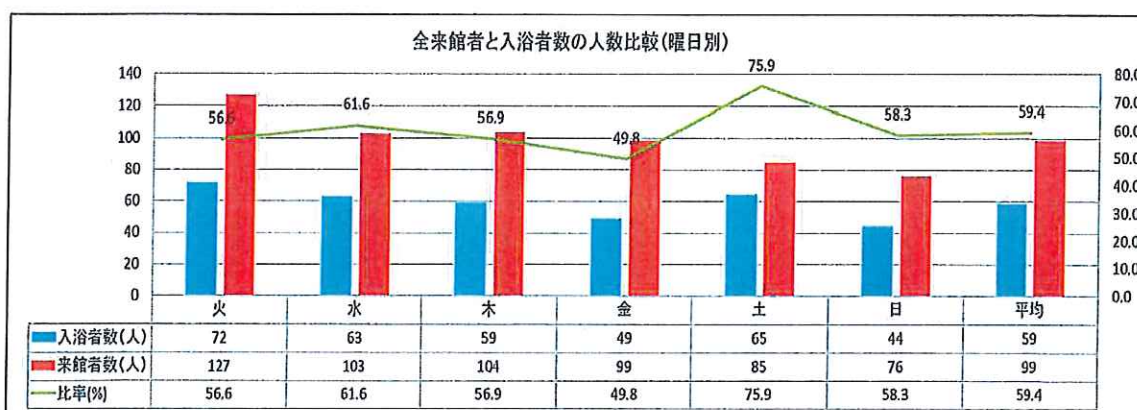
（1）男女別／時間別の入浴者数



・入浴者は男性より女性が多く、全体の7割が女性、3割が男性ということが分かった。この割合は、来館者の男女の割合と並行している。

・時間帯別に入浴者数をみると、体操教室後の11時過ぎからと、昼食後13時からの時間帯が1日の中で集中している時間帯であったが、利用者数は多くても10名前後であった。(1時間当たりの平均入浴者数：男性2.6人/女性5.6人)

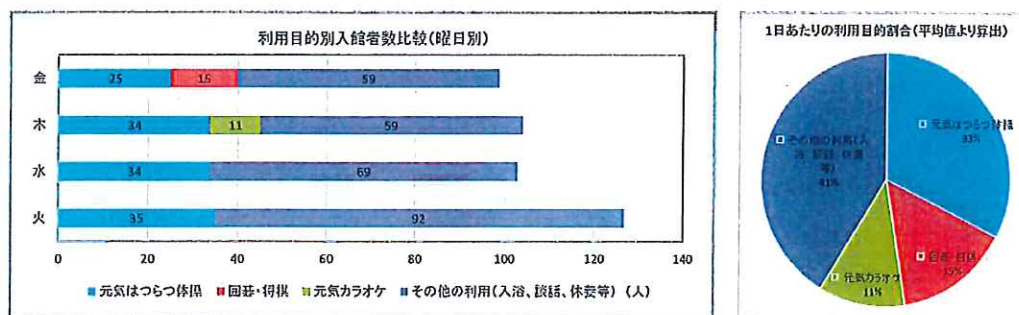
(2) 全来館者数と入浴者数の人数比較 (曜日別)



・来館者数に対して、浴場を利用されている方の平均比率は、59.4%であった。このことから、入浴目的でセンターを利用されているとは限らないと分かった。また、バスが運行していない日曜日は、来館者数が平日に比べ少ないが、浴場利用率は平日とほぼ変わらないことが分かった。

※来館者平均 99 人に対して、入浴者平均 59 人
来館者に対する入浴者比率 59.4%

(4) 利用目的別入館者数比較と1日あたりの利用目的割合 (平均値より算出)



○開催日：元気はつらつ体操(毎週火・水・木・金)、元気カラオケ(毎週木曜日) 囲碁・将棋(毎週金曜日)

・入館者を利用目的別で見ると、センターで開催されている事業（元気はつらつ体操教室、囲碁・将棋、元気カラオケ教室）への参加目的で来館される方が全体の6割をしめており、残り4割の方は、入浴、談話、休養等の目的で来館されていることが分かった。

（5）ヒアリング調査

・男性の多くは、元気づくり事業の囲碁・将棋（毎週金曜日）、カラオケ（毎週木曜日）等、趣味講座を目的に来館されるが、ほぼ100%浴場も利用されている。但し、この事業への参加が目的で来館される方がほとんどで、その他の曜日に入浴目的で来られる方は、あまり見受けられない。

・平日は体操教室を目的に来館されている女性の方が多く、約3割の方は入浴せずに退館される。

（6）その他

・旧黒部市内にあった公衆浴場がなくなった10月15日以降、来館者、入浴者ともに平均で1日20名増えていることが分かった。いずれも入浴目的であり、新規の入館者であることが職員ヒアリングにより分かった。しかし、1時間当たりの入浴者数には大きな変化は見られず、入浴環境にあまり影響はないと考えられる。

※10/15以降

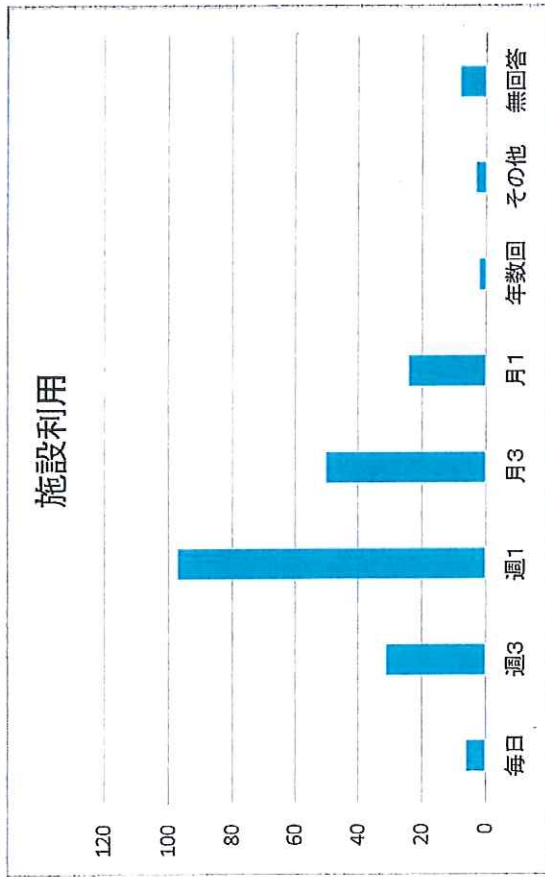
来館者平均 80人→99人、入浴者平均 41人→59人

1時間当たりの平均入浴者数：男性1.8人→2.6人／女性5.0人→5.6人

6 まとめ

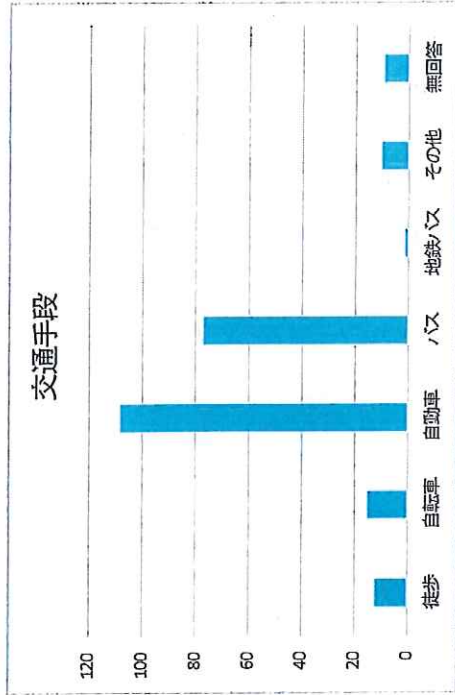
（1）入館者層の変化

黒部市福祉センターの入館者の多くは75歳以上の高齢者であり、その中には巡回バス利用の定期利用者（週2回程度）や開館日にほぼ来館されるヘビーユーザー（150回～200回）の方もおられる。そういった方が高齢や病気等で施設を利用できなくなってきていることが近年の来館者の減少要因である。しかしながら今回の調査で、趣味講座（カラオケ・囲碁将棋等）や介護予防などの体操教室には、70代前半の層や男性の参加者層が新たに増えてきている。その方々の利用目的の一番は入浴ではないが、付随して入浴していくという動向がみられた。今後もこのような趣味や健康をテーマにしたものに参加する利用者層は増えるものと考えられる。

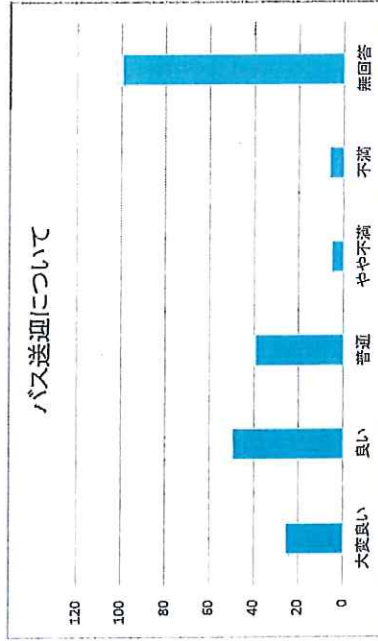


利用頻度	人数	週3	週1	月3	月1	年数回	その他	無回答
人数	6	31	97	50	24	2	3	8

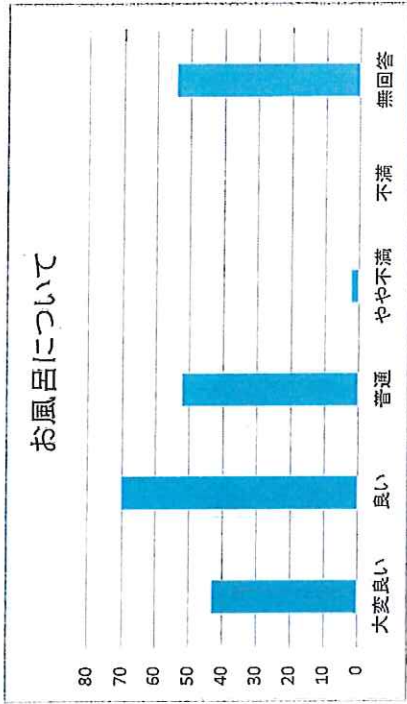
※週3：週3～4回／週1：週1～2回／月3：月3～4回／月1：月1～2回



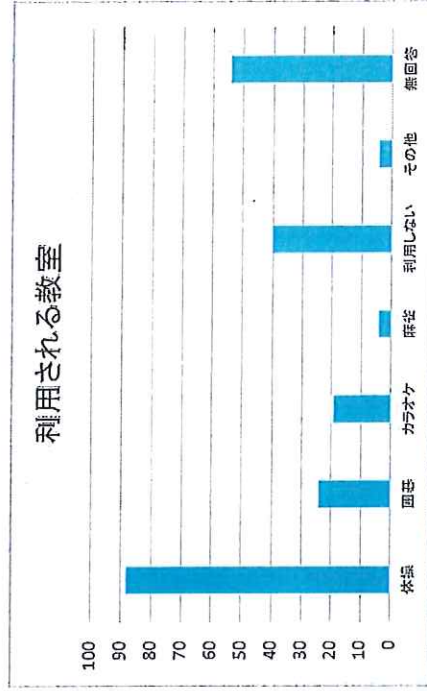
交通手段	徒歩	自転車	自動車	バス	地鐵/バス	その他	無回答
人数	12	15	108	77	1	10	9



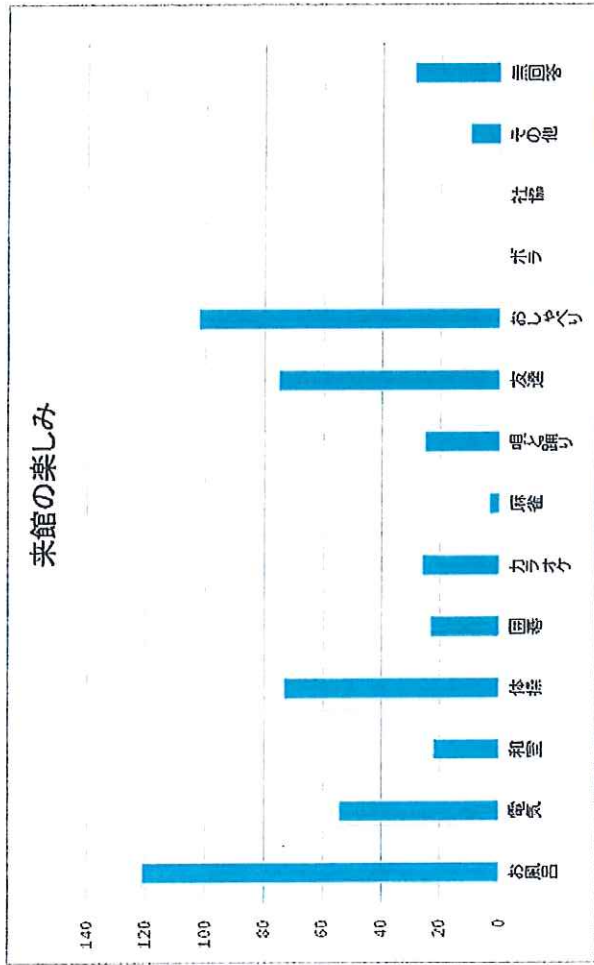
評価	大変良い	良い	普通	やや不満	不満	無回答
人数	25	49	39	5	6	99



評価	大変良い	良い	普通	やや不満	不満	無回答
人数	43	70	52	2	0	54





教室	体操	囲碁	カラオケ	麻雀	利用しない	その他	無回答
人数	88	24	19	4	4	4	54




楽しみ	お風呂	電気	和室	体操	囲碁	カラオケ	麻雀	喫煙	温泉	交流	ボラ	社協	その他	無回答
人数	121	54	22	73	23	26	3	25	75	102	0	0	10	29


○県内の複合型施設について 視察調査報告（全6か所）


名称（愛称）	とやま朝日町 北陸街道五叉路 CrossFive	
所在地	下新川郡朝日町泊 418	
運営	朝日町商工会（指定管理）	
設立	2015年6月28日	
総事業費	約9億5千万円	
利用案内	開館時間 9:00～21:00 休館日 12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	※2階建て ・まちづくり施設 ・まめなげ市場 ・朝日町社会福祉協議会 ・泊地区自治振興会 ・朝日町商工会 ・ふれあい広場 ・イベント広場 ・研修室（4室） ・会議室（2室）	
視察での感想	・朝日町の中心である泊地区に商工会議所が中心となり建設された経緯があり、富山市のグランドプラザのミニ版をイメージして建設されたが、この地は、風が強く吹く気候であり、デザインも大事だが、環境に併せた建築設計が必要と感じた。 ・機能的によく似た部屋（研修室・会議室）が多かった。 ・飲食禁止の部屋が多く、活用に制限がある。	
長所	・朝日町の中心地域の商業拠点に設置されたことで、地域福祉の推進が円滑に行えるようになった。 ・入居団体は、会議室など無料で使用でき、会議や研修会がスムーズに行える。	
短所	・地産物の食材が販売されているが、近くにショッピングセンターがあり、買物客に偏りがある。 ・施設利用される障がい者など交通の便については公共交通など未整備な部分が多い。 ・ガラス張りの施設の景観はとても良いが、各部屋は夏暑く、冬寒い。 ・会館の維持管理に経費がかかる。	

名称（愛称）	入善町健康交流プラザ サンウェル	
所在地	下新川郡入善町上野 2793-1	
運営	入善町	
設立	2000年8月5日	
総事業費	約19億円	
利用案内	開館時間 9:00～22:00 休館日 毎週月曜日・12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	※4階建て ・健康広場 ・いきいきスタジオ ・検診・診察室 ・ちびっこプレイルーム ・情報体験コーナー ・せせらぎホール ・調理実習室 ・研修室 ・談話室 ・入善町社会福祉協議会 ・レストラン・展望楼 ・保健センター（行政機能） ・みらーれTV（行政機能）	
視察での感想	・建設から16年経過し町民のふれあいと交流の場として活用されている。 ・入善町体育館や総合運動公園が従来から隣接し、近年、駐車場におあしすにいかわの特養と、地域包括支援センターが建設され、福祉機能が充実される反面、体育イベント時等駐車場を利用できないことがある。 ・デザインを重視している反面、空間の確保の難しさを感じた。 ・維持費もかかり大変そうであった。 ・靴の履き替えをせず土足で館内を移動できることがよかった。	
長所	・保健機能と社会福祉協議会が連携した活動が行われている。 ・市民の研修の場として行政が主催するパソコン教室など各種講座が開催されている。 ・1階のエントランスや健康広場などスペースが確保されており、各種イベントの開催や展示などが随時行われ、長期作品展示も可能である。	
短所	・社会福祉協議会の事務所が2階で一部の利用者から利用しにくいとの意見がある。 ・町内山間部や海岸部など広域にわたる公共交通機関の未整備箇所があり、乗用車を持っていない方の移動に配慮してほしいとの声もある。	

名称(愛称)	滑川市民交流プラザ	
所在地	滑川市吾妻町 426	
運営	財団法人 滑川市文化スポーツ振興財団 (指定管理)	
設立	2007年6月11日	
総事業費	約21億2千万円	
利用案内	開館時間 8:30~22:00 (フロアによって異なる) 休館日 毎週水曜日・12月31日・1月1日 (3F~5F) 入浴施設利用料金 大人…600円/高齢者・障害者 500円/子供…300円	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※5階建て 医療・福祉・保健の拠点施設 ・ボランティアセンター ・市民交流センター ・地域包括支援センター ・児童コーナー ・研修室 (3室) ・調理実習室 ・多目的ホール ・休憩室 (4室) ・軽運動室 ・レストラン ・入浴施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども図書館 (行政機能) ※2階フロアが行政管轄
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・開設当初は、社会福祉協議会や福祉に関する行政機能も一元化した2階フロアがあったが、現在は、市役所の一角に移動した。 ・地上5階建の建物には、入浴施設、図書館、食事処や貸し部屋と複合施設に多様な業者が夜遅くまで営業しており市民の交流とふれあいの場となっている。 ・利用者は、1日200人程度、最大で600人。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の交流の場として1Fの交流サロンや各階に休憩スペースが多く、イスやテーブルなど無料で集える。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年に2階の福祉関係施設が市の庁舎へ移動した。(福祉課、地域包括支援センター、高齢介護課、訪問介護ステーション、市社会福祉協議会、ホームヘルプステーション) ・施設の駐車場をショッピングセンターやショッピングモールなどと共有していることから駐車場がやや込み合っている。 	

名称(愛称)	上市町保健福祉総合センター つるぎふれあい館	
所在地	上市町湯上野 8番地	
運営	一般財団法人 上市町健康文化振興財団	
設立	1998年8月1日	
総事業費	約25億円	
利用案内	開館時間 10:00~21:00 休館日 毎週月曜日・12月31日・1月1日 入浴施設利用料金 大人…610円/子供…300円	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※2階建て ・福祉センター (入浴施設・無料休憩場・和室) ・福祉課 (行政機能) ・上市町健康文化振興財団 ・上市町包括支援センター ・訪問看護ステーション (行政機能) ・高齢者福祉研究室 ・上市町社会福祉協議会 ・会議室 (2室) ・和室 (4室各12帖) ・機能訓練室 ・栄養指導実習室 ・世代間交流センター ・リクライニングルーム ・コミュニティプラザ ・プレイルーム ・研修室 ・相談室 ・売店 	
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋数が多くあったが、使用されていない部屋が多く感じた。 ・保健福祉という点ではよかったが、新拠点が求めているものとは少し違うと感じた。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに町役場やショッピングセンターもあり、利便性はよい。 ・休憩スペースが広くゆったりとしている。 ・町営バスが町内の各方面に1日4~5本巡回しており、どの地区からも来館できる。また、乗り換えにより、町内の主要施設への移動もスムーズに行うことができる。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の他の課と離れているため (市民課など) 連携がしづらい部分がある。 	

名称(愛称)	立山町元気交流ステーション みらいぶ	
所在地	中新川郡立山町前沢 1169	
運営	立山町	
設立	2012年6月1日	
総事業費	約18億2千万円	
利用案内	開館時間 9:00~22:00 休館日 12月29日~1月3日 駐車料金 4時間無料・4時間経過毎に100円	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※3階建て ・五百石駅 ・イベント広場 ・地域情報交流サロン ・コミュニティホール ・喫茶スペース ・音楽交流室 ・大会議室 ・調理交流室 ・くつろぎ交流室 ・幼老交流サロン ・立山町社会福祉協議会 ・健康福祉課(行政機能) ・保健センター(行政機能) ・子育て支援室 ・検診ホール ・訪問看護ステーション(行政機能) ・介護予防機能訓練室 	
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象は新しくきれい。天井が高く窓ガラスが大きく、廊下なども広くて明るい。 ・椅子が所々に備え付けられており、スペースにゆとりがあった。 ・保健福祉という点ではよかったが、新拠点が求めているものとは少し違うと感じた。 ・交流センターのイメージが強く、社会福祉という存在感は少ないと感じた。 ・障がい者という視点は少ないと感じた。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・駅や図書館(複合的機能)があり、誰もが気軽に利用できる。 ・電車の待ち時間に図書館や食堂の利用ができる。 ・相談機能がワンストップでき、幅広い層の住民が利用できる。 ・1階に公共の掲示板があり、一目瞭然で町の行事や催しが把握できる。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉の手続きや相談に訪れるために3階まで上がらなければならないため不便である。 ・駅周辺で駐車場がパーキング制のため利用に手間と時間がかかる。 ・行政の他の課と離れているため(市民課など)連携がしづらい部分がある。 	

名称(愛称)	サンシップとやま	
所在地	富山市安住町5-21	
運営	社会福祉法人 富山県社会福祉協議会(指定管理)	
設立	1999年11月11日	
総事業費	約59億5千2百万円	
利用案内	開館時間 9:00~21:00 休館日 毎週月曜日・12月29日~1月3日	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※7階建て ・福祉ホール、福祉図書館、入浴介護実習室、栄養指導室、県民サツ、作業室、ボランティア交流サロン、研修室(9室)他 ・富山県社会福祉協議会 ・富山県福祉サービス運営適正化委員会 ・富山県共同募金会 ・富山県民ボランティア総合支援センター ・富山県障害者(児)団体連絡協議会 ・富山県児童クラブ連合会 ・富山県老人クラブ連合会 ・富山県食生活改善推進連絡協議会 ・富山県介護支援専門員協会 ・富山県身体障害者福祉協会 ・富山県手をつなぐ育成会 ・富山県栄養士会 ・富山県母子寡婦福祉連合会 ・富山県保育士会 ・富山県傷痍軍人連絡協議会 ・富山県老人福祉施設協議会 ・富山県デイサービスセンター協議会 ・富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会 ・富山県ホームヘルパー協議会 ・富山県保育連絡協議会 ・富山県民生委員児童委員協議会 ・富山県社会福祉法人経営者協議会 	
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県の総合福祉会館の施設として、県社会福祉協議会や各種団体が入居して県民がだれでも参加、交流できる場として整備されている。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・館内に福祉関係団体が多数入居していることから連絡や調整がスムーズである。 ・県関係機関へ徒歩で移動できる距離にある。また、駅や公共交通が多く活用できる。 ・県の地理的中心地で、県内関係機関の研修には集まりやすい場所である。 ・ガラス張りの建物は、バリアフリーに配慮され、エレベーターのガラス張りは聴覚障害者の手話などに配慮されている。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・県関係の団体は多様であり、入居したいが部屋の確保が困難な団体がある。 ・ガラス張りのモダンな建物で景観はとても良いが冬寒く、夏暑い。 ・複数のイベント開催時は駐車場の確保ができない。 ・会館の維持管理に高額な経費がかかる。 	

(仮称) 新総合福祉会館建設基本構想報告書

発 行 平成 29 年 3 月

編集・発行 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「拠点施設整備検討部会」

事 務 局 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp

「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

1 調査目的

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置した。

この調査では、求められる新しい拠点施設の検討を進めるにあたって、現在福祉センターに設置されている大浴場の入浴者状況調査を行い、新拠点における浴場機能の必要性を検討することが目的である。

2 調査実施期間

平成 28 年 9 月 20 日～12 月 16 日（休館日を除く）60 日間

3 調査内容

（仮称）新総合福祉会館の施設整備に向けて「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

内 容：黒部市福祉センターにおける大浴場の利用者数及び趣味講座を目的とする利用者数を調査し、全入館者の動向を確認する。

対 象：黒部市福祉センター利用者

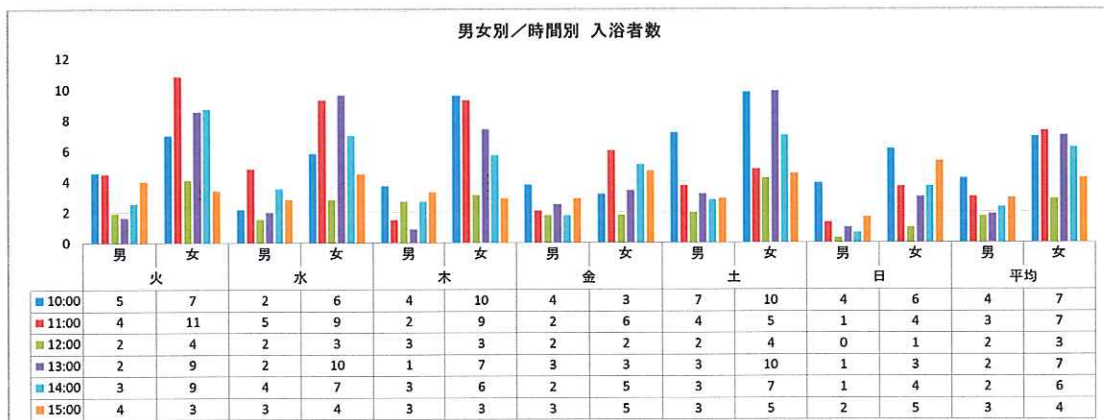
4 調査方法

（1）黒部市福祉センターにおいて、約 2 ヶ月、10：00～16：00 までの入浴利用時間内（1 時間おき）に大浴場の利用人数をカウントする。

（2）各事業担当、センター受付職員より、ヒアリングを行い、趣味講座参加者の動向を確認する。

5 調査結果報告

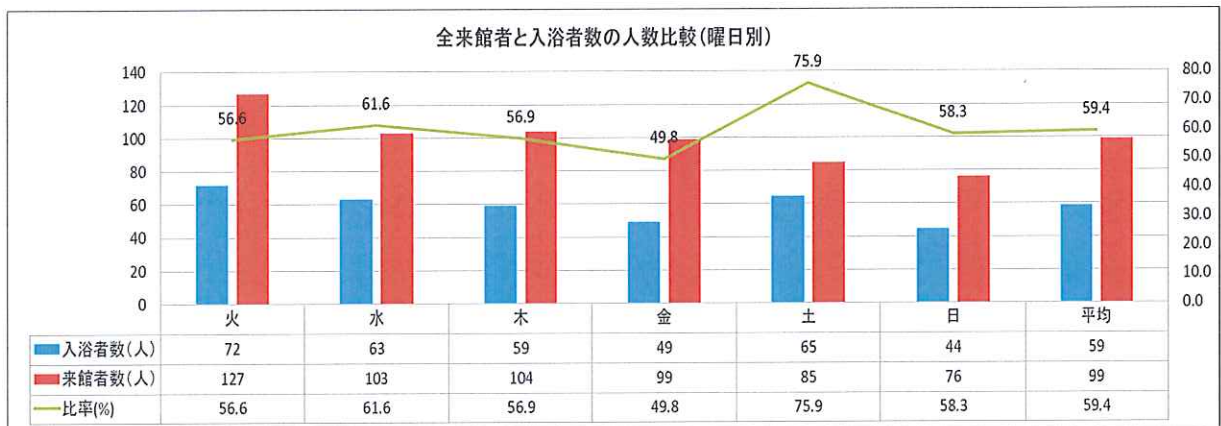
（1）男女別／時間別の入浴者数



・入浴者は男性より女性が多く、全体の7割が女性、3割が男性ということが分かった。この割合は、来館者の男女の割合と並行している。

・時間帯別に入浴者数をみると、体操教室後の11時過ぎからと、昼食後13時からの時間帯が1日の中で集中している時間であったが、利用者数は多くても10名前後であった。(1時間当たりの平均入浴者数：男性2.6人/女性5.6人)

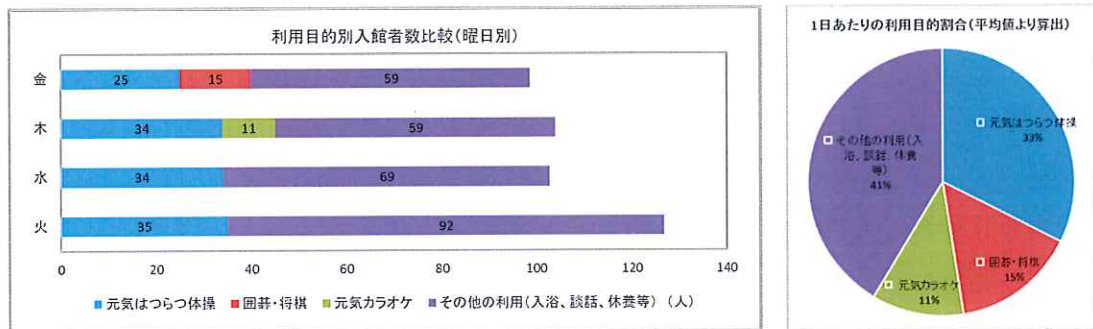
(2) 全来館者数と入浴者数の人数比較 (曜日別)



・来館者数に対して、浴場を利用されている方の平均比率は、59.4%であった。このことから、入浴目的でセンターを利用されているとは限らないと分かった。また、バスが運行していない日曜日は、来館者数が平日に比べ少ないが、浴場利用率は平日とほぼ変わらないことが分かった。

※来館者平均 99人 に対して、入浴者平均 59人
来館者に対する入浴者比率 59.4%

(4) 利用目的別入館者数比較と1日あたりの利用目的割合 (平均値より算出)



○開催日：元気はつらつ体操 (毎週火・水・木・金)、元気カラオケ (毎週木曜日) 囲碁・将棋 (毎週金曜日)

・入館者を利用目的別で見ると、センターで開催されている事業（元気はつらつ体操教室、囲碁・将棋、元気カラオケ教室）への参加目的で来館される方が全体の6割をしめており、残り4割の方は、入浴、談話、休養等の目的で来館されていることが分かった。

（5）ヒアリング調査

・男性の多くは、元気づくり事業の囲碁・将棋（毎週金曜日）、カラオケ（毎週木曜日）等、趣味講座を目的に来館されるが、ほぼ100%浴場も利用されている。但し、この事業への参加が目的で来館される方がほとんどで、その他の曜日に入浴目的で来られる方は、あまり見受けられない。

・平日は体操教室を目的に来館されている女性の方が多く、約3割の方は入浴せずに退館される。

（6）その他

・旧黒部市内にあった公衆浴場がなくなった10月15日以降、来館者、入浴者ともに平均で1日20名増えていることが分かった。いずれも入浴目的であり、新規の入館者であることが職員ヒアリングにより分かった。しかし、1時間当たりの入浴者数には大きな変化は見られず、入浴環境にあまり影響はないと考えられる。

※10/15以降

来館者平均 80人→99人、入浴者平均 41人→59人

1時間当たりの平均入浴者数：男性1.8人→2.6人／女性5.0人→5.6人

6 まとめ

（1）入館者層の変化


黒部市福祉センターの入館者の多くは75歳以上の高齢者であり、その中には巡回バス利用の定期利用者（週2回程度）や開館日にほぼ来館されるヘビーユーザー（150回～200回）の方もおられる。そういった方が高齢や病気等で施設を利用できなくなってきていることが近年の来館者の減少要因である。しかしながら今回の調査で、趣味講座（カラオケ・囲碁将棋等）や介護予防などの体操教室には、70代前半の層や男性の参加者層が新たに増えてきている。その方々の利用目的の一番は入浴ではないが、付随して入浴していくという動向がみられた。今後もこのような趣味や健康をテーマにしたものに参加する利用者層は増えるものと考えられる。


県内の複合型施設についての視察調査

調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

○県内の複合型施設について 視察調査報告（全6か所）

名称（愛称）	とやま朝日町 北陸街道五叉路 CrossFive	
所在地	下新川郡朝日町泊 418	
運営	朝日町商工会（指定管理）	
設立	2015年6月28日	
総事業費	約9億5千万円	
利用案内	開館時間 9:00～21:00 休館日 12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	※2階建て ・まちづくり施設 ・まめなげ市場 ・朝日町社会福祉協議会 ・泊地区自治振興会 ・朝日町商工会 ・ふれあい広場 ・イベント広場 ・研修室（4室） ・会議室（2室）	
視察での感想	・朝日町の中心である泊地区に商工会議所が中心となり建設された経緯があり、富山市のグランドプラザのミニ版をイメージして建設されたが、この地は、風が強く吹く気候であり、デザインも大事だが、環境に併せた建築設計が必要と感じた。 ・機能的によく似た部屋（研修室・会議室）が多かった。 ・飲食禁止の部屋が多く、活用に制限がある。	
長所	・朝日町の中心地域の商業拠点に設置されたことで、地域福祉の推進が円滑に行えるようになった。 ・入居団体は、会議室など無料で使用でき、会議や研修会がスムーズに行える。	
短所	・地場産の食材が販売されているが、近くにショッピングセンターがあり、買物客に偏りがある。 ・施設利用される障がい者など交通の便については公共交通など未整備な部分が多い。 ・ガラス張りの施設の景観はとても良いが、各部屋は夏暑く、冬寒い。 ・会館の維持管理に経費がかかる。	


名称（愛称）	入善町健康交流プラザ サンウェル	
所在地	下新川郡入善町上野 2793-1	
運営	入善町	
設立	2000年8月5日	
総事業費	約19億円	
利用案内	開館時間 9:00～22:00 休館日 毎週月曜日・12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	※4階建て ・健康広場 ・いきいきスタジオ ・検診・診察室 ・ちびっこプレイルーム ・情報体験コーナー ・せせらぎホール ・調理実習室 ・研修室 ・談話室 ・入善町社会福祉協議会 ・レストラン・展望楼 ・保健センター（行政機能） ・みらーれTV（行政機能）	
視察での感想	・建設から16年経過し町民のふれあいと交流の場として活用されている。 ・入善町体育館や総合運動公園が従来から隣接し、近年、駐車場におあしすにいかわの特養と、地域包括支援センターが建設され、福祉機能が充実される反面、体育イベント時等駐車場を利用できないことがある。 ・デザインを重視している反面、空間の確保の難しさを感じた。 ・維持費もかかり大変そうであった。 ・靴の履き替えをせず土足で館内を移動できることがよかった。	
長所	・保健機能と社会福祉協議会が連携した活動が行われている。 ・市民の研修の場として行政が主催するパソコン教室など各種講座が開催されている。 ・1階のエントランスや健康広場などスペースが確保されており、各種イベントの開催や展示などが随時行われ、長期作品展示も可能である。	
短所	・社会福祉協議会の事務所が2階で一部の利用者から利用しにくいとの意見がある。 ・町内山間部や海岸部など広域にわたる公共交通機関の未整備個所があり、乗用車を持っていない方の移動に配慮してほしいとの声もある。	


名称(愛称)	滑川市民交流プラザ	
所在地	滑川市吾妻町 426	
運営	財団法人 滑川市文化スポーツ振興財団 (指定管理)	
設立	2007年6月11日	
総事業費	約21億2千万円	
利用案内	開館時間 8:30~22:00 (フロアによって異なる) 休館日 毎週水曜日・12月31日・1月1日 (3F~5F) 入浴施設利用料金 大人…600円/高齢者・障害者 500円/子供…300円	
入居団体及び機能	※5階建て 医療・福祉・保健の拠点施設 ・ボランティアセンター ・市民交流センター ・地域包括支援センター ・児童コーナー ・研修室 (3室)	・調理実習室 ・多目的ホール ・休憩室 (4室) ・軽運動室 ・レストラン ・入浴施設 ・こども図書館 (行政機能) ※2階フロアが行政管轄
視察での感想	・開設当初は、社会福祉協議会や福祉に関する行政機能も一元化した2階フロアがあったが、現在は、市役所の一角に移動した。 ・地上5階建の建物には、入浴施設、図書館、食事処や貸し部屋と複合施設に多様な業者が夜遅くまで営業しており市民の交流とふれあいの場となっている。 ・利用者は、1日200人程度、最大で600人。	
長所	・市民の交流の場として1Fの交流サロンや各階に休憩スペースが多く、イスやテーブルなど無料にて集える。	
短所	・平成26年に2階の福祉関係施設が市の庁舎へ移動した。 (福祉課、地域包括支援センター、高齢介護課、訪問介護ステーション、市社会福祉協議会、ホームヘルパーステーション) ・施設の駐車場をショッピングセンターやショッピングモールなどと共有していることから駐車場がやや込み合っている。	



名称(愛称)	上市町保健福祉総合センター つるぎふれあい館	
所在地	上市町湯上野 8番地	
運営	一般財団法人 上市町健康文化振興財団	
設立	1998年8月1日	
総事業費	約25億円	
利用案内	開館時間 10:00~21:00 休館日 毎週月曜日・12月31日・1月1日 入浴施設利用料金 大人…610円/子供…300円	
入居団体及び機能	※2階建て ・福祉センター (入浴施設・無料休憩場・和室) ・福祉課 (行政機能) ・上市町健康文化振興財団 ・上市町包括支援センター ・訪問看護ステーション (行政機能) ・高齢者福祉研究室	・上市町社会福祉協議会 ・会議室 (2室) ・和室 (4室各12帖) ・機能訓練室 ・栄養指導実習室 ・世代間交流センター ・リクライニングルーム ・コミュニティプラザ ・プレイルーム ・研修室 ・相談室 ・売店
視察での感想	・部屋数が多くあったが、使用されていない部屋が多く感じた。 ・保健福祉という点ではよかったが、新拠点が求めているものとは少し違うと感じた。	
長所	・近くに町役場やショッピングセンターもあり、利便性はよい。 ・休憩スペースが広くゆったりとしている。 ・町営バスが町内の各方面に1日4~5本巡回しており、どの地区からも来館できる。また、乗り換えにより、町内の主要施設への移動もスムーズに行うことができる。	
短所	・行政の他の課と離れているため (市民課など) 連携がしづらい部分がある。	



名称(愛称)	立山町元気交流ステーション みらいぶ	
所在地	中新川郡立山町前沢 1169	
運営	立山町	
設立	2012年6月1日	
総事業費	約18億2千万円	
利用案内	開館時間 9:00~22:00 休館日 12月29日~1月3日 駐車料金 4時間無料・4時間経過毎に100円	
入居団体及び機能	※3階建て ・五百石駅 ・イベント広場 ・地域情報交流サロン ・コミュニティホール ・喫茶スペース ・音楽交流室 ・大会議室 ・調理交流室 ・くつろぎ交流室 ・幼老交流サロン ・立山町社会福祉協議会 ・健康福祉課(行政機能) ・保健センター(行政機能)	・子育て支援室 ・検診ホール ・訪問看護ステーション(行政機能) ・介護予防機能訓練室
視察での感想	・第一印象は新しくてきれい。天井が高く窓ガラスが大きく、廊下なども広くて明るい。 ・椅子が所々に備え付けられており、スペースにゆとりがあった。 ・保健福祉という点ではよかったが、新拠点が求めているものとは少し違うと感じた。 ・交流センターのイメージが強く、社会福祉という存在感は少ないと感じた。 ・障がい者という視点は少ないと感じた。	
長所	・駅や図書館(複合的機能)があり、誰もが気軽に利用できる。 ・電車の待ち時間に図書館や食堂の利用ができる。 ・相談機能がワンストップででき、幅広い層の住民が利用できる。 ・1階に公共の掲示板があり、一目瞭然で町の行事や催しが把握できる。	
短所	・保健福祉の手続きや相談に訪れるために3階まで上がらなければならないため不便である。 ・駅周辺で駐車場がパーキング制のため利用に手間と時間がかかる。 ・行政の他の課と離れているため(市民課など)連携がしづらい部分がある。	

名称(愛称)	サンシップとやま	
所在地	富山市安住町 5-21	
運営	社会福祉法人 富山県社会福祉協議会(指定管理)	
設立	1999年11月11日	
総事業費	約59億5千2百万円	
利用案内	開館時間 9:00~21:00 休館日 毎週月曜日・12月29日~1月3日	
入居団体及び機能	※7階建て ・福祉ホール、福祉図書館、入浴介護実習室、栄養指導室、県民カ、作業室、ボランティア交流サロン、研修室(9室)他 ・富山県社会福祉協議会 ・富山県福祉サービス運営適正化委員会 ・富山県共同募金会 ・富山県民ボランティア総合支援センター ・富山県障害者(児)団体連絡協議会 ・富山県児童クラブ連合会 ・富山県老人クラブ連合会 ・富山県食生活改善推進連絡協議会 ・富山県介護支援専門員協会 ・富山県身体障害者福祉協会 ・富山県手をつなぐ育成会 ・富山県栄養士会 ・富山県母子寡婦福祉連合会 ・富山県保育士会 ・富山県傷痍軍人連絡協議会 ・富山県老人福祉施設協議会 ・富山県デイサービスセンター協議会 ・富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会 ・富山県ホームヘルパー協議会 ・富山県保育連絡協議会 ・富山県民生委員児童委員協議会 ・富山県社会福祉法人経営者協議会	
視察での感想	・富山県の総合福祉会館の施設として、県社会福祉協議会や各種団体が入居して県民がだれでも参加、交流できる場として整備されている。	
長所	・館内に福祉関係団体が多数入居していることから連絡や調整がスムーズである。 ・県関係機関へ徒歩で移動できる距離にある。また、駅や公共交通が多く活用できる。 ・県の地理的中心地で、県内関係機関の研修には集まりやすい場所である。 ・ガラス張りの建物は、バリアフリーに配慮され、エレベーターのガラス張りは聴覚障害者の手話などに配慮されている。	
短所	・県関係の関係団体は多様にあり、入居したいが部屋の確保が困難な団体がある。 ・ガラス張りのモダンな建物で景観はとて良いが冬寒く、夏暑い。 ・複数のイベント開催時は駐車場の確保ができない。 ・会館の維持管理に高額な経費がかかる。	

(仮称) 新総合福祉会館建設基本構想
報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

拠点施設整備検討部会

(仮称) 新総合福祉会館建設基本構想報告書

目次

I	基本構想策定の背景と目的	1
1	これまでの検討経過	1
2	基本構想の目的	1
II	新総合福祉会館建設の必要性	3
1	黒部市福祉センターの現況	3
2	黒部市福祉センターの問題点	6
3	新総合福祉会館の必要性	6
III	新総合福祉会館の位置づけと役割	8
1	新総合福祉会館の位置づけ	8
2	新総合福祉会館の役割と必要性	8
IV	新総合福祉会館の敷地条件の整理	10
1	建設候補地と敷地面積	10
V	新総合福祉会館建設の基本理念と基本方針	11
1	新総合福祉会館建設の基本理念	11
2	新総合福祉会館建設の基本方針	11
VI	新総合福祉会館の機能・規模	12
1	新総合福祉会館に求められる機能	12
2	拠点整備に関する重点事項(新総合福祉会館の強み)	15
3	新総合福祉会館の規模	20
4	駐車場の規模	28
VII	新総合福祉会館の活用施策と利用想定	29
1	新総合福祉会館の活用施策	29
2	新総合福祉会館の利用想定数	31
VIII	事業費の算定及び工期	34
1	全体事業費の算定	34
2	工期	34
IX	財源	35
1	財源の構成	35
X	今後の検討事項	36
1	今後さらに検討すべき事項	36
XI	まとめ	37
	資料編	38

I 基本構想策定の背景と目的

1 これまでの検討経過

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）が主催する平成27年度の第10回黒部市社会福祉大会において「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指すための大会決議3項目（Ⅰ人材育成の環境整備 Ⅱ地域福祉推進の場づくりと拠点整備 Ⅲ財源の確保）が承認されました。その一つである「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」について、地域福祉推進のために多様な団体や地域住民が集い、話し合いのできる場づくり及び、福祉・医療・介護・予防・住まい・生活支援が連携できる機能的な拠点についてのあり方を検討するために「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」（以下、「委員会」という。）を設置しました。

委員会では、黒部市として必要な関係団体や地域住民が連携協働できる場やしくみ、機能的な拠点について、様々な分野からの委員と公募委員で協議検討を行い、「地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書」をまとめました。

そして、本会ではこれを受け、より具体的な拠点施設の基本構想をまとめるために拠点施設整備検討部会を設置し、（仮称）新総合福祉会館建設基本構想報告書を策定することにしました。

なお、これまでの検討経過の概要は、表1-1のとおりです。

2 基本構想の目的

基本構想では、（仮称）新総合福祉会館の必要性と合意形成及び建設候補地の選定を踏まえ、建設の実現に向けて規模・機能・施設内容・予算（事業費・財源）などの設計与件（設計に向けての条件）とともに、現黒部市福祉センターの機能や今後求められる機能などについても検討し、一定の整理を行います。

具体的な完成時の姿が明確となるのは基本設計段階であり、基本構想では、設計の前提となる基本的な考え方をまとめます。

基本構想の策定にあたっては、本会の理事・評議員から委員を選出して「拠点施設整備検討部会」を設置し、建築の専門家を交え検討を進めます。

表 1-1 (仮称) 新総合福祉会館建設に関する検討経過の概要

年度	日付	事項
平成27年度	7月11日	<p>【第10回黒部市社会福祉大会において大会決議承認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点3項目 「人材育成の環境整備」「地域福祉推進の場づくりと拠点整備」 「財源の確保」の実現
	1月28日	<p>第1回 【地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、拠点に求められる役割や機能について協議と検討 ・多様な分野からの委員を選出(6回開催)
平成28年度	4月12日	<p>第2回 【地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会での協議・検討 <p>検討内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒部市の地域福祉の現状把握 2. 今後求められる新しい拠点のあり方
	5月25日	
	6月14日	
	7月20日	
	8月10日	
	8月10日	
	8月23日	<p>【報告書の提出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協長が市長、議長へ報告書を提出
10月25日	<p>第1回 【拠点施設整備検討部会を設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設整備検討部会を開催し、意見聴取(4回開催) <p>協議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新総合福祉会館の敷地条件の整理 2. 新総合福祉会館の機能・規模 3. 新総合福祉会館の財源構成 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設視察(県内4ヵ所) 	
11月17日	視察	
11月18日	第2回	
1月16日	第3回	
2月27日	第4回	
3月		<p>【報告書の提出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設整備検討部会長が(仮称)新総合福祉会館建設基本構想報告書を市長、議長へ提出

II 新総合福祉会館建設の必要性

1 黒部市福祉センターの現況

(1) 立地及び敷地条件

- ・現在の場所は、大布施地区に位置し、大布施公民館と中央児童センターが隣接しています。
- ・国道8号線入善魚津バイパス、黒部ICから県道若栗生地線、国道8号線から利用でき、交通の利便性も高い位置にあります。
- ・平成28年11月7日より、路線バス（南北循環線）が試験運行し、JA北部支店前で、30分間隔で乗車ができるようになり、市街地からの移動、電車、他の路線バスとの乗り継ぎも可能であり、利便性が高い場所にあります。

図 2-1 付近見取り図

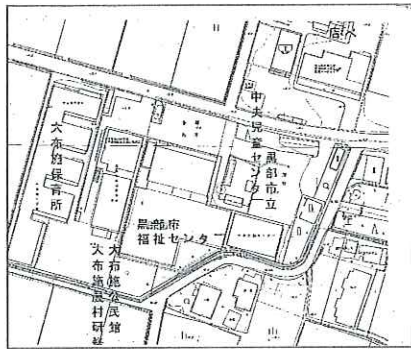


図 2-2 配置図

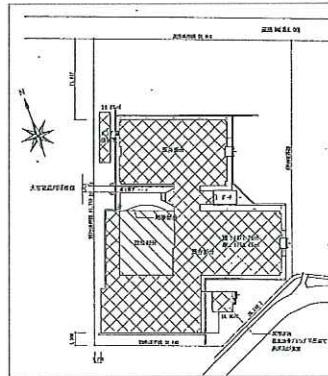
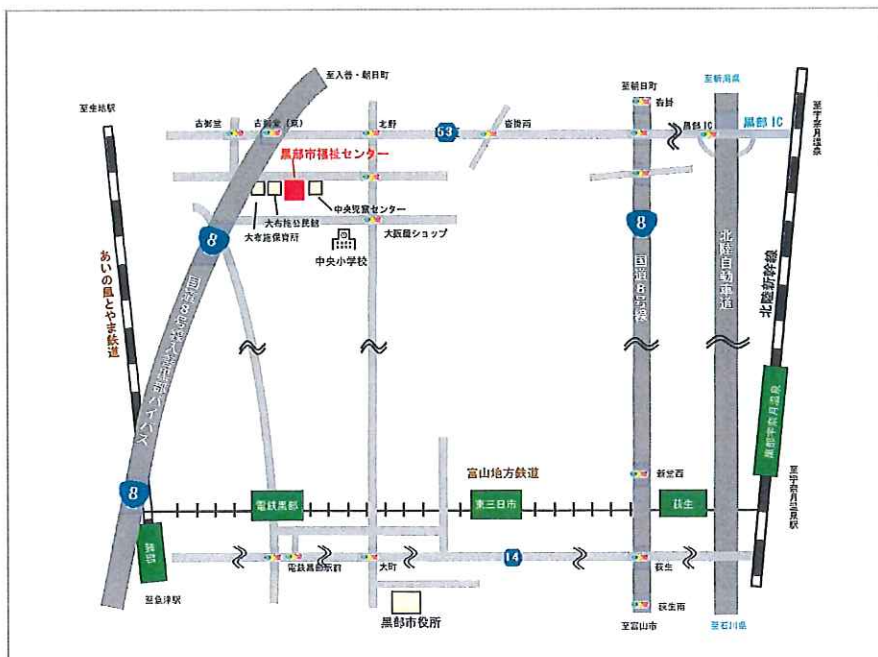


図 2-3 現在の黒部市福祉センター



図 2-4 黒部市福祉センター周辺図



(2) 建物の概要

黒部市福祉センターの建物の概要は、次のとおりです。

また、施設の現況は、表 2-1 のとおりです。

- ・黒部市福祉センターは、昭和 52 年に竣工し、40 年経過しています。
- ・鉄筋コンクリート造、地上 1 階平屋建て、延べ床面積 1,781.97 m²です。
- ・躯体、設備とも老朽化が著しくなっています。
- ・耐震性能についても旧基準の建物であるため、強い地震が発生した場合は、建物本体に大きな損傷を受けることが予想されます。
- ・駐車場は 139 台（うち来客用 65 台）となっています。

表 2-1 黒部市福祉センターの現況

		黒部市福祉センター
位置		黒部市金屋 464 番地の 1
竣工(築後経過年数)		S52 年 (40 年経過)
敷地面積		4,568.77 m ²
施設規模	構造	鉄筋コンクリート造平屋建
	階数	地上 1 階
延べ床面積		1,781.97 m ²
駐車場		139 台 (うち来客用 65 台)
社協職員数		50 人
現組織機構		総務課 地域福祉課 在宅福祉課
敷地内の附属施設		・食堂「めん処」ひだまり (鉄骨造亜鉛メッキ鋼葺平屋建) ・ポンプ室 (コンクリートブロック造陸屋根平屋建) ・車庫 2 棟 (鉄骨造陸屋根平屋建) ・自転車小屋 2 棟 (鉄骨造平屋建)
施設の入居団体		社会福祉法人にいかわ苑 シェアフィールドひまわり

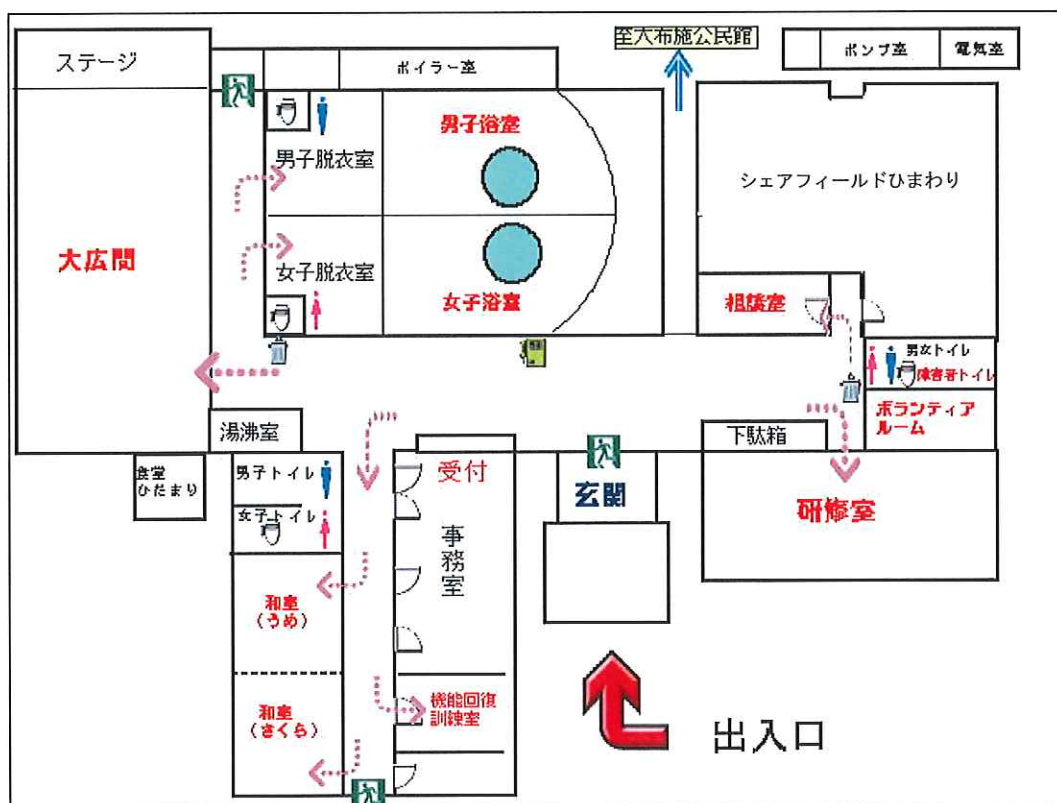
(3) 建物内部配置

黒部市福祉センター内の配置は、次のとおりです。

また、施設の平面図は、図 2-5 のとおりです。

- ・ 玄関左側に社会福祉協議会の事務室が配置されています。
- ・ 社協事務局機能として、相談室、研修室、ボランティアルームが配置されています。(会議時は、相談室、研修室、和室等を使用しています。)
- ・ 福祉センター機能として、浴室、大広間、和室、機能回復訓練室が配置されています。
- ・ 入居団体として、シェアフィールドひまわり (にいかわ苑：就労継続支援 B 型)、附属施設として、食堂「めん処」ひだまりが配置されています。
- ・ その他、隣接する大布施公民館への連絡通路があります。

図 2-5 黒部市福祉センター平面図 (H28. 4. 1 現在)



2 黒部市福祉センターの問題点

黒部市福祉センターにおける主な問題点を整理すると、以下のとおりとなります。

(1) 施設設備の問題点

①施設・設備の老朽化

- ・黒部市福祉センターは、建築から40年経過しているため、施設や設備の老朽化が著しく、維持管理費がかさんでいます。
- ・黒部市福祉センターは、昭和56年に施行（平成19年一部改正）された耐震基準以前に建設されていることから、災害時の災害支援ボランティアセンター機能確保のため耐震補強などの対策が必要となっています。

②施設整備の状況

- ・黒部市福祉センターは、障がい者や高齢者のためのバリアフリー化を含めたユニバーサルデザイン^{※2}への対応が十分ではありません。^{※1}
- ・高齢福祉施設としての利用が多く、誰もが利用しやすい総合福祉施設としての環境整備が不足しています。

3 新総合福祉会館の必要性

(1) 黒部市福祉センターの老朽化・耐震化への対応

現施設の修繕には年間500万円以上がかかっている状況で、今後10年の間に空調設備、ボイラーなど水まわりの修繕などに年間数千万円の予算が必要となることが予想されます。また、耐震基準に対応した施設として安心して利用できる施設に建て替える必要があります。

(2) 多様化する福祉ニーズへの対応

黒部市福祉センターの開設当時は、高齢福祉を中心に老人福祉センター機能（入浴・機能回復訓練・相談・休養）としてその役割を果たして来ましたが、今日、福祉のニーズは多様化し、様々な地域課題や社会課題に対応していくためにも、黒部に住むすべての人々の福祉を支える機能を発揮する施設となる必要があります。

(3) 誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの実現

子ども、障がい者、外国人、少数派（マイノリティー）の人たちにとっても、安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりを実現するためには、市民一人ひとりの安心を支えるとともに、市民の意識を高め、福祉への関心と参加、担い手となる人材を増やしていくことが必要です。そのためにも新しい拠点施設が黒部市の福祉教育を推進していく中核となり、その学びの機能として人材育成を継続的に行っていく必要があります。

(4) 福祉の相談支援の一元化・専門性の集約

様々な世代、多様な分野の福祉ニーズに対応するには、各種の専門的な支援機能を持ち備えることが必要です。また一拠点にその機能を集約することによって、より横断的に課題解決に取り組む体制を整備する必要があります。

(用語説明)

※1 バリアフリー：段差や仕切りをなくすなど、障がい者や高齢者が日常生活で不便な障害となっていることを除去し、安心して暮らせる環境をつくること

※2 ユニバーサルデザイン：障がい者や高齢者のみならず、すべての人に使いやすいよう、まちや建物、環境などをデザインしていこうという考え方

Ⅲ 新総合福祉会館の位置づけと役割

1 新総合福祉会館の位置づけ

(1) 第2次黒部市総合振興計画における位置づけ

現在、策定作業中である第2次黒部市総合振興計画基本構想（平成30年～39年までの10ヵ年計画）において、これからの地域福祉推進のために必要な拠点として整備計画が位置づけされることが必要不可欠です。

2 新総合福祉会館の役割と必要性

役割と必要性については、黒部市内の様々な分野から委員を選出して協議した「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」において下記のとおり、取りまとめを行いました。

(1) 活動の場の変化

国の施策において、地域包括ケアシステム^{※3}の実現を目指す方向が示される中、今後は、中央の拠点到たくさんの人を集める形から地域を拠点とした小さな集まりをたくさん作り出していく形に変化していくことが予想されます。現在は、中央の拠点、地区、地域でそれぞれ活動の場や事業が実施されていますが、今後は、地区や地域の活動を間接的に支援し、下支えしていく拠点機能が必要になってくると考えます。

(2) 担い手の創出と人材育成

今後、小さな地域単位で多くの活動が実施されていくことが考えられます。その中で、必然的に活動者や支援者を増やしていく必要があります。ボランティアや活動の中心となる地域リーダーなどの担い手を創出していくことなど人材の育成が急務であると言えます。

担い手の掘り起こしと人材育成は、拠点、地区、地域が一体となって取り組むべき課題であり、拠点の機能として、「学びの場」を提供し、新しい担い手を発掘する機能を充実させ、地区や地域などでは活動を通して人材を育成していくという役割分担が必要となってきます。また、福祉専門職や援助者は、福祉サービスを提供する担い手として質の担保や向上を図る場も必要になってくると考えます。

(3) 誰もが集う機会

地域福祉推進の拠点として、地域福祉に関わる人を中心に検討を進める一方で「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまち」の実現には、支援を必要と

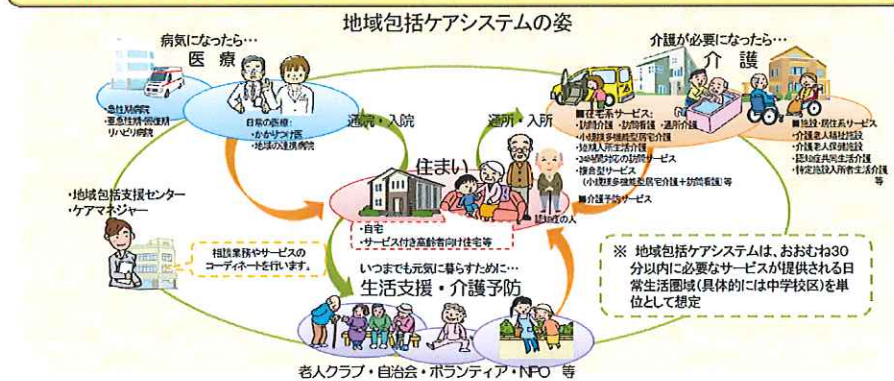
する当事者や利用者または、支援活動者以外の人々にも拠点に来る機会をつくり出し、福祉との関係性を持たせることも重要であると言えます。様々な集いで拠点に訪れる機会をつくることで、知ることや気づきが芽生え、将来的な福祉への理解や協力につながる福祉教育的な拠点の機能を持ち備える必要があると考えます。

(4) 複合的な機能

福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約し、一元化することにより、市民に分かりやすく、利便性が上がることが考えられます。さらに、福祉の機能を持つ団体や施設などと隣接または併設することで、相乗効果を図ることにもつながります。また、災害が起きた時の災害支援ボランティアセンターなど福祉に特化した機能を持つ拠点が必要であると考えます。

図 3-1 地域包括ケアシステムの概要

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**



出典：厚生労働省

(用語説明)

※3 地域包括ケアシステム：厚生労働省において、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制のこと（図3-1参照）

IV 新総合福祉会館の敷地条件の整理

1 建設候補地と敷地面積

(仮称)新総合福祉会館の建設基本構想の検討にあたり、建設場所を想定しそれに伴う規模や予算を試算する必要があります。実際に建設されることが市として位置づけされれば、改めて建設場所や規模についての検討が行われるものと考えられます。現段階では市社協として望むべき場所を想定し、そこでの計画づくりを進めていくことにします。

(1) 建設候補地

建設地の選定にあたっては、拠点施設整備検討部会において下記の点を検討した結果、「現行の場所での建て替え」がもっとも実現性が高いと考えます。

- ・現在の黒部市福祉センター規模の敷地を新たに取得するには経費が掛かるため、既存の場所を利用する方法が有効と考えます。
- ・利便性などについても公共交通機関の乗り入れやバスの巡回などでカバーすることができます。
- ・今後、車での来館者は増える見込みがあり、駐車場を大きく確保する必要があります。既存の場所であれば広げること検討できます。
- ・建て替え期間中の市社協事務局については、遊休施設などを活用し、一定期間に移動することも考えられます。

(2) 敷地面積

各部屋の機能を基に必要な面積を積み上げていきますが、全体の敷地面積は現黒部市福祉センターの敷地を上限とし、地上1階平屋建てで検討していくことで考えます。

建設候補地と敷地面積

以上のことから、建設場所を現黒部市福祉センターでの建て替えと想定し、解体費、建設費を試算し、工期などを示します。また、施設の規模についても現敷地面積をベースに行うこととします。

V 新総合福祉会館建設の基本理念と基本方針

先に行われた「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」によって取りまとめられたものを継承し、基本理念・基本方針を設定します。

1 新総合福祉会館建設の基本理念

新総合福祉会館建設基本構想を策定していく上での基本コンセプトを次のように定めます。

「人と地域のしあわせを支える拠点」

市民一人一人のしあわせを支え、一つ一つの地域の福祉を支えます

市民一人一人のしあわせを支え、「やさしい福祉のまち」の実現
これからの地区・地域という単位の活動推進を図る

2 新総合福祉会館建設の基本方針

基本理念に基づき、より具体化した基本方針として、これまでの検討経緯や市民等の意見を踏まえ以下のとおり設定します。

「人が学ぶ」—黒部市一体での人材育成と担い手育成—

「支える」—支援する人を支援する、はざまにいる人を支える—

「つなぐ」—福祉活動の活性化、サービスの充実—

「誰もが集う機会」—福祉教育、知る、触れる機会—

「複合的な機能」—相乗効果を生み出す、利便性向上—

VI 新総合福祉会館の機能・規模

「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」及び「拠点施設整備検討部会」で出された導入機能について意見を収集し、新総合福祉会館に導入すべき機能として、検討した結果、以下のとおり整理します。(図 6-1)

更に、現行の敷地に合わせた平面図に各機能を満たす部屋割りをを行います。

(図 6-2)

1 新総合福祉会館に求められる機能

「人が学ぶ」—黒部市一体での人材育成と担い手育成—

今後、活動の主体が地区や地域単位に移行し、小さな単位で多くの活動が実施されていくことが考えられます。そのような中で、最も重要になってくるのが活動を行う「人」であり、「自分たちの地域を自分たちで良くしていく」という意識やムードを黒部市に浸透させていくことや地域活動者を生み出し育てていくこと、また福祉を支える専門職の質の向上や担保が必要となってきます。

拠点、地区、地域が一体となり活動の担い手となる「人」の掘り起こしと育成を行うことが求められるため、拠点ではすべての人に学ぶ場を提供することが必要です。

「支える」—支援する人を支援する、はざまにいる人を支える—

地域福祉推進の担い手は、専門職だけではなくボランティアや支援者、援助者など地域の担い手となる活動者、そして一番身近な家族であり、その人たちを間接的に支えることが大切になってきます。また、制度のはざまにいる人たちや新しい課題に対して支援を必要とする人たちへの支援は、誰もが安心して暮らせる地域の実現に不可欠であります。

「つなぐ」—福祉活動の活性化、サービスの充実—

必要な人やモノ、資金、情報などをつなぐことで活動をスムーズに後押しすることや活性化を図ることができます。また、困りごとがあるとき、制度や専門性をつなぐことで福祉サービスの利便性が向上し、新たなサービスの開発にもつながると考えます。

「誰もが集う機会」—福祉教育、知る、触れる機会—

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の実現のために、支援を必要とする当事者や利用者または、支援活動者以外の人々にも拠点に来る機会をつくり出します。様々な集いで拠点に訪れる機会をつくることで、知ることや気づきが芽生え、将来的な福祉への理解や協力につながる福祉教育の推進を図ります。

「複合的な機能」—相乗効果を生み出す、利便性向上—

福祉に関する相談やサービスを一つの拠点に集約し、一元化することにより、市民に分かりやすく、利便性が向上します。また、福祉の機能を持った施設を隣接又は併設することで、相乗効果が図られます。さらに、災害が起きた時の災害支援ボランティアセンターなど福祉に特化した拠点としての機能を併せもつ必要があります。

図 6-1 あり方検討委員会報告から新総合福祉社会館に求められる機能整理

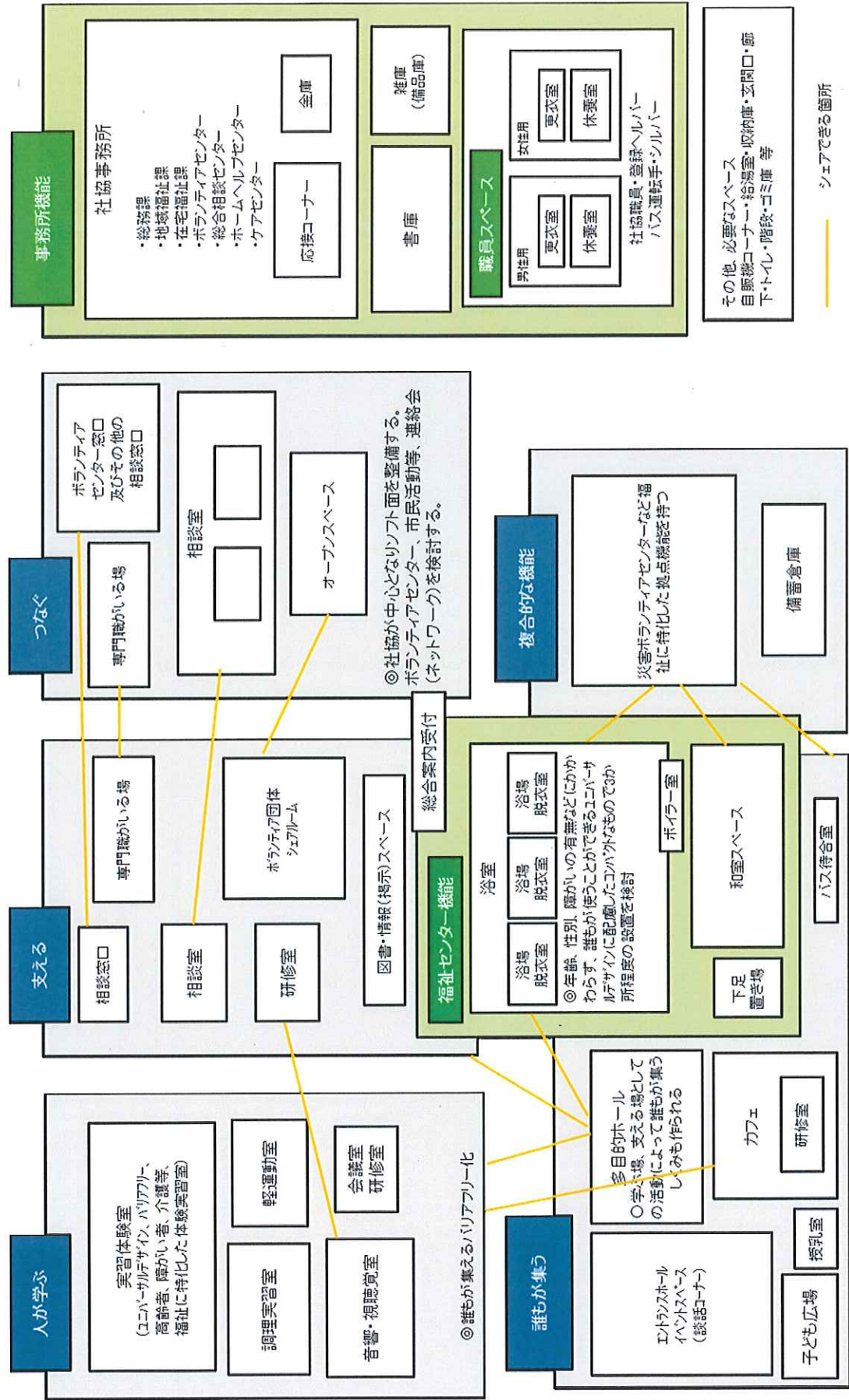
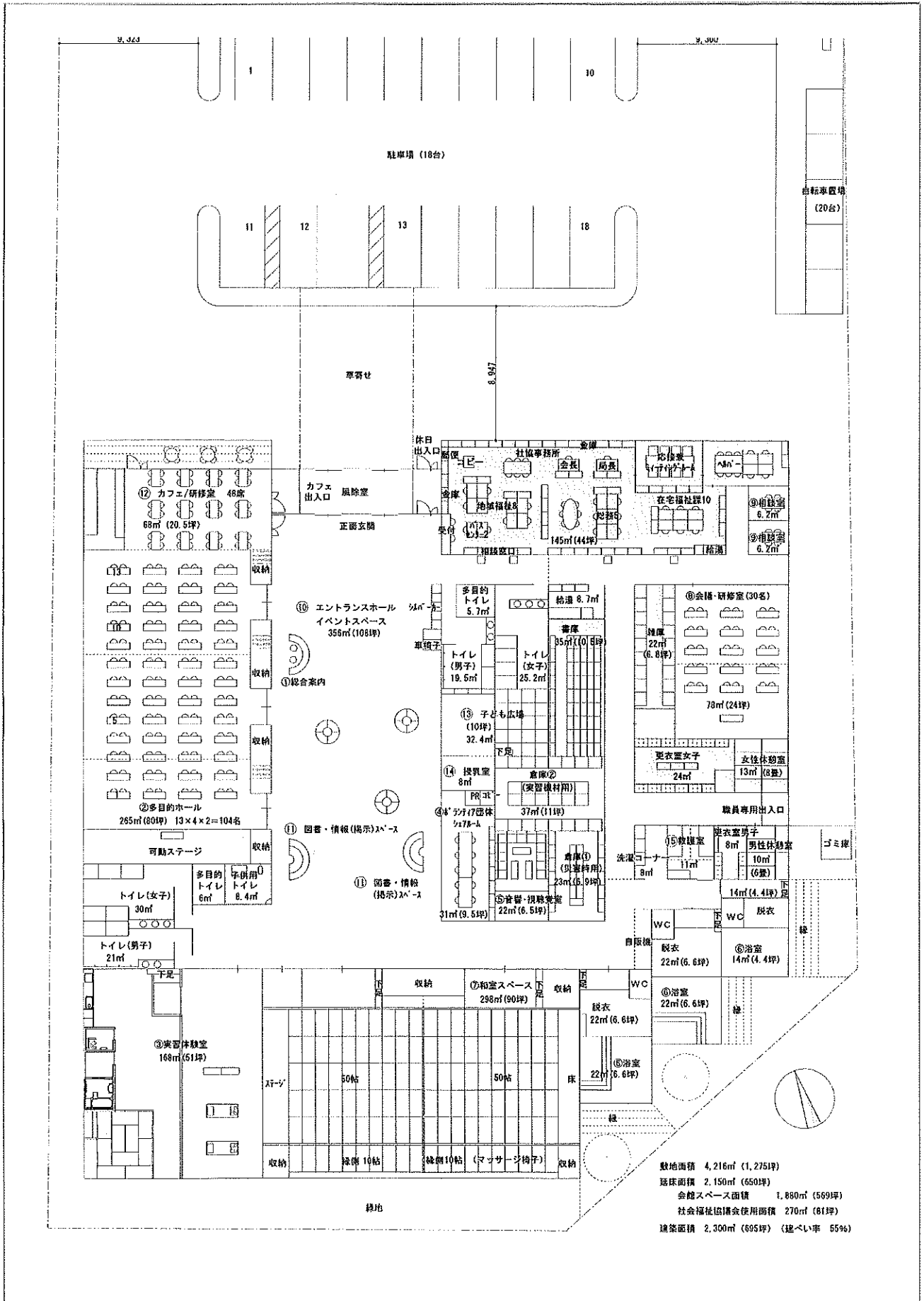


図 6-2 新総合福祉会館平面図



2 拠点整備に関する重点事項（新総合福祉会館の強み）

新総合福祉会館では他の公共施設とは異なる強みを持ち、これからの黒部市のまちづくりを推進していく拠点となる必要があることから以下の4点について重点的に検討と議論を行いまとめました。

（1）機能面

①福祉教育の拠点（P16 参照）

「地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書」にも位置づけされている「人が学ぶ」拠点、黒部市一体での人材育成と福祉教育を推進していくための中心となる研修と疑似体験^{※4}などが一元的に行うことができる唯一の拠点となります。

②災害時支援の拠点（P17 参照）

災害時に災害支援ボランティアセンターの拠点となる役割を果たし、地域住民の生活支援やボランティアの受け入れとマッチングなどがスムーズに行える災害時支援の拠点となります。また、避難行動要支援者、災害弱者となる人々への支援物資や機能を持ち備え、緊急時にも誰もが安心して暮らせる生活面を支えます。

（2）活用面

①入浴場の利活用（P18 参照）

今後の人口動向や地域情勢を勘案しながら規模を縮小するものの既存の福祉センター機能を有しながら、幅広い層が入浴施設を活用できるようにすること、様々な目的に合わせ、利活用できる入浴場となります。

入浴場の縮小と必要性については、資料編にある「黒部市福祉センターの入館者の動向に関する現状調査」に基づいて検討しました。

②変化・共有（シェア）（P19 参照）

建設後40年間の利活用を考える中で、時代の変化に合わせた対応ができるよう、一つの部屋や空間を固定化せず、様々な目的や時間に応じて共有し、稼働率の向上につなげます。

（用語説明）

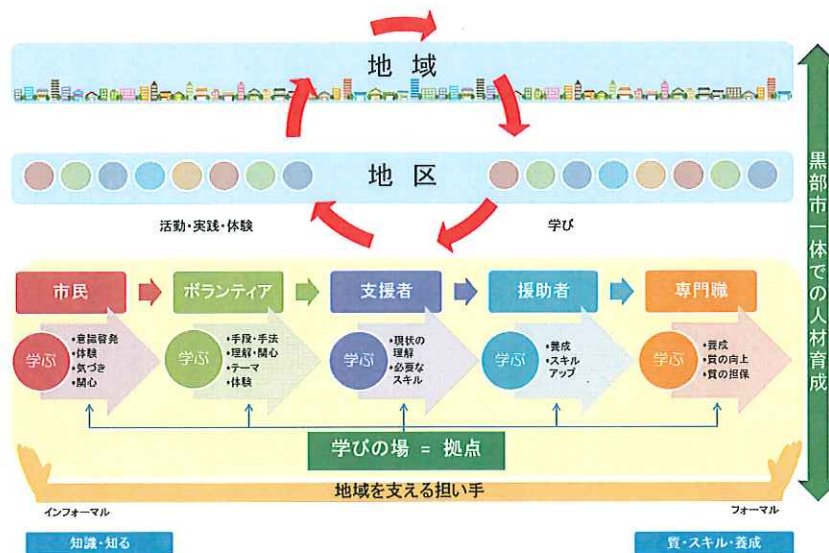
※4 疑似体験：疑似体験装具（ヘッドホーンや特殊眼鏡、手足の重りなど）を装着して日常生活動作を擬似的に体験することにより、高齢者、障がい者の気持ちや介護方法、コミュニケーションの取り方を体験的に学ぶこと

【福祉教育の拠点】

「地域福祉推進の拠点に関するあり方についての報告書」にも位置づけされている人が学ぶ拠点、黒部市一体での人材育成と福祉教育を推進していくための中心となる研修と疑似体験などが一元的に行うことができる唯一の拠点となります。

(具体的イメージ)

- ・ 児童生徒の福祉体験
 - ダイアログインザダーク^{※5} (暗闇体験)、高齢者疑似体験
 - 視覚障害疑似体験、バリアフリー、ユニバーサルデザインルーム
- ・ 福祉専門職のスキルアップ研修／実技講習
 - 介護職員研修
 - 福祉関係職員研修・福祉連携研修
- ・ 地域住民向け研修
 - 地域リーダー養成研修
 - 家族介護実習



(用語説明)

※5 ダイアログインザダーク：日常生活の様々な事柄を暗闇の空間で、聴覚や触覚など、視覚以外の感覚を使って体験するエンターテインメント形式のワークショップ

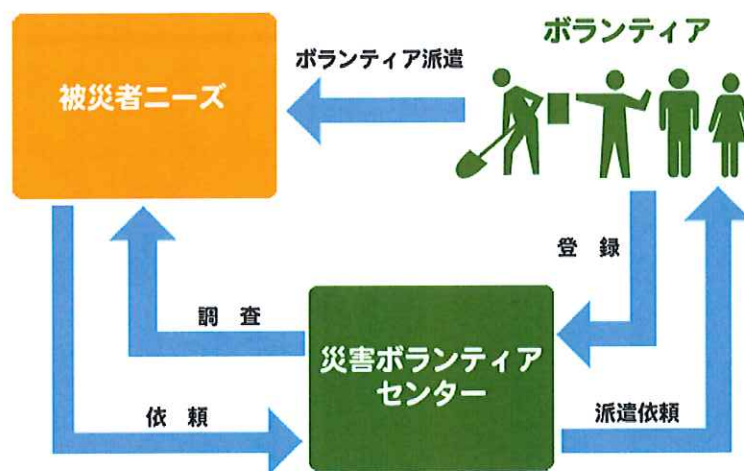
【災害時支援の拠点】

災害時に災害支援ボランティアセンターの拠点となる役割を果たし、地域住民の生活支援やボランティアの受け入れとマッチングなどがスムーズに行える災害時支援の拠点となります。また、避難行動要支援者、災害弱者となる人々への支援物資や機能を持ち備え、緊急時にも誰もが安心して暮らせる生活面を支えます。

○黒部市社会福祉協議会は、災害発生時において黒部市と協議し必要に応じ、ボランティアなどを受け入れる「災害支援ボランティアセンター立ち上げマニュアル」を策定しており、その役割を果たすことを位置付けています。

(具体的イメージ)

- ・災害支援ボランティアセンター ※6
- ・災害救援物資の受け入れとストックヤード
- ・災害復興の生活支援の相談機能



(用語説明)

※6 スtockヤード：一時的に保管しておく場所

【入浴場の利活用】

今後の人口動向や地域情勢を勘案しながら規模を縮小するものの既存の福祉センター機能を有しながら、幅広い層が入浴施設を活用できるようにすること、様々な目的に合わせ、利活用できる入浴場となります。

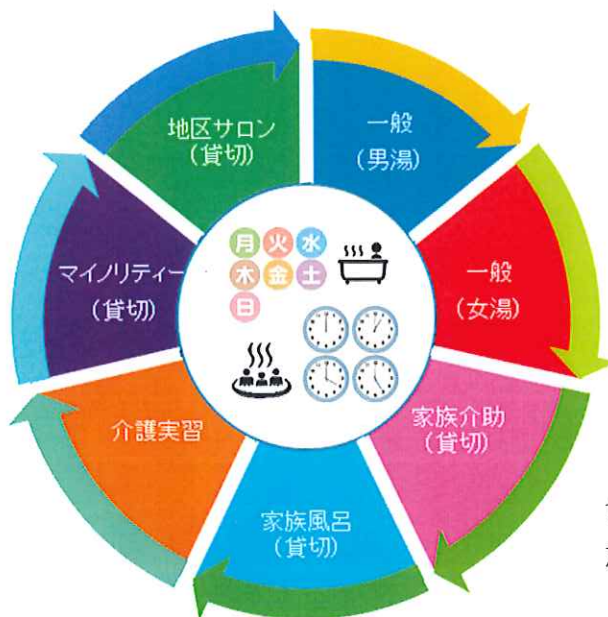
入浴場の縮小と必要性については、資料編にある「黒部市福祉センターの入館者の動向に関する現状調査」に基づいて検討しました。

(具体的イメージ)

- ・ 家族介助ができる浴場（貸切利用）
- ・ 少数派（マイノリティー）の方への福祉サービス
- ・ 研修／実習に利用できる浴場
- ・ 災害時の支援施設（ボランティア、生活支援）として活用
- ・ 既存の老人福祉センターとしての入浴場利用



浴室（介護用）のイメージ



時間別利用状況例

	浴室A	浴室B	浴室C
朝	一般浴	一般浴	個浴
↓	貸切	貸切	実習
夜	一般浴	一般浴	特浴

曜日、時間帯によって、通常利用と貸し切り対応とを区分し、幅広い年代の方、家族、団体で利用することが可能です。

【変化・共有（シェア）】

建設後 40 年間の利活用を考える中で、時代の変化に合わせた対応ができるよう、一つの部屋や空間を固定化せず、様々な目的や時間に応じて共有し、稼働率の向上につなげます。

(具体的イメージ)

- ・ ボランティア団体シェアルーム

黒部市内のボランティア約 60 団体が、共有して事務作業やミーティングなどを行うことができます。



ボランティアシェアルームのイメージ

- ・ エントランスホール／イベントホール

エントランスホールは、移動可能な椅子や展示物を移動させることでフラットなスペースとなり、大規模なイベントの開催も可能になります。



イベントホールのイメージ

- ・ カフェ／研修室／巡回バスの待合室 ※7

カフェは、館内のケータリングサービスや研修スペースとしても活用できます。また、入り口近くに併設することで、今後検討しているバスの待合室としての機能も果たすことができます。



カフェ/研修室のイメージ

- ・ 将来的な他の関係機関との複合等

将来的に新たな事務局、事業拡大などにより入居スペースが必要となった場合、会議・研修室などを活用することが考えられます。

(用語説明)

※7 ケータリングサービス：イベントやパーティー時に顧客の指定する元に出向いて食事を配膳、提供するサービス

3 新総合福祉会館の規模

(1) 会館スペース ー機能配置の考え方ー

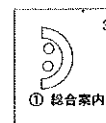
導入機能に関しては、「学ぶ」「支える」「つなぐ」「誰もが集う機会」「複合的な機能」の5機能を基本とし、新総合福祉会館における会館スペースを整理します。

なお、会館スペースの機能分類を表6-1にまとめます。

会館スペース

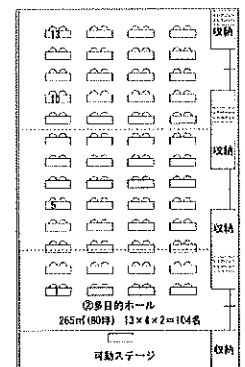
①総合受付

- ・入館案内、ガイダンスができる機能を充実させ、迷わず、安心して館内利用ができる総合窓口を設置します。
- ・インフォメーションはディスプレイ化して、情報を掲示し、その他、館内案内図は点字版を設置します。



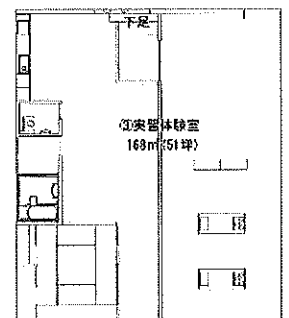
②多目的ホール

- ・学びが目的の養成講座、セミナーの開催ができる場としての機能と、人が集まるイベントの開催会場として、さらには災害時のボランティアセンターの拠点としても活用できる多目的ホールとします。
- ・使用目的に併せて、可動式のステージ、テーブル、イス等を設置し、学校形式で最大100名程度収容が可能なホールとします。
- ・パーティションで仕切ること、分割して使用できます。また、カフェとの境界も開閉式の壁とし、その場合、最大50名分広く使用できます。



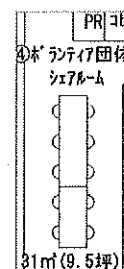
③実習体験室

- ・幅広い年齢層を対象とし、福祉の体験実習を通して、福祉の学びの場としての機能を果たします。幼少期から福祉に触れ、体験できる学びの場として、また、支援者・援助者・専門職のスキルアップ、質の向上につながる学びの場として活用でき、その体験が人を育て、活動の担い手の発掘にもつながると考えます。
- ・福祉の体験実習機能の他、調理スペースとして、システムキッチンを設置し、料理教室等にも使用できます。



④ボランティア団体シェアルーム

- ・市内で活動するボランティア団体が自由に共有できる部屋として貸出します。
- ・事務作業やミーティングが可能で、その他、ボランティア団体毎に使用できる収納ロッカーを設置し、年間登録制等、使用方法も検討します。



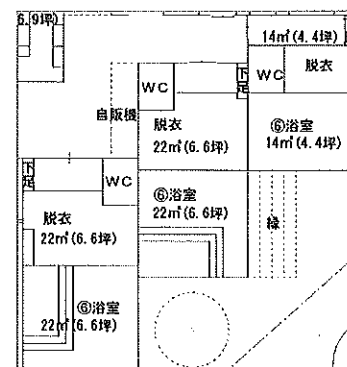
⑤音響・視聴覚室

- ・音響と防音環境を備え、市民に貸出できる部屋とします。
- ・防音設備を備えることで、音訳ボランティア団体を支え、更には、音楽活動等のサークル活動者が集う場としての機能も果たします。



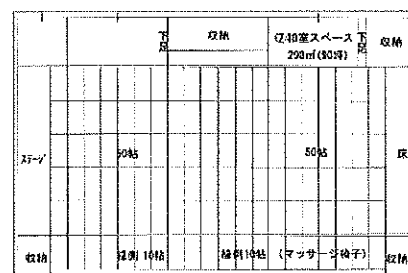
⑥浴室

- ・従来からの入浴者以外に、家族介護者を支える場、障がい者や子育て支援ができる場、介護職員の学びの場として、高齢者向けの浴室という考え方から、誰もが集える浴室として設置します。
- ・ユニバーサルデザインに配慮したコンパクトな浴場を3カ所（7：7：5人用程度）設置し、うち1カ所は家族介助や介護実習ができる機能を有する福祉に特化した浴室とします。
- ・利用時間や貸し切りの時間帯を設けるなど、利用者の年齢幅を広げ、運営方法も検討します。



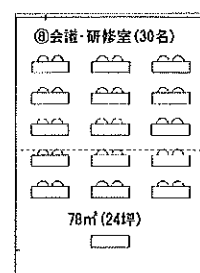
⑦和室スペース

- ・浴室機能に併せ、休憩ができる和室（畳の間）を設けることで、誰もが自由にくつろぐことができます。また、囲碁・将棋等、趣味を楽しむ場、イベント開催の場としても使用できます。
- ・2部屋（50畳）に仕切れ、多機能に使用できます。
- ・災害時のボランティアセンターの拠点としても畳の間は機能性が高く、必要スペースと考えます。



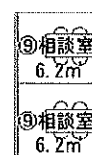
⑧会議・研修室

- ・会議の場、研修の場として利活用し、地域リーダー養成研修等、学びの場としての機能、社協の職員会議も含め、誰もが集える場としてシェアできる部屋とします。
- ・仕切り壁で2分割にして使用できるものとします。



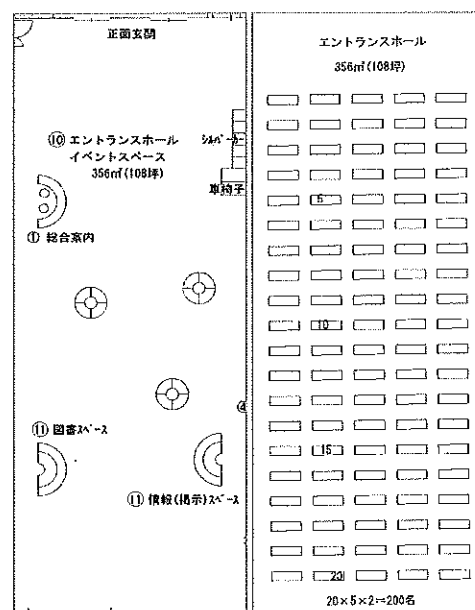
⑨相談室

- ・市民が相談等で気軽に来館できるよう、個室化し、相談者のプライバシーに配慮します。
- ・少数（4人程度）で利用できる個室とします。また、少数での社内ミーティングも行えます。



⑩エントランスホール／イベントスペース

- ・誰もが気軽に立ち寄れる空間を演出し、そこに来て、目にする人、モノとの触れあい、そこからの気づき、福祉への関心、学びが生まれることが期待できます。
- ・通常は、ベンチ等を設置し、図書スペース、休憩スペースとして活用できるくつろぎ空間として利用できベンチ等を移動させることで、200人収容可能な大きなイベントも開催できるスペースが確保できます。



⑪図書・情報（掲示）スペース

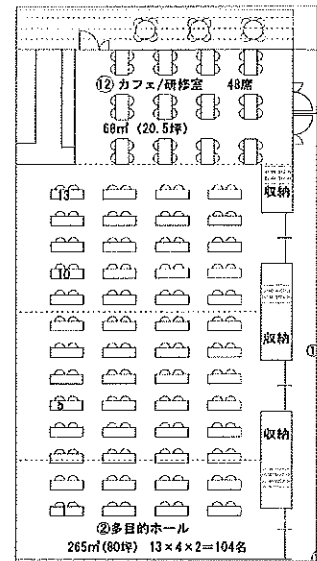
- ・福祉に関するあらゆる情報が分かり、個々に必要となる情報提供が、支援者を支えるきっかけ、場づくりとなります。また、福祉に関わる専門書を設置し、学びの場としての利用もできる機能を備えます。
- ・図書スペースの図書は市図書館の団体貸出サービス^{※8}を利用し、定期的に本の入れ替えを行い、移動図書館的な役割を果たします。

(用語説明)

※8 団体貸出サービス：個人貸出以外に、保育所、幼稚園、学校、公民館、病院、事業所、ボランティア団体などの団体に貸出しているサービス

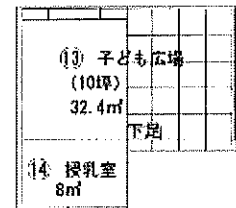
⑫カフェ／研修室

- ・会館正面の出入り口付近に設置し、来館目的、利用年齢の幅を広げ、通常は、カフェとして誰もが気軽に立ち寄れる空間として、さらには、研修の場、会合の場、相談の場など、多機能に利用できる場とします。また、イベント時は貸し切りで会場利用ができ、イベントの開催も積極的に企画できます。
- ・50名程度収容できるスペースを設け、バスの待合室機能としても併用できます。
- ・多目的ホールとの境界を開閉式の壁とし、収容人員の拡大を広げ、イベント時のケータリングサービスにもスムーズに対応できます。



⑬子ども広場

- ・外出時や入浴後の休憩場所としての利用を主とし、その他貸し切りで子育てサークル活動の場としての使用や、保護者がイベントや研修に参加しやすいよう予約制の託児所機能も果たせます。
- ・乳幼児が横になって休める畳の間と、プレイマットスペースを設置します。



⑭授乳室

- ・授乳スペース、給湯設備、乳児用ベッドを設置し、子育て世代が集いやすい環境づくりに配慮します。
- ・子ども広場から行き来しやすい位置とします。

⑮救護室

- ・浴場施設等もあることから、急に気分が悪くなった方、ケガをされた方を一時的に救護する部屋とします。
- ・急患者の対応として、2名程度が休める簡易ベッド、救急用品を設置します。

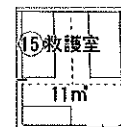


表 6-1 会館スペース機能分類

名称	機能	人が学ぶ	支える	つなぐ	誰もが集う	複合的な機能
会館スペース	① 総合受付			○		
	② 多目的ホール	○			○	○
	③ 実習体験室	○				○
	④ ボランティア団体シェアルーム		○	○		
	⑤ 音響・視聴覚室	○	○		○	
	⑥ 浴室	○	○		○	○
	⑦ 和室スペース				○	○
	⑧ 会議・研修室	○			○	
	⑨ 相談室		○	○		
	⑩ エントランスホール/イベントスペース	○				○
	⑪ 図書・情報（掲示）スペース	○	○			
	⑫ カフェ/研修室	○			○	○
	⑬ 子ども広場				○	
	⑭ 授乳室				○	
	⑮ 救護室			○		○

(2) 事務所スペース ー機能配置の考え方ー

社協の事務局機能として、市の人口の増減や政策等により組織体制や職員数は常に変動するため、長期での組織体制を予測することは非常に困難です。そこで、新総合福祉会館における組織体制及び勤務する職員等は、現行に置き換えて想定することとします。

黒部市社会福祉協議会における組織体制の想定 : 3 課
 黒部市社会福祉協議会に勤務する職員等の数の想定 : 50 人（非常勤職員含む）
 注）東部地域包括支援センター職員、宇奈月老人福祉センター職員は除く

表 6-2 組織体制

(H28.4.1 現在)

課	係/班
総務課	法人運営係、経営戦略係、施設運営班
地域福祉課	共生推進係、生活支援係、地域支援係、地域包括支援班
在宅福祉課	在宅福祉係、居宅訪問介護係、居宅介護支援係

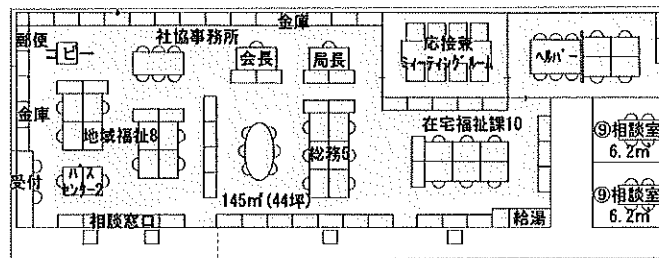
事務所スペース

①社協事務所

- ・窓口はオープンカウンター方式とし、来館者と職員とがコミュニケーションをとりやすいものとします。
- ・地域に関わる専門職員が多い部署（地域福祉課）を窓口付近に配置し、部署間の仕切りは作らず、ワンストップで効率よく対応できるものとします。
- ・将来の組織変更にも柔軟に対応できるレイアウトや設備計画を検討します。

②応接兼ミーティングルーム

応接及び社内ミーティングの場として事務所内に設置します。

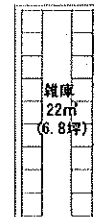


③書庫

保管書類、必要書籍等を部署毎に区分し、保管します。

④雑庫（備品庫）

共同募金資材、事務用品等を保管します。



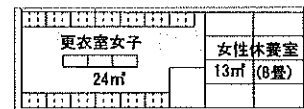
⑤休養室

職員が休養できるスペースを男女別に設置します。



⑥更衣室

職員が更衣できるスペースを男女別に設置します。



(3) その他スペース - 機能配置の考え方 -

その他として、以下のものが上げられます。

その他スペース

自販機コーナー、給湯室、洗濯コーナー、倉庫（災害時備蓄用、実習機材用）、玄関、風除室、廊下、トイレ（男性用、女性用、多目的、子供用）他

(4) 各部屋等の必要面積

各部屋、スペースの必要面積を仮レイアウトによる想定で求め、新総合福祉会館必要面積を算定します。

表 6-3 各部屋等の必要面積

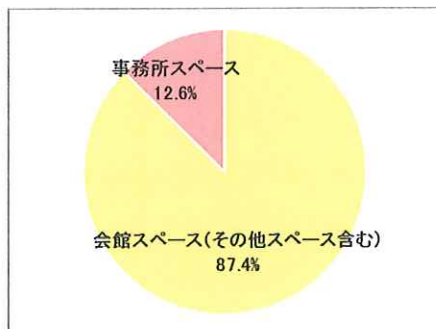
会館スペース					
室名	収容人員		必要面積		備考
①総合受付					
②多目的ホール	100	人	265	m ²	3室に分割できる
③実習体験室	50	人	168	m ²	調理室機能含む
④ボランティア団体シェアルーム	10	人	31	m ²	
⑤音響・視聴覚室	10	人	22	m ²	防音
⑥浴室（脱衣室含む）	1室7	人	116	m ²	3室
⑦和室スペース	60	人	298	m ²	2室に分割できる
⑧会議・研修室	30	人	78	m ²	
⑨相談室	1室4	人	12.4	m ²	2室
⑩エントランスホール／イベントホール	200	人	356	m ²	
⑪図書・情報（掲示）スペース					エントランスホールの一面に配置
⑫カフェ／研修室	50	人	68	m ²	多目的ホールとつながる
⑬子ども広場	親子5	組	32.4	m ²	
⑭授乳室	親子2	組	8	m ²	
⑮救護室	2	人	11	m ²	
小計			1,466	m ²	
事務所スペース					
社協事務所	30	人	145	m ²	3課で想定
応接兼ミーティングルーム	8	人	12.6	m ²	
書庫			35	m ²	
雑庫			22	m ²	
休養室			23	m ²	男女各1室
更衣室			32	m ²	男女各1室
小計			270	m ²	
その他スペース					
その他スペース			414	m ²	廊下・トイレ・倉庫 など
合計			2,150	m ²	

(5) 会館スペースと社協事務所スペースの面積

現黒部市福祉センターの延床面積は、計 1,781.97 m²で、新総合福社会館の延床面積は 2,150 m²で、その内訳は、会館スペース部分（その他スペース含む）が 1,880 m²、社協事務所スペース部分が 270 m²とします。

機能用途別の面積割合は、新施設の核となる会館スペース（地域福祉推進の拠点機能）は全体の約 9 割を専有し、社協事務所スペースが全体の 1 割程度専有すると考えられます。（表 6-4）

表 6-4 新会館の延床割合面積



(その他スペース)

自販機コーナー、給湯室、洗濯コーナー、
倉庫（災害時備蓄用、実習機材用）、
玄関・風除室、廊下、トイレ 他

多目的ホール、和室スペースなどは共有が可能であるため、可能な限り会館の共有化を図るなど効率的に活用します。

共有可能スペース

- ・多目的ホール
- ・実習体験室
- ・音響・視聴覚室
- ・和室スペース
- ・会議・研修室
- ・相談室
- ・エントランスホール／イベントホール
- ・カフェ／研修室 等

4 駐車場の規模

現在、駐車場は、黒部市福祉センター側に 21 台、中央児童センター側に 18 台、黒部市福祉センター、大布施保育所、シェアフィールドひまわり、中央児童センター職員と来訪者共用駐車場として大布施保育所向かい側に 100 台の計 139 台駐車可能とされています。その他として、隣接する大布施公民館に 9 台駐車できます。現状の利用率からみても、現状と同様のスペースの確保が必要と想定されます。

新総合福祉会館において、来館者用、公用車用および職員用のそれぞれについて検討する必要があります。

①来訪者用駐車場

来館者の交通手段は、自動車利用が多く、新総合福祉会館の収容人数は、最大で 200 人を想定しています。福祉巡回バス、試験運行中の路線バス（南北線）の利用も考え、自動車利用率を 0.5 とし、玄関前に駐停車できるロータリー、障がい者用の区画を確保し、来訪者用駐車台数は 100 台と想定します。

②公用車駐車場

社協が保有する公用車は、現在 19 台であり、うち 3 台は東部地域包括支援センターで使用、福祉バス 2 台は専用車庫の設置があるため、全 14 台分は必要と考えます。但し、将来の統合も視野に入れ、台数の増加を想定し公用車駐車台数は 20 台と想定します。

③職員駐車場

交通手段として全職員が自家用車での通勤のため、常勤職員数 27 台分は必要と考えます。但し、将来の統合も視野に入れ、台数の増加を想定し職員用駐車台数は 35 台と想定します。

【想定駐車台数】

来館者用 100 台＋公用車用 20 台＋職員用 35 台＝155 台

VII 新総合福祉会館の活用施策と利用想定

1 新総合福祉会館の活用施策

(1) 福祉教育プログラムの体系化

現在行っている児童生徒（市内小学校・中学校・高校・総合支援学校）に対しての福祉教育プログラムは、職員が各学校に訪問し、講義や疑似体験等を行う形をとっています。新総合福祉会館が出来ることによって、福祉教育に関する様々な疑似体験等を本格的に体験出来る実習スペースを設け、学校から児童生徒をバスで送迎し、このプログラムを体験してもらうことができます。

今後は、市教育委員会とも協議を進め、黒部市独自の児童生徒に「福祉の心」を育む福祉教育プログラムの開発を行います。

○将来的利用想定

①市内小学校 1・2・3年生

ユニバーサルデザイン・バリアフリー体験

②市内小学校 4・5・6年生

高齢者疑似体験

ダイアログインザダーク（暗闇体験）

③市内中学校/高校/支援学校

介護実習体験

ダイアログインザダーク（暗闇体験）

ユニバーサルデザイン開発実習

※各事業は経年で対象学年を増やしていく予定



高齢者疑似体験を行う市内小学生



車いす体験を行う市内小学生

(2) 各地区社会福祉協議会（自治振興会）との連携事業

国の施策でもある地域包括ケアシステムの実現を目指す方向が示される中、今後は、中央の拠点にたくさんの人を集める形から地域を拠点とした小さな集まりをたくさん作り出していく形に変化していくことが予想されます。将来的には市内の各町内単位（130 町内）でのサロン（地域での集いの場/小地域福祉活動の拠点）が立ち上がり、必然的にその活動を支えるための活動者や支援者を増やしていくリーダー養成研修が必要です。また、サロン活動にバスを使用して、各町内から送迎を行い、新総合福祉会館での活動（体操、体験講座など）と入浴などを組み込んだプログラムづくりを進めます。

○将来的利用想定

- ①地域支援ボランティア養成研修
地域活動ボランティアの掘り起こし
- ②地域支援リーダー養成研修
初級編・中堅編・リーダー編
- ③サロン活動利用
各町内単位のサロン活動での利用

※9

(3) 公共交通機関のハブ機能

現在、試験運行されている路線バス（南北循環線）や既存の地区巡回を行っている福祉センターバスで市内の公共施設や主要施設に乗り換えを行うことによって移動することができるようになります。新たな拠点にハブとなるバス停留所をつくることによって、今後の市民の移動手段としての機能を充実していくことができます。

○将来的利用想定

- ①市内循環バスへの乗り換え者
- ②地区巡回バスの利用者増
- ③休憩所、待合所としての場

(用語説明)

※9 ハブ：交通結節点ともいい、複数の同種あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所、複数の交通モード間の不連続点のこと

2 新総合福祉会館の利用想定数

(1) 現黒部市福祉センターの事業実績及び利用者数

現在の黒部市福祉センターの施設利用者は、①既存事業の実績(入館料あり)と社協実施事業、会議、研修、ボランティア活動等の施設利用である②既存事業の実績(入館料なし)があります。新総合福祉会館が建設された場合、近隣の施設などで開催していた事業など③既存事業で新総合福祉会館で移行できるものをまとめた事業実績、利用者数は表7-1のとおりです。

表7-1 既存の社協事業実績及び会館建設後の年利用者数(想定)

①既存事業の実績(入館料ありの利用)		※平成28年度見込み					
分類	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
施設利用	入館料ありの利用						28,000
(内訳)							
社協事業	元気はつらつ体操教室	介護予防	和室	高齢者	30	180	5,400
社協事業	元気づくり事業(一般高齢者介護予防事業)	介護予防		高齢者			2,000
社協事業	敬老会事業(8地区実施)	委託	大広間	高齢者	115	8	920
社協事業	募金箱を作ろう教室	工作体験	大広間	市内小学生	100	1	100
一般利用	入浴/休憩(飲食含む)	入浴・休憩	大浴場・大広間				19,580

②既存事業の実績(入館料なしの利用)							
分類	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
施設利用	入館料なしの利用						1,970
(内訳)							
社協内部	各課定例会(総務課・地域福祉課・在宅支援課)	会議	相談室	社協職員	20	30	600
社協内部	社協職員全体会議	会議	研修室	社協職員	30	5	150
社協事業	視察・訪問等	視察	館内	関係者	20	5	100
社協事務局事業	黒部市ボランティア部会長会議	会議	相談室	ボランティア部会	12	5	60
ボランティア	黒部リーディング(音訳ボランティア)	ボランティア	ボランティアルーム	会員	5	20	100
ボランティア	演芸ボランティア	ボランティア	大広間	会員	10	96	960

現在の福祉センター利用者数 ①+②= 合計 29,970

③既存事業で新総合福祉会館で移行できるもの							
分類	名称	利用目的	現在の利用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
							1,830
(内訳)							
会議内部	社協役員会等	会議	大布路公民館会議室	社協役員	20	20	400
社協事業	各種研修・会議	会議研修	大布路公民館/コラーレ	関係者	20	10	200
社協事務局事業	市民生委員児童委員理事協議会	会議	大布路公民館会議室	民生委員	20	11	220
社協事務局事業	市民生委員児童委員研修会	研修	市民会館	民生委員	110	1	110
社協事務局事業	市民生委員児童委員研修会	総会	市内ホテル	民生委員	120	1	120
社協事務局事業	黒部市ボランティア連絡会	会議	大布路公民館会議室	ボランティア団体	40	2	80
社協事務局事業	黒部市ボランティア部会総会	総会	市民会館	会員	200	1	200
社協事務局事業	ボランティア部会友愛セール	イベント	市民会館	一般市民	500	1	500

会館建設後の利用者数(想定) ①+②+③= 合計 31,800

(2) 新総合福祉会館における新規事業及び利用想定数

新総合福祉会館の建設に伴って、現在実施している事業の充実及び新規事業の実現が可能となります。また、機能の充実によって、来館者が増えることが予想されます。

④新しい拠点で実施できる新たな事業、また今後、⑤新しい拠点で実施できる新たな事業（複合的な利用）として予想される全会館利用者数を表7-3にまとめたものです。

表7-3 新総合福祉会館における新規事業及び年利用数（想定）

④新しい拠点で実施できる新たな事業

分類※5つの機能	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
							10,000
(内訳)							
人が学ぶ	福祉教育実習	福祉教育	実習体験室	小中学生	30	20	600
人が学ぶ	福祉専門職研修	研修	カフェ/研修室	専門職	20	6	120
人が学ぶ	地域リーダー養成研修	研修	会議室	地域住民	30	4	120
支える	学習支援事業	支援	会議室	生活困難な子ども	15	6	90
支える	福祉関係団体への貸部屋	活動支援	会議室	福祉団体	10	50	500
支える	ボランティアシェアルーム	活動支援	ボランティアルーム	ボランティア団体	10	50	500
つなぐ	介護・障害等の家族交流の場	支援	カフェ/研修室	家族	10	7	70
つなぐ	なんでも相談会	支援	相談室/会議室	一般市民	50	4	200
つなぐ	認知症カフェ	支援	会議室	当事者/家族	20	12	240
誰もが集う	地区サロン活動での利用	活動支援	大広間/浴場	地域住民	20	48	960
誰もが集う	学習広場(無料開放)	活用	カフェ/研修室	中高生	15	160	2,400
誰もが集う	多目的ホールでのイベント誘致 中規模	活用	多目的・エントランス	団体・企業	200	6	1,200
誰もが集う	多目的ホールでのイベント誘致 大規模	活用	多目的・エントランス	団体・企業	500	6	3,000

会館建設後の利用者数(想定) ①+②+③+④= 合計 41,800

⑤新しい拠点で実施できる新たな事業(複合的な利用)

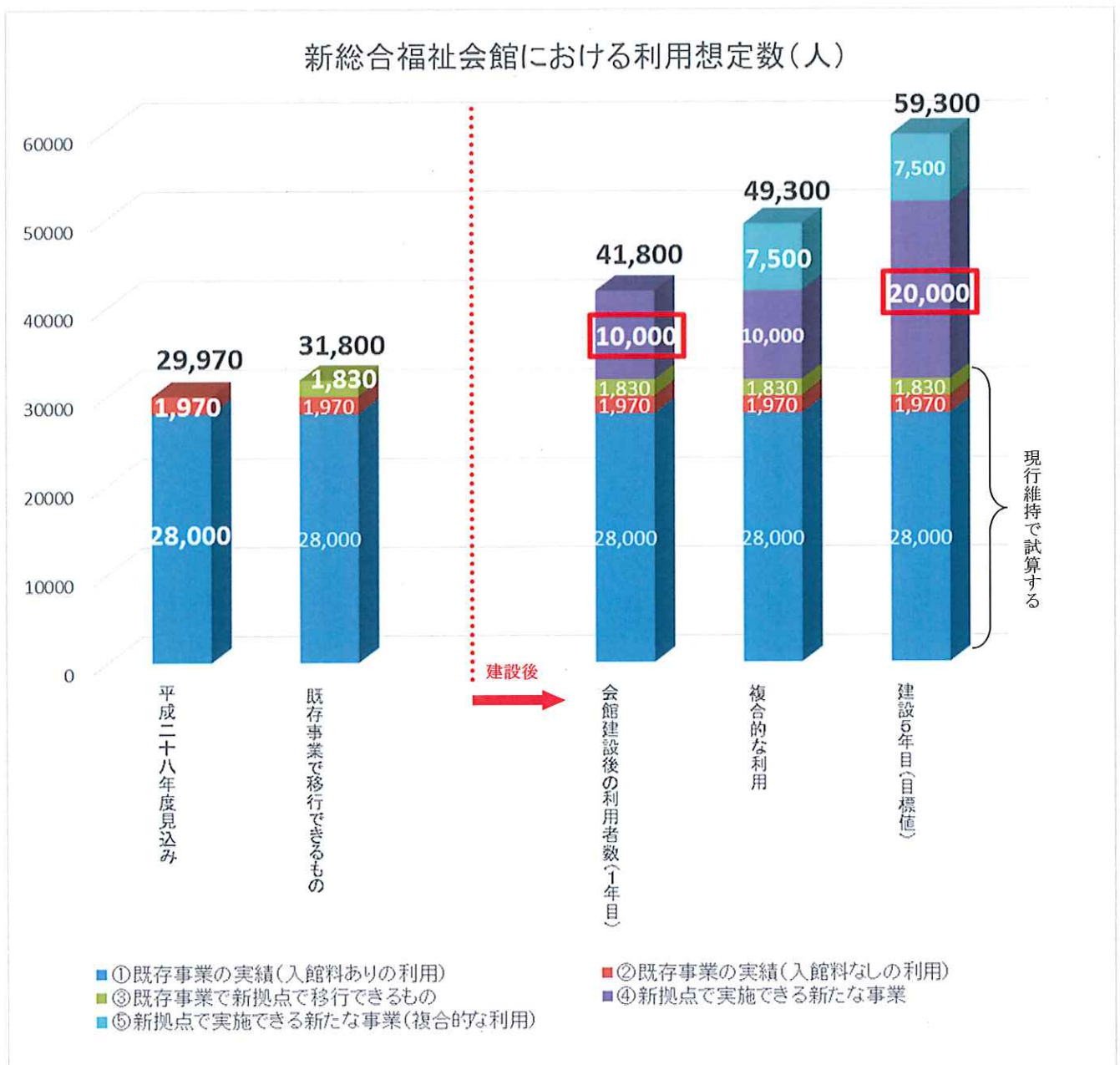
分類※5つの機能	名称	利用目的	使用場所	対象者	利用者数	回数	年利用者数
							7,500
(内訳)							
複合的な機能	2次交通のハブとなるバス停	交通	カフェ・入り口前	市民	25	300	7,500
複合的な機能	災害支援ボランティアセンター	災害時	多目的・エントランス	ボランティア	500		緊急時のみの利用
複合的な機能	福祉関係機関の事務局	事務局	会議室改築	-			将来的な想定

会館建設後の利用者数(想定)+複合的な利用 ①+②+③+④+⑤= 合計 49,300

(3) 新総合福祉会館建設後の利用想定数

既存の施設利用者 31,800 人を維持することを目標にし、建設後の 1 年目は、新規事業により 10,000 人の新規来館者の増加を加えて 41,800 人を目指します。また、建設後 5 年間で市民ニーズに合った事業展開や開催回数を増やすことによって新規来館者の目標を 20,000 人として合計で 59,300 人の来館者を目指します。

表 7-3 新総合福祉会館における利用想定数



IX 財源

1 財源の構成

新総合福祉会館は、これからの市の地域福祉推進のために必要な拠点であることから市へ経費負担と建設の要望を考えています。ただし、地域福祉推進の中核的団体である本会の事務所となる拠点としても要望するものであり、また本会が持つ社会福祉事業振興基金の活用の検討も考えています。

(1) 解体・移転期間に係る経費

現黒部市福祉センターは市社会福祉協議会の所有であることから解体に伴う経費及び建設中の事務所機能移転の期間に係る経費は、本会の社会福祉事業振興基金から負担することで考えます。

(2) 介護保険事業（ホームヘルプセンター・ケアセンター）の事務所経費

本会が実施する介護保険事業の事務所となるスペースについては、積み立てを行っている介護保険基金から一定程度必要な事業調整基金を残し、取り崩して負担することで考えます。

(3) 社会福祉事業振興のため

本会の社会福祉事業振興基金は黒部市の地域福祉推進のために活用することを目的にしていることから、理事会・評議員会の承認のもと一定程度必要な社会福祉事業調整基金や今後の財政面を考慮しながら基金を取り崩して負担することで考えます。

(4) 賛同者からの寄付金

新総合福祉会館は、多くの市民・関係団体からの要望や意見を基に建設を望むものであり、建設に賛同していただいた方へ寄付の呼びかけを行います。また、企業などへも市の地域福祉推進にご協力いただくために広く寄付を募ります。社会福祉協議会への寄付は税制の優遇を受けることもできるため、有効な手段と考えます。

X 今後の検討事項

1 今後さらに検討すべき事項

(1) 併設・連携を検討すべき機能

①近隣施設

現在、隣接する中央児童センターや大布施公民館、大布施保育所との事業連携や駐車スペースの共有などを行い、効率的かつ利便性の向上を図ることが必要です。また、福祉関係団体や機関の事務局の入居なども検討する必要があります。

②移動・交通機関

公共交通の路線バスの乗り入れと、既存の地区送迎バス（現黒部市福祉センターマイクロバス2台、ワゴン車1台）を活用し、各地区からの移動をサポートすることで、2次交通のハブの駅（乗り場）として利用でき、乗り換えにより、市内の主要施設への移動もスムーズに行われるようにする必要があります。

(2) 職員数、組織体制の検討

福祉ニーズは多様化し、今後もその担い手となる社会福祉協議会の業務が拡大することも考えられます。また、指定管理や委託事業などにより新たな事務作業スペースが必要になることも考えられます。ただし、人口の減少や経済の動向によりその規模を十分に検討して計画する必要があります。

(3) ソフト面の計画・整備

拠点となる施設が整備されたとしてもその役割や機能を担う「人」や「しくみ」などのソフト面が整備されなければ地域福祉推進は実現されません。拠点整備がされるまでに、市社会福祉協議会が中心となり然るべき運営体制の整備を着実に進めておく必要があります。

(4) 建設期間中の黒部市福祉センター機能と社協事務局機能

建設工期予定である20ヵ月の間、現在の想定である現行の場所で建て替えた場合、黒部市福祉センター機能と社協事務局の機能を移転するため、代替えとなる遊休施設など、場所の確保を検討しておく必要があります。

(用語説明)

※10 2次交通：複数の交通機関等を使用する場合の2種類目の交通機関のこと

XI まとめ

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進には、これからの時代にあった拠点となる施設が必要であります。しかしながら、これからの時代に何が必要とされ、どのようなものが求められているかを十分に検討する必要があります。まずは、福祉分野に限らず市内の様々な分野から委員を選出し「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」を設置し、現状の調査と地域課題の分析を行うとともに当事者団体や地域活動を行う団体などからヒアリングやアンケート調査も実施しました。このような中からこれからの黒部市の地域福祉推進に必要な役割や機能を整理していきました。そして、この新総合福祉会館の基本理念となるコンセプト「人と地域のしあわせを支える拠点 ～市民一人一人のしあわせを支え、一つ一つの地域の福祉を支えます～」と基本方針となる「人が学ぶ」「支える」「つなぐ」「誰もが集う」「複合的な機能」の5点をまとめました。

今回の「拠点施設整備検討部会」では、その具体的な施設の概要について計画を取りまとめたものであります。本会は地域福祉推進を図る中核的団体として、限られた資金や資源を最大限に活かす施策を十分に協議検討した上で、重点項目の機能面として「福祉教育の拠点」「災害時の拠点」を強みとして持ち、活用面として「入浴場の利活用」「変化・共有」など長期的な視点で考えていきました。そして今までにない、黒部市のこれからの必要な福祉の総合的な拠点づくりの計画ができました。

拠点が整備されることは、併せてその拠点を活かすソフト面、つまり事業やしくみを同時に充実させていく必要があります。今ある機能の効率化や機能面の充実などと共に、これからの地域課題解決へのしくみづくりや事業を整備していくことが重要となってきます。本会では、この報告書の作成と共に要となるソフト面の事業を来年度より計画・実施に移し、拠点の完成と共にスムーズな事業展開ができるように準備を進めています。

今回の報告書をまとめるまでには約1年半の歳月がかかりました。本当に多くの皆様のご協力とご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。そして、市民の皆さんのご意見や思いがこの計画にはしっかりと反映されたものと思います。

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進のため、その活動拠点となる施設が早期に整備されることを強く望み、まとめとさせていただきます。

拠点整備検討部会 部会長 松井敏昭
(社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 会長)

資料編

- 1 拠点施設整備検討部会設置要綱
- 2 拠点施設整備検討部会委員会会則
- 3 会員名簿
- 4 拠点施設整備検討部会の進め方構成図
- 5 調査報告書
 - (1) (仮称)新総合福祉会館の施設整備に向けて「黒部市福祉センターの入館者動向」に関する現状調査
 - (2) 平成27年度「黒部市福祉センター施設利用」アンケート結果
(一部抜粋)
 - (3) 黒部市福祉センター年度別入館者数(年度合計/1日平均入館者数)
 - (4) 県内の複合型施設について 視察研修報告

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「拠点施設整備検討部会」設置要綱

(趣旨)

第1条 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置する。

(目的)

第2条 「(仮称)新総合福祉会館建設基本構想報告書」をまとめ、本会の理事会・評議員会での承認を得て、黒部市へ建設への要望書を提出する。

(検討事項)

第3条 部会は次に掲げる事項について検討し、報告書をまとめる。

- (1) 基本構想策定の背景と目的
- (2) 新総合福祉会館建設の必要性
- (3) 新総合福祉会館の位置づけと役割
- (4) 新総合福祉会館の基本理念と基本方針
- (5) 新総合福祉会館の機能・規模
- (6) 新総合福祉会館の基本計画
- (7) 実現化方策の検討
- (8) 今後さらに検討すべき事項

(部会の設置)

第4条 本会の理事・評議員で委員を構成し、職員によるワーキングチームを設置する。

(組織)

第5条 本会の委員は11名以内とする。

2 委員は、黒部市社会福祉協議会正副会長会議で検討し、理事・評議員の中から選出し、会長が任命する。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、平成28年10月1日から平成29年3月31日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(細則)

第7条 この要綱に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成28年10月1日より施行し、平成29年3月31日にその効力を失う。

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「拠点施設整備検討部会」会則

(設置目的)

第1条 地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置する。
「(仮称)新総合福祉会館建設基本構想報告書」をまとめ、本会の理事会・評議員会での承認を得て、黒部市へ建設への要望書を提出する。

(検討・協議事項)

第2条 委員会は次に掲げる事項について検討し、報告書をまとめる。

- (1) 基本構想策定の背景と目的
- (2) 新総合福祉会館建設の必要性
- (3) 新総合福祉会館の位置づけと役割
- (4) 新総合福祉会館の基本理念と基本方針
- (5) 新総合福祉会館の機能・規模
- (6) 新総合福祉会館の基本計画
- (7) 実現化方策の検討
- (8) 今後さらに検討すべき事項

(組織)

第3条 部会の委員は11名以内とする。

2 委員は、黒部市社会福祉協議会正副会長会議で検討し、理事・評議員の中から選出し、会長が任命する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、平成28年10月1日から平成29年3月31日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第5条 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の中から互選によって定める。

2 部会長は、会務を総括する。

3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(招集)

第6条 部会は、必要に応じ部会長が招集し、部会長を議長とする。

(議決等)

第7条 部会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席した副部長、委員の過半数でこれを決する。ただし、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 やむを得ない理由により本会に出席できない副部長等は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前項適用について出席したものとみなす。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、本会総務課において処理する。

(細則)

第9条 この会則に定めるものの他、必要な事項は、本会会長が部会の協議をもって定めるものとする。

附則

この会則は、平成28年10月25日より施行し、平成29年3月31日にその効力を失う。

黒部市社会福祉協議会の拠点施設整備検討部会 委員名簿

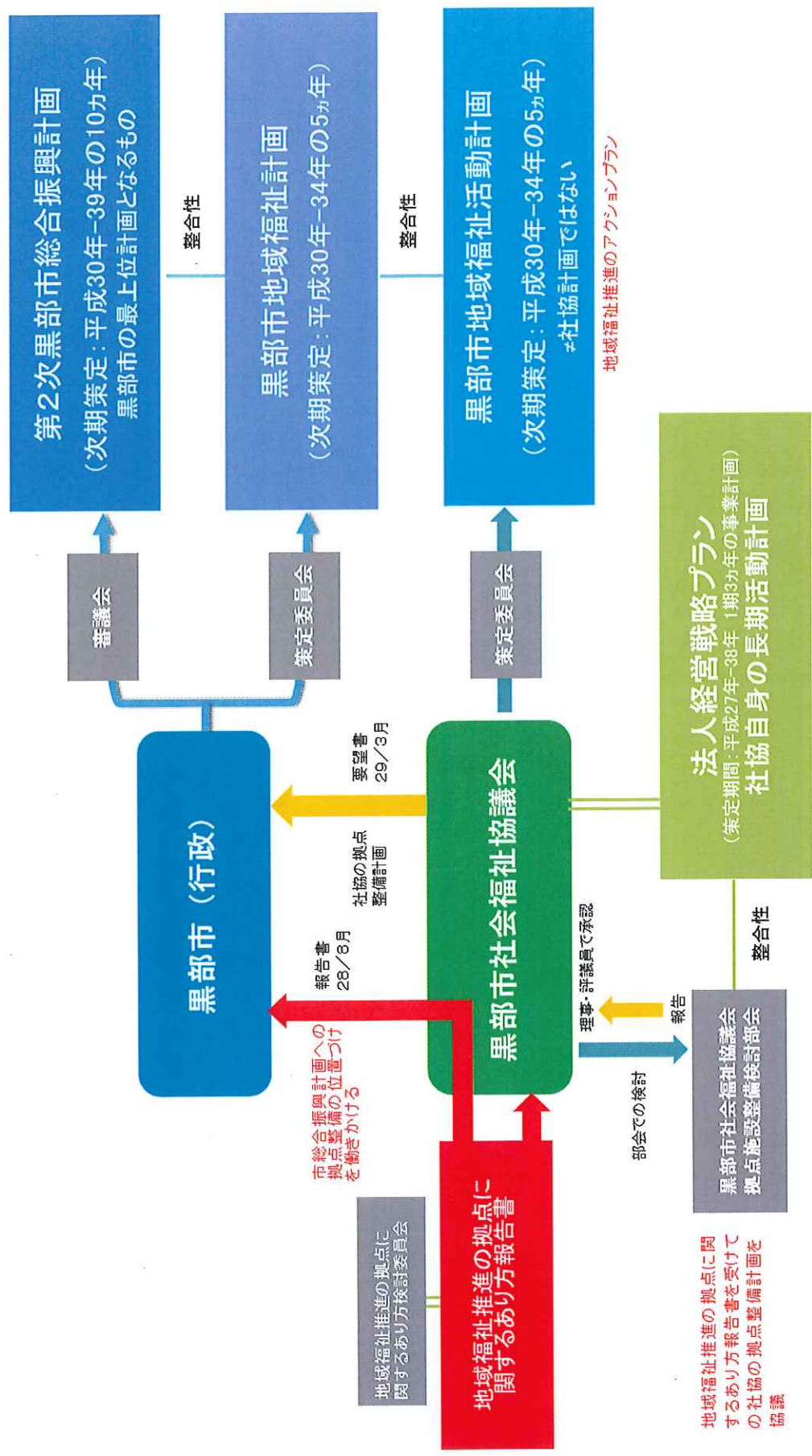
(任期:平成28年10月1日～平成29年3月31日)

役職	氏名	選出区分	職名
1 部会長	松井 敏昭	理事	黒部市社会福祉協議会 会長
2 副部会長	松原 宗一	理事	黒部市社会福祉協議会 副会長 大布施自治振興会長
3 委員	川村 昭一	理事	黒部市社会福祉協議会 副会長 若栗自治振興会長
4 委員	稲澤 孝雄	理事	黒部市老人クラブ連合会の代表
5 委員	新村 恵子	理事	ボランティア分野の代表
6 委員	田村 豊嗣	理事	黒部市民生委員児童委員協議会 会長
7 委員	吉野 久幸	評議員	田家自治振興会長
8 委員	伊東 高志	評議員	黒部市身体障害者協会の代表
9 委員	吉田 三津子	評議員	社会福祉施設の代表 黒部笑福学園 施設長
10 委員	柳田 紀子	評議員	黒部市公民館連絡協議会の代表
11 委員	沖村 武志	前理事 ※平成28年11月30日に理事退任 任期まで継続	前黒部市社会福祉協議会 副会長 前黒部市民生委員児童委員協議会 会長

[事務局]

役職	氏名
1 事務局長	林 高好
2 地域福祉課 主幹/施設運営班 主幹	小倉 博和
3 地域福祉課 課長補佐/地域包括支援班 班長補佐	濱松 一美
4 在宅福祉課 課長補佐	宮崎 真佐美
5 地域福祉課 地域支援係長	杉本 歩
6 総務課 経営戦略係長	小柴 徳明
7 在宅福祉課 在宅福祉係長	山瀬 葉月
8 総務課 経営戦略係 臨時職員	高村 千恵美

黒部市総合振興計画と黒部市社会福祉協議会の関係性



(仮称) 新総合福祉会館の施設整備に向けて
「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

1 調査目的

地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会による報告書を基に、より具体的な拠点となる施設並びに社会福祉協議会の事務局機能を有する拠点の整備計画を検討することを目的に「拠点施設整備検討部会」を設置した。

この調査では、求められる新しい拠点施設の検討を進めるにあたって、現在福祉センターに設置されている大浴場の入浴者状況調査を行い、新拠点における浴場機能の必要性を検討することが目的である。

2 調査実施期間

平成 28 年 9 月 20 日～12 月 16 日（休館日を除く）60 日間

3 調査内容

（仮称）新総合福祉会館の施設整備に向けて「黒部市福祉センターの入館者の動向」に関する現状調査

内 容：黒部市福祉センターにおける大浴場の利用者数及び趣味講座を目的とする利用者数を調査し、全入館者の動向を確認する。

対 象：黒部市福祉センター利用者

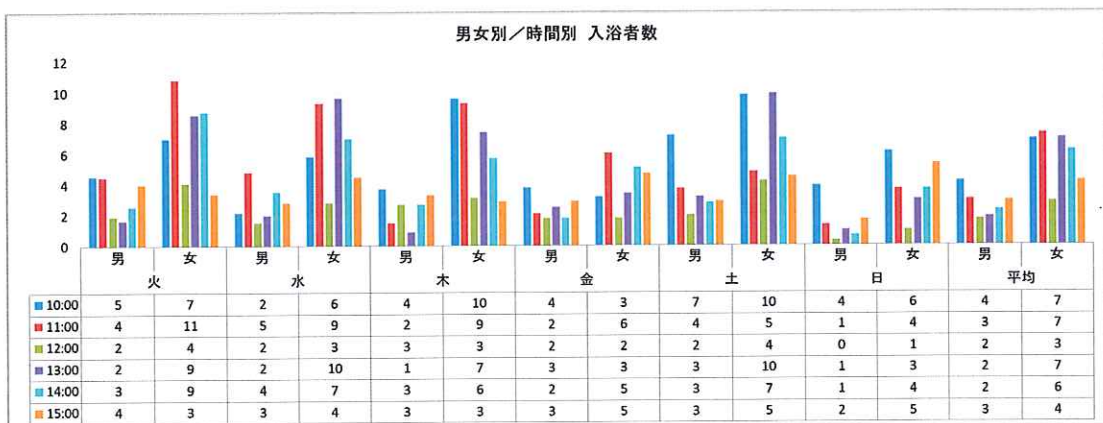
4 調査方法

（1）黒部市福祉センターにおいて、約 2 ヶ月、10：00～16：00 までの入浴利用時間内（1 時間おき）に大浴場の利用人数をカウントする。

（2）各事業担当、センター受付職員より、ヒアリングを行い、趣味講座参加者の動向を確認する。

5 調査結果報告

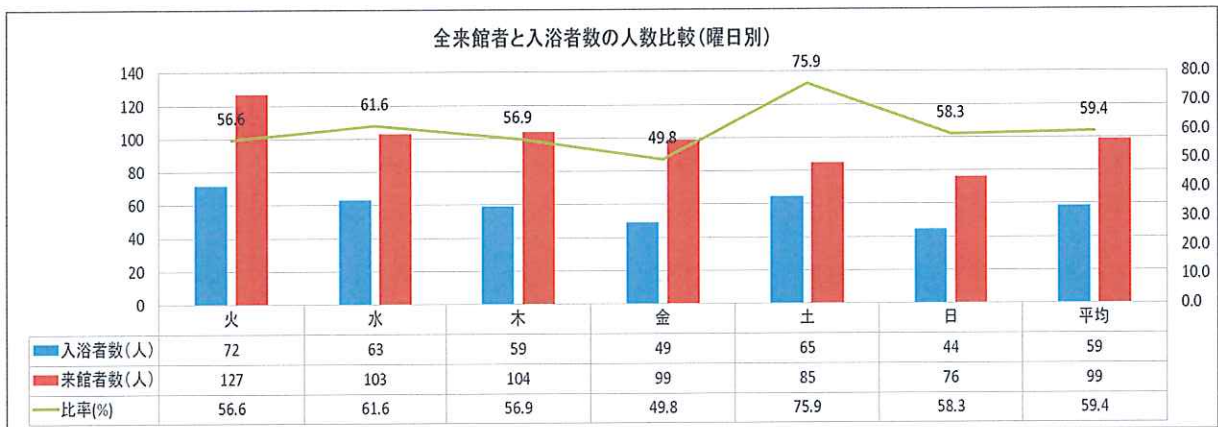
（1）男女別／時間別の入浴者数



・入浴者は男性より女性が多く、全体の7割が女性、3割が男性ということが分かった。この割合は、来館者の男女の割合と並行している。

・時間帯別に入浴者数をみると、体操教室後の11時過ぎからと、昼食後13時からの時間帯が1日の中で集中している時間であったが、利用者数は多くても10名前後であった。(1時間当たりの平均入浴者数：男性2.6人/女性5.6人)

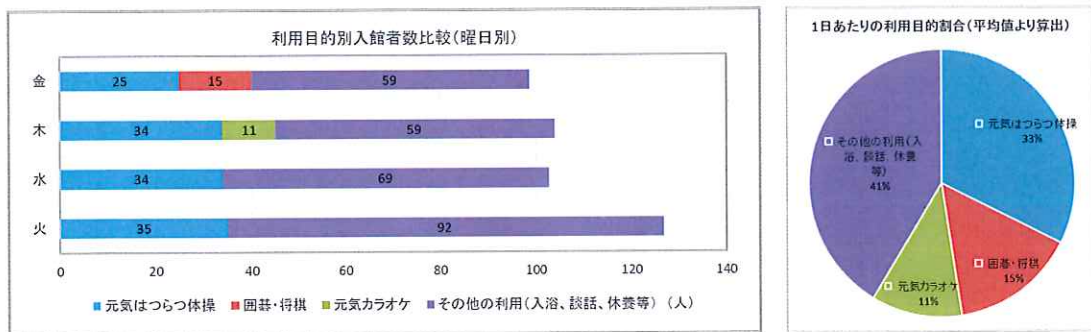
(2) 全来館者数と入浴者数の人数比較 (曜日別)



・来館者数に対して、浴場を利用されている方の平均比率は、59.4%であった。このことから、入浴目的でセンターを利用されているとは限らないと分かった。また、バスが運行していない日曜日は、来館者数が平日に比べ少ないが、浴場利用率は平日とほぼ変わらないことが分かった。

※来館者平均 99人 に対して、入浴者平均 59人
来館者に対する入浴者比率 59.4%

(4) 利用目的別入館者数比較と1日あたりの利用目的割合 (平均値より算出)



○開催日：元気はつらつ体操 (毎週火・水・木・金)、元気カラオケ (毎週木曜日) 囲碁・将棋 (毎週金曜日)

・入館者を利用目的別で見ると、センターで開催されている事業（元気はつらつ体操教室、囲碁・将棋、元気カラオケ教室）への参加目的で来館される方が全体の6割をしめており、残り4割の方は、入浴、談話、休養等の目的で来館されていることが分かった。

（5）ヒアリング調査

・男性の多くは、元気づくり事業の囲碁・将棋（毎週金曜日）、カラオケ（毎週木曜日）等、趣味講座を目的に来館されるが、ほぼ100%浴場も利用されている。但し、この事業への参加が目的で来館される方がほとんどで、その他の曜日に入浴目的で来られる方は、あまり見受けられない。

・平日は体操教室を目的に来館されている女性の方が多く、約3割の方は入浴せずに退館される。

（6）その他

・旧黒部市内にあった公衆浴場がなくなった10月15日以降、来館者、入浴者ともに平均で1日20名増えていることが分かった。いずれも入浴目的であり、新規の入館者であることが職員ヒアリングにより分かった。しかし、1時間当たりの入浴者数には大きな変化は見られず、入浴環境にあまり影響はないと考えられる。

※10/15以降

来館者平均 80人→99人、入浴者平均 41人→59人

1時間当たりの平均入浴者数：男性1.8人→2.6人／女性5.0人→5.6人

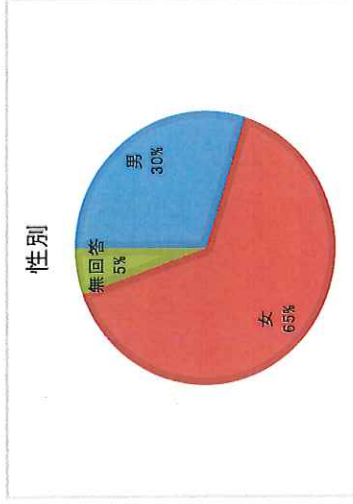
6 まとめ

（1）入館者層の変化

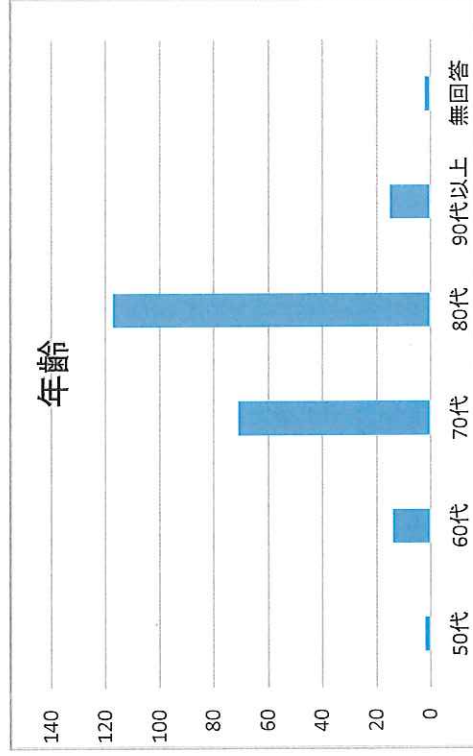
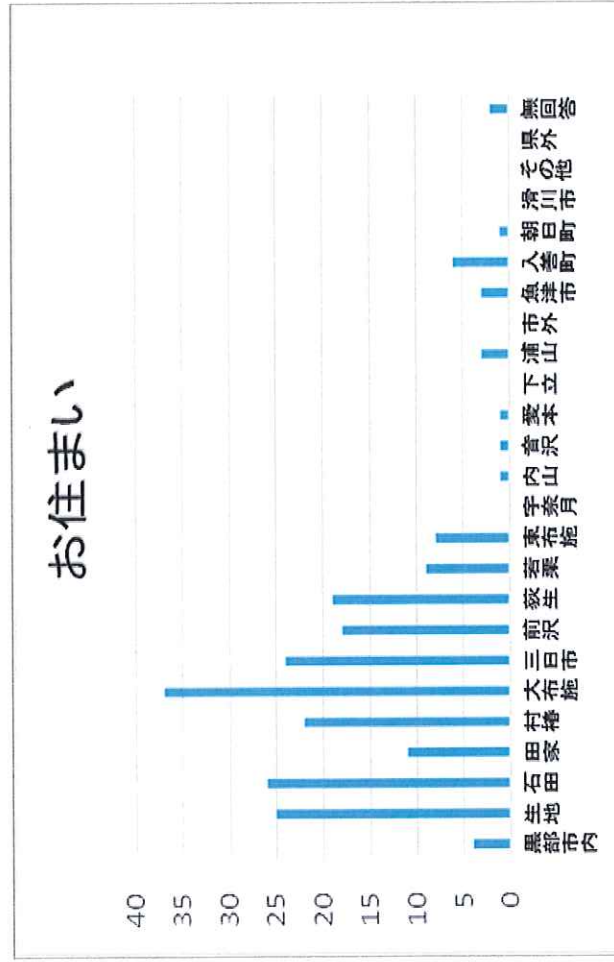
黒部市福祉センターの入館者の多くは75歳以上の高齢者であり、その中には巡回バス利用の定期利用者（週2回程度）や開館日にほぼ来館されるヘビーユーザー（150回～200回）の方もおられる。そういった方が高齢や病気等で施設を利用できなくなってきたことが近年の来館者の減少要因である。しかしながら今回の調査で、趣味講座（カラオケ・囲碁将棋等）や介護予防などの体操教室には、70代前半の層や男性の参加者層が新たに増えてきている。その方々の利用目的の一番は入浴ではないが、付随して入浴していくという動向がみられた。今後もこのような趣味や健康をテーマにしたものに参加する利用者層は増えるものと考えられる。

○平成 27 年度「黒部市福祉センター施設利用」アンケート結果(一部抜粋)

- ・アンケート対象者…黒部市福祉センター来館利用者
- ・アンケート総数…221 枚
- ・実施場所…黒部市福祉センター
- ・実施期間…平成 28 年 2 月 1 日～2 月 14 日(休館日を除く)



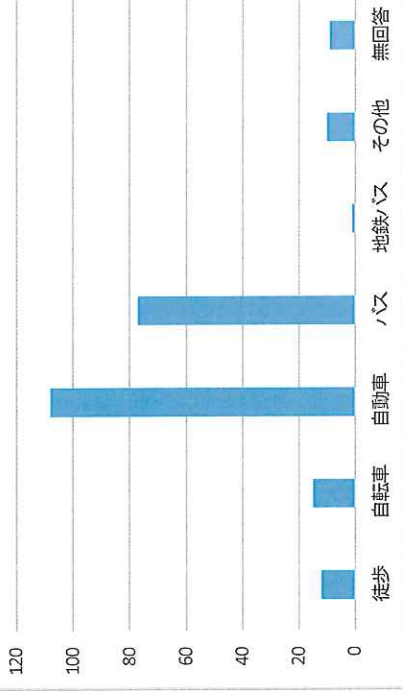
性別	男	女	無回答
人数	66	143	12



年齢	50代	60代	70代	80代	90代以上	無回答
人数	2	14	71	117	15	2

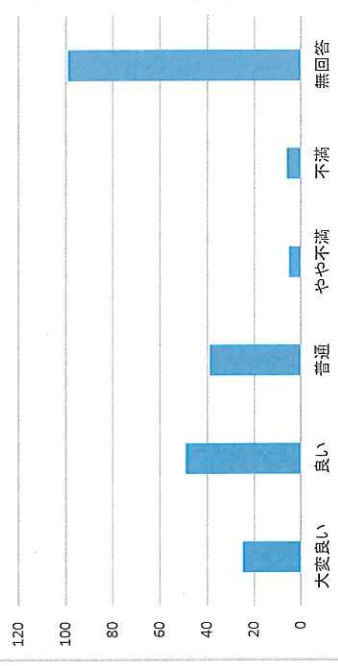
お住まい	黒部市内										県外	無回答											
	生野町	石田町	田家村	村椿	大布	三日市	前沢	荻生	若栗	栗布			下立山	浦山	市外	魚津市	清川市	その他					
人数	4	25	26	11	22	22	37	24	18	19	9	8	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2

交通手段



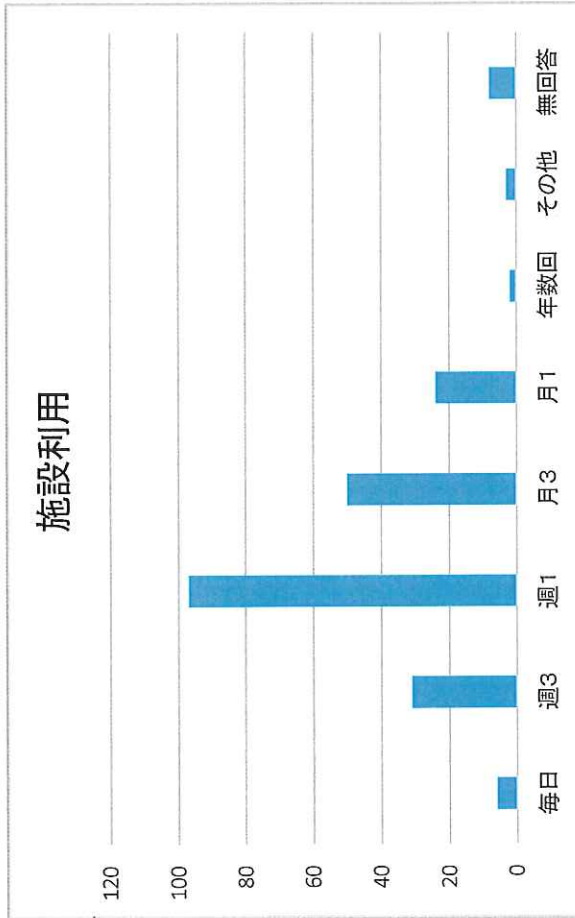
交通手段	徒歩	自転車	自動車	バス	地鐵バス	その他	無回答
人数	12	15	108	77	1	10	9

バス送迎について



評価	大変良い	良い	普通	やや不満	不満	無回答
人数	25	49	39	5	6	99

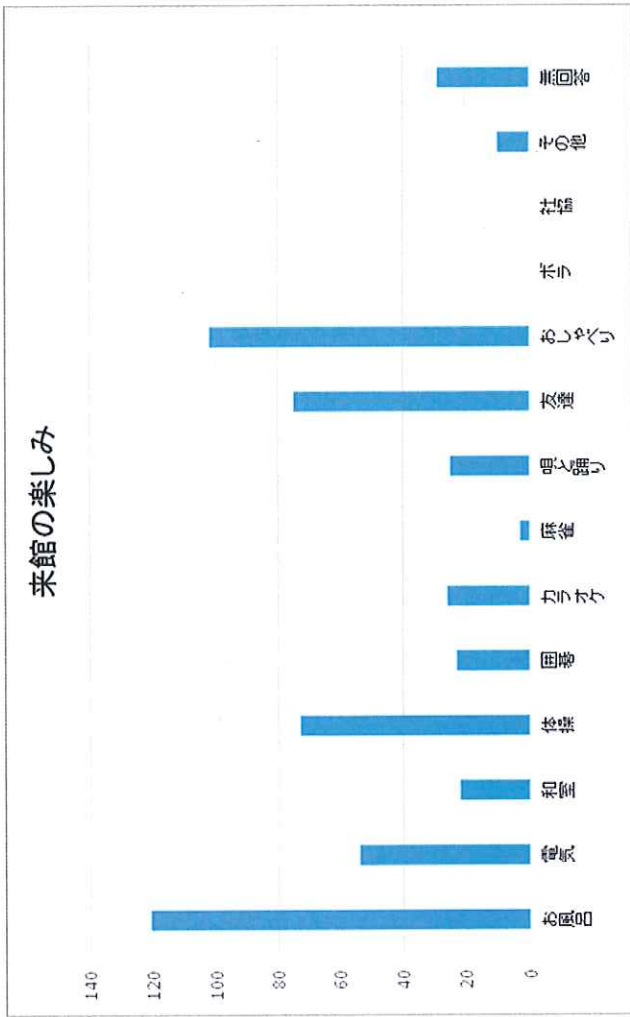
施設利用



利用	毎日	週3	週1	月1	年数回	その他	無回答
人数	6	31	97	50	24	2	3
無回答							8

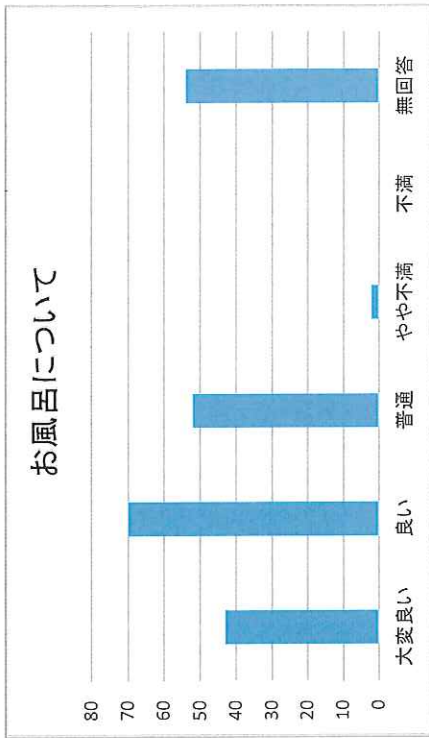
※週3：週3～4回／週1：週1～2回／月1：月1～2回／月3：月3～4回／月1：月1～2回

来館の楽しみ



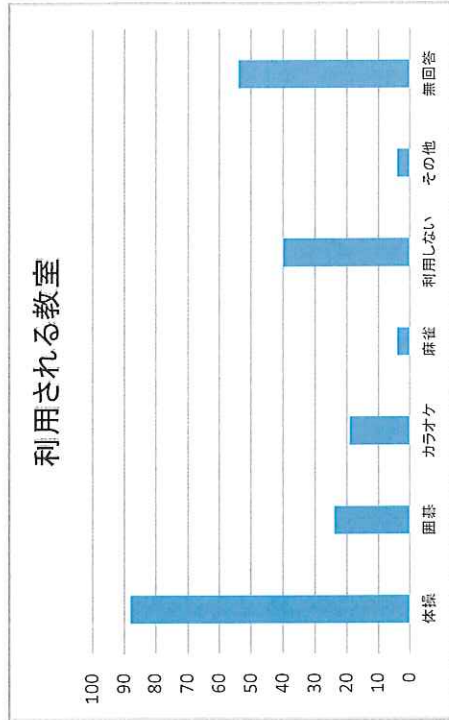
楽しみ	お風呂	電気	和室	体操	囲碁	カラオケ	麻雀	唄と踊り	友達	おしゃべり	ボラ	社協	その他	無回答
人数	121	54	22	73	23	26	3	25	75	102	0	0	10	29

お風呂について



評価	大変良い	良い	普通	やや不満	不満	無回答
人数	43	70	52	2	0	54

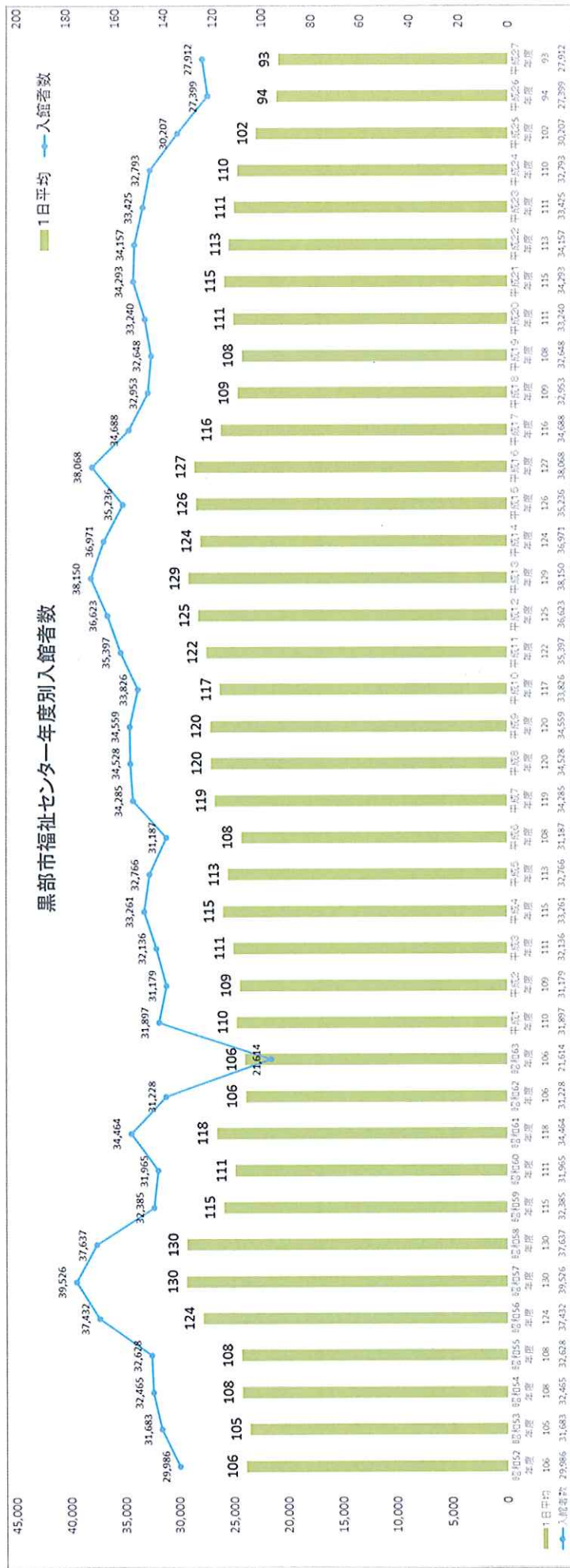
利用される教室



教室	体操	囲碁	カラオケ	麻雀	利用しない	その他	無回答
人数	88	24	19	4	40	4	54


○黒部市福祉センター年度別入館者数(年度別合計／1日平均入館者数)


(昭和52年4月26日開設)





昭和55年度…ヘルストロン・マッサージ器の寄贈
 平成63年度…増改築工事
 平成15年度…大浴場改修工事、食堂新設
 (平成15年11月1日 リニューアルオープン)


○県内の複合型施設について 視察調査報告（全6か所）


名称（愛称）	とやま朝日町 北陸街道五叉路 CrossFive	
所在地	下新川郡朝日町泊 418	
運営	朝日町商工会（指定管理）	
設立	2015年6月28日	
総事業費	約9億5千万円	
利用案内	開館時間 9:00～21:00 休館日 12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	※2階建て ・まちづくり施設 ・まめなげ市場 ・朝日町社会福祉協議会 ・泊地区自治振興会 ・朝日町商工会 ・ふれあい広場 ・イベント広場 ・研修室（4室） ・会議室（2室）	
視察での感想	・朝日町の中心である泊地区に商工会議所が中心となり建設された経緯があり、富山市のグランドプラザのミニ版をイメージして建設されたが、この地は、風が強く吹く気候であり、デザインも大事だが、環境に併せた建築設計が必要と感じた。 ・機能的によく似た部屋（研修室・会議室）が多かった。 ・飲食禁止の部屋が多く、活用に制限がある。	
長所	・朝日町の中心地域の商業拠点に設置されたことで、地域福祉の推進が円滑に行えるようになった。 ・入居団体は、会議室など無料で使用でき、会議や研修会がスムーズに行える。	
短所	・地場産の食材が販売されているが、近くにショッピングセンターがあり、買物客に偏りがある。 ・施設利用される障がい者など交通の便については公共交通など未整備な部分が多い。 ・ガラス張りの施設の景観はとても良いが、各部屋は夏暑く、冬寒い。 ・会館の維持管理に経費がかかる。	

名称（愛称）	入善町健康交流プラザ サンウェル	
所在地	下新川郡入善町上野 2793-1	
運営	入善町	
設立	2000年8月5日	
総事業費	約19億円	
利用案内	開館時間 9:00～22:00 休館日 毎週月曜日・12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	※4階建て ・健康広場 ・いきいきスタジオ ・検診・診察室 ・ちびっこプレイルーム ・情報体験コーナー ・せせらぎホール ・調理実習室 ・研修室 ・談話室 ・入善町社会福祉協議会 ・レストラン・展望楼 ・保健センター（行政機能） ・みらいTV（行政機能）	
視察での感想	・建設から16年経過し町民のふれあいと交流の場として活用されている。 ・入善町体育館や総合運動公園が従来から隣接し、近年、駐車場におあしすにいかわの特養と、地域包括支援センターが建設され、福祉機能が充実される反面、体育イベント時等駐車場を利用できないことがある。 ・デザインを重視している反面、空間の確保の難しさを感じた。 ・維持費もかかり大変そうであった。 ・靴の履き替えをせず土足で館内を移動できることがよかった。	
長所	・保健機能と社会福祉協議会が連携した活動が行われている。 ・市民の研修の場として行政が主催するパソコン教室など各種講座が開催されている。 ・1階のエントランスや健康広場などスペースが確保されており、各種イベントの開催や展示などが随時行われ、長期作品展示も可能である。	
短所	・社会福祉協議会の事務所が2階で一部の利用者から利用しにくいとの意見がある。 ・町内山間部や海岸部など広域にわたる公共交通機関の未整備箇所があり、乗用車を持っていない方の移動に配慮してほしいとの声もある。	

名称(愛称)	滑川市民交流プラザ	
所在地	滑川市吾妻町 426	
運営	財団法人 滑川市文化スポーツ振興財団 (指定管理)	
設立	2007年6月11日	
総事業費	約21億2千万円	
利用案内	開館時間 8:30~22:00 (フロアによって異なる) 休館日 毎週水曜日・12月31日・1月1日 (3F~5F) 入浴施設利用料金 大人…600円/高齢者・障害者500円/子供…300円	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※5階建て 医療・福祉・保健の拠点施設 ・ボランティアセンター ・市民交流センター ・地域包括支援センター ・児童コーナー ・研修室 (3室) ・調理実習室 ・多目的ホール ・休憩室 (4室) ・軽運動室 ・レストラン ・入浴施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども図書館 (行政機能) ※2階フロアが行政管轄
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・開設当初は、社会福祉協議会や福祉に関する行政機能も一元化した2階フロアがあったが、現在は、市役所の一角に移動した。 ・地上5階建の建物には、入浴施設、図書館、食事処や貸し部屋と複合施設に多様な業者が夜遅くまで営業しており市民の交流とふれあいの場となっている。 ・利用者は、1日200人程度、最大で600人。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の交流の場として1Fの交流サロンや各階に休憩スペースが多く、イスやテーブルなど無料にて集える。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年に2階の福祉関係施設が市の庁舎へ移動した。(福祉課、地域包括支援センター、高齢介護課、訪問介護ステーション、市社会福祉協議会、ホームヘルプステーション) ・施設の駐車場をショッピングセンターやショッピングモールなどと共有していることから駐車場がやや込み合っている。 	

名称(愛称)	上市町保健福祉総合センター つるぎふれあい館	
所在地	上市町湯上野 8番地	
運営	一般財団法人 上市町健康文化振興財団	
設立	1998年8月1日	
総事業費	約25億円	
利用案内	開館時間 10:00~21:00 休館日 毎週月曜日・12月31日・1月1日 入浴施設利用料金 大人…610円/子供…300円	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※2階建て ・福祉センター (入浴施設・無料休憩場・和室) ・福祉課 (行政機能) ・上市町健康文化振興財団 ・上市町包括支援センター ・訪問看護ステーション (行政機能) ・高齢者福祉研究室 ・上市町社会福祉協議会 ・会議室 (2室) ・和室 (4室各12帖) ・機能訓練室 ・栄養指導実習室 ・世代間交流センター ・リクライニングルーム ・コミュニティプラザ ・プレイルーム ・研修室 ・相談室 ・売店 	
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋数が多くあったが、使用されていない部屋が多く感じた。 ・保健福祉という点ではよかったが、新拠点が求めているものとは少し違うと感じた。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに町役場やショッピングセンターもあり、利便性はよい。 ・休憩スペースが広くゆったりとしている。 ・町営バスが町内の各方面に1日4~5本巡回しており、どの地区からも来館できる。また、乗り換えにより、町内の主要施設への移動もスムーズに行うことができる。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の他の課と離れているため (市民課など) 連携がしづらい部分がある。 	

名称（愛称）	立山町元気交流ステーション みらいぶ	
所在地	中新川郡立山町前沢 1169	
運営	立山町	
設立	2012年6月1日	
総事業費	約18億2千万円	
利用案内	開館時間 9:00～22:00 休館日 12月29日～1月3日 駐車料金 4時間無料・4時間経過毎に100円	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※3階建て ・五百石駅 ・イベント広場 ・地域情報交流サロン ・コミュニティホール ・喫茶スペース ・音楽交流室 ・大会議室 ・調理交流室 ・くつろぎ交流室 ・幼老交流サロン ・立山町社会福祉協議会 ・健康福祉課（行政機能） ・保健センター（行政機能） ・子育て支援室 ・検診ホール ・訪問看護ステーション（行政機能） ・介護予防機能訓練室 	
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象は新しくきれい。天井が高く窓ガラスが大きく、廊下なども広くて明るい。 ・椅子が所々に備え付けられており、スペースにゆとりがあった。 ・保健福祉という点ではよかったが、新拠点が求めているものとは少し違うと感じた。 ・交流センターのイメージが強く、社会福祉という存在感は少ないと感じた。 ・障がい者という視点は少ないと感じた。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・駅や図書館（複合的機能）があり、誰もが気軽に利用できる。 ・電車の待ち時間に図書館や食堂の利用ができる。 ・相談機能がワンストップででき、幅広い層の住民が利用できる。 ・1階に公共の掲示板があり、一目瞭然で町の行事や催しが把握できる。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉の手続きや相談に訪れるために3階まで上がらなければならないため不便である。 ・駅周辺で駐車場がパーキング制のため利用に手間と時間がかかる。 ・行政の他の課と離れているため（市民課など）連携がしやすい部分がある。 	

名称（愛称）	サンシップとやま	
所在地	富山市安住町5-21	
運営	社会福祉法人 富山県社会福祉協議会（指定管理）	
設立	1999年11月11日	
総事業費	約59億5千2百万円	
利用案内	開館時間 9:00～21:00 休館日 毎週月曜日・12月29日～1月3日	
入居団体及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ※7階建て ・福祉ホール、福祉図書館、入浴介護実習室、栄養指導室、県民カフ、作業室、ボランティア交流サロン、研修室（9室）他 ・富山県社会福祉協議会 ・富山県福祉サービス運営適正化委員会 ・富山県共同募金会 ・富山県民ボランティア総合支援センター ・富山県障害者（児）団体連絡協議会 ・富山県児童クラブ連合会 ・富山県老人クラブ連合会 ・富山県食生活改善推進連絡協議会 ・富山県介護支援専門員協会 ・富山県身体障害者福祉協会 ・富山県手をつなぐ育成会 ・富山県栄養士会 ・富山県母子寡婦福祉連合会 ・富山県保育士会 ・富山県傷痍軍人連絡協議会 ・富山県老人福祉施設協議会 ・富山県デイサービスセンター協議会 ・富山県地域包括・在宅介護支援センター協議会 ・富山県ホームヘルパー協議会 ・富山県保育連絡協議会 ・富山県民生委員児童委員協議会 ・富山県社会福祉法人経営者協議会 	
視察での感想	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県の総合福祉会館の施設として、県社会福祉協議会や各種団体が入居して県民がだれでも参加、交流できる場として整備されている。 	
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・館内に福祉関係団体が多数入居していることから連絡や調整がスムーズである。 ・県関係機関へ徒歩で移動できる距離にある。また、駅や公共交通が多く活用できる。 ・県の地理的中心地で、県内関係機関の研修には集まりやすい場所である。 ・ガラス張りの建物は、バリアフリーに配慮され、エレベーターのガラス張りは聴覚障害者の手話などに配慮されている。 	
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・県関係の関係団体は多様にあり、入居したいが部屋の確保が困難な団体がある。 ・ガラス張りのモダンな建物で景観はとても良いが冬寒く、夏暑い。 ・複数のイベント開催時は駐車場の確保ができない。 ・会館の維持管理に高額な経費がかかる。 	

(仮称) 新総合福祉会館建設基本構想報告書

発 行 平成 29 年 3 月

編集・発行 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
「拠点施設整備検討部会」

事 務 局 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp

黒部市内社会福祉法人
「地域における公益的な活動について」の状況調査

調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

1. 調査目的

黒部市社会福祉協議会は、富山県社会福祉協議会のモデル事業により、黒部市内の社会福祉法人の連携とネットワーク化を図り、法改正に伴い、より求められる「地域での取り組み」について検討協議を進める「連絡会」の場づくりを進めていく予定にしている。

この調査は、社会福祉法人公益連絡会の立ち上げに向け、『地域における公益的な活動についての状況調査』を実施し、現況を取りまとめ、今後の取り組みについて協議し、地域における公益的な活動事業につなげていくことが目的である。

2. 調査対象

黒部市内社会福祉法人 11 団体

3. 調査実施期間

平成 1 月 24 日～2 月 10 日

4. 調査方法

方法：黒部市内社会福祉法人団体（施設）に状況調査用紙を送付し、本会へ返送していただくよう案内する。

回収：回収団体—8 団体

5. 調査結果まとめ

今回の調査では、11 団体中 8 団体から、回答を得ることができた。

現在、実施されている地域での公益的な活動は、団体の分野が高齢者施設、障害者施設、保育施設など様々であることから、それぞれの団体の事業に関わりのある方、地域を中心に活動されていることが伺える。

世代別交流、家族支援、個別支援を通して、相談窓口機能を作り出し、さらに人と人（モノ）をつなぐ役割を果たし、生きがいの場、仲間づくりの場として各事業が進められているように感じる。

そんな中、全ての活動がうまく進んでいるとは限らず、人材不足や活動に係る経費等、問題を抱えている団体も見受けられる。

今後は、各法人で現在取り組みされている活動をヒントに、現状の活動を継続しながら、法人間での連携を強化していくことで、活動範囲の拡大、内容の充実化、不足している人材、資金の問題を解決して取り組んでいけるよう、黒部市内の社会福祉法人全体で共同し、地域とのつながりをより強めていきたいと考える。

平成28年度 黒部市内社会福祉法人一覧名簿

No.	団体名
1	社会福祉法人緑寿会
2	社会福祉法人あいじ福祉会
3	社会福祉法人黒部笑福学園
4	社会福祉法人くろべ福祉会
5	社会福祉法人せせらぎ会
6	社会福祉法人宇奈月福祉会
7	社会福祉法人育三会
8	社会福祉法人新川児童福祉会
9	社会福祉法人にいかわ苑 シェアフィールドひまわり
10	社会福祉法人新川むつみ園
11	社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

○黒部市社会福祉法人公益活動推進連絡会『地域における公益的な活動についての状況調査』

※該当箇所に○及び記入をお願いします。

(記入日：平成29年 月 日)

法人名	担当部署	Tel./Fax
事業所名	担当者	E-mail @

(問1)法人(事業所)についての情報発信はどのように行われていますか(該当するものすべて)

1. ホームページ 2. Facebook 3. 機関紙(名称) 4. その他() 5. 特になし

(問2)現在、地域での公益的な活動を実施しておられますか

1. 実施している→問3へ 2. 実施していない→問4へ

(問3)現在、実施している地域での公益的な活動についての状況をご記入ください。(複数可)

	1	2	3	4
事業名				
対象者				
回数・人数				
場所(会場)				
内容				
対応する職員				
いつ頃から始めたか				
始めたきっかけ				
予算				
予算の出どころ				

(問4)これまで(過去)に実施していたこと、また、現在その事業を実施されていない理由も簡単に教えてください。(例)人材不足、資金不足のため 等

(問5)今後、実施する予定で、現在、準備中または計画中の事業があれば教えてください。

(問6)今後、実施したいと考えていることがあれば教えてください。(例)〇〇と連携して〇〇ようなことができるという 等

(補足)

- ・事業所が複数ある場合は、調査表をコピーして使用願います。
- ・データでシートが必要な方は、メールにて事務局へご連絡願います。

(事務局) 黒部市社会福祉協議会
(本 所) 黒部市福祉センター内
〒938-0022 黒部市金屋464-1
TEL : 0765-54-1082
FAX : 0765-52-2797
E-mail : kurobesw@ma.mrr.jp
担当 : 小柴

提出期限 2月10日(金)

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人緑寿会	事業所名	地域密着型特別養護老人ホーム越路さくら
担当部署	地域密着型特別養護老人ホーム越路さくら	担当者	志摩 哲
Tel/Fax	0765-32-4811/0765-32-5612	E-mail	koshijisakura@seagreen.ocn.ne.jp
情報発信について	ホームページ、機関紙(名称: さくらだより)		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①さくらカフェ	②日曜さくら
対象者	認知症の方を持つ家族	認知症の方を持つ家族
回数・人数	1回/月 人数は限定していない	毎週日曜日(他要相談) 4人/1日
場所(会場)	つばき苑	地域密着型特別養護老人ホーム越路さくら
内容	毎月第2水曜日 14:00～16:00 認知症の方を家族持つ方が座談形式により互いの状況を話し不安の共感や、課題の共有や緩和と改善を見い出す。	毎週日曜日予約制、他の曜日は要相談 認知症の方を家族持つ方の悩みや不安その他認知症に関する相談を受けます。相談内容により課題改善の為、相談者の了承を得て関係機関に連絡し、今後の方針を見い出す。
対応する職員	越路さくら在宅介護支援センター 越路さくら認知症対応型デイサービスセンターボランティア2名	越路さくら在宅介護支援センター 越路さくら認知症対応型デイサービスセンター
いつ頃から始めたか	平成27年7月	平成27年7月
始めたきっかけ	黒部市より認知症カフェの委託事業として開始した。	黒部市より認知症カフェの委託事業として開始した。
予算	20,000円～30,000円	職員対応により予算無し
予算の出どころ	社会福祉法人緑寿会	

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人あいじ福祉会	事業所名	黒部愛児保育園・三日市保育所
担当部署	三日市保育所	担当者	堀田
Tel/Fax	0765-54-1064 (FAX兼)	E-mail	mikkaichi-h@palette.plala.or.jp
情報発信について	ホームページ、機関紙(名称: シニアサポーター事業案内、子育て支援室だより)		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①シニアサロン	②保育の出前 (絵本の読み聞かせ)	③保育の出前	④子育て支援室
対象者	地域のシニア層 園児の祖父母	図書館へ来ている 未就学親子	未就学児	幼稚園・保育所に 在籍しない親子
回数・人数	年12回	年12回	年5～6回	週5日
場所(会場)	つばき苑	市立図書館	国際文化センターコラーレ	保育所内
内容	・園児と触れ合う ・花壇整備 ・子ども理解と生きがい作り	保育士が図書館に向き、絵本の読み聞かせや簡単な手作り玩具を作る。	コラーレの催しに参加する子どもを一時預かりする。	・子育て相談 ・低年齢児へあそびの提供 ・親同士の仲間づくり
対応する職員	1～2名	1～2名	2～3名	2～3名
いつ頃から始めたか	H12. 9～	H10～	H15年4月～	H18(当法人として) ※H18以前は公立保育所として実施
始めたきっかけ	地域のシニア層が散歩中の園児への声掛けから始まる。	図書館からの依頼	コラーレからの依頼	公設から当法人への事業委託を受け継続した。
予算	講師謝礼他 62,000円程	無	無	3,200,000円
予算の出どころ	事業費、雑費			事業費の中の 人件費と雑費

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人黒部笑福学園	事業所名	
担当部署		担当者	吉田 三津子
Tel/Fax	0765-57-1555/0765-57-1055	E-mail	
情報発信について	ホームページ		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①つばき苑居宅介護支援事業	
対象者	地域高齢者	
回数・人数	約35名	
場所(会場)	つばき苑	
内容	ケアプラン作成業務の他、地域の高齢者の相談窓口として対応	
対応する職員	介護支援専門員	
いつ頃から始めたか	平成12年4月	
始めたきっかけ	介護保険制度スタートと同時に	
予算	約400万円	
予算の出どころ	ケアプラン作成の報酬	

○今後実施したい事業

<p>地域の高齢者、障がい者等に対するニーズに合った事業 例えば ・デイのバスを利用した移動サービスや、独居又は低所得者へのワンコインランチ ・地域の総合相談窓口・ケアハウスを利用した生活困窮者や虐待を受けている人の一時避難場所 等 思いは多々ありますが、実現するには、人員、資金などの不足により様々な検討、対策が必要でしょう。</p>
--

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人くろべ福祉会	事業所名	くろべ工房
担当部署		担当者	永井 出
Tel/Fax	0765-56-7284/0765-56-7282	E-mail	
情報発信について	ホームページ、機関紙(名称: くろべ工房通信)		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①就労者リフレッシュ事業	②人権擁護委員への就任	③専門人材派遣事業
対象者	3名	—	—
回数・人数	1回/週	15回/年	5回/月
場所(会場)	つばき苑	—	—
内容	一般就労している障害者が会社が休みの日に無料でくろべ工房を利用できる。	人権悩みごと相談、啓発活動、研修会、会議への参加。	保健センター、教育センターからの要請を受けて、専門職が発達相談を行う。
対応する職員	就労継続支援事業の生活支援員	永井 出	作業療法士
いつ頃から始めたか	開設当初から(H12～)	H24. 7月～	H20～
始めたきっかけ	就職しても仲間や職員と楽しくすごせる場がほしかった。	—	経験のある専門職が入職したこと
予算	無	交通費等実費弁償	—
予算の出どころ	無	法務局	保健センター 教育センター

○これまで(過去)に実施していたこと

障害者相談支援事業(△470万円/H27年度)、就業支援事業(△1,075万円/H27年度)は、現在も赤字継続中であり、この実態こそが地域貢献だと思っているが、(問3)での記入はためらわれた。

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人せせらぎ会	事業所名	せせらぎハウス黒部
担当部署		担当者	脇坂 千絵
Tel/Fax	0765-52-4888/0765-52-4858	E-mail	seseragi@ma.mrr.jp
情報発信について	ホームページ		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	実施していない	
対象者		
回数・人数		
場所(会場)		
内容		
対応する職員		
いつ頃から始めたか		
始めたきっかけ		
予算		
予算の出どころ		

○これまで(過去)に実施していたこと

就労した利用者が休みの日に集える場を提供していたが、資金源がなかったのと、それぞれでのつながりもできたのでやめた。

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人育三会(いくみかい)	事業所名	田家保育所
担当部署		担当者	安藤 夕起美
Tel./Fax	0765-54-1711(FAX兼)	E-mail	
情報発信について	ホームページ、機関紙(名称: 保育所だより)		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①うららちゃんサロン	②出前サロン
対象者	地域のシニアさん	未就園児親子
回数・人数	年2回・計33名	毎月1回・計27組(56名)
場所(会場)	つばき苑	東部児童センター
内容	・講師を招いて健康体操教室 ・笑劇団さんと呼んで新しい出会いやリフレッシュにつなげる。	親子わくわくランドサロンに参加し、絵本の読み聞かせや手作りおもちゃの紹介、看護師による感染症の話等を行う。
対応する職員	「地域」を担当する保育士	「子育て支援」を担当する保育士、看護師
いつ頃から始めたか	H24年度～	H23年度～
始めたきっかけ	地域の保育所として、シニアさん同士や世代間交流を通して、保育所に親しみを感じてもらうため	保育所子育て支援室のPR、子育て中のママたちが気軽に話したり、情報交換する中で元気になってもらうため
予算	講師料含め 1万～2万	無料
予算の出どころ	育三会の会計から	

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	社会福祉法人にいかわ苑	事業所名	障害者日中一時支援センターあつま〜れ
担当部署	事務局	担当者	愛場
Tel/Fax	0765-75-2520/0765-74-2502	E-mail	nikawaen@siren.ocn.jp
情報発信について	ホームページ		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①障害者日中一時支援センターあつま〜れ	
対象者	障がい者日中一時支援事業支給決定者	
回数・人数	3回/月・40人	
場所(会場)	つばき苑	
内容	土曜日の障がい者の見守り 日常的な生活・訓練支援	
対応する職員	障害サービス部門の職員	
いつ頃から始めたか	平成19年4月	
始めたきっかけ	障がい者を持つ保護者からの要望	
予算	7百万円	
予算の出どころ	地域生活支援に取り組む市・町	

『地域における公益的な活動についての状況報告』

法人名	①社会福祉法人黒部市社会福祉協議会	事業所名	
担当部署	総務課 経営戦略係	担当者	小柴 徳明
Tel/Fax	0765-54-1082/0765-52-2797	E-mail	kurobesw@ma.mrr.jp
情報発信について	ホームページ		

○現在、実施している地域での公益的な活動

事業名	①市内社会福祉法人連絡会の立ち上げ準備	
対象者	市内社会福祉法人11法人(社協含む)	
回数・人数	3回・20名	
場所(会場)	市社協	
内容	市内社会福祉法人向けの研修会 ネットワーク化に向けての準備会 広域的な取り組み実態調査	
対応する職員	総務課 経営戦略係	
いつ頃から始めたか	平成28年度	
始めたきっかけ	県社会福祉協議会のモデル事業	
予算	300,000円	
予算の出どころ	県社会福祉協議会	

○今後、実施する予定で、現在、準備中または計画中の事業

市内社会福祉法人連絡会の立上げ 市内法人の地域での広域的な取り組みを紹介する広報媒体、HPへの掲載
--

○今後実施したい事業

社協独自の事業展開も検討する必要がある。

社協広報誌「福祉くろべ」読者アンケート調査報告

調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

1 アンケート調査目的

黒部市社会福祉協議会は『誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり』を目指し、市民の皆様の地域福祉への関心と自発的な行動を促すような情報を提供することを目的に、毎月広報誌「福祉くろべ」を発行している。

この調査は、平成 26 年 1 月に誌面のリニューアルを行ってから 3 年が経過した「福祉くろべ」の今後の発行にあたって、読者の方々を対象にアンケート調査を行い、購読の現状と課題を整理分析し、より充実した誌面作りに活かすことが目的である。

2 調査対象(別紙送付先一覧参照)

- ・平成 28 年度共同募金 福祉くろべ送付団体 41 団体
- ・平成 28 年度賛助会員 福祉くろべ送付団体 42 団体
- ・地区社協 16 団体
- ・市内小中学校、保育施設、福祉施設など 50 団体
- ・県社協(他市町村社協含む)16 団体 計 165 団体

3 調査実施期間

平成 29 年 1 月 30 日～2 月 20 日

4 アンケート調査方法

方法:福祉くろべ 2 月号(No.131)の送付に合わせ、アンケート用紙を 1 団体(施設)に 5 枚ずつ送付し、本会へ返送していただくよう案内する。

回収:回収団体—75 団体

回収数—251 枚

5. 調査結果まとめ

今回のアンケート調査では、165 団体中 75 団体から、合計 251 枚の回答を得ることができた。

<お客様情報>

(年齢・性別・居住地)

回答者の年齢は、40 代、50 代の方からの回答が最も多く、回答の半数を占めていたが、若年世代、高齢世代の方からも満遍なく回答を得ることができた。

回答者の性別は、女性が約 6 割、男性が約 2 割、残りは無回答であった。

居住地は、約 7 割の方が市内在住で、約 2 割の方が市外在住であった。

○家族で福祉くろべはどなたが読まれていますか

(回覧方法・回覧人数・読者の年齢)

市内在住者における家族間の回覧方法は、特定者のみで回覧している家庭が約 5 割、家族全員で読んでいる家庭が約 2 割で、回覧人数は 1～2 名の家庭が最も多かった。

読者の年齢は、30 代～60 代の読者がほぼ同数で全体の約 7 割を占めていた。その他、10 代の読者はほとんどいなかったが、若年世代(20 代)、高齢世代(70 代、80 代)の方も 2 割程度読んでおられた。

1. 「福祉くろべ」を読んでいますか

毎号読んでいる方が 57%、時々読んでいる方が 29%、ほとんど読んでいない、全く読んでいない方が 14%であった。

時々読んでいる方の読む頻度は、年に 3～4 回程度読んでいる方が 51%と最も多かった。

2. よく読む記事

特集が 139 票と最も多く、次いで、表紙が 133 票、写真レポートが 66 票、活動レポートが 64 票、ふくしまイルワーカーが 49 票と続いた。

よく読まれる記事の特徴として、表紙を含む前 1～6 頁までの写真入りの記事が多く読まれていた。

その月の行事予定等が掲載されている後半部分では、最終頁の健康ミニコラムが 26 票と高く、健康志向が高いことがうかがえる。

写真は、目から入る印象が強いため目に留まりやすいと考える一方で、文字の多い特集記事が最も多く読まれていることから、その記事内容に対する評価も高く得られているのではないかと考える。しかしながら、表紙が与えるインパクトも強く、カラー誌面、デザインのリニューアルが高く評価を得ていると感じる。

3. あまり読まない記事

今月の湯が 64 票と最も多く、次いで、今月の相談日が 59 票、ヤンバイ映画館が 49 票、催し物と休館日のご案内が 47 票と続いた。

よく読む記事と比較して反対のグラフ曲線を描いていたが、アンケート調査を依頼した団体は就業者が多いこともあり、各種行事への参加が難しいことが考えられるため、読まれていない方が多いと考えられる。仮に黒部市福祉センター及び宇奈月老人福祉センターの利用者を対象にアンケートを実施した場合、その票数に変化がみられることが予想されるため、今回読まれていない記事として票が入ったとはいえ、今後も市民ニーズがある記事と捉える。

今後の誌面づくりに向けて、記事の内容はほぼ現行通りでよいと判断し、各記事の枠取り、文字の大きさ、字体、デザイン等を再検討していきたい。

4. 記事(内容)について

ちょうどよいが 84%、やさしいが 12%と内容に関して現状のままでよいと読み取れるが、わずかながらむずかしいと感じている方もおられた。

5. 誌面(デザイン)について

ふつうが 55%、読みやすいが 48%と評価が高かったが、わずかに読みにくいと感じている方もおられ、その理由としては、文字が小さいとのことであった。

6. 読んでいないとお答えされた方の理由

回答者の 1 割が読んでいないと回答され、そのうち読む時間がない方が 33%、特に読みたい記事がないと答えた方が 25%、その他として、市外在住である、家に届いていない等の理由で読まれていなかった。

7-1. 特集について、これまでに印象の残るもの

平成 26 年 1 月のリニューアル後から、現在までの特集テーマ全 38 号(No.94～No.131)の中から投票してもらい、票数にばらつきはあるものの、全ての号に票が入ったことから、あらゆるテーマで特集を掲載していることが、読者にも幅広く興味を示してもらえていることがうかがえる。

7-2. 特集について、特によかったバックNo. と理由

アンケートの回答者が 40 代、50 代の女性(母親世代)が多いということからも、過去にお世話になった方々の対談に興味、関心が高く、大きな感動と子育て支援に対する感謝が多かった。(No.130)

さらには、近い将来、自分の身に起こりうる可能性がある介護の問題、介護の実体験への関心、共感(No.128)に多くの票が集まり、興味をもっておられた。

今後も、特集記事を通して、過去、現在、未来を考えるきっかけづくりにつながればよいと考える。

8. 今後取り上げてほしいテーマは？

20 代、30 代の女性からは、子育てや保育に関する情報を取り上げてほしいと多く意見があった。30 代、40 代の男性からは、男性が活躍できる場、がんばっている若者、地域についてという声が聞かれた。40 代、50 代の女性からは、健康(体操、料理、ストレッチ等)をテーマに知りたいとの声が聞かれた。

40代、50代から介護に関する関心が高まり、60代からは、具体的な介護サービス内容(地域包括ケアシステム等)や介護体験談、認知症など、介護に対して現実味を感じていることがうかがえる。さらに、70代になると、具体的な介護施設、貧困、一人暮らし老人の過ごし方等、高齢者の日常が見えてくるテーマへの関心が高まっていると感じた。

9. 今後登場してほしい人物は？

様々な回答が得られたが、若年世代からは、テレビに出ている有名人という声や自分の身近な人、40代、50代は市内で福祉に取り組んでいる方の紹介(医師、民生委員、ボランティア等)、70代は同世代の方で活躍している人に興味があるようにうかがえる。

人それぞれ興味、関心があることが違い、これまでも幅広い分野の方にスポットをあて登場していただいたが、唯一回答の中に、100歳(長寿)の方、戦争を体験した方など、長きにわたる人生を歩んでこられた方にスポットをあてた特集をしたことはこれまでになかったところであった。

10. 本誌に対するご意見・ご感想

表紙やレイアウト、色合いがとてもよい、カラーで読みやすいという感想が多くあった。また、知らない情報を得ることができる、特集内容も様々で楽しい、内容に関しては現行のままでよいとの声も多くあった。

その一方で、文字を大きくしてほしい、文章がむずかしいという声もあがっており、今後の課題として、文字の大きさ、字体等を改めて検討していきたい。

その他、このアンケートをきっかけに、これから読むようにする、バックナンバーがあることを知ったという回答もあり、アンケート自体も福祉くろべに関して興味を持つきっかけになったことがうかがえる。

○アンケート送付団体(地区社協・市内小中学校・保育施設・福祉施設他)

No.	団体名
1	生地地区社会福祉協議会
2	石田地区社会福祉協議会
3	田家地区社会福祉協議会
4	村椿地区社会福祉協議会
5	大布施地区社会福祉協議会
6	三日市地区社会福祉協議会
7	前沢地区社会福祉協議会
8	荻生地区社会福祉協議会
9	若栗地区社会福祉協議会
10	東布施地区社会福祉協議会
11	宇奈月公民館
12	音沢公民館
13	内山公民館
14	愛本公民館
15	下立公民館
16	浦山公民館
17	黒部市立中央公民館
18	黒部市立図書館
19	うなづき友学館
20	黒部市美術館
21	黒部市吉田科学館
22	生地小学校
23	石田小学校
24	たかせ小学校
25	村椿小学校
26	中央小学校
27	桜井小学校
28	荻生小学校
29	若栗小学校
30	宇奈月小学校
31	桜井中学校
32	鷹施中学校
33	高志野中学校
34	宇奈月中学校

No.	団体名
35	くるみ保育室
36	生地こども園
37	石田こども園
38	田家保育所
39	村椿保育所
40	大布施保育所
41	三日市保育所
42	三島保育所
43	前沢保育所
44	荻生保育所
45	若栗保育所
46	東布施保育所
47	愛児保育園
48	さくら幼稚園
49	下立保育所
50	うらやま保育園
51	東部児童センター
52	中央児童センター
53	子育て支援センター
54	宇奈月子育て支援センター
55	つばき苑
56	越野荘
57	越路さくら
58	おらはうす宇奈月
59	越之湖
60	シルバー人材センター
61	黒部市やわらぎデイサービスセンター
62	せせらぎハウス黒部
63	コラーレ
64	セレネ
65	黒部郵便局
66	富山県社会福祉協議会 2
67	富山県内 14市町村
計81団体	

アンケートフォーマット

「福祉くろべ」読者アンケート

日頃は、福祉くろべをお読みいただきまして、ありがとうございます。
福祉くろべでは、より充実した誌面作りのために、記事内容に関する
ご意見・ご要望をお聞きする読者アンケートを実施します。
ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

同封の返信用封筒に回答を入れて、2月20日(月)までにご返送願います。
アンケートにご回答いただいた方全員に、粗品をプレゼントいたします。
複数でお答えいただける場合は、アンケート用紙をコピーしてご使用願います。



「福祉くろべ」

福祉くろべは、『誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり』を目指し、住民の地域福祉への
関心と自発的な行動を促すような情報を提供することを目的とし、毎月1回発行しています。

※該当箇所にまたは○印をつけてください。

(記入日:平成29年 月 日)

1. 「福祉くろべ」を読んでいますか

毎号読んでいます

時々読んでいます (a. 年1~2回程度 b. 年3~4回程度 c. 半年に1回程度)

ほとんど読んでいない→6へ

まったく読んでいない→6へ

2. よく読む記事(3つまで)

表紙の写真

特集

活動レポート

写真レポート

イベントpick up!

お知らせ

ふくしまイルワーカー

今月の相談日

来て見てヤンバイ映画館

黒部市福祉センター 催し物と休館日のご案内

今月のクラブ

今月の湯

元気はつらつ体操教室

うなづき生き生き倶楽部

健康ミニコラム

編集後記

ちょこっと情報

その他()

3. あまり読まない記事(3つまで)

表紙の写真

特集

活動レポート

写真レポート

イベントpick up!

お知らせ

ふくしまイルワーカー

今月の相談日

来て見てヤンバイ映画館

黒部市福祉センター 催し物と休館日のご案内

今月のクラブ

今月の湯

元気はつらつ体操教室

うなづき生き生き倶楽部

健康ミニコラム

編集後記

ちょこっと情報

その他()

4. 記事(内容)について

やさしい ちょうどよい 少しむずかしい むずかしい

5. 誌面(デザイン)について

読みやすい ふつう 読みにくい(理由:)

6. 問1で、読んでいないとお答えされた方 理由をお聞かせください。

読む時間がない 特に読みたい記事がない

その他()

7. 特集について、これまでに印象に残るものがありましたら、裏面の発行No.に☑をつけてください。
その中で特によかったバックNo.と選ばれた理由をお聞かせください。

No.	(理由)

8. 今後取り上げてほしいテーマは？

--

9. 今後登場してほしい人物は？

--

10. 本誌に対する皆さまの率直なご意見・ご感想等を是非お聞かせください。

--

<お客様情報>

年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80歳以上

性別 男 女 居住地 黒部市内 黒部市外

黒部市在住の方にお聞きします。ご家族で福祉くろべはどなたが読まれていますか？

(回覧方法) 家族全員で読んでいる (回覧人数) 1～2名

特定者のみ読んでいる 3～4名

子ども(18歳以下)以外読んでいる 5名以上

その他() 把握していない

読者の年齢(該当するものすべて)

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80歳以上

※プレゼントご希望の方は、ご記入ください。

お名前

--

プレゼント送付先ご住所 ご自宅 お勤め先

〒

※お勤め先への送付をご希望の方は、社名・部署も併せてご記入ください。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。
お答えいただいた内容を、今後の誌面作りに役立ててまいります。

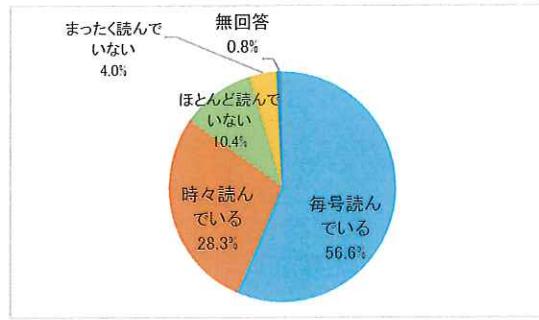
黒部市社会福祉協議会
TEL: 0765-54-1082
FAX: 0765-52-2797

アンケート結果報告書

「福祉くろべ」読者アンケート結果

1. 「福祉くろべ」を読んでいますか

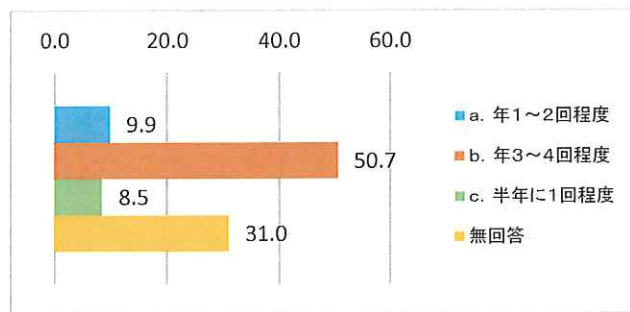
	回答(人)	%
毎号読んでいる	142	56.6
時々読んでいる	71	28.3
ほとんど読んでいない	26	10.4
まったく読んでいない	10	4.0
無回答	2	0.8
全体	251	100.0



時々読んでいるとお答えの方

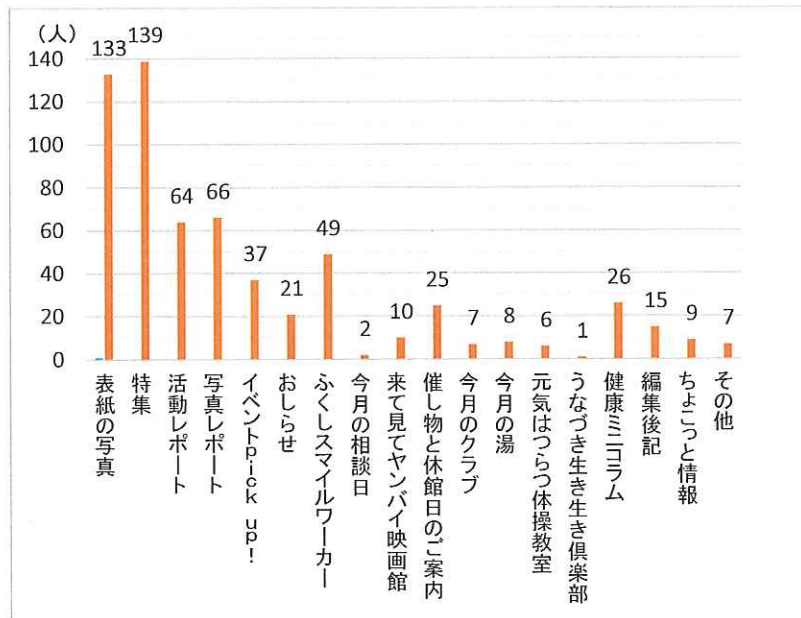
▶ 年に何回程度読んでいますか

	回答(人)	%
a. 年1~2回程度	7	9.9
b. 年3~4回程度	36	50.7
c. 半年に1回程度	6	8.5
無回答	22	31.0
全体	71	100.0



2. よく読む記事(3つまで)

項目	票数
表紙の写真	133
特集	139
活動レポート	64
写真レポート	66
イベントpick up!	37
おしらせ	21
ふくしまイルワーカー	49
今月の相談日	2
来て見てヤンバイ映画館	10
催し物と休館日のご案内	25
今月のクラブ	7
今月の湯	8
元気はつらつ体操教室	6
うなづき生き生き倶楽部	1
健康ミニコラム	26
編集後記	15
ちょこっと情報	9
その他	7

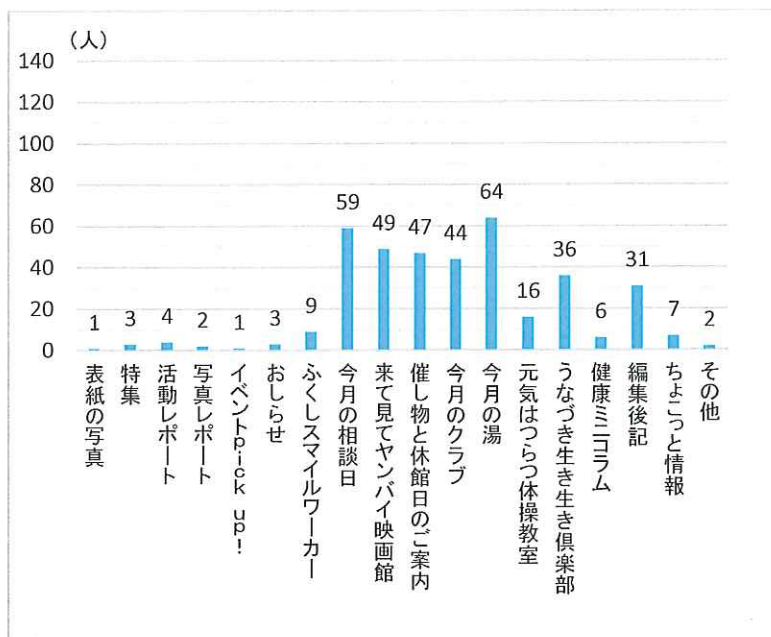


○その他

全て読んでいる(4名)

3. あまり読まない記事(3つまで)

項目	票数
表紙の写真	1
特集	3
活動レポート	4
写真レポート	2
イベントpick up!	1
お知らせ	3
ふくしスマイルワーカー	9
今月の相談日	59
来て見てヤンバイ映画館	49
催し物と休館日のご案内	47
今月のクラブ	44
今月の湯	64
元気はつらつ体操教室	16
うなづき生き生き倶楽部	36
健康ミニコラム	6
編集後記	31
ちょこっと情報	7
その他	2

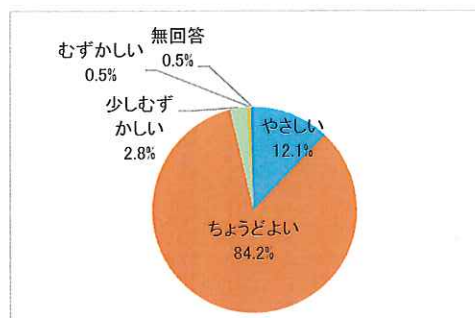


○その他

小さい所は読みにくいのであまり読まない(1名・70代)

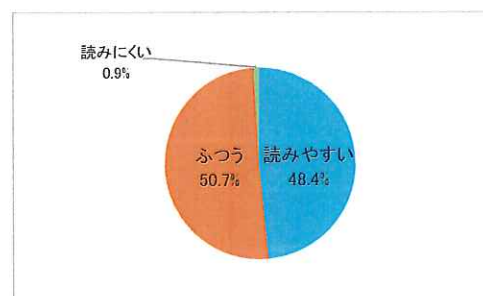
4. 記事(内容)について

	回答(人)	%
やさしい	26	12.1
ちょうどよい	181	84.2
少しむずかしい	6	2.8
むずかしい	1	0.5
無回答	1	0.5
全体	215	100.0



5. 誌面(デザイン)について

	回答(人)	%
読みやすい	104	48.4
ふつう	109	50.7
読みにくい	2	0.9
無回答	0	0.0
全体	215	100.0

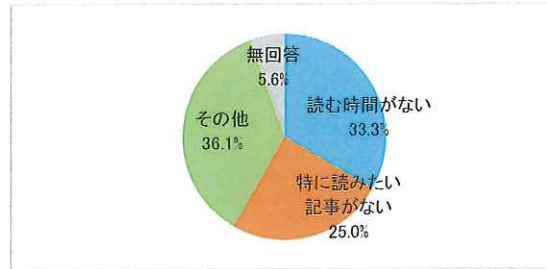


○理由

祖母が見るには文字が小さい(1名・50代)

6. 問1で、読んでいないとお答えされた方 理由をお聞かせください。

	回答(人)	%
読む時間がない	12	33.3
特に読みたい記事がない	9	25.0
その他	13	36.1
無回答	2	5.6
全体	36	100.0



○その他

- 市外在住のため(6名) 自宅に届いていない(1名) いったい読んでいるのか知らない(1名) 目にしない(1名)
- 様々な情報が書かれていることは分かるが、手に取るまでにはいかない(1名)
- あまり興味がなかったため(1名)

7-1. 特集について、これまでに印象に残るものがありましたら、発行No.に☑をつけてください。

発行年月	発行No.	テーマ	票数
2014年	1月	No.94 新春鼎談 ～黒部の未来をよむ～	7
	2月	No.95 雪で困る人を、地域で守る。～雪とともに生きる黒部の課題と未来～	7
	3月	No.96 忘れていませんか。震災から3年、復興はまだ道半ば。	8
	4月	No.97 はじめます、はじまります、新たな一歩を踏み出そう。	2
	5月	No.98 お金はどこからやってきて、どこへ行くんだろう。	8
	6月	No.99 耳は聞こえなくても、伝えられることがある。	16
	7月	No.100 音訳ボランティアをご存知ですか	6
	8月	No.101 お帰りなさい、ふるさと黒部へーお盆に見直す、家族の絆ー	10
	9月	No.102 ふだんの 暮らしを しあわせに	7
	10月	No.103 子ども福祉くろべの舞台裏ーこうして子どもたちは記者になったー	3
	11月	No.104 子育てをシェアするー子育ての喜びを分かち合える地域にー	14
	12月	No.105 子どもたちを育てるのは、地域全体の使命です	9
2015年	1月	No.106 魅力ある地域のまちづくりとは YKK株式会社 代表取締役会長CEO 吉田 忠裕氏に聞く	15
	2月	No.107 伝えたい まちの宝ーボランティアグループ「生地あいの会」ー	9
	3月	No.108 新幹線が住民をつなぐーおもてなしを支える若栗地区ー	14
	4月	No.109 地域交通で暮らしやすいまちづくりを進めるーくろワンきっぷで、ふるさと再発見～	9
	5月	No.110 住み慣れた地域で暮らしていく その人らしい生活を大切にもらうための相談窓口『地域包括支援センター』	4
	6月	No.111 ようこそ、このまちへー初めて暮らす人から見える黒部～	13
	7月	No.112 このまちを良くするのはだれ？	6
	8月	No.113 花火ー華やかな舞台の裏側ー	10
	9月	No.114 地域を良くするヒントは、おうちのなかにはありました。	3
	10月	No.115 ひとりのことを、みんなで支えられる地域を目指してー社会的な孤立を考えるー	10
	11月	No.116 人生は、65歳からが楽しい。	9
	12月	No.117 2015年ー一年を振り返る～	3
2016年	1月	No.118 新しい年に願うのはこころと体の健康です	10
	2月	No.119 子どもがつなぐ地域	18
	3月	No.120 「いざ」に備える	17
	4月	No.121 桜もまちも一人ひとりが育てていく	9
	5月	No.122 地域の課題を自分たちで解決していく	4
	6月	No.123 今、黒部の未来を考えるーこれからの地域福祉のあり方ー	16
	7月	No.124 黒部に癒しの空間をージェラートを通してまちをステキにー	31
	8月	No.125 福祉をまちの中心にー中谷延之前副市長 30年の歩みとまなざしー	10
	9月	No.126 スペシャリストを育てるー桜井高校生活環境科の目指すものー	17
	10月	No.127 体育大会で心もひとつにー住民の絆を深めて地域を活性化ー	6
	11月	No.128 妻が認知症になった日からー夫が支えた10年9カ月ー	78
	12月	No.129 地域の伝統行事をどう伝えるか	16

発行年月	発行No.	テーマ	票数
2017年	1月	No.130 先駆者たちの思いとまなざし	90
	2月	No.131 あなたの身近に助けてくれる人がいます - 民生委員制度 -	24

7-2. その中で特によかったバックNo.と選ばれた理由をお聞かせください。

No.	理由
94	新年初めてだから
95	山間部はあれだけ雪深いということと同じ黒部にいながらまったく知りませんでした。
96	震災後まだまだ苦しんでおられる方がたくさんいるということや復興について考えないといけないと思う。
96	震災のつらさを再認識した。
98	社協の収支についてわかりやすい言葉が使われていたので、印象に残りました。
99	キャッチコピーがとても良く、かつ、内容も対談形式で橘さんの生き方や思いを上手に引き出しておられたのでとても読み応えがありました。
103	「子ども福祉くろべ」の発行だけで終わらず、過程をすることができてよかった。
103	子供が記者となり登場していておもしろいと感じた。
104	いろいろな子育てスタイルがあると思いました。
104	少子化で孤立する子育て世代を取り巻く環境の変化
105	ステキな活動だし、必要としている人がいる活動だから
106	黒部市の明るい展望を読みとれたから
111	黒部に移住するまでがわかり良かった。
111	最も身近な問題に感じました。
113	町全体の祭りへの思いがよくわかった。
113	住んでいる地区の特集だったから
116	まもなく自分も65歳になるので興味があった。
116	高齢者になった時のことを考えなおすことができた。
116	自分に身近に感じたから
120	「いざに備える」はとても印象的で参考になったため
120	とても参考になりました。
120	くろべ防災Bookがついていて、それがとてもわかりやすいものだったからです。
120	防災ブックが分かりやすくまとめてあり、目につくところに貼って保管しています。
120	くろべ防災BOOKとセットになっており、読んだ内容とあわせて防災へのイメージがつきやすい。
121	桜が美しい町になるとうれいす。
122	他市との取り組み等を知りえたので
122	地域と福祉のあり方の参考になる。
124	自分の興味がある特集だったから
124	市内に頑張っている若者がいるということが大変うれしかった。
126	自分も生活環境科だったため
126	高校生の活動が分かったから
127	住民目線で身近な課題であること。他の地区でもまねしてみたいと思うのではないかと思います。
127	「ふくしまイルワーカー」に富山短期大学、職場の先輩が載ったので。インタビュー内容にも心をうたれました。
128	加齢とともに切実な問題として捉えるようになりました。
128	内容が興味深い。
128	あまり人に知られたくないことを勇気をもって伝えられていた。
128	もし自分が認知症になったらなど考えさせられた。
128	たまたま身近にいる知り合いの人だったので
128	主介護者の夫がどういった介護をされているか分かりやすく特集されていました。
128	認知症は他人ごとではなく、自分がその立場だったと思うから
128	興味がある内容だから
128	生の声が聞けてよかった。
128	心にズシッとくるものがあった。認知症というものがどういうものか少しわかった。
128	決して他人事とは思えないエピソードであったため。地域全体で支えていく必要性を感じた。
128	自分の母が認知症だったので、支えた方の思い、立場は違っても共感できることがたくさんあったので。

No.	理由
128	実際、自分の親も認知症であるので、とても関心をもって読むことができた。
128	やってくるであろう時にと思い参考に読ませていただきました。
128	介護する側の心の葛藤に同情した。
128	身近な問題であるから(年老いた両親、今後の自分たち)
128	テレビで見ると違い、身近にこんな方がおられるんだと実感できたから
128	奥様の若年認知症の告知から亡くなられるまでの経験が具体的に綴られ、自分に置き換え真剣に読むことができた。
128	今一番なりたくない病気、夫は支えてくれないだろなー
128	身近に何組かの夫婦を見ていて
128	献身的に支える夫がとても印象的だった。
128	男性の介護ということで
129	知っている地域だったので
129	自分の知っている事や、身近な事だと読んだり印象に残る。
129	地域、下立地区の行事に関する内容であった。
129	伝統行事の継承が地域につながりを強くし、福祉の理念に沿うものとなる。
129	地域の活性化、昔からの伝統を大事にしていってほしい。
129	自分のかかわる地区においても切実な課題をテーマにしており、関心があったから
130	身近な方々だったので
130	どちらも子供達が大変お世話になったから
130	子供が小さい時、毎週のように二本垣医院に通院していて、先生に大変お世話になったので。
130	内容がよかった。
130	岩井恵澄さんの話がとても自分のためになりました。
130	保育士としてためになる内容であった。
130	二本垣先生にお世話になったので、興味深く読ませていただきました。
130	過去にお世話になった方々だったので
130	自分も子供達も二本垣先生にお世話になったので
130	子供が小さい時、大変お世話になった先生なので
130	二本垣先生にお世話になったので
130	二本垣先生をよく知っていたので
130	同じ職業なので気になりました。
130	二本垣先生の近況が知れたかったので
130	子供がお世話になってきた二本垣先生のお話や近況が知れてとてもよかったです。岩井先生の取り組みも素晴らしいと思いました。
130	常に輝いておられる人だから
130	二本垣先生がとてもなつかしかったです。黒部市のために色々やってくださったこと改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。
130	今、自分は当たり前のように恵まれた制度や環境の中で生活しているが、それは自分の知らないところで、苦勞し頑張っておられた人々のおかげであることを教えてもらったため
130	子供達のこと、お母さん達のことを親身になって考えておられ、素晴らしいと感じた。
130	二本垣先生に我が子達もお世話になったので
130	45年間、自分の子、孫、自分自身もお世話になった方の対談だから
130	二本垣先生には、子供が小さい頃お世話になった方なので、気になり読みました。
130	岩井先生と二本垣先生の対談に興味があり、内容がよかった。
130	黒部の乳幼児を支えるお2人の対談なので
130	二本垣先生には、子供が小さい頃お世話になったので、誌面からも伝わる優しい先生でした。
130	昔からご活躍されていたお二人のことが分かってよかった。
130	小さい頃にお世話になった二本垣先生が載っていたので
130	我が家が幼い頃にお世話になったおふたりの対談にとっても興味がそそられました。
130	働きながら子供を育てる若いママたちの心強い味方の先生お二人。その信念を貫かれる姿勢にはいつも頭の下がる思いを抱えておりました。お二人の元気な様子を拝見でき、これからもずっと健康に長生きしていただきたいと思いました。
130	小児科の先生にはとてもよくしていただき、生き生きされた姿に安心しました。
130	知人の会談はとても興味深く拝見しました。
130	黒部の子供たちと母親をずっと支えてくださっている2人の対談だったから

No.	理由
130	知っている方の対談だったので興味が深かった。
130	お世話になりました二本垣先生のお話だったので
130	お世話になった先生方なので、その思いを感慨深く読ませていただきました。
130	親子共々二本垣先生には大変お世話になったので、お元気で過ごされている様子を記事で知ることができ、とてもうれしかったです。ありがとうございました。
130	小児医療と乳幼児の保育のスペシャリストの対談内容が興味深かったから
130	二本垣さんにお世話になったのでおもしろかった。
130	身近な人が取り上げられていたので
130	二本垣先生にはお世話になりました。その先生が出ていたので懐かしく思い楽しく読ませてもらいました。
130	昔お世話になった二本垣先生だったから
130	2人とも知っている人で、記事の内容が気になったから
130	地域のことを一生懸命考えて下さる方がいるということを改めて感じ嬉しくなりました。
130	子供の仕事に携わっている自分としてはとても興味深く読ませていただきました。
130	子供たちが小さい頃、二本垣先生には本当にお世話になり、今どうされているか気になっていたところ、御誌でお目にかかれ、お元気そうなお様子を拝見し、本当に嬉しかったです。
131	民生委員制度について良く知らなかったため
131	民生委員、児童委員の仕事についてよく知らなかったため
131	訪問看護ステーションに若い方が活躍しておられ、頼もしく思いました。
131	実生活における身近な相談者が載っており、その方々がどんな人なのか、どういった助けをしてくださるのかがわかりよかった。
94.106.130	黒部市の未来、特に人口問題を軸に働く場、次世代ことを考える上で内容に関心があり、余韻を残した。

8. 今後取り上げてほしいテーマは？

今後取り上げてほしいテーマは？	年齢	性別
黒部にある企業の社長へのインタビュー	20代	男性
私たちが高齢者になった時の日本と黒部の福祉制度について	20代	男性
新たなテーマではありませんが、健康に関する内容をもう少したくさん載せてほしいです。	20代	女性
黒部市の子育て環境について	20代	女性
心と体について	20代	女性
子育てについて	20代	女性
地域の人材発掘について	20代	女性
保育所での子供たちの様子やデイサービスなど施設でどのような活動をしているかなど	20代	女性
若い人でも興味を持てる読んでみたくなるテーマ	20代	女性
地酒特集	30代	男性
男性の地域での居場所や活躍できるきっかけ、ヒント。	30代	男性
民間企業との関わりについて、社協と民間企業との連携	30代	男性
福祉に関するテーマ	30代	女性
「あつたか雪募金」について	30代	女性
介護について(問題、利用できる施設や事業、相談室など)	30代	女性
各地区の残したい行事、祭りなど	30代	女性
家庭内に要支援者が2人いる状況での生活等、どういった生活を送っているのか、どういった支援が必要とされているのか	30代	女性
くらしに役立つ内容	30代	女性
くろべ工房の活動など	30代	女性
子育て、保育所など	30代	女性
子育てに関すること(2名)	30代	女性
子育てや保育所についてなど、子供に関する情報	30代	女性
福祉くろべが出来上がるまでの流れ(記事集めからどんな方々が会議をされ・・・まで)	30代	女性
保育・福祉の制度	30代	女性
子育てについて、子供と一緒にいけるお店など	30代	無回答
例えば、補助犬と共に生活している人の日常、困っていること、視点、そういう方々と出会った時にできる手助けやマナーについて取り上げて欲しい	30代	無回答

今後取り上げてほしいテーマは？	年齢	性別
今現在はあまり必要感がないため、流し読みしているが、今後、親の高齢化も心配なので、市内の老人福祉や介護に関する記事があれば読んでみたい。	40代	男性
がんばっている若者、地域について	40代	男性
簡単にできる健康法、ストレスケアなど	40代	女性
高齢化社会となっていく中で、高齢者のみなさんと結成する趣味や茶飲みのサークルやクラブがあったらいいなと思います。そんなサークルがあればその紹介。私の両親にも行ってみたら？と声をかけたいからです。	40代	女性
子育てについて、子供の遊び場	40代	女性
子供たちの活動(募金・清掃など)	40代	女性
子供に関すること	40代	女性
三世代交流、三世代家族の良い面、強みなど	40代	女性
小中学生を素材にしたもの	40代	女性
保育・福祉の制度について	40代	女性
防災について	40代	女性
身近な福祉	40代	女性
目まぐるしく変化する制度などをわかりやすく解説した内容で載せて欲しい。	40代	女性
介護	40代	無回答
季節の話題	40代	無回答
地元に関わる話題	40代	無回答
生涯現役で活動的に生活するための秘訣など。心と体の健康のために良いこと	40代	無回答
戦争体験された方に話を聞き、平和な世の中が続いていくように考えるようなテーマ	40代	無回答
地域に関係のある内容	40代	無回答
福祉関係の困ったときの相談窓口などの紹介	40代	無回答
黒部市の今後と福祉について	50代	男性
サークル活動(生きがい、健康につながる)	50代	男性
パッシブタウンについて 新幹線駅付近の開発を考えるなど	50代	男性
ボランティア活動事例	50代	男性
新しいお店の紹介等	50代	女性
新しくなるくろベネットのこと。福祉に関わる若者をとりあげる。最新のこれからの福祉の方向、内容、地域支え合いがなぜ必要か。子供の貧困について、家族の介護について、介護予防がなぜ求められるのか。これからの放課後児童クラブ(学童保育)の必要性、ケアマネさんのお仕事、自分の親が介護を受けたい時はどんな手続きをすればよいか。	50代	女性
介護について	50代	女性
簡単に作れる健康メニュー(レシピ、写真入りだともっとよいかも)	50代	女性
簡単にできるダイエット(体操や料理など)	50代	女性
健康(特に高齢者)に関するもの	50代	女性
健康について	50代	女性
子供や子育て支援に関すること	50代	女性
在宅療養の実際。国が在宅に舵を切って10年あまり。しかし、在宅療養の現状はまだ地域住民には浸透していない感じがあります。ガン末期でも、老衰でも在宅のサービスを上手に組み合わせれば、最期まで家に居られることを知ってほしいです。	50代	女性
知り合いの方の情報なら、つい読みたくなります。	50代	女性
誰でもが受けれるサービスの内容を紙面のどこかに紹介コーナーを作ってわかりやすく説明してほしい。	50代	女性
地域の底辺を支えている人	50代	女性
地域の中の歴史ある箇所について	50代	女性
福祉に貢献している方の対談、宇奈月温泉花火大会の舞台裏PART2(とても工夫され、盛り上がっていたので)、福祉施設等の理念や日頃大切にしておられること、その施設ならではの取り組み等	60代	男性
1. 地域包括ケアシステムの実践紹介(事例の紹介) 2. 黒部の福祉施設の紹介(シリーズ化)	60代	男性
黒部市の具体的な未来像	60代	男性
認知症の見分け方	60代	男性
福祉法人以外の行政の福祉活動	60代	女性
介護について	60代	女性
介護についての経験やアドバイス(ワンポイントでもよい) 障がい者(児)支援について(私達健常者ができることなど) 心豊かに育つ為の大人の役割、実践など	60代	女性

今後取り上げてほしいテーマは？	年齢	性別
高齢になっても取れる資格、趣味と実益が重ねられる仕事等について	60代	女性
心が元気になるようなテーマ	60代	女性
子供の福祉のあり方、貧困の格差について	60代	女性
相談内容等の記事があれば、自分も同じ悩みだったりこまったことの解消につながるのでは？	60代	女性
保育関係のもの、新制度について	60代	女性
訪問看護の仕事を紹介	60代	女性
黒部市の介護施設について	70代	男性
貧困・セルフネグレスト	70代	男性
一人暮らし老人の日常の過ごし方や、心の持ち方など	70代	女性
高齢者の健康について少しずつ載せてほしい	70代	無回答
写真が多い方がよい。活字はあまり読まない	70代	無回答
認知症の介護の事例(家族の対応)	70代	無回答
高齢者のなりがちな諸症状別に、行動、食事、運動、生活のあり方について、月別に特集らしきものを	80歳以上	男性
住んで幸福なまちづくり (テーマ)1.孤独老人と共に:民生委員の座談会 2.未来を託す子供と共に:子育ては楽しい(子供の声が聞こえる明るいまちづくり)	80歳以上	女性

9. 今後登場してほしい人物は？

今後登場してほしい人物は？	年齢	性別
若者	20代	男
100歳を迎えられた方とか	20代	女
黒部にゆかりのある有名人	20代	女
銀盤の社長	30代	男
男性で地域で活躍してる人	30代	男
家族がカラオケ発表会を開きにセンターへ行くのを楽しみにしています。色々なカラオケサークルが来られていますが、何の集まり(グループ)なのかなどと思っています。各サークルの特色?みたいなものを知るとより楽しそうです。	30代	女
子どもたち(親や知り合いがみるようになると思う)	30代	女
小児科Drや保育所関係の方	30代	女
ボランティア活動に取り組まれている方々、地域の方	30代	女
民生委員さんの活動は、今後も定期的に取り上げて欲しいです。皆さんとても熱心にされているので	30代	女
有名人(テレビに出ている人)	30代	女
湯快リゾートの社長	30代	無回答
がんばっている若者、地域について	40代	男
宮腰 光寛氏、黒部 進氏、吉本 多香美氏、上野 透氏	40代	男
黒部で元気に働いている人達どなたでも	40代	女
サッカーチームの活動を指導している人	40代	女
市内の方で、元気はつらつ人生を楽しんでいる高齢者の方。何か生きがいを見つけてそれに熱中している!!	40代	女
地域でご活躍の方々	40代	女
身近な人が出ていると興味を持って読めると思っています。	40代	女
家族介護や地域のために頑張っている方、健康の秘訣など聞いてみたい。	40代	無回答
黒部で活躍されておられる方々	40代	無回答
地元ゆかりのある人物	40代	無回答
富山県出身の芸能人	40代	無回答
身近な人	40代	無回答
YKKの社長に福祉について語ってほしい。	50代	男
地元の方をできるだけ多く登場させてあげれば読まれる方も増えるのでは	50代	男
定年退職を迎える人と定年後10年を経た者の対談	50代	男
2月号特集のように縁の下の方持ち的な活動をしている方々	50代	女
大勢の人達にかかわってきた人(議員さんではない人)	50代	女
記事に関連する人物	50代	女
ケアマネージャーの方々(大変さやご苦労等を知りたい)	50代	女

今後登場してほしい人物は？	年齢	性別
福祉に関わる若者を取り上げる。	50代	女
身近でがんばっている人(ボランティア活動など)	50代	女
藤が丘クリニック藤岡照裕先生 在宅療養を訪問診療で支える黒部市内のオピニオンリーダーです。患者さんの生きることを生活の場に深く関わって誠心誠意支えておられます。	50代	女
若者	50代	女
介護士	60代	男
諸福祉分野に光をあてた人の紹介(故人を含む)	60代	男
ケースワーカーの方	60代	女
市内の住職さん(説経)、お寺のお宝その由来	60代	女
長年福祉に取り組んでおられる方	60代	女
黒部市民病院院長	70代	男
手本になる様な元気に一人で過ごしている人の過ごし方や心の持ち方などを訪問して聞いてみる。	70代	女
子供達の活動等も	70代	無回答
75歳以上の方でも地元で活躍している方	70代	無回答

10. 本誌に対する皆さまの率直なご意見・ご感想等を是非お聞かせください。

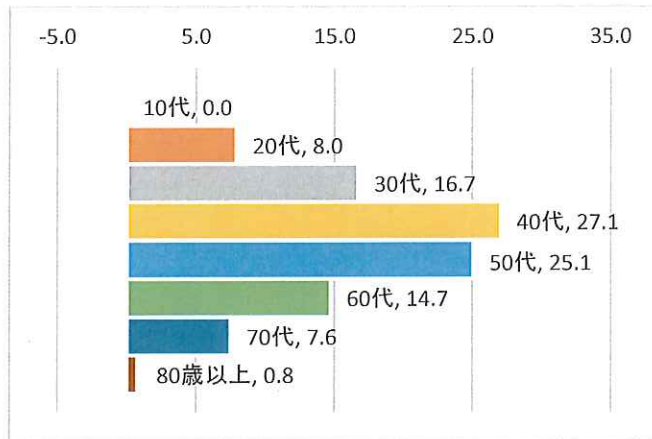
本誌に対するご意見・ご感想	年齢	性別
読みやすく、見やすい。	30代	男
リニューアルにより、印象が大きく変わり、読みやすくなったと思います。	30代	女
富山県でトップレベルの社協広報誌です。今後も楽しみにしています。	30代	無回答
カラーの誌面が多く読みやすいです。	40代	男
このフリーペーパーがなかったら知らない活動が沢山あります。目からウロコな事もあるので役立っています。	40代	女
表紙がいつもステキだと思います。(他市町村社協より)	40代	女
興味がない記事は読まずに終わることが多いです。	40代	女
毎回見やすく、読みたくなるレイアウトの誌面になっている点がよいと思います。	40代	女
他市の社協職員です。毎号これだけのページ数と特集をされること、大変なことと思います。空白が上手に使われており、フルカラーもやわらかい色合いで大変読みやすいです。ただ経費が気になるところです…。	40代	女
知らないことをたくさん知ることができるので、今後も様々な情報を教えていただきたいと思います。	40代	女
色々な分野からの特集が組まれていてよいと思う。	40代	女
読んではいらるが、他の広報もまとめて読んでるので、その記事がどの広報だったか覚えておらず、回答できませんでした。	40代	女
表紙が素敵だと思います。	40代	女
黒部市外に住んでいるので、黒部市のことを知れるのがよいと思っています。	40代	女
広報くろべと一緒に毎月読ませていただいています。人にやさしい町づくりを目指してこれからも活動を頑張って下さい。	40代	女
家族みんなで拝見しています。私は仕事をもっているものでじっくりとということは少ないのですが、両親、祖母は昼間じっくりと！家族のためにこれからもよろしく願います。	40代	女
表紙は特にきれいで(季節感があり)読んでみたくなるような感じがします。	40代	女
広報と一緒に福祉くろべが入ってきます。どちらかというと広報の方が自分に身近で最初に読みます。福祉くろべはついてという感じで読みます。(興味があるものはしっかり読むのですが)	40代	女
いつも楽しく読ませていただいています。	40代	女
とても見やすいです。	40代	女
表紙がいつも楽しく見えています。中の写真もとてもいいです。	40代	女
写真(絵)を多様していただくともっと親しみやすいと思う。	40代	無回答
お風呂は、子供や私(40代)も利用できますか。	40代	無回答
地元の情報がよく分かり、楽しく読ませていただいております。	40代	無回答
これまで読んだことがなく、今回この機会にさっと目を通しました。これからできるだけ読むようにしたいと思います。	40代	無回答
女性にウケそうな(おしゃれな)レイアウトだと思います。	40代	無回答
デザイン、内容ともにとっても良いと毎回思っています。	40代	無回答
これまでの内容がよいのでこのままで継続していただきたいと思います。	50代	男
これからますます高齢化が進むので、さらに力を入れていってほしい。	50代	男
市内で福祉に取り組んでおられる方や取り組みの様子をこれからも取り上げていってほしい。	50代	男

本誌に対するご意見・ご感想	年齢	性別
できるだけ写真、図、漫画等で誰もが読みやすく気軽に目を通せるものとされればどうでしょうか。	50代	男
読む機会がほとんどなかったのですが、今回12月号を読んでみて力が入ってるなと感じました。	50代	男
いつもたくさんの情報をありがとうございます。とても大変なことと思います。情報量を減らされてもいいのでは…とも思います。	50代	女
広報くろべと一緒に配られるので、そっちの方を読んでから、福祉くろべはパラパラと目を通すくらいでよく読んでいないのが実際です。	50代	女
今まで通り、色々な人を特集してほしい。写真が多いと読みやすいです。	50代	女
これから読んでいきたいと思います。	50代	女
現行でよい。	50代	女
毎月のテーマ、取材ご苦労様です。今後も楽しみにしております。	50代	女
写真やイラストも多く、大変読みやすいです。いつもホッと心があたたかくなる内容で楽しみにしています。	50代	女
身近な記事で親しみやすくよいと思います。	50代	女
表紙の写真が特にきれいだとも毎号思っています。すてきですね。	50代	女
タイトルや特集がとても工夫されていると感じます。切実感のある内容でいつも読ませていただいています。ありがとうございます。	50代	女
挿絵がかわいくとても見やすいです。	50代	女
毎週特集のテーマには感心します。若い人から高齢者までいろいろな世代の人や活動が紹介され読み応えがあります。写真や文字もカラーで明るく読みやすい広報誌です。	50代	女
中高生が取り上げられている内容はおもしろいです。	50代	女
毎回楽しみに読ませてもらっています。市内で頑張っておられる方の話を聞かせてもらうことで「自分もがんばらなくちゃ」と力をもらいます。これからも楽しみにしています。	50代	女
特集や健康ミニコラムが面白いのでいつも楽しみにしています。	50代	女
福祉人材バンクの情報があれば活用したい。	60代	男
他町との視点が違った内容に感心したり、驚いたりしている	60代	男
年齢的にも幅広い層の方に読みやすい内容・レイアウトだと感じます。	60代	男
毎月親近感を持って県社協、黒部社協、入善社協に目を通しています。とても素晴らしい地域福祉の情報誌(源)です。	60代	男
誰でもが見れるような発行にしてほしい。	60代	女
文字が大きく見やすいもの	60代	女
大切な情報がいっぱい詰まっている広報誌だと思うので、祈・御健闘!!!	60代	女
もう少し大きめの字だともっと読みやすいです。	60代	女
毎回見やすい書面で、自分なりに福祉について考える機会となる福祉くろべです。	60代	女
カラーで写真も多く見やすい。表紙の写真がよい。	60代	女
カラー写真が多く、毎回楽しみです。テーマも毎月いろいろで具体的な経験談や方法をのせていただければと思います。(私の周りに不安を抱えている方が多くおられます)	60代	女
文章等が難しい。とっつきにくい。	60代	無回答
毎月編集ご苦労さまです。今まであまり読んでいませんでしたが、これからは読ませていただきます。	60代	無回答
活字を大きく	70代	男
各地域の活動が載っている記事は感心がある。	70代	無回答
催しやちょっとした情報がわかる。	70代	無回答
誌面の制約があるでしょうけど、文章を大きくしてほしい。	70代	無回答
明るく親しみもてる。選挙権がある18才も読みたくなる内容って難しいよね?	80歳以上	女性

<お客様情報>

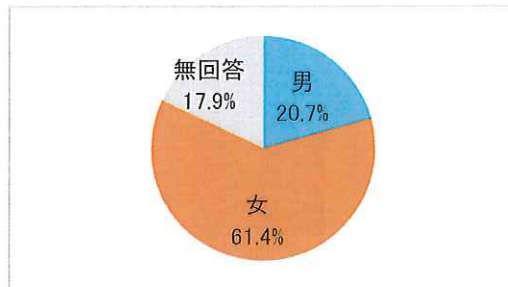
年齢

	回答(人)	%
10代	0	0.0
20代	20	8.0
30代	42	16.7
40代	68	27.1
50代	63	25.1
60代	37	14.7
70代	19	7.6
80歳以上	2	0.8
全体	251	100.0



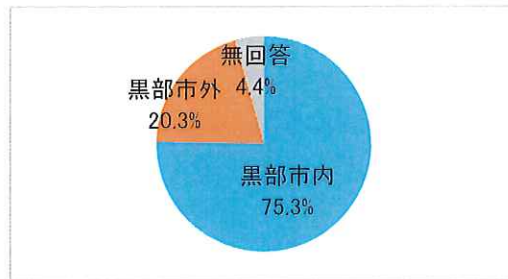
性別

	回答(人)	%
男	52	20.7
女	154	61.4
無回答	45	17.9
全体	251	100.0



居住地

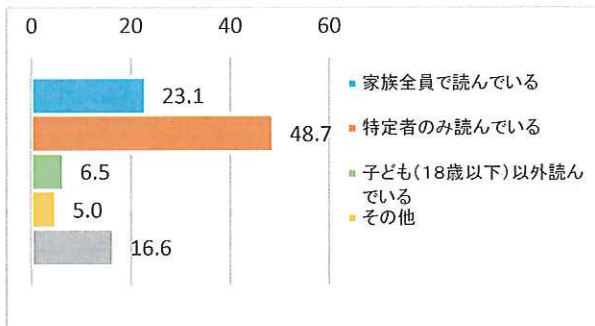
	回答(人)	%
黒部市内	189	75.3
黒部市外	51	20.3
無回答	11	4.4
全体	251	100.0



黒部市在住の方にお聞きします。ご家族で福祉くろべはどなたが読まれていますか？

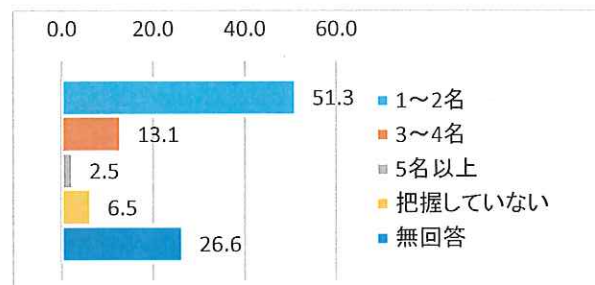
閲覧方法

	回答(人)	%
家族全員で読んでいる	46	23.1
特定者のみ読んでいる	97	48.7
子ども(18歳以下)以外読んでいる	13	6.5
その他	10	5.0
無回答	33	16.6
全体	199	100.0



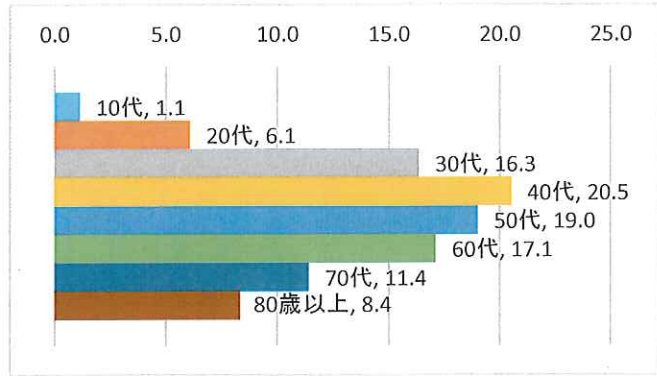
閲覧人数

	回答(人)	%
1~2名	102	51.3
3~4名	26	13.1
5名以上	5	2.5
把握していない	13	6.5
無回答	53	26.6
全体	199	100.0



読者の年齢

	回答(人)	%
10代	3	1.1
20代	16	6.1
30代	43	16.3
40代	54	20.5
50代	50	19.0
60代	45	17.1
70代	30	11.4
80歳以上	22	8.4
全体	263	100.0



社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会
平成 28 年度 シンクタンク事業調査報告書

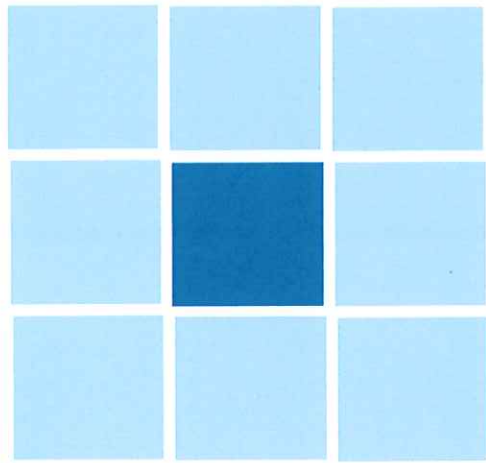
発 行 平成 29 年 3 月


編集・発行 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 経営戦略係
〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082 / FAX 0765-52-2797

E-mail kurobesw@ma.mrr.jp



 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会